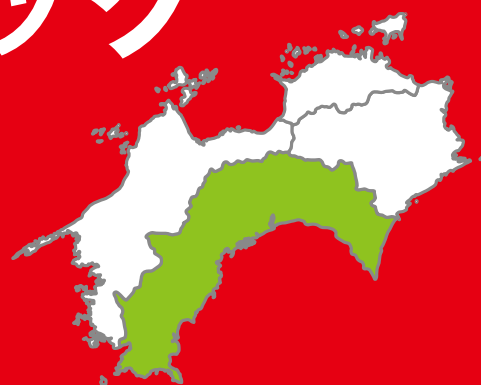
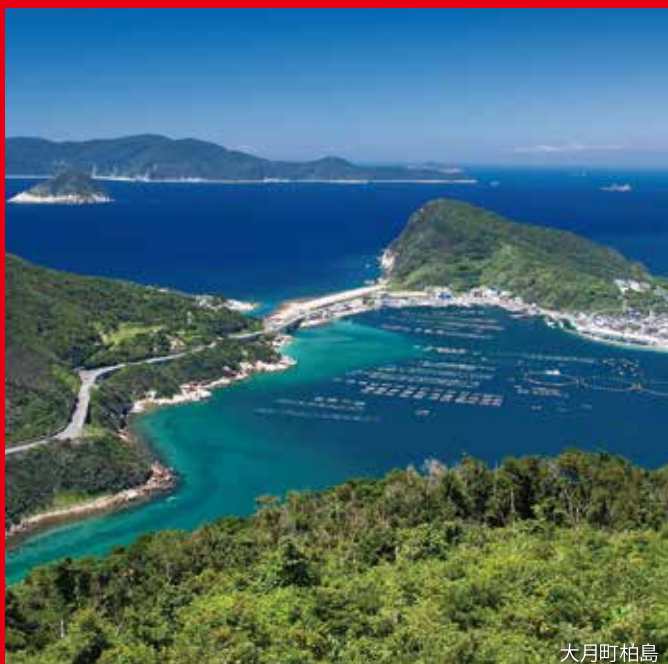


# 高知県 レッドデータブック 2018 動物編

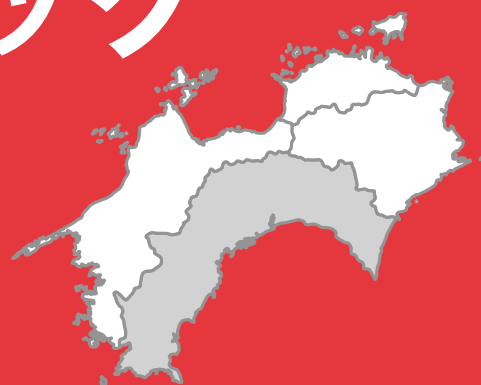


高知県注目種ガイド 2018 動物編





# 高知県 レッドデータブック 2018 動物編



四万十市西土佐岩間



大月町相島



## 発刊にあたって

高知県は、県土の84パーセントを森林が占める森林率日本一の森林県であり、雄大な山々や、四万十川、仁淀川、物部川に代表される清流、黒潮踊る太平洋など豊かな自然に恵まれ、多くの野生の動植物が生息・生育し、多種多様な生態系を育んでいます。

これまでは、人間による開発行為が自然環境に与える影響に注目してきましたが、近年では、過疎化や高齢化に伴う里地里山の荒廃や侵略的外来種の増加、地球温暖化による気候変動など、本県の自然環境を取り巻く様々な要因も変化してきています。そうした中で、多くの野生動植物が絶滅の危機に直面し、生態系への影響が懸念されています。

生物の多様性が失われることは、自然と共存する私たちの生活の基盤を失うことにもつながります。貴重な財産である高知県の豊かな自然を次世代につなぎ、生物多様性を保全していくことは、私たちに課せられた責務です。

このため、県では、平成26年3月に「ふるさとのいのちをつなぐ こうちプラン～生物多様性こうち戦略～」を策定し、県民の皆様、NPOや事業者、教育機関などと協働して、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みを進めています。

そういったなか、発刊から長い年月が経過した「高知県レッドデータブック〔動物編〕」（平成14年1月発刊）について、その内容を環境の変化に応じて見直し、希少野生動植物の保護を推進するため、平成26年度に高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会および7つの同分科会を設置し、改訂作業に着手しました。その後、委員会での検討を経て、平成29年10月に「高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版」を先行して公表し、その後の新たな知見を加えながら、今回「高知県レッドデータブック2018動物編」「注目種ガイド2018動物編」としてとりまとめました。

本書が、各種事業における生物多様性の保全の基礎資料として活用され、県民の皆様の野生動植物や環境への理解を深めていただくきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会および同分科会の皆様、また調査にご協力いただいた調査員の皆様、本書の刊行にあたりご協力・ご指導をいただきました関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

平成30年10月



高知県知事 尾崎 正直



# 哺乳類



ツキノワグマ 絶滅危惧Ⅰ類 14ページ  
四国森林管理局 香美市 2003年8月29日撮影



ニホンカワウソ 絶滅危惧Ⅰ類 14ページ  
鍋島昭一 須崎市 1979年撮影



ニホンカモシカ 絶滅危惧Ⅱ類 15ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
香美市 2012年4月23日撮影



シントウトガリネズミ 準絶滅危惧 16ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
愛媛県西条市 2012年10月24日撮影



アズマモグラ 準絶滅危惧 17ページ  
谷岡 仁 いの町 2016年10月28日撮影



ノレンコウモリ 準絶滅危惧 17ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
津野町 2013年8月21日撮影



ニホンモモンガ 準絶滅危惧 18ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
いの町 2010年12月7日撮影



チチブコウモリ 情報不足 19ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
いの町 2003年10月17日撮影



# 鳥 類



ウズラ 絶滅危惧Ⅰ類 30ページ  
吉田直樹 高知市 2011年4月13日撮影



ヒメウ 絶滅危惧Ⅰ類 31ページ  
吉田直樹 徳島県牟岐町 2015年4月26日撮影



サンカノゴイ 絶滅危惧Ⅰ類 31ページ  
有田修大 四万十市 2017年4月14日撮影



ヨシゴイ 絶滅危惧Ⅰ類 32ページ  
高橋 徹 高知市 2003年7月13日撮影



クイナ 絶滅危惧Ⅰ類 32ページ  
吉田直樹 南国市 2011年11月3日撮影



ケリ 絶滅危惧Ⅰ類 33ページ  
高木恭介 南国市 2017年11月22日撮影



コシャクシギ 絶滅危惧Ⅰ類 34ページ  
吉本海男 南国市 2013年4月14日撮影



ダイシャクシギ 絶滅危惧Ⅰ類 34ページ  
高木恭介 南国市 2016年4月16日撮影



# 鳥 類



ハウロクシギ 絶滅危惧Ⅰ類 35ページ  
森 隆秀 黒潮町 2017年4月11日撮影



コアジサシ 絶滅危惧Ⅰ類 35ページ  
西村公志 香南市 2016年5月3日撮影



ミサゴ 絶滅危惧Ⅰ類 36ページ  
西村公志 土佐市 2013年11月24日撮影



ハチクマ 絶滅危惧Ⅰ類 36ページ  
深瀬茂文 土佐市 2011年5月16日撮影



チュウヒ 絶滅危惧Ⅰ類 37ページ  
高木恭介 南国市 2016年12月16日撮影



オオタカ 絶滅危惧Ⅰ類 37ページ  
岡井義明 黒潮町 2016年8月31日撮影



クマタカ 絶滅危惧Ⅰ類 38ページ  
吉本海男 越知町 2013年9月29日撮影



コノハズク 絶滅危惧Ⅰ類 38ページ  
吉田直樹 鳥取県八頭町 2011年7月16日撮影



# 鳥 類



コミズク 絶滅危惧Ⅰ類 39ページ  
岡井義明 宿毛市 2010年12月21日撮影



ハヤブサ 絶滅危惧Ⅰ類 39ページ  
西村公志 室戸市 2017年3月12日撮影



ヤイロチョウ 絶滅危惧Ⅰ類 40ページ  
中西和夫 四万十町 2017年6月11日撮影



サンショウクイ 絶滅危惧Ⅰ類 40ページ  
深瀬茂文 土佐市 2013年9月14日撮影



ホシガラス 絶滅危惧Ⅰ類 41ページ  
吉田直樹 いの町 2011年7月24日撮影



ヨシガモ 絶滅危惧Ⅱ類 42ページ  
岡井義明 宿毛市 2016年1月5日撮影



ハシビロガモ 絶滅危惧Ⅱ類 42ページ  
森 隆秀 高知市 2015年3月22日撮影



トモエガモ 絶滅危惧Ⅱ類 43ページ  
高橋 徹 高知市 2004年2月22日撮影

# 鳥 類



オオミズナギドリ 絶滅危惧Ⅱ類 43ページ  
高橋 徹 高知市 2009年6月13日撮影



ミゾゴイ 絶滅危惧Ⅱ類 44ページ  
吉本海男 芸西村 2017年4月23日撮影



ササゴイ 絶滅危惧Ⅱ類 44ページ  
深瀬茂文 須崎市 2006年7月28日撮影



マナヅル 絶滅危惧Ⅱ類 45ページ  
高木恭介 四万十市 2013年12月6日撮影



ナベヅル 絶滅危惧Ⅱ類 45ページ  
深瀬茂文 土佐市 2007年1月12日撮影



ダイゼン 絶滅危惧Ⅱ類 46ページ  
深瀬茂文 土佐市 2017年4月28日撮影



ヤマシギ 絶滅危惧Ⅱ類 46ページ  
吉本海男 南国市 2013年2月17日撮影



タシギ 絶滅危惧Ⅱ類 47ページ  
岡井義明 宿毛市 2009年9月9日撮影



# 鳥 類



サルハマシギ 絶滅危惧Ⅱ類 47ページ  
深瀬茂文 土佐市 2004年9月2日撮影



キリアイ 絶滅危惧Ⅱ類 48ページ  
高木恭介 南国市 2015年9月4日撮影



タマシギ 絶滅危惧Ⅱ類 48ページ  
岡井義明 宿毛市 2016年5月9日撮影



カンムリウミスズメ 絶滅危惧Ⅱ類 49ページ  
西村公志 高知県沖 2017年4月1日撮影



ハイイロチュウヒ 絶滅危惧Ⅱ類 49ページ  
西村公志 香南市 2012年1月28日撮影



ハイツカ 絶滅危惧Ⅱ類 50ページ  
岡井義明 宿毛市 2004年1月12日撮影



サシバ 絶滅危惧Ⅱ類 50ページ  
西村公志 土佐市 2011年9月25日撮影



ノスリ 絶滅危惧Ⅱ類 51ページ  
森 隆秀 黒潮町 2015年11月20日撮影

# 鳥 類



アオバズク 絶滅危惧Ⅱ類 51ページ  
深瀬茂文 土佐市 2008年7月7日撮影



ブッポウソウ 絶滅危惧Ⅱ類 52ページ  
吉田直樹 四万十町 2014年5月25日撮影



コシアカツバメ 絶滅危惧Ⅱ類 52ページ  
吉本海男 南国市 2014年7月1日撮影



オオヨシキリ 絶滅危惧Ⅱ類 53ページ  
森 隆秀 四万十市 2017年5月1日撮影



コマドリ 絶滅危惧Ⅱ類 53ページ  
吉本海男 いの町 2012年6月11日撮影



シロチドリ 準絶滅危惧 60ページ  
有田修大 黒潮町 2017年10月13日撮影



アカショウビン 準絶滅危惧 64ページ  
西村公志 梶原町 2007年6月2日撮影



オオルリ 準絶滅危惧 70ページ  
西村公志 高知市 2014年5月4日撮影



# 爬虫類 両生類



アオウミガメ 絶滅危惧Ⅱ類 82ページ  
齊藤知己 土佐市 2017年6月1日撮影



ニホンスッポン 情報不足 85ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
高知市 2017年7月3日撮影



タワヤモリ 情報不足 85ページ  
谷岡 仁 愛媛県松山市 2015年7月2日撮影



ニホンアカガエル 絶滅危惧Ⅰ類 80ページ  
認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター  
四万十市 2010年7月20日撮影



コガタブチサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類 82ページ  
吉川貴臣 大川村 2014年10月29日撮影



シコクハコネサンショウウオ 絶滅危惧Ⅱ類 83ページ  
吉川貴臣 高知市 2014年5月9日撮影



イシツチサンショウウオ 準絶滅危惧 84ページ  
吉川貴臣 高知市 2015年4月24日撮影



オオサンショウウオ 情報不足 85ページ  
坂本美々 仁淀川支流 2015年10月9日撮影



# 汽水・淡水産魚類



モツゴ 絶滅危惧Ⅰ類 94ページ  
町田吉彦 日高村 2015年10月10日撮影



ヤリタナゴ 絶滅危惧Ⅰ類 95ページ  
町田吉彦 四万十市 2016年11月23日撮影



ヒナイシドジョウ 絶滅危惧Ⅰ類 95ページ  
高橋弘明 四万十町 2015年8月8日撮影



オオシマドジョウ 絶滅危惧Ⅰ類 96ページ  
高橋弘明 東洋町 2015年7月27日撮影



トサシマドジョウ 絶滅危惧Ⅰ類 96ページ  
高橋弘明 香美市 2016年1月31日撮影



ドジョウ 絶滅危惧Ⅰ類 97ページ  
町田吉彦 梶原町 2016年10月16日撮影



アマゴ(在来亜種) 絶滅危惧Ⅰ類 97ページ  
町田吉彦 梶原町 2007年10月21日撮影



ミナミメダカ 絶滅危惧Ⅰ類 98ページ  
町田吉彦 須崎市 2015年8月9日撮影



# 汽水・淡水産魚類



シロウオ 絶滅危惧Ⅰ類 98ページ  
町田吉彦 須崎市 2016年2月27日撮影



イドミミズハゼ 絶滅危惧Ⅰ類 99ページ  
高橋弘明 須崎市 2016年8月18日撮影



オオウナギ 絶滅危惧Ⅱ類 100ページ  
山下慎吾 土佐清水市 2013年4月22日撮影



カマキリ(アユカケ) 絶滅危惧Ⅱ類 101ページ  
町田吉彦 安芸市 2016年8月17日撮影



トビハゼ 絶滅危惧Ⅱ類 102ページ  
町田吉彦 高知市 2015年6月7日撮影



チワラスボC種 絶滅危惧Ⅱ類 103ページ  
高橋弘明 須崎市 1999年10月11日撮影



ニホンウナギ 準絶滅危惧 104ページ  
高橋弘明 黒潮町 2011年10月21日撮影



チチブモドキ 準絶滅危惧 105ページ  
高橋弘明 須崎市 1999年8月23日撮影

# 汽水・淡水産魚類



オカメハゼ 準絶滅危惧 105ページ  
高橋弘明 南国市 2000年8月17日撮影



ヒモハゼ 準絶滅危惧 106ページ  
町田吉彦 須崎市 2015年5月23日撮影



タネハゼ 準絶滅危惧 106ページ  
高橋弘明 四万十市 1996年8月23日撮影



アシシロハゼ 準絶滅危惧 106ページ  
高橋弘明 土佐市 2001年5月14日撮影



チチブ 準絶滅危惧 107ページ  
高橋弘明 須崎市 2016年2月11日撮影



アカザ 情報不足 108ページ  
高橋弘明 四万十市 2015年10月3日撮影



アカザ属の一種 情報不足 108ページ  
高橋弘明 高松市 2016年4月12日撮影



クロコハゼ 情報不足 109ページ  
高橋弘明 須崎市 2016年5月7日撮影



# 汽水・淡水産十脚甲殻類



マングローブテッポウエビ 絶滅危惧Ⅰ類 120ページ  
伊谷 行・邊見由美 竹島川 2016年1月31日撮影



ヤドリカニダマシ 絶滅危惧Ⅰ類 120ページ  
伊谷 行・邊見由美 浦ノ内湾 2013年8月5日撮影



ウチノミカニダマシ 絶滅危惧Ⅰ類 121ページ  
伊谷 行・邊見由美 浦ノ内湾 2013年7月25日撮影



ヤドリムツアシガニ 絶滅危惧Ⅰ類 121ページ  
伊谷 行・邊見由美 浦ノ内湾 2015年8月5日撮影



アマクサツエンナーガニ 絶滅危惧Ⅰ類 122ページ  
町田吉彦 浦ノ内湾 2016年5月8日撮影



フジテガニ 絶滅危惧Ⅰ類 122ページ  
町田吉彦 浦ノ内湾 2016年12月29日撮影



クシテガニ 絶滅危惧Ⅰ類 123ページ  
美濃厚志 宿毛市 2014年8月26日撮影



シタゴコロガニ 絶滅危惧Ⅰ類 123ページ  
邊見由美 浦ノ内湾 2016年3月11日・2017年5月16日撮影



# 汽水・淡水産十脚甲殻類



オサガニ 絶滅危惧Ⅰ類 124ページ  
塩崎祐斗 浦戸湾 2017年8月17日撮影



シラタエビ 絶滅危惧Ⅱ類 125ページ  
斉藤知己 四万十市 2017年10月26日撮影



アナジャコ 絶滅危惧Ⅱ類 125ページ  
邊見由美 浦ノ内湾 2017年10月6日撮影



コブシアナジャコ 絶滅危惧Ⅱ類 126ページ  
伊谷 行 浦ノ内湾 2014年8月26日撮影



ハマガニ 絶滅危惧Ⅱ類 126ページ  
町田吉彦 浦戸湾 2004年5月6日撮影



ヒメアシハラガニ 絶滅危惧Ⅱ類 127ページ  
町田吉彦 須崎湾 2014年9月11日撮影



トゲアシヒライソガニモドキ 絶滅危惧Ⅱ類 127ページ  
町田吉彦 黒潮町 2005年7月4日撮影



ムツハアリアケガニ 絶滅危惧Ⅱ類 128ページ  
町田吉彦 浦戸湾 2004年9月27日撮影



# 汽水・淡水産十脚甲殻類



アリアケモドキ 絶滅危惧Ⅱ類 128ページ  
町田吉彦 浦戸湾 2004年7月19日撮影



シオマネキ 絶滅危惧Ⅱ類 129ページ  
美濃厚志 高知市 2017年8月9日撮影



ハクセンシオマネキ 絶滅危惧Ⅱ類 129ページ  
美濃厚志 高知市 2017年8月9日撮影



ミナミテナガエビ 準絶滅危惧 130ページ  
山下慎吾 四万十川流域 2016年12月30日撮影



ヒラテナガエビ 準絶滅危惧 130ページ  
山下慎吾 四万十川流域 2012年5月26日撮影



テナガエビ 準絶滅危惧 131ページ  
平賀洋之 仁淀川 2017年8月5日撮影



アカテガニ 準絶滅危惧 132ページ  
美濃厚志 高知市 2017年8月8日撮影



ベンケイガニ 準絶滅危惧 132ページ  
美濃厚志 高知市 2017年8月14日撮影



# 昆虫類



タガメ 絶滅 169ページ  
別府隆守 愛媛県 2000年12月1日採集



ヤマトオサムシダマシ 絶滅 169ページ  
伊東善之撮影 奈良県五條市 1997年8月17日採集 (野原章宏)



チャマダラセセリ 絶滅 169ページ  
海地節雄 梶原町 1981年5月1日撮影



オツネトンボ 絶滅危惧Ⅰ類 170ページ  
トンボと自然を考える会 宿毛市 2000年4月1日撮影



モートナイトトンボ 絶滅危惧Ⅰ類 170ページ  
トンボと自然を考える会 四万十市 2013年5月3日撮影



オオイトトンボ 絶滅危惧Ⅰ類 170ページ  
島崎祐樹 日高村 2015年6月21日撮影



タイリクアカネ 絶滅危惧Ⅰ類 171ページ  
トンボと自然を考える会 宿毛市 1988年10月26日撮影



コガタカンタン 絶滅危惧Ⅰ類 171ページ  
別府隆守 四万十市 1994年8月14日撮影



# 昆虫類



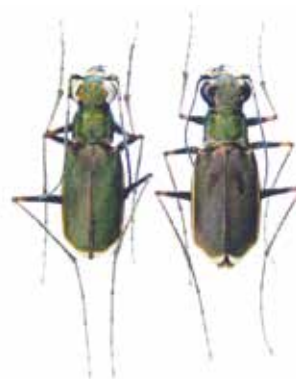
エサキアメンボ 絶滅危惧Ⅰ類 173ページ  
伊東善之 四万十町 2014年10月23日採集



ゴミアシナガサシガメ 絶滅危惧Ⅰ類 174ページ  
高井幹夫 岡山県 2014年8月15日撮影



ハリサシガメ 絶滅危惧Ⅰ類 174ページ  
高井幹夫 岡山県 2014年8月31日撮影



ヨドシロヘリハンミョウ 絶滅危惧Ⅰ類 174ページ  
伊東善之 四万十市 1999年7月16日採集



カドタメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 175ページ  
上野俊一撮影 いの町 1971年10月31日採集 (平化 満)



オオトックリゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 175ページ  
伊東善之 宿毛市 2015年6月24日採集



エチゴトックリゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 175ページ  
伊東善之 土佐市 1981年1月3日採集



イトウナガゴミムシ 絶滅危惧Ⅰ類 176ページ  
伊東善之 いの町 1988年8月8日採集



# 昆虫類



ゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅰ類 177ページ  
伊東善之 土佐町 2000年2月4日採集



マルガタゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅰ類 177ページ  
伊東善之 土佐町 2000年4月1日採集



オオミズマシ 絶滅危惧Ⅰ類 178ページ  
伊東善之 宿毛市 2000年8月26日採集



オオチャイロハナムグリ 絶滅危惧Ⅰ類 178ページ  
高井幹夫 香美市 2003年7月26日撮影



キイカクズクビナガムシ 絶滅危惧Ⅰ類 179ページ  
伊東善之 香美市 1988年5月14日採集



コゲチャヒラタカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 179ページ  
中山紘一 土佐清水市 2004年7月27日採集



ベーツヒラタカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 180ページ  
中山紘一 高知市 1991年7月16日採集



アカジマトラカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 180ページ  
中山紘一 香美市 1999年9月16日採集



# 昆虫類



ケブカトラカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 180ページ  
中山紘一 室戸市 1971年3月28日採集



スネケブカヒロコバナカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 181ページ  
高井幹夫 香美市 2009年7月16日撮影



ヨツボシカミキリ 絶滅危惧Ⅰ類 181ページ  
中山紘一 宿毛市 1969年5月13日採集



（左：表面） （右：裏面）  
台湾ツバメシジミ 絶滅危惧Ⅰ類 183ページ  
荒川 良撮影 室戸市 1980年9月14日採集（海地節雄）



ウラギンスジヒョウモン 絶滅危惧Ⅰ類 183ページ  
荒川 良撮影 高知市 1972年6月10日採集（海地節雄）



（裏面）  
ウラナミジャノメ 絶滅危惧Ⅰ類 183ページ  
荒川 良撮影 高知市 1972年6月10日採集（海地節雄）



ニホンセセリモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 184ページ  
真鍋泰彦 香美市 1973年8月17日採集



イッポンセスズズメ 絶滅危惧Ⅰ類 184ページ  
真鍋泰彦 四万十町 1981年8月17日採集

# 昆虫類



ベニイトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 186ページ  
島崎祐樹 土佐市 2012年8月30日撮影



ネアカヨシヤンマ 絶滅危惧Ⅱ類 186ページ  
島崎祐樹 高知市 2012年8月30日撮影



フタスジサナエ 絶滅危惧Ⅱ類 187ページ  
島崎祐樹 香美市 2014年5月10日採集



ハッチョウトンボ 絶滅危惧Ⅱ類 187ページ  
島崎祐樹 北川村 2013年6月18日撮影



クロオビヒゲブトオサムシ 絶滅危惧Ⅱ類 189ページ  
高井幹夫 土佐清水市 2010年6月5日撮影



シロヘリハンミョウ 絶滅危惧Ⅱ類 189ページ  
伊東善之 東洋町 2015年7月4日採集



ミヤマハンミョウ 絶滅危惧Ⅱ類 189ページ  
伊東善之 香美市 1989年10月7日採集



セアカオサムシ 絶滅危惧Ⅱ類 190ページ  
伊東善之 津野町 2014年9月25日～10月3日採集



# 昆虫類



イトウメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 190ページ  
伊東善之 北川村 1995年5月19日採集



ケバネメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 190ページ  
伊東善之 宿毛市 1998年5月16日・11月1日採集



アシナガメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 191ページ  
伊東善之 愛媛県久万高原町 1992年2月18日～3月7日採集



ヒメツヤメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 191ページ  
伊東善之 日高村 1992年4月23日採集



ツヤメクラチビゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 191ページ  
伊東善之 日高村 2003年4月6日～13日採集



トサナガゴミムシ 絶滅危惧Ⅱ類 192ページ  
伊東善之 土佐町 1995年6月24日・25日採集



チャイロマメゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類 192ページ  
伊東善之 宿毛市 1999年10月1日採集



クロゲンゴロウ 絶滅危惧Ⅱ類 192ページ  
伊東善之 左：四万十町 2000年3月19日採集  
右：四万十市 1998年11月22日採集

# 昆虫類



コガムシ 絶滅危惧Ⅱ類 193ページ  
伊東善之 香美市 1986年7月26日採集



クロマダラタムシ 絶滅危惧Ⅱ類 193ページ  
乾 考二 いの町 2001年6月12日材採集・2002年4月4日羽化脱出採集



アオタムシ 絶滅危惧Ⅱ類 194ページ  
中山紘一 いの町 1959年7月27日採集



ルリヒラタムシ 絶滅危惧Ⅱ類 194ページ  
伊東善之 香美市 1995年5月26日採集



ジュウクホシtentou 絶滅危惧Ⅱ類 195ページ  
伊東善之 宿毛市 1999年10月2日採集



ヒラヤマコブハナカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類 195ページ  
中山紘一 津野町 1986年4月29日採集



フタスジカタビロハナカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類 196ページ  
中山紘一 大豊町 1970年5月10日採集



ホンドニセハイロハナカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類 196ページ  
中山紘一 香美市 1976年6月13日採集



# 昆虫類



モモグロハナカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類 197ページ  
中山紘一 大豊町 1970年6月7日採集



ムネマダラトラカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類 200ページ  
中山紘一 大豊町 1974年5月26日採集



オナガシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 202ページ  
荒川 良撮影 大豊町 1986年8月2日採集 (海地節雄)



ヒサマツミドリシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 202ページ  
荒川 良撮影 越知町 1978年5月27日羽化 (海地節雄)



ベニモンカラスシジミ 絶滅危惧Ⅱ類 203ページ  
荒川 良撮影 香美市 1996年5月15日羽化 (海地節雄)



シートテハ 絶滅危惧Ⅱ類 204ページ  
荒川 良撮影 香美市 1979年7月21日採集 (海地節雄)



キマダラモドキ 絶滅危惧Ⅱ類 204ページ  
海地節雄 大豊町 1987年6月7日撮影



クロヒカゲモドキ 絶滅危惧Ⅱ類 205ページ  
荒川 良撮影 越知町 1971年8月1日採集 (海地節雄)

# 昆虫類



シロシモフリエダシャク 絶滅危惧Ⅱ類 205ページ  
真鍋泰彦 高知市 2006年4月10日撮影



タケウチエダシャク 絶滅危惧Ⅱ類 205ページ  
真鍋泰彦 香美市 1993年4月4日採集



モンカワゲラ 準絶滅危惧 207ページ  
高井幹夫 いの町 2013年8月3日撮影



キイロサシガメ 準絶滅危惧 207ページ  
高井幹夫 四万十市 2015年9月22日撮影



タイコウチ 準絶滅危惧 208ページ  
高井幹夫 南国市 2013年11月10日採集



フトキノカワゴミムシ 準絶滅危惧 209ページ  
伊東善之 四万十町 1993年9月24日採集



オオヨツボシゴミムシ 準絶滅危惧 210ページ  
伊東善之 三原村 2002年1月19日採集



クロケブカゴミムシ 準絶滅危惧 210ページ  
伊東善之 高知市 1986年6月30日採集



# 昆虫類



イグチケブカゴミムシ 準絶滅危惧 210ページ  
伊東善之 四万十市 1999年6月13日採集



キベリフトカミキリモドキ 準絶滅危惧 211ページ  
伊東善之 香南市 1987年6月23日採集



ヒメヨツスジハナカミキリ 準絶滅危惧 211ページ  
中山紘一 愛媛県西条市 1998年8月1日採集



エゴヒゲナガゾウムシ 準絶滅危惧 212ページ  
高井幹夫 香美市 2010年9月20日撮影



ツマガロトビケラ 準絶滅危惧 213ページ  
高井幹夫 四万十市 2015年9月22日撮影



ホタルトビケラ 準絶滅危惧 213ページ  
高井幹夫 四万十市 2016年12月20日撮影



ウスリークサツミトビケラ 準絶滅危惧 214ページ  
高井幹夫 四万十市 2016年8月12日撮影



ギンボシツツトビケラ 準絶滅危惧 214ページ  
高井幹夫 高知市 2005年9月3日撮影

# 昆虫類



クロツバメシジミ 準絶滅危惧 215ページ  
海地節雄 大豊町 2013年8月1日撮影



マイコトラガ 準絶滅危惧 215ページ  
川島保夫 香南市 2005年4月8日採集



ケブカトゲアシゲボソゾウムシ 216ページ  
絶滅のおそれのある地域個体群 高知市円行寺～宇津野地域個体群  
伊東善之 高知市 1972年4月19日採集



オキノシマヒメオサムシ 216ページ  
絶滅のおそれのある地域個体群 宿毛市沖の島地域個体群  
伊東善之 宿毛市 1993年4月30日～5月1日採集



ワシオヒメオサムシ 216ページ  
絶滅のおそれのある地域個体群 高知市鷺尾山周辺地域個体群  
伊東善之 高知市 1997年5月10日～11日採集



# 陸産貝類



クビナガムシオイ 絶滅危惧Ⅰ類 228ページ  
多田 昭 高知市 1988年6月19日採集



サルダアツブタムシオイ 絶滅危惧Ⅰ類 228ページ  
多田 昭 日高村 2014年4月9日採集



ホンキセルガイモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 229ページ  
多田 昭撮影 中土佐町 2016年5月20日採集 (山崎博継)



ムロトキセルガイモドキ 絶滅危惧Ⅰ類 229ページ  
多田 昭 室戸市 1998年4月1日採集



イヨギセル 絶滅危惧Ⅰ類 230ページ  
多田 昭 仁淀川町 1973年8月5日採集



タビトギセル 絶滅危惧Ⅰ類 230ページ  
多田 昭 津野町 1976年2月15日採集



シンチュウギセル 絶滅危惧Ⅰ類 231ページ  
多田 昭 仁淀川町 1982年6月19日採集



シロハダギセル 絶滅危惧Ⅰ類 231ページ  
多田 昭 いの町 2016年4月22日採集

# 陸産貝類



シコクタケノコギセル 絶滅危惧Ⅰ類 232ページ  
多田 昭 津野町 1975年8月13日採集



トクサギセル 絶滅危惧Ⅰ類 232ページ  
多田 昭 宿毛市 1983年10月8日採集



アズママルクチコギセル 絶滅危惧Ⅰ類 233ページ  
多田 昭 津野町 1982年7月4日採集



ハナコギセル 絶滅危惧Ⅰ類 233ページ  
多田 昭 三原村 1986年3月26日採集



トカラコギセル 絶滅危惧Ⅰ類 234ページ  
多田 昭 土佐清水市 1970年12月30日採集



パツラマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 234ページ  
多田 昭 大川村 1999年5月21日採集



ヒラコベソマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 235ページ  
山崎博継 南国市 2011年3月7日撮影



トサビロウドマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 235ページ  
山崎博継 黒潮町 2016年10月24日撮影



# 陸産貝類



カワリダネビロウドマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 236ページ  
多田 昭 本山町 2016年9月29日採集



カタメマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 236ページ  
多田 昭 香美市 2011年9月21日採集



ムロトマイマイ 絶滅危惧Ⅰ類 237ページ  
多田 昭 室戸市 1973年2月25日採集



シタヅキギセル 絶滅危惧Ⅱ類 244ページ  
多田 昭 安芸市 2016年5月7日採集



ナカムラギセル 絶滅危惧Ⅱ類 245ページ  
山崎博継 高知市 2013年9月28日撮影



イイジマギセル 絶滅危惧Ⅱ類 246ページ  
山崎博継 香美市 2006年6月4日撮影



オキノシマナミギセル 絶滅危惧Ⅱ類 247ページ  
多田 昭 宿毛市 1986年8月17日採集



カモハラギセル 絶滅危惧Ⅱ類 247ページ  
多田 昭 宿毛市 1971年1月3日採集

# 陸産貝類



ヒラコウベマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 249ページ  
山崎博継 土佐市 2006年5月25日撮影



タシママイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 250ページ  
多田 昭 南国市 1996年10月12日採集



ハダカケマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 250ページ  
多田 昭 津野町 1994年5月3日採集



カドバリオトメマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 251ページ  
多田 昭 須崎市 1998年5月6日採集



スミスオトメマイマイ 絶滅危惧Ⅱ類 251ページ  
多田 昭 高知市 1988年10月8日採集



# 汽水・淡水産貝類



ツボミ 絶滅危惧Ⅰ類 238ページ  
三本健二 宿毛市 2016年4月24日撮影



ヒロクチカノコ 絶滅危惧Ⅰ類 238ページ  
三本健二 東洋町 2014年12月22日採集



イボウミニナ 絶滅危惧Ⅰ類 239ページ  
三本健二 黒潮町 2016年4月23日採集



ナラビオカミミガイ 絶滅危惧Ⅰ類 239ページ  
三本健二 四万十市 1999年6月12日採集



ヒメアカガイ 絶滅危惧Ⅰ類 240ページ  
三本健二 須崎市 2016年6月5日採集



ヒメカノコ 絶滅危惧Ⅱ類 253ページ  
三本健二 高知市 2016年7月23日採集



ヤマトクビキレ 絶滅危惧Ⅱ類 254ページ  
三本健二撮影 大月町 2016年3月27日採集 (石川 裕)



ミズゴマツボ 絶滅危惧Ⅱ類 254ページ  
三本健二 須崎市 2014年11月16日採集

## 汽水・淡水産貝類



ニセマツカサガイ 絶滅危惧Ⅱ類 255ページ  
三本健二 佐川町 2014年10月19日採集



マゴコロガイ 絶滅危惧Ⅱ類 255ページ  
三本健二 須崎市 2015年9月13日撮影



ユキガイ 絶滅危惧Ⅱ類 256ページ  
三本健二 須崎市 2016年3月12日採集





# 目 次

発刊にあたって

口 絵

目 次

## 「高知県レッドデータブック2018 動物編」について

1 高知県レッドデータブック改訂の背景と目的	1
2 調査・検討の概要	1
3 カテゴリーと判定基準	5
4 選定結果	6
5 選定種の解説項目と内容	7
高知県地図	8

選定種の解説	9
--------	---

### 哺乳類

概 説	11
高知県レッドリスト(哺乳類)	13
選定種の解説	14
文献一覧	21

### 鳥 類

概 説	23
高知県レッドリスト(鳥類)	25
選定種の解説	30
文献一覧	75

### 爬虫類・両生類

概 説	77
高知県レッドリスト(爬虫類)	79
高知県レッドリスト(両生類)	79
選定種の解説	80
文献一覧	86



## 汽水・淡水産魚類

概 説	89
高知県レッドリスト(汽水・淡水産魚類)	91
選定種の解説	94
文献一覧	112

## 汽水・淡水産十脚甲殻類

概 説	115
高知県レッドリスト(汽水・淡水産十脚甲殻類)	117
選定種の解説	120
文献一覧	136

## 昆虫類

概 説	139
高知県レッドリスト(昆虫類)	140
選定種の解説	169
文献一覧	217

## 陸産貝類 汽水・淡水産貝類

概 説	221
高知県レッドリスト(陸産貝類)	223
高知県レッドリスト(汽水・淡水産貝類)	225
選定種の解説	228
文献一覧	269

和名索引	272
------	-----

RED DATA BOOK

# 「高知県レッドデータブック2018 動物編」 について

---





# 1 高知県レッドデータブック改訂の背景と目的

## (1) 背景と目的

高知県には多くの野生動植物が生息・生育し、それぞれの生態系の中で命を育んでいると同時に自然の恵みを私たちに与えてくれている。しかし近年、人間活動による自然環境への負荷の増加や気候の変動により野生動植物の多くが絶滅の危機にさらされていると考えられ、これらの保護対策を適切に推進していくためには野外での実態を正しく把握することが不可欠である。

環境省レッドデータブックは全国を対象にして作成されているため、個々の地域での種の生息・生育状況が必ずしも細かく反映されているとは言えない。そこで、高知県は県内に生息する絶滅のおそれのある動物の実態をとりまとめた「高知県レッドデータブック〔動物編〕」を平成14年1月に発行した。しかしながら、その発行から長い年月が経過し、内容の見直しが必要になってきたため、平成26年4月にレッドデータブックの改訂作業に着手し、絶滅のおそれのある野生動物について改めて評価を行うことにした。

本書は、先行して公表した「高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版」に掲載された種について、その後の新たな知見を加えながら、個々の種の特徴や選定の根拠などを盛り込み、誰にでもわかりやすくとりまとめたものである。

本書を通じて、絶滅のおそれのある野生生物に関する県民の理解を深め、「高知県希少野生動植物保護条例」に基づく県指定希少野生動植物の選定、公共工事等における野生動植物への配慮計画、野生動植物の適切な保全と種の多様性の維持を目的とした各種事業等の基礎資料として活用されることを目的としたものである。

# 2 調査・検討の概要

## (1) 調査対象分類群

調査対象とした動物群は、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水産魚類、汽水・淡水産十脚甲殻類、昆虫類、陸産貝類、汽水・淡水産貝類の9分類群である。

## (2) 調査・検討体制

改訂に当たっては、平成26年度に「高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会（以下「委員会」という。）」（事務局：高知県林業振興・環境部環境共生課）を設置した。

委員会委員は、野生動物について専門的知識を有する者の中から、平成26年6月11日に知事が委嘱した。また、委員会には、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、汽水・淡水産魚類、汽水・淡水産十脚甲殻類、昆虫類、陸・汽水・淡水産貝類の7分科会を設置し、委員会委員が分科会長を担った。

各分科会では、分科会長を中心に野外調査、聞き取り調査、文献調査及び標本調査を行い、得られた知見を基に種の評価等を検討し、委員会に報告した。

## 高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会

氏名	分科会	所属等	備考
伊谷 行	汽水・淡水産十脚甲殻類	国立大学法人高知大学教育学部 准教授	平成28年3月17日から副委員長
斉藤 知己	爬虫類・両生類	国立大学法人高知大学 総合研究センター海洋生物研究教育施設 准教授	
佐藤 重穂	鳥類	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 元四国支所 流域森林保全研究グループ長	平成27年10月30日解嘱、 同日まで委員長
中山 紘一	昆虫類	高知昆虫研究会 会長	
濱田 哲暁	鳥類	株式会社東洋電化テクノリサーチ 技術部	平成27年12月24日委嘱
町田 吉彦	汽水・淡水産魚類	国立大学法人高知大学 名誉教授	平成28年3月17日まで副委員長、 同日から委員長
三本 健二	陸・汽水・淡水産貝類	四国貝類談話会	
谷地森 秀二	哺乳類	認定特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター センター長	

(敬称略。50音順。)



高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会分科会

分科会	区分 (分科会委員・調査員)	氏名	所属等
哺乳類	分科会長	谷地森 秀二	(特非) 四国自然史科学研究センター
	分科会委員	金城 芳典 山田 孝樹	(特非) 四国自然史科学研究センター (特非) 四国自然史科学研究センター
	調査員	葦田 恵美子 谷岡 仁 寺山 佳奈 山崎 浩司	(特非) 四国自然史科学研究センター 日本野鳥の会高知支部 (大) 高知大学 総合人間自然科学研究科 (特非) 四国自然史科学研究センター
鳥類	分科会長	濱田 哲暁	(株) 東洋電化テクノリサーチ
	分科会委員	西村 公志	日本野鳥の会高知支部
	調査員	有田 修大 岡井 義明 木村 宏 楠瀬 雄三 佐藤 重穂 田中 佳 田中 正晴 谷岡 仁 森 富美男	日本野鳥の会高知支部 日本野鳥の会高知支部 日本野鳥の会高知支部 日本鳥学会 (国研) 森林研究・整備機構 日本野鳥の会高知支部 日本野鳥の会高知支部 日本野鳥の会高知支部 日本野鳥の会高知支部
爬虫類・両生類	分科会長	斉藤 知己	(大) 高知大学 准教授
	分科会委員	谷地森 秀二 渡部 孝	(特非) 四国自然史科学研究センター わんぱーくこうちアニマルランド
	調査員	笠木 靖 金城 芳典 坂本 美々 谷岡 仁 吉川 貴臣	(公財) 高知県のいち動物公園協会 (特非) 四国自然史科学研究センター (公財) 高知県のいち動物公園協会 日本野鳥の会高知支部 わんぱーくこうちアニマルランド
汽水・淡水産魚類	分科会長	町田 吉彦	(大) 高知大学 名誉教授
	分科会委員	遠藤 広光 高橋 弘明 山下 慎吾	(大) 高知大学 教授 (株) 相愛 Sakanayama Lab.
	調査員	井上 光也 杉村 光俊 長野 博光 野村 彩恵	(大) 高知大学 総合人間自然科学研究科 (公社) トンボと自然を考える会 アカメと自然を豊かにする会 (公社) トンボと自然を考える会
汽水・淡水産 十脚甲殻類	分科会長	伊谷 行	(大) 高知大学 准教授
	分科会委員	斉藤 知己 町田 吉彦	(大) 高知大学 准教授 (大) 高知大学 名誉教授
	調査員	邊見 由美 平賀 洋之 美濃 厚志 山下 慎吾	(大) 京都大学 フィールド科学教育研究センター (株) 西日本科学技術研究所 (株) 東洋電化テクノリサーチ Sakanayama Lab.
昆虫類	分科会長	中山 紘一	高知昆虫研究会
	分科会委員	荒川 良 伊東 善之 河上 友三 高井 幹夫 別府 隆守	(大) 高知大学 教授・高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会

分科会	区分 (分科会委員・調査員)	氏名	所属等
昆虫類	調査員	池澤 舞 乾 孝二 海地 節雄 景山 寛司 川島 保夫 島崎 祐樹 仁尾 かおり 真鍋 泰彦	高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 高知昆虫研究会 兵庫陸水生物研究会 高知昆虫研究会
陸・汽水・淡水産 貝類	分科会長	三本 健二	四国貝類談話会
	分科会委員	多田 昭 山崎 博継	四国貝類談話会 わんぱーくこうちアニマルランド
	調査員	石川 裕	四国貝類談話会

調査協力者・協力団体（敬称略。50音順。）

青倉 七雲 荒井 充朗 安藤 喬平 市原 眞一 伊藤 昇 井村 有希 井本 善次  
 岩田 優生 上島 励 上杉 一臣 上野 俊一 永路小百合 大山 淳也 小笠原 隆  
 岡田 裕也 岡部 正也 岡本 光民 岡山 健仁 小川 遼 小幡 友章 掛水 一彦  
 加島 祐二 金澤 文吾 亀田 和成 川田伸一郎 神田 優 桐原 聡太 熊澤 佳範  
 栞原 誠 桑原 一司 合田 延寿 小坂 將 小林 翔平 小林 陽介 齋藤 伸介  
 佐藤 友康 塩崎 祐斗 菅谷 和希 須藤 修平 關 伸吾 高木 恭介 高木 真成  
 高橋 徹 武田 和志 多田さやか 田中 幸記 田中 優衣 Charles Parningotan Haratua Simanjuntak  
 筒井 智仁 土居 明 東島昌太郎 富沢 保浩 豊田 庄二 中地 シュウ 中西 和夫  
 中西 安男 西尾 喜量 西田 智亮 野原 章宏 濱本 真衣 林 大介 早瀬 善正  
 原 有助 久川 緑 藤原 稚穂 深瀬 茂文 藤本 竜平 古谷 幸生 細木 信吾  
 前之園唯史 松澤 圭資 的場 績 溝渕 幸三 三宅 香成 毛利 京介 森 啓輔  
 森 隆秀 森 正人 森田 誠司 安井 敏夫 矢野 重文 山岡 遵 山崎 三郎  
 山本 恭平 山本 貴仁 吉田 直樹 吉富 博之 吉留 健 吉本 海男 和田真央子

越知町教育委員会 桂浜水族館 (株)川北印刷 (公財)高知県のいち動物公園協会  
 高知県立四万十高等学校普通科自然環境コース (特非)四国自然史科学研究センター (株)相愛  
 (株)東洋電化テクノリサーチ 土佐塾中学・高等学校 (公社)トンボと自然を考える会  
 日本野鳥の会高知支部 仁淀川漁業協同組合 仁淀川町教育委員会 春野の自然を守る会  
 室戸市教育委員会 嶺北漁業協同組合 わんぱーくこうちアニマルランド

2002年版執筆者（敬称略。50音順。）

哺乳類 中西 安男 仁尾かおり 町田 吉彦 山崎 三郎  
 鳥類 大野 正 黒岩 哲夫 佐藤 重穂 澤田 佳長 高橋 徹  
 豊田 陽一 西村 公志 濱田 哲暁  
 爬虫類・両生類 岡山 健仁 澤田 佳長 田辺 真吾  
 汽水・淡水産魚類 岡村 収 高橋 弘明  
 汽水・淡水産十脚甲殻類 酒井 勝司 細木 光夫  
 昆虫類 伊東 善之 大平 仁夫 河上 友三 中山 紘一 濱田 康  
 別府 隆守  
 陸・汽水・淡水産貝類 多田 昭 田中 宏明 三本 健二



(3) 高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会による検討

開催日等	内 容
第1回（平成26年6月16日）	(1) 高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会について (2) 高知県レッドデータブック（動物編）の改訂について（①改訂方針について ②分科会の構成およびメンバーについて ③スケジュールについて）
第2回（平成27年3月16日）	(1) 平成26年度調査報告について (2) その他（①カテゴリー区分について ②スケジュールについて）
第3回（平成28年3月17日）	(1) 高知県レッドデータブック（動物編）改訂委員会委員長の選出等について (2) 平成27年度までの調査結果について (3) 平成28年度調査報告について (4) その他（①カテゴリー区分について ②スケジュールについて）
第4回（平成28年10月20日）	(1) 平成28年度（上半期）調査報告について (2) リスト公表について（①最終調査報告様式およびリスト公表様式について ②注目種の名称および選定要件について） (3) その他（①スケジュールについて ②レッドデータブック作成について）
第5回（平成29年2月2日）	(1) 分科会最終報告について (2) リスト公表について（①レッドリストカテゴリー区分および注目種選定要件 の確定 ②リスト公表様式について） (3) その他（①スケジュールについて）
第6回（平成29年3月15日）	(1) 改訂版レッドリスト・注目種の最終案について (2) 来年度の委員会の体制について
第7回（平成29年4月27日）	(1) 高知県レッドデータブック（動物編）2018の編集について（①スケジュール について ②執筆要領について ③構成案・レイアウト案について） (2) 高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版（案）の意見公募について
第8回（平成29年7月6日）	(1) 高知県レッドデータブック（動物編）2018の編集について（①確認事項 ② 構成案・レイアウト案について） (2) 高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版（案）の意見公募結果と回答につ いて
第9回（平成30年3月8日）	(1) 高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版の変更について (2) 高知県レッドデータブック2018動物編の編集について （①確認事項 ②スケジュールについて）

※平成29年4月28日～平成29年5月28日

- ・高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版（案）に関する意見公募（パブリックコメント）

※平成29年10月31日

- ・高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版の公表

### 3 カテゴリーと判定基準

基本的には、「環境省レッドリストのカテゴリーと判定基準」に準じた。ただし、カテゴリーの要件については、環境省カテゴリーの定性的要件のみを採用し、絶滅危惧Ⅰ類については、絶滅危惧ⅠA類と絶滅危惧ⅠB類に区分していない。

他県ではレッドリストカテゴリーとして準絶滅危惧の下に県独自のカテゴリーを設けている場合があり、注目種や要注目種および留意種などの名称で指定されている。高知県が新たに設定した注目種は準絶滅危惧種の下のカテゴリーではなく、レッドリストカテゴリーとは別の概念であることから、高知県のレッドリストならびにレッドデータベースに含まれない。

区分及び基本概念	具体的要件
<b>絶滅</b> Extinct (EX) 本県ではすでに絶滅したと考えられる種 (亜種を含む。以下同じ。)	環境省カテゴリーの「絶滅」に相当 過去に本県に生息したことが確認されており、飼育下を含め、本県ではすでに絶滅したと考えられる種
<b>野生絶滅</b> Extinct in the Wild (EW) 飼育下でのみ存続している種	環境省カテゴリーの「野生絶滅」に相当 過去に本県に生息したことが確認されており、飼育下では存続しているが、本県において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 <b>【確実な情報があるもの】</b> ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 <b>【情報量が少ないもの】</b> ③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。
<b>絶滅危惧Ⅰ類</b> Critically Endangered + Endangered (CR+EN) 本県において絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅰ類」に相当 次のいずれかに該当する種 <b>【確実な情報があるもの】</b> ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 <b>【情報量が少ないもの】</b> ⑤それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
<b>絶滅危惧Ⅱ類</b> Vulnerable (VU) 本県において絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	環境省カテゴリーの「絶滅危惧Ⅱ類」に相当 次のいずれかに該当する種 <b>【確実な情報があるもの】</b> ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。
<b>準絶滅危惧</b> Near Threatened (NT) 存在基盤が脆弱な種 本県において、現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	環境省カテゴリーの「準絶滅危惧」に相当 次に該当する種 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種が侵入している。



区分及び基本概念	具体的要件
<b>情報不足</b> Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種	環境省カテゴリーの「情報不足」に相当 ----- 次に該当する種 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ①どの生息地においても生息密度が低く希少である。 ②生息地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 ④生活史の一部又は全部で特殊な環境条件を必要としている。
<b>■付属資料</b> <b>絶滅のおそれのある地域            個体群</b> Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	環境省カテゴリーの「絶滅のおそれのある地域個体群」に相当 ----- 次のいずれかに該当する地域個体群 ①生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合、絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。 ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。

## 4 選定結果

表1. 選定結果一覧

	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水産 魚類	汽水・淡水産 十脚甲殻類	昆虫類	陸産 貝類	汽水・淡水産 貝類	合計
絶滅 (EX)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (10)	0 (0)	0 (0)	14 (12)
野生絶滅 (EW)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	2 (2)	23 (28)	1 (1)	3 (2)	11 (17)	9 (3)	46 (44)	19 (12)	8 (8)	122 (117)
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	1 (1)	28 (20)	1 (0)	2 (2)	7 (8)	10 (1)	63 (50)	21 (13)	7 (3)	140 (98)
準絶滅危惧 (NT)	5 (3)	36 (39)	0 (1)	1 (3)	12 (11)	9 (4)	221 (245)	10 (21)	14 (7)	308 (334)
情報不足 (DD)	6 (6)	5 (11)	2 (4)	1 (1)	8 (10)	7 (11)	186 (222)	2 (1)	5 (2)	222 (268)
計	15 (13)	92 (98)	4 (6)	7 (8)	39 (47)	35 (19)	528 (571)	52 (47)	34 (20)	806 (829)

地域個体群 (LP)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (7)	1 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	5 (10)
---------------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------

( ) 内数字は、「高知県レッドデータブック〔動物編〕(2002年)」掲載種数。

## 5 選定種の解説項目と内容

### (1) 構成

本書では、分類群ごとに選定種の解説を掲載した。構成は、まず概要とレッドリストを掲載し、次にカテゴリー区分ごとに選定種の解説を掲載している。さらに、最後に文献を掲載している。

前回と変更のない絶滅種については、解説を掲載していない。

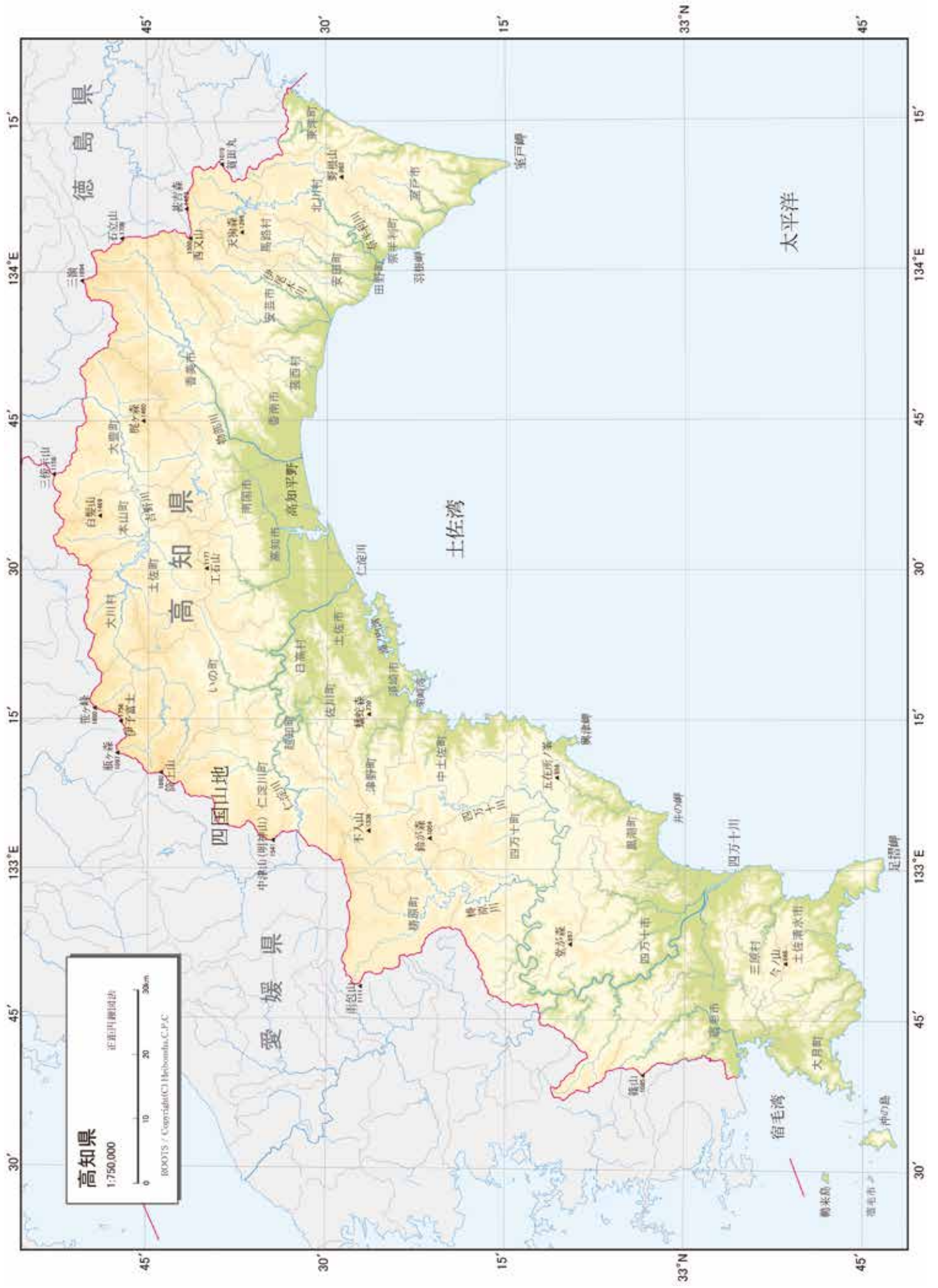
昆虫類については、絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類のすべてと準絶滅危惧種の一部（新規追加種・前回情報不足から変更した種）に絞って選定種の解説を掲載している。

### (2) 種ごとの解説項目と内容

<p>ネコ目クマ科 <b>1</b></p> <p><b>ツキノワグマ</b> <b>2</b></p> <p><i>Ursus thibetanus</i> <b>3</b></p>	<p><b>4</b> 高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">口絵1</span></p> <p>高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR) <b>5</b></p> <p>環境省2017ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・四国山地地域個体群 <b>6</b></p>
<p><b>7</b> 【選定理由】</p> <p>1986年以降、本県では捕獲禁止となっているが個体群の回復傾向は確認されていない。個体群が小さくなりすぎること、好適な生息環境が少ないこと、免疫関連遺伝子の多様性が低くなっていることが報告されている。現時点で個体群としての最小存続可能個体数とされる約100頭を下回っており、絶滅の可能性がきわめて高い。</p> <p><b>8</b> 【国内分布の概要】</p> <p>本州、四国</p> <p><b>9</b> 【県内での分布】</p> <p>大豊町、香美市、安芸市</p> <p><b>10</b> 【生物学的特性】</p> <p>四国の個体は頭胴長110～150cm、体重は雄が40～90kg、雌が35～55kg程度である。全身黒色で、多くの個体は胸に三日月型の白紋があるが、白紋が無い個体もいる。冬眠し、妊娠中の雌は冬眠中に出産する。出産後、約1年半親子で生活する。子育て期間および交尾期以外は単独で生活する。雑食性だが植物質が中心であり、春は新芽や草本類、夏は液果や社会性昆虫、秋はブナやミズナラを含む堅果類を多く食べる。日本産のツキノワグマは遺伝的に3グループに分けられ、四国の個体群は南日本グループに属する。</p>	<p><b>11</b> 【生息環境】</p> <p>高山帯から里山を含む海岸付近までを利用しているが、主にブナとミズナラが優占する落葉広葉樹林帯に生息する。本県では、剣山地やその周辺地域の落葉広葉樹林帯で生息が確認されている。</p> <p><b>12</b> 【生息状況】</p> <p>近年、本州では分布域の拡大が報告されており、市街地周辺においても生息が確認されているが、四国では分布域の拡大は確認されていない。1996年に四国全域で50頭未満と推定されたが、最近10年間では十数頭の確認例しかない。また、1997年以降、1年から3年に1度の頻度で繁殖が確認されている。剣山地とその周辺地域以外では生息が確認されていない。</p> <p><b>13</b> 【保全・保護対策】</p> <p>1994年以降は四国全域で捕獲禁止措置がとられている。個体群の保全には人工林の広葉樹林化を含む生息環境の改善が重要である。また、生息域外保全を含む積極的な保全策の立案が急務である。</p> <p><b>14</b> 【特記事項】</p> <p>本県では2007年に県指定希少野生動物植物に指定された。</p> <p><b>15</b> 【執筆者】</p> <p>山田孝樹</p>

- 1** 分類 目名・科名を記載
- 2** 種名 和名を記載
- 3** 学名 学名を記載
- 4** 2018カテゴリー区分 今回改定した新しいランク
- 5** 2002カテゴリー区分 2002レッドデータブックのランク
- 6** 環境省カテゴリー区分 環境省レッドリスト2017（環境省第4次レッドリストの第2回の改訂版）のランクおよび環境省版海洋生物レッドリスト（2017）のランク
- 7** 選定理由 選定評価した理由を記載
- 8** 国内分布の概要 日本国内の分布の状況を記載
- 9** 県内での分布 乱獲を誘発するおそれのある種については、生息が特定されるような具体的な生息地・生息範囲を記載していない。
- 10** 生物学的特性 多くの県民がそれぞれの種を身近な存在として認識できるように、種のもつ形態的な特徴および生態的な特性を簡潔に記載した。
- 11** 生息環境 それぞれの種の生息が確認された環境と、生息している可能性が高いと判断された環境に言及した。
- 12** 生息状況 過去との比較ならびに地域間での比較に基づき、現時点での分布状況を簡潔に記載した。
- 13** 保全・保護対策 県内での保護状況や効果的な対策について記述したが、個体数および分布域の減少の要因が現時点で特定困難な場合は言及しなかった。  
保護条例などがある場合はこの項目に記載した。
- 14** 特記事項 特に記すべき点があればこの項目に記載した。
- 15** 執筆者





高知県  
1:750,000  
正距角測図法  
0 10 20 30km  
ROBOTS / Copyright(C) Heibonsha, C.P.C.

哺乳類

鳥類

爬虫類

昆虫類

両生類

汽水淡水産魚類

汽水淡水産一脚甲殻類

昆虫類

陸員類  
汽水淡水産員類

RED DATA BOOK

# 選定種の解説

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群





## 概説

## 哺乳類

## 高知県における哺乳類生息種概要

2002年の高知県レッドデータブック〔動物編〕では、本県で確認された哺乳類は44種とされている。ただし、海洋性のクジラ目と本県ではまれにしか確認されていないアシカ科とアザラシ科は含まれていない。これらの中から、移入種とイエネズミを除くと36種となる。

2002年以降の調査により、多くの種が本県に生息していることが明らかとなった。そこで、新たに確認された種も加えた移入種を除くリストを以下に記す。記載順と標準和名はThe wild mammals of Japan 2nd editionに、目と科は日本の哺乳類〔改訂2版〕にそれぞれ準拠した：モグラ目トガリネズミ科シントウトガリネズミ、ニホンジネズミ、モグラ科ヒメヒミズ、ヒミズ、アズマモグラ、コウベモグラ；コウモリ目キクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科ヤマコウモリ、アブラコウモリ、モリアブラコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ヒナコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、ユビナガコウモリ、オヒキコウモリ科オヒキコウモリ；サル目オナガザル科ニホンザル；ネズミ目ヤマネ科ヤマネ、ネズミ科スミスネズミ、カヤネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、リス科ニホンリス、ムササビ、ニホンモモンガ；ウサギ目ウサギ科ニホンノウサギ；ネコ目イヌ科アカギツネ、タヌキ、オオカミ、クマ科ツキノワグマ、イタチ科ニホンイタチ、ニホンテン、ニホンカワウソ、ニホンアナグマ；ウシ目シカ科ニホンジカ、イノシシ科イノシシ、ウシ科ニホンカモシカの計7目16科42種。なお、カワネズミは四国での採集記録がないことから、本リストに含めなかった。

## 改訂結果

絶滅種とされたオオカミに関しては、その後の調査においても新たな知見が得られなかった。

絶滅危惧Ⅰ類と絶滅危惧Ⅱ類の総数は改訂前と同数の3種であるが、ニホンカモシカを新たに加え、ヤマネを除外した。

ニホンカワウソについては、2002年以降の調査で生息を裏付ける確証は得られていないが、カワウソと思われる動物を目撃したという県民からの情報が現在でも寄せられていることから、絶滅したかどうかの判断が困難であり、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）とした。

ツキノワグマは繁殖が確認されているものの生息地が限定的で、さらに個体数回復の兆しがないことから、近い将来における絶滅の可能性がきわめて高く、絶滅危惧

Ⅰ類（CR+EN）とした。

ヤマネは海岸近くの低標高地から四国山地上部の高標高地までのスギやヒノキの植林を含む多様な森林環境で確認されたことから、生息個体数は多いと考えられ、レッドリストから除外した。

ニホンカモシカはニホンジカの分布域の拡大と個体群の高密度化、スギやヒノキの植林木の成長に伴う森林の環境変化により、大部分の生息地で生息環境が明らかに悪化しつつあり、絶滅危惧Ⅱ類（VU）とした。

ニホンリスは、本県と愛媛県および徳島県との県境周辺の森林を中心に広範囲に生息していることが判明し、絶滅の心配はないと判断してレッドリストから除外した。なお、本種を注目種に選定した。

ニホンモモンガの情報は増加したものの、確認された場所が本県では面積的に広くない高標高地域に残る針広混交林のみであり、準絶滅危惧（NT）のままとした。

情報不足（DD）とされていたシントウトガリネズミとアズマモグラ、レッドリスト外であったヒメヒミズの3種については、今後、これまで確認された高標高地域におけるニホンジカの生息域の拡大と生息密度増加に伴う森林内の下層植生の変化、風力発電施設と太陽光発電施設の設置による環境改変、森林の消失による生息環境の悪化が予想され、いずれも準絶滅危惧（NT）とした。

同じく情報不足（DD）であったテングコウモリ、ヤマコウモリおよびオヒキコウモリについては、テングコウモリの生息情報が県内の複数地点で得られ、とくに津野町の天狗高原で多くの個体が確認されたことから絶滅の心配はないと判断し、レッドリストから除外した。ヤマコウモリは1953年8月に安芸市で捕獲されたこととされる標本が残るのみで、その後の生息情報は得られていない。しかしながら、他県における近年の生息状況から、今後、本県においても情報が得られる可能性があるかと判断し、情報不足（DD）のままとした。オヒキコウモリは大月町の蒲葵島の海岸における確認例のみであったが、ヤマコウモリと同様に新たな情報が得られる可能性があるかと判断し、情報不足（DD）のままとした。

新たな調査により、県内に生息するコウモリ目の種数が大きく増加した。新たに生息が確認された種はモリアブラコウモリ、チチブコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ヒナコウモリ、ノレンコウモリ、クロホオヒゲコウモリおよびコテングコウモリの7種である。これらのうち、ヒナコウモリは確認地点が愛媛県境近くであること、長距離の飛行を行うことから、本県に定着しているとは断定できず、レッドリストに加えなかった。また、コテングコウモリは県内の広い範囲で、また、複数の地点で確認され、絶滅の心配はないと判断してレッドリストに

加えなかった。上記2種以外の確認例はいずれもわずかであり、ほとんどの種を情報不足（DD）とした。なお、本県に生息するコウモリ目15種のうち11種が天狗高原で確認され、また、本県で新たに生息が確認された種の多くが天狗高原での確認であったことは特筆される。

谷地森秀二

## 高知県レッドリスト（哺乳類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>オオカミ</b> <i>Canis lupus</i>	絶滅	絶滅	
<b>ツキノワグマ</b> <i>Ursus thibetanus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ニホンカワウソ(高知・愛媛県個体群)</b> <i>Lutra nippon</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ニホンカモシカ</b> <i>Capricornis crispus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>シントウトガリネズミ</b> <i>Sorex shinto</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>ヒメヒミズ</b> <i>Dymecodon pilirostris</i>	準絶滅危惧		
<b>アズマモグラ</b> <i>Mogera imaizumii</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>ノレンコウモリ</b> <i>Myotis bombinus</i>	準絶滅危惧		
<b>ニホンモモンガ</b> <i>Pteromys momonga</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヤマコウモリ</b> <i>Nyctalus aviator</i>	情報不足	情報不足	
<b>モリアブラコウモリ</b> <i>Pipistrellus endoi</i>	情報不足		
<b>チチブコウモリ</b> <i>Barbastella darjelingensis</i>	情報不足		
<b>ニホンウサギコウモリ</b> <i>Plecotus sacrimontis</i>	情報不足		
<b>クロホオヒゲコウモリ</b> <i>Myotis pruinusus</i>	情報不足		
<b>オヒキコウモリ</b> <i>Tadarida insignis</i>	情報不足	情報不足	
高知県レッドリストから除外された種（哺乳類）			
和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>カワネズミ</b> <i>Chimarrogale platycephalus</i>	除外	情報不足	
<b>テングコウモリ</b> <i>Murina hilgendorfi</i>	除外	情報不足	
<b>ヤマネ</b> <i>Glirulus japonicus</i>	除外	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ニホンリス</b> <i>Sciurus lis</i>	除外	準絶滅危惧	注目種



ネコ目クマ科

## ツキノワグマ

*Ursus thibetanus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵1

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・四国山地地域個体群

## 【選定理由】

1986年以降、本県では捕獲禁止となっているが個体群の回復傾向は確認されていない。個体群が小さくなりすぎること、好適な生息環境が少ないこと、免疫関連遺伝子の多様性が低くなっていることが報告されている。現時点で個体群としての最小存続可能個体数とされる約100頭を下回っており、絶滅の可能性がきわめて高い。

## 【国内分布の概要】

本州、四国

## 【県内での分布】

大豊町、香美市、安芸市

## 【生物学的特性】

四国の個体は頭胴長110～150cm、体重は雄が40～90kg、雌が35～55kg程度である。全身黒色で、多くの個体は胸に三日月型の白紋があるが、白紋が無い個体もいる。冬眠し、妊娠中の雌は冬眠中に産卵する。産卵後、約1年半親子で生活する。子育て期間および交尾期以外は単独で生活する。雑食性だが植物質が中心であり、春は新芽や草本類、夏は液果や社会性昆虫、秋はブナやミズナラを含む堅果類を多く食べる。日本産のツキノワグマは遺伝的に3グループに分けられ、四国の個体群は南日本グループに属する。

## 【生息環境】

高山帯から里山を含む海岸付近までを利用しているが、主にブナとミズナラが優占する落葉広葉樹林帯に生息する。本県では、剣山地やその周辺地域の落葉広葉樹林帯で生息が確認されている。

## 【生息状況】

近年、本州では分布域の拡大が報告されており、市街地周辺においても生息が確認されているが、四国では分布域の拡大は確認されていない。1996年に四国全域で50頭未満と推定されたが、最近10年間では十数頭の確認例しかない。また、1997年以降、1年から3年に1度の頻度で繁殖が確認されている。剣山地とその周辺地域以外では生息が確認されていない。

## 【保全・保護対策】

1994年以降は四国全域で捕獲禁止措置がとられている。個体群の保全には人工林の広葉樹林化を含む生息環境の改善が重要である。また、生息域外保全を含む積極的な保全策の立案が急務である。

## 【特記事項】

本県では2007年に県指定希少野生動物植物に指定された。

## 【執筆者】

山田孝樹

ネコ目イタチ科

## ニホンカワウソ (高知・愛媛県個体群)

*Lutra nippon*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵1

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅 (EX)

## 【選定理由】

1979年に津野町葉山から須崎市を貫流して須崎湾に注ぐ新莊川に出没した個体以降、生息を裏付ける確実な情報は得られていない。しかしながら、カワウソと思われる動物を目撃したという県民からの情報が現在でも寄せられていることから、絶滅したかどうかの判断が困難である。

## 【国内分布の概要】

高知県、愛媛県

## 【県内での分布】

現状は不明

## 【生物学的特性】

形態学的ならびに分子生物学的に独立種と考えられている。ホロタイプは頭胴長66.5cm、尾長45.2cm、体重5.7kg。河川の中下流域から沿岸部にかけて生息する。詳細な生態は未解明であるが、近縁種のユーラシアカワウソ *L. lutra* と同様に主に夜行性で、魚類と甲殻類、両生類を主に利用する。1頭の行動範囲は水辺に沿って十数kmにもおよぶとされる。

## 【生息環境】

河川の中下流域から沿岸部の水辺環境で生活する。

## 【生息状況】

現時点で、1979年に新莊川に出没した個体以降、確実な生息情報は得られていない。今世紀に入ってからは、痕跡も確認されず、死体の発見もない。しかしながら、幡多郡と高岡郡、吾川郡を中心とした地域の河川や海岸部から、本種と思われる動物の目撃情報が寄せられている。

## 【保全・保護対策】

さらなる生息確認調査を行いつつ、広く県民に情報提供を呼びかける。生息の可能性が高い情報が得られた場合には、その地域において詳細な調査を行い、情報を吟味する。

## 【特記事項】

環境省は2012年に絶滅種とした。国の特別天然記念物。分類学的な位置づけについては、なお研究が進められている。2017年2月に長崎県対馬市において、カワウソ属とみられる個体が自動撮影装置により撮影され、全国に報道された。

## 【執筆者】

谷地森秀二・町田吉彦

ウシ目ウシ科

# ニホンカモシカ

*Capricornis crispus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵1

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・四国地方地域個体群

**【選定理由】**

2000年代前半までは生息環境も安定しており、個体数も増加していると考えられていた。しかし、2010年ごろから亜高山帯での生息情報がほとんど得られていない。分布域は県東部に限られており、また、ニホンジカの増加により、分布域の大部分で生息環境が明らかに悪化しつつある。

**【国内分布の概要】**

中国地方を除く本州、四国、九州

**【県内での分布】**

東洋町から大豊町

**【生物学的特性】**

四国産の個体は体長70cm、体重25kg程度で、本州産より小さい。体色には地域的な変異がある。雌雄ともに一生落ちない角をもつ。基本的に単独生活者で、同種・同性間でなわばりを主張する。なわばりは個体ごとに形成されるが、雄は雌に重ねるようになわばりを形成する。秋になるとなわばりが重なる雌雄で交尾を行う。出産時期は5月から6月ごろで、1回に1頭の仔を出産する。仔は母親と行動するが、成長すると親のなわばりを出ていく。草食性で、木本類の葉や芽を主に採食する。

**【生息環境】**

亜高山帯から海岸付近までの森林に生息する。ブナとミズナラが優占する落葉広葉樹林を生息場所として好むが、針葉樹林やスギやヒノキの植林も利用する。本県では分布域が拡大した結果、シイとカシ類が中心の常緑広葉樹林にも生息するが、利用実態は不明である。

**【生息状況】**

分布域は拡大しているが、ニホンジカによる植生改変により生息環境の悪化が見受けられる。特に、分布の中心であった高標高地域での変化が著しく、本種の生息情報が乏しくなった。そのため、分布域がドーナツ化している。

**【保全・保護対策】**

1955年に国の特別天然記念物に指定された。狩猟および有害鳥獣捕獲は許可されていないが、ニホンジカおよびイノシシの捕獲罠での誤捕獲がある。また、獣害防止ネットへ絡まり死亡した例もあり、事故防止と希少生物としての啓発活動が必要である。

**【執筆者】**

金城芳典

モグラ目トガリネズミ科

# シントウトガリネズミ

*Sorex shinto*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵1

**【選定理由】**

生息は高標高地に限られるが、記録が少なく、森林植生の変化と開発に伴う生息環境の悪化が予想される。

**【国内分布の概要】**

紀伊半島以北の本州、佐渡島、四国

**【県内での分布】**

徳島県および愛媛県との県境周辺

**【生物学的特性】**

頭胴長52～78mm、尾長40～55mm、体重3.9～13.5g。体毛は暗褐色から明褐色。歯の先端部は赤褐色。林床で生活し、ミミズ類と昆虫類、クモ類を主食とする。

**【生息環境】**

高標高地の森林内の地表で生活する。

**【生息状況】**

これまで生息が確認されていた香美市の高標高地の森林では、近年、ニホンジカが高密度となり、植物への採食圧が高まって林床植生が衰退し、本種の生息環境が悪化している。近年は生息情報が得られておらず、捕獲による生息確認調査を今後も継続して実施することと、登山者と林業従事者へ情報提供の呼びかけを行って本種の確認につとめ、分布を明らかにする必要がある。

**【保全・保護対策】**

生息場所における林床植生の衰退を防止する必要がある。

**【特記事項】**

四国産は亜種シコクトガリネズミ *S. s. shikokensis* である。

**【執筆者】**

谷地森秀二

モグラ目モグラ科

# ヒメヒミズ

*Dymecodon pilirostris*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

生息は高標高地に限られ、確認記録が少なく、森林植生の変化と開発に伴う生息環境の悪化が予想される。

**【国内分布の概要】**

本州、四国、九州

**【県内での分布】**

徳島県および愛媛県との県境周辺

**【生物学的特性】**

頭胴長70～84mm、尾長32～44mm (尾率は43～60%)、体重8～14.5g。体毛は黒色。耳介は無く、眼は目立たない。林床で生活し、ミミズ類と昆虫類、クモ類を主食とする。

**【生息環境】**

森林に生息し、分布は競合するヒミズが侵入していない高標高地に限られると考えられている。

**【生息状況】**

四国においては、石鎚山周辺と剣山周辺で記録がある。県内では近年、生息情報が得られていない。捕獲による生息確認調査を今後も継続して実施することと、登山者と林業従事者へ情報提供の呼びかけを行い本種の確認場所の増加につとめ、分布を明らかにする必要がある。これまで生息が確認された香美市の高標高地の森林では、近年、ニホンジカが高密度となり、植物への採食圧が高まって林床植生が衰退し、本種の生息環境は悪化している。

**【保全・保護対策】**

生息場所における林床植生の衰退を防止する必要がある。

**【特記事項】**

日本固有種である。

**【執筆者】**

谷地森秀二



モグラ目モグラ科

# アズマモグラ

*Mogera imaizumii*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵1

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

生息は高標高地域に限られ、確認記録が少なく、森林植生の変化と開発に伴う生息環境の悪化が予想される。

**【国内分布の概要】**

本州中部以北、本州西南部と四国の山地、周辺の島嶼

**【県内での分布】**

いの町、梶原町

**【生物学的特性】**

頭胴長121～159mm、尾長14～22mm、体重48～127g。体毛は暗褐色から明褐色。坑道で生活し、ミミズ類と昆虫類、クモ類を主食とする。

**【生息環境】**

四国では山地の森林と耕作地で記録がある。生息地は、競合するコウベモグラが侵入していない山地上部の場所に限定されていると考えられる。

**【生息状況】**

県内では高標高地に産するが記録はわずかで、情報が不足している。いの町では山地上部の森林と谷下部の人家周辺で生息が確認された。

**【特記事項】**

形態に変異があり、コウベモグラとの識別には注意を要する。

**【執筆者】**

谷岡 仁

コウモリ目ヒナコウモリ科

# ノレンコウモリ

*Myotis bombinus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵1

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

生息は高標高地域に限られ、確認場所がわずかで、生息に適した環境も少ない。

**【国内分布の概要】**

北海道、本州、四国、九州

**【県内での分布】**

いの町、仁淀川町、津野町

**【生物学的特性】**

前腕長38～42mm、頭胴長47～53mm、尾長39～48mm、体重5～8g。体毛は背面が灰褐色、腹面は白色。腿間膜後縁に暖簾のように毛が密生する。耳珠長は耳介長の半分以上ある。

**【生息環境】**

高標高地の広葉樹と針葉樹が混在する森林に生息し、夜間に森林内の中・下層で飛翔昆虫を捕食する。日中の休息と越冬場所、育児場所として洞窟を利用する。

**【生息状況】**

本県では2008年に仁淀川町大引割で初めて生息が確認された。県内での確認場所は仁淀川町の大引割と津野町の天狗高原、いの町本川のシラサ峠で、いずれも捕獲による生息確認である。確認された個体は全てが成獣で、雌雄とも確認されている。津野町の天狗高原における調査では、5～11月にかけて複数の個体が捕獲され、8月および9月には授乳痕がある雌が確認されたことから、周辺地域で育児を

行っていると考えられる。さらに調査を実施して県内の分布を明らかにするとともに、日中の休息と、越冬および育児を行っている洞を把握する必要がある。

**【保全・保護対策】**

越冬と育児の場所が確認された場合、洞の保存と人の侵入の制限、その周辺地域を含めた環境の現状維持が重要となる。

**【執筆者】**

谷地森秀二

ネズミ目リス科

# ニホンモモンガ

*Pteromys momonga*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵1

**【選定理由】**

県内の広い範囲で確認されているが、確認場所が点在し、それぞれの場所での情報が少ない。

**【国内分布の概要】**

本州，四国，九州

**【県内での分布】**

香美市，いの町，越知町，津野町，四万十町

**【生物学的特性】**

頭胴長140～200mm，尾長100～140mm，体重150～220g。背面は，夏毛では茶褐色，冬毛では灰褐色。樹上で生活し，飛膜を広げて滑空する。

**【生息環境】**

高標高地の広葉樹と針葉樹が混在する森林に生息し，日中の休息場と育児の場所として樹洞を利用する。

**【生息状況】**

得られた情報が少なく，繁殖に関する記録は得られていない。生息が確認された場所は香美市物部，いの町吾北，越知町の横倉山，津野町の天狗高原，四万十町十和である。いずれの場所も針葉樹と広葉樹が混在する森林であるが，周辺はスギとヒノキの植林で，本種にとって好適な環境の面積は広くはなく，また，互いに分断されている。

**【保全・保護対策】**

生息が確認された場所周辺の森林環境を維持することと，同様の環境を周辺地域へ広げていくことが必要である。

**【特記事項】**

日本固有種である。

**【執筆者】**

谷地森秀二

コウモリ目ヒナコウモリ科

## ヤマコウモリ

*Nyctalus aviator*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

確認された場所が1か所のみで、生息状況に不明な点が多い。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、対馬、沖縄

## 【県内での分布】

安芸市

## 【生物学的特性】

大型種で、前腕長57～66mm、頭胴長89～113mm、尾長51～67mm、体重35～60g。体毛は茶褐色。

## 【生息環境】

森林に生息するが、人家周辺の大径木の樹洞と、コンクリート製高架にできた隙間を休息場として利用した記録がある。

## 【生息状況】

安芸市で、1953年8月に成獣の雌雄各1頭が捕獲された記録があるのみ。

## 【特記事項】

本県産の標本2点が国立科学博物館に収蔵されている。

## 【執筆者】

谷地森秀二

コウモリ目ヒナコウモリ科

## モリアブラコウモリ

*Pipistrellus endoi*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

確認場所がわずか1か所で、生息に適した環境が少ないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

本州、四国

## 【県内での分布】

津野町

## 【生物学的特性】

前腕長32～34mm、頭胴長43～53mm、尾長34～40mm、体重5～9g。背面の体毛は濃い橙褐色で、腹部は黄褐色。

## 【生息環境】

全国的に情報が少ない種で、比較的標高が高い落葉広葉樹林に生息する。

## 【生息状況】

本県では2013年8月に津野町の天狗高原で初めて捕獲された。同じ場所で2017年10月まで継続して実施された調査では雌2頭と雄22頭が捕獲され、すべてが成獣であった。捕獲された雌には授乳痕がある個体が確認され、周辺で出産・育児が行われている可能性がある。現在まで天狗高原以外の情報はなく、県内の分布状況は不明である。

## 【特記事項】

日本固有種である。

## 【執筆者】

谷地森秀二

コウモリ目ヒナコウモリ科

## チチブコウモリ

*Barbastella darjelingensis*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・四国地域個体群

口絵1

## 【選定理由】

確認場所がわずかで、生息に適した環境は少ないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国

## 【県内での分布】

香美市、いの町

## 【生物学的特性】

前腕長39～44mm、頭胴長50～63mm、尾長43～54mm、体重8～12g。体毛は黒褐色。左右の耳介は基部で接する。

## 【生息環境】

落葉広葉樹林に生息するが、北海道以外での確認例は少ない。

## 【生息状況】

本県ではいの町本川において、2003年に初めて生息が確認された。これまでの確認記録は、2003年のいの町本川における雌雄各1頭と、2004年の香美市物部における雌雄各1頭の捕獲例のみである。

## 【執筆者】

谷地森秀二



コウモリ目ヒナコウモリ科

## ニホンウサギコウモリ

*Plecotus sacrimontis*

## 【選定理由】

確認場所がわずか1か所で、生息に適した環境は少ないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国

## 【県内での分布】

津野町

## 【生物学的特性】

前腕長40～45mm、頭胴長42～58mm、尾長42～55mm、体重5～13g。耳介はきわめて大きい。

## 【生息環境】

比較的高い山地のさまざまな森林で確認されている。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・近畿地方以西個体群

## 【生息状況】

本県では津野町の天狗高原において、2013年8月に初めて捕獲により確認された。捕獲個体は雄の成獣で、捕獲数は1頭であった。その後、天狗高原で2015年8月に1頭（性別不明）、10月に雌の成獣1頭、2017年5月と8月に雄の成獣が各1頭捕獲された。5月から10月にかけて確認されたことから、本種が周辺に定住していると考えられる。一方で、県内の他の場所での情報は無い。

## 【特記事項】

日本固有種である。

## 【執筆者】

谷地森秀二

コウモリ目ヒナコウモリ科

## クロホオヒゲコウモリ

*Myotis pruinus*

## 【選定理由】

確認場所が1か所のみで、生息に適した環境は少ないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

津野町

## 【生物学的特性】

前腕長30～34mm、頭胴長38～44mm、尾長33～40mm、体重4～7g。体毛は黒く、銀色の刺毛がある。

## 【生息環境】

照葉樹林から高標高地域の広葉樹林までで確認されている。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【生息状況】

本県では2013年8月に津野町の天狗高原においてハートラップとカスミ網を用いた捕獲調査により初めて確認された。同じ場所で継続して行われた調査で雌16頭と雄18頭が捕獲されたが、捕獲月は5月と8月に限られ、全てが成獣であった。日中の休息場と越冬場所、育児を行っている場所は確認されていない。天狗高原以外からの情報は得られず、県内の分布状況は不明である。

## 【特記事項】

日本固有種である。

## 【執筆者】

谷地森秀二

コウモリ目オヒキコウモリ科

## オヒキコウモリ

*Tadarida insignis*

## 【選定理由】

確認場所が離島の1か所のみで、島の面積が狭い。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

大月町

## 【生物学的特性】

前腕長57～65mm、頭胴長84～94mm、尾長48～56mm、体重30～45g。尾が尾膜から1/3以上突き出る。体毛は黒褐色。高速で長距離を持続的に飛行する能力がある。越冬状況は不明である。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【生息環境】

海岸の断崖急斜面にある岩の隙間と、家屋の壁面の隙間を日中の休息場として利用することが確認されているが、不明な点が多い。

## 【生息状況】

大月町の無人島である蒲葵島で、出産哺育期にあたる夏季に成獣のみの集団が確認された。さらに調査を継続し、分布を明らかにする必要がある。

## 【執筆者】

谷岡 仁

## 〈文献一覧〉

- 阿部 永. 2003. カワネズミの捕獲, 生息環境および活動. 哺乳類科学, 43: 51-65.
- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 2008. 日本の哺乳類 [改訂2版]. 東海大学出版会, 神奈川, 206 pp.
- 阿部 永・横畑泰志. 1998. 食虫類の自然史. 比婆科学教育振興会, 広島, 391 pp.
- 安藤元一. 2008. ニホンカワウソ ―絶滅に学ぶ保全生物学―. 東京大学出版会, 東京, 233 pp.
- 中国四国地方環境事務所・四国自然史科学研究センター. 2017. 環境省請負調査 国立公園等民間活用特定自然環境保全活動(グリーンワーカー)事業. 国指定剣山山系鳥獣保護区ツキノワグマ等保護監視調査報告書, 61 pp.
- Endo, H., X. Ye and H. Kogiku. 2000. Osteometrical study of the Japanese otter (*Lutra nippon*) from Ehime and Kochi prefectures. Mem Natn Sci Mus, Tokyo, 33: 195-201.
- 飯島正広・土屋公幸. 2015. モグラハンドブック. 文一総合出版, 東京, 76 pp.
- ・——. 2015. リス・ネズミハンドブック. 文一総合出版, 東京, 88 pp.
- Imaizumi, Y. and M. Yoshiyuki. 1989. Taxonomic status of the Japanese otter (Carnivora, Mustelidae), with a description of a new species. Bull Nat Sci Mus, Tokyo, Ser. A, 15: 177-188.
- Ishibashi, Y., T. Oi, I. Arimoto, T. Fujii, K. Mamiya, N. Nishi, S. Sawada, H. Tado and T. Yamada. 2017. Loss of allelic diversity in the MHC class II DQB gene in western populations of the Japanese black bear *Ursus thibetanus japonicus*. Conserv Genet, 18: 247-260.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編). 2014. レッドデータブック2014 ―日本の絶滅のおそれのある野生生物― 1 哺乳類. ぎょうせい, 東京, 132 pp.
- 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会(編). 2002. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
- 高知新聞企業出版部(編). 1997. ニホンカワウソやーい! 高知のカワウソ読本 ―四国全域に幻の姿を追う―. 高知新聞社, 高知, 267 pp.
- コウモリの会(編). 2011. コウモリ識別ハンドブック 改訂版. 文一総合出版, 東京, 88 pp.
- 前田喜四雄. 2001. 日本コウモリ研究誌: 翼手類の自然史. 東京大学出版会, 東京, 216 pp.
- 宮本春樹. 2015. ニホンカワウソの記録. 最後の生息地 四国西南より. 創風社出版, 松山, 214 pp.
- 落合啓二. 2016. ニホンカモシカ: 行動と生態. 東京大学出版会, 東京, 290 pp.
- Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (eds). 2015. The wild mammals of Japan 2nd ed. SHOUKADOH Book Sellers, Kyoto, 506 pp.
- Ohnishi, N., R. Uno, Y. Ishibashi, H. Tamate and T. Oi. 2009. The influence of climatic oscillations during the Quaternary Era on the genetic structure of Asian black bears in Japan. Heredity, 102: 579-589.
- 佐々木 浩. 2016. 日本のカワウソはなぜ絶滅したのか. 人間文化研究所年報, 27: 95-111.
- Suzuki, T., H. Yuasa and Y. Machida. 1996. Phylogenetic position of the Japanese river otter *Lutra nippon* inferred from the nucleotide sequence of 224 bp of the mitochondrial cytochrome *b* gene. Zool Sci, 13: 621-626.
- 徳島県教育委員会・高知県教育委員会. 2011. 四国山地カモシカ特別調査報告書. 徳島県教育委員会・高知県教育委員会・特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター, 徳島, 132 pp.
- 上田浩一・安田雅俊. 2016. 五島列島におけるカワウソの分布と絶滅. 哺乳類科学, 56: 151-157.
- Waku, D., T. Segawa, T. Yonezawa, A. Akiyoshi, T. Ishige, M. Ueda, H. Ogawa, H. Sasaki, M. Ando, N. Kohno and T. Sasaki. 2016. Evaluating the phylogenetic status of the extinct Japanese otter on the basis of mitochondrial genome analysis. PloS ONE, 11: e0149341. doi:10.1371/journal.pone.0149341.
- 谷地森秀二. 2007. 高知県のコウモリ目: かすみ網による分布調査(その2). 四国自然史科学研究, (4): 10-17.
- 谷地森秀二・山崎浩司. 2004. 高知県のコウモリ目: かすみ網による分布調査. 四国自然史科学研究, (1): 43-49.
- 安田雅俊. 2007. 絶滅のおそれのある九州のニホンリス, ニホンモモンガ, およびムササビ ―過去の生息記録と現状および課題―. 哺乳類科学, 47: 195-206.





## 概説

## 鳥類

## 高知県における鳥類生息種概要

2002年の高知県レッドデータブック〔動物編〕の出版時には、本県で332種（移入種3種を除く）の鳥類が確認されていた。それ以降に新たに確認された種を加えると、これまでに県内で確認された鳥類は21目71科357種（移入種は除く）となる。これは国内で記録された633種（日本鳥学会、2012）の56%に相当する。これを出現様式に基づいて分類すると、一年中県内で見られる留鳥が63種、春から夏に南の地域から渡ってきて繁殖する夏鳥が37種、秋から冬に北の地域から渡ってきて越冬する冬鳥が97種、北の繁殖地と南の越冬地の間を移動する途中で立ち寄る旅鳥が99種、本来の分布域や渡りの経路から外れてしまった迷鳥が61種である。本レッドリストの対象は陸上で繁殖や越冬ならびに休息に立ち寄る種とした（洋上のみで観察された個体は評価対象外）。また、海外および他地域からの移入種と、過去10年間にわずかしき記録のない旅鳥と迷鳥は対象外とした。

## 改訂結果

2002年の本県レッドデータブック掲載種、環境省とIUCNのレッドリスト掲載種、過去10年間で生息地と繁殖環境が悪化した種、情報不足で迷鳥か否かの判定が不能だった種の計118種から92種を選定し、新たなレッドリストを作成した。なお、目と名、科と名、標準和名は日本鳥類目録改訂第7版に、学名はAvibase (<https://avibase.bsc-eoc.org/checklist.jsp?lang=JP>; 2018年2月18日閲覧) に準拠した。

絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）に23種を選定した。全国的な希少種で土佐湾沿岸に少数が飛来し越冬が確認されたヒメウと、県内に少ない湿地で少数が越冬するサンカノゴイを追加した。さらに、河川改修により繁殖環境が変化し、生息数が著しく減少しているヨシゴイのランクを上げた。

絶滅危惧Ⅱ類（VU）に28種を選定した。タシギは渡りの時期や越冬時期に滞在する湿地が狭くなり、生息環境が悪化したと判断され、新たに追加した。準絶滅危惧（NT）からランクを上げた種として、タシギと同様の環境で繁殖するタマシギを選定した。さらに、草地の減少や湿地の開発により今後も生息数の減少が予想される種としてオオヨシキリ、カシラダカ、オオジュリンを選定した。山地から平地の森林では、ニホンジカの増加による森林環境の変化や樹木の伐採の影響によりコマドリ、ヤマシギ、アオバズクの生息環境が悪化していると判断され、ランクを上げた。建物に巣を造るコシアカツバメと里山の山林にコロニーをつくるササゴイは、原因

は不明であるがコロニー数および個体数の減少が明らかになったことからランクを上げた。

一方、絶滅危惧ⅠA類（CR）からランクを下げた種はマナヅルとナベヅルである。両種とも県内への飛来数にかなりの年変動があり、越冬個体数は安定していないが、確認事例が増えてきたことから、絶滅の危険度は以前より低いと判断された。また、県西部の離島で繁殖するカンムリウミスズメは、小集団が維持されていることから絶滅の恐れは低いと考えられるが、釣り人や外敵となる鳥獣の侵入が懸念されることから環境省と同ランクにとどめた。トモエガモは毎年実施する越冬数調査で小群が不規則に飛来していることが確認されたため、ランクを下げた。

準絶滅危惧（NT）に36種を選定した。新たに追加したヒクイナ、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリは河川敷、湿地および農耕地で繁殖するが、繁殖環境の変化に伴い生息数が減少していると判断された。また、シコクヤマドリとコサメビタキは生息地の山地や里山などの開発で生息環境が変化し、生息数が減っていると判断されたことで情報不足（DD）から変更した。ノジコは秋の渡りの時期と越冬期に滞在する草地と藪が少なくなり、生息環境の悪化が予想されることで情報不足（DD）から変更した。ルリビタキとビンズイは、越冬期の個体数は少なくはないが、四国山地が日本最南端の繁殖地であることや、繁殖期の県内の分布が限定的であることで情報不足（DD）から変更した。一方、キバシリは個体数が必ずしも多くはないが、スギやヒノキの植林地に広範囲に生息していることが確認され、絶滅危惧Ⅱ類（VU）からランクを下げた。ヨタカは、近年の調査結果から、生息数が回復していることが明らかになり、絶滅危惧Ⅱ類（VU）からランクを下げた。

情報不足（DD）に5種を選定した。アオシギは山地の水辺で越冬するが、確認情報が少ないことから新たに追加した。ミコアイサとウミアイサは少数の飛来が確認されているが、生息情報が少なく、今後の情報収集に努めることとした。ツミは2002年版発表ときに繁殖情報があり、絶滅危惧ⅠA類（CR）に選定されたが、その後繁殖に関する情報がほとんど得られておらず情報不足とした。オオコノハズクは死骸で生息が推定されている状況から、確実な情報の収集が必要である。

本改訂で従前のレッドリストから除外された種は以下の14種である。オシドリ、オナガガモ、カワセミ、キビタキ、イカルおよびアオジは、近年個体数が明らかに増加したかもしくは広い範囲で分布が確認された。旅鳥のツルクイナとアカモズ、冬鳥のコイカルとコジュリンは過去10年間にほとんど記録がない。ハジロクロハラアジ

鳥類

サシは迷鳥と判断された。その他の種として、コクマルガラスとツリスガラは冬鳥として飛来が確認されているが、国内で越冬分布域が大きく変化しており、評価の対象外とした。ムギマキは少数が旅鳥として通過するが年変動が大きく、評価の対象外とした。

濱田哲暁

## 高知県レッドリスト（鳥類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ウズラ</b> <i>Coturnix japonica</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>カラスバト</b> <i>Columba janthina janthina</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>ヒメウ</b> <i>Phalacrocorax pelagicus</i>	絶滅危惧 I 類		
<b>サンカノゴイ</b> <i>Botaurus stellaris</i>	絶滅危惧 I 類		
<b>ヨシゴイ</b> <i>Ixobrychus sinensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	
<b>クイナ</b> <i>Rallus aquaticus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>ケリ</b> <i>Vanellus cinereus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>オオジシギ</b> <i>Gallinago hardwickii</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>コシャクシギ</b> <i>Numenius minutus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>ダイシャクシギ</b> <i>Numenius arquata</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>ハウロクシギ</b> <i>Numenius madagascariensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>コアジサシ</b> <i>Sternula albifrons</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>ミサゴ</b> <i>Pandion haliaetus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>ハチクマ</b> <i>Pernis ptilorhynchus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>チュウヒ</b> <i>Circus spilonotus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>オオタカ</b> <i>Accipiter gentilis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>クマタカ</b> <i>Nisaetus nipalensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>コノハズク</b> <i>Otus scops</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>コミミズク</b> <i>Asio flammeus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>ハヤブサ</b> <i>Falco peregrinus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>ヤイロチョウ</b> <i>Pitta nympha</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>サンショウクイ</b> <i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ホシガラス</b> <i>Nucifraga caryocatactes</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ヨシガモ</b> <i>Mareca falcata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ハシビロガモ</b> <i>Spatula clypeata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>トモエガモ</b> <i>Sibirionetta formosa</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
<b>オオミズナギドリ</b> <i>Calonectris leucomelas</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ミゾゴイ</b> <i>Gorsachius goisagi</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ササゴイ</b> <i>Butorides striata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>マナヅル</b> <i>Antigone vipio</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ナベヅル</b> <i>Grus monacha</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ダイゼン</b> <i>Pluvialis squatarola</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ヤマシギ</b> <i>Scolopax rusticola</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>タシギ</b> <i>Gallinago gallinago</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>サルハマシギ</b> <i>Calidris ferruginea</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>キリアイ</b> <i>Calidris falcinellus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>タマシギ</b> <i>Rostratula benghalensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>カンムリウミスズメ</b> <i>Synthliboramphus wumizusume</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>ハイロチュウヒ</b> <i>Circus cyaneus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ハイタカ</b> <i>Accipiter nisus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>サシバ</b> <i>Butastur indicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ノスリ <i>Buteo buteo</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
アオバズク <i>Ninox scutulata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
コシアカツバメ <i>Cecropis daurica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
オオヨシキリ <i>Acrocephalus orientalis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
コマドリ <i>Larivora akahige</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
コルリ <i>Larivora cyane</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ホオアカ <i>Emberiza fucata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
カシラダカ <i>Schoeniclus rustica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
オオジュリン <i>Schoeniclus schoeniclus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
シコクヤマドリ <i>Syrmaticus soemmerringii intermedius</i>	準絶滅危惧	情報不足	
チュウサギ <i>Ardea intermedia</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヒクイナ <i>Zapornia fusca</i>	準絶滅危惧		
ジュウイチ <i>Hierococcyx fugax</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
カッコウ <i>Cuculus canorus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヨタカ <i>Caprimulgus jotaka jotaka</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
タゲリ <i>Vanellus vanellus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
イカルチドリ <i>Charadrius placidus</i>	準絶滅危惧		
コチドリ <i>Charadrius dubius</i>	準絶滅危惧		
シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus</i>	準絶滅危惧		
セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ツルシギ <i>Tringa erythropus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アカアシシギ <i>Tringa totanus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
タカブシギ <i>Tringa glareola</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ハマシギ <i>Calidris alpina</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ツバメチドリ <i>Glareola maldivarum</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アジサシ <i>Sterna hirundo</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キュウシュウフクロウ <i>Strix uralensis fuscescens</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヤマセミ <i>Megaceryle lugubris</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ナミエオオアカゲラ <i>Dendrocopos leucotos namiyei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
チゴハヤブサ <i>Falco subbuteo</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
メボソムシクイ <i>Seicercus xanthodryas</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
エゾムシクイ <i>Seicercus borealoides</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キバシリ <i>Certhia familiaris</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
トラツグミ <i>Zoothera aurea toratugumi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クロツグミ <i>Turdus cardis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i>	準絶滅危惧	情報不足	
オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>カヤクグリ</b> <i>Prunella rubida</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ビンズイ</b> <i>Anthus hodgsoni</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>ノジコ</b> <i>Schoeniclus sulphuratus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>クロジ</b> <i>Emberiza variabilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ミコアイサ</b> <i>Mergellus albellus</i>	情報不足	絶滅危惧IB類	
<b>ウミアイサ</b> <i>Mergus serrator</i>	情報不足	絶滅危惧IB類	
<b>アオシギ</b> <i>Gallinago solitaria</i>	情報不足		
<b>ツミ</b> <i>Accipiter gularis</i>	情報不足	絶滅危惧IA類	
<b>オオコノハズク</b> <i>Otus lempiji</i>	情報不足	情報不足	

## 高知県レッドリストから除外された種（鳥類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>オシドリ</b> <i>Aix galericulata</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>オナガガモ</b> <i>Anas acuta</i>	除外	絶滅危惧II類	
<b>ツルクイナ</b> <i>Gallinago cinerea</i>	除外	情報不足	
<b>ハジロクロハラアジサシ</b> <i>Chlidonias leucopterus</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>カワセミ</b> <i>Alcedo atthis</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>アカモズ</b> <i>Lanius cristatus</i>	除外	情報不足	
<b>コクマルガラス</b> <i>Corvus dauuricus</i>	除外	絶滅危惧IB類	
<b>ツリスガラ</b> <i>Remiz pendulinus</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>キビタキ</b> <i>Ficedula narcissina</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>ムギマキ</b> <i>Ficedula mugimaki</i>	除外	情報不足	
<b>コイカル</b> <i>Eophona migratoria</i>	除外	絶滅危惧II類	
<b>イカル</b> <i>Eophona personata</i>	除外	絶滅危惧II類	
<b>アオジ</b> <i>Schoeniclus spodocephala</i>	除外	情報不足	注目種
<b>コジュリン</b> <i>Schoeniclus yessoensis</i>	除外	情報不足	

キジ目キジ科

# ウズラ

*Coturnix japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅡB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

高知県の狩猟統計によると、2004年以降は捕獲数が30羽未満の状況が続き、2007年からは狩猟禁止となった。2013年以降に野生個体が観察されていないことから、個体数は回復していないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

北海道と本州中部以北で繁殖、本州中部より南で越冬

## 【県内での分布】

香美市、南国市、高知市、いの町、四万十市

## 【生物学的特性】

全長は20cm。ずんぐりとした丸い体つきと、黄白色の太い眉斑が特徴。体の上面は褐色、黒色および淡黄色の複雑な模様をしている。下面は淡黄褐色で、茶色と黒の縦斑がある。敵が近づくと地上に伏せてじっと動かず、直近まで近づくと突如プルルルという羽音をたてて細かく羽ばたきながら直線的に低く飛び立ち、滑翔しながら草の中に降りる。河原や休耕地の草原で生活し、また、地上では草陰にいることが多く、姿が確認されにくい。草の根元や窪地に枯れ草で巣を造る。

## 【生息環境】

平地から山地の草原および農耕地、耕作放棄地の地上を歩きながら、草本の種子や小果実、小型の昆虫を採餌する。

## 【生息状況】

本県には冬鳥として主に南国市および高知市、四万十市の農耕地と物部川および国分川、鏡川、仁淀川、渡川の河川敷の草地に飛来していた。2000年以降は圃場整備の進行、河川敷の樹林化および河川公園への改修で生息環境が悪化し、ほとんど姿を消した。

## 【特記事項】

南国市の河川敷では、猟犬の訓練用に外来種のコリンウスラが放鳥されている。

## 【執筆者】

濱田哲暁

ハト目ハト科

# カラスバト

*Columba janthina janthina*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

個体数はもともと少なく、2002年当時より減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

本州西南部と周辺島嶼、四国、九州以南

## 【県内での分布】

西南部の離島

## 【生物学的特性】

全長は40cm。国内のハト科では最大で、尾は長め。翼をおおるようにゆっくりと飛翔する。全身黒っぽく、緑色や紅紫色の金属光沢がある。直立した姿勢で枝にとまりヤブツバキの果実やタブ、ハマビワ、イヌビワの果実および花芽を食べるが、地上に落ちた果実を食べることも多い。ウッウー、ウッウーと太い声で鳴く。

## 【生息環境】

暖かい地方の海岸や離島のよく茂った常緑広葉樹林に留鳥として生息する。

## 【生息状況】

高知県西南部の一部の離島にしか生息していないが、離島全域の調査が実施されていないため、個体数は不明である。ただし、沖の島では1999年以降に鳥類の定期調査が実施されており、生息数は調査開始当時より減少している。

## 【保全・保護対策】

地上で営巣する可能性があるため、島外からの外敵の侵入に注意が必要である。

## 【執筆者】

濱田哲暁

カツオドリ目ウ科

# ヒメウ

*Phalacrocorax pelagicus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

**【選定理由】**

冬季に県内の沿岸の岩礁に少数が飛来し、越冬する。

**【国内分布の概要】**

北海道の島嶼、岩手、大分で繁殖、他で冬鳥、旅鳥、迷鳥

**【県内での分布】**

室戸市から宿毛市までの岩礁

**【生物学的特性】**

全長は73cm。全身が黒色で、紫緑色の金属光沢がある。嘴は細く、繁殖期には付け根の裸出部が赤褐色になる。頭頂と後頭に冠羽を生じ、足の付け根に大きな白色斑がある。秋と冬には嘴の付け根の裸出部がほとんど見えない。

**【生息環境】**

主に北海道の無人島や孤立岩で小群が繁殖しており、非繁殖期には日本各地の海岸の岩礁で姿が見られる。

**【生息状況】**

国内で繁殖個体が減少しているが、県内の沿岸の岩礁に少数が飛来し、越冬していることが明らかになった。個体数は20羽から30羽程度と推定され、単独もしくは数羽で生息している。

**【保全・保護対策】**

カワウの有害鳥駆除では、海岸のねぐらで待ち受けて射殺することがある。カワウのねぐらには他のウ類が混じることがあり、駆除の際は事前に種の確認が必要である。

**【執筆者】**

濱田哲暁

ペリカン目サギ科

# サンカノゴイ

*Botaurus stellaris*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

**【選定理由】**

生息環境である草地および休耕地、水路、河川敷、湿地が減少しており、姿が確認されなくなった地区が増加している。

**【国内分布の概要】**

本州以南では冬鳥または旅鳥、北海道他で繁殖する留鳥

**【県内での分布】**

高知市、日高村、四万十市、宿毛市で冬鳥としての記録

**【生物学的特性】**

全長は約70cm。大型のサギでずんぐりした体形であるが、首は伸ばすと長い。全身淡褐色で黒い複雑な斑紋があり、頭頂と顎線は黒褐色。首の黒い縦筋が特徴。敵が近づくと、嘴を上げて直立したり地上に伏せたりして動きを止め、擬態する。広いヨシ原にすみ、早朝から日没後までねぐら周辺を中心に行動するが、時には遠くにまで移動する。警戒心が強く、開けた場所に出てくる機会は少ない。餌場は水深20cm前後の水域や湿地で、昆虫、魚類、甲殻類、両生類および小型哺乳類を採餌する。ねぐらとしてヨシの利用が確認されている。ヨシの先端部に登り、長い首を巧みに使ってヨシを手繰り寄せ、丈夫な足でヨシの束をしっかり掴んで休息するが、少々の風ではびくともしない。ねぐら入りの時間帯はほぼ一定で、日没後間もなく帰ってくる。繁殖期にはザーザーとよくとおる声で繰り返し鳴く。

**【生息環境】**

本県には冬鳥として、平地から山地の農耕地に隣接する池沼、遊水池、河川敷の湿地に少数が飛来する。生息環境はヨシ原およびガマやイグサ科が繁茂するような湿地である。

**【生息状況】**

本県での繁殖は確認されていない。休耕地や遊水池で単独または2羽で越冬した例がある。以前から同じ湿地に飛来していたと考えられるが、観察例はわずかである。過去に生息が確認された湿地は、親水公園の整備および圃場整備、埋め立て、太陽光発電施設の設置により次々と消滅している。

**【保全・保護対策】**

ねぐらと隣接する餌場を維持するには広大な湿地環境の保全が必要である。また、早春に野焼きにより生息環境が消失する可能性もあり、ねぐらと餌場の維持に留意しなければならない。

**【執筆者】**

有田修大



ペリカン目サギ科

# ヨシゴイ

*Ixobrychus sinensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

河川改修による河道付け替えや護岸工事で営巣地となる抽水植物群落の面積が徐々に減少しており、個体数が減少した。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州で夏鳥、島嶼で旅鳥または冬鳥

## 【県内での分布】

香南市、高知市、宿毛市、大月町

## 【生物学的特性】

全長は36.5cm。全身淡褐色で、日本のサギ科では最小。雄は頭頂が黒く、体は黄褐色。雌は頭が赤褐色で、下面に不明瞭な褐色縦斑がある。飛翔時に風切羽の黒色と雨覆の黄褐色が目立つ。草の上を低くすれすれに飛ぶことが多い。

## 【生息環境】

主に夏鳥として河川敷および湖沼、湿地、ヨシ原に飛来し、水辺の抽水植物群落で営巣して繁殖する。

## 【生息状況】

県内では1990年代半ばまで少数の飛来が確認されていたが、2000年ごろから情報が少なくなり、現在は皆無に近い。過去には、物部川流域、高知市の浦戸湾に流入する石土池、国分川、久万川および鏡川、仁淀川下流域の小松の沼、宿毛市の片島、松田川および福良川が主要な生息地であったと考えられる。

## 【保全・保護対策】

河川改修と護岸改修により繁殖適地が減少したり消滅したりする例が増えている。飛来地の水辺環境の保全対策を徹底し、個体数の回復につなげる必要がある。

## 【執筆者】

濱田哲暁

ツル目クイナ科

# クイナ

*Rallus aquaticus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

冬鳥として飛来するが、生息環境の消失に伴い個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

本州中部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する

## 【県内での分布】

香南市から宿毛市で越冬が確認されている

## 【生物学的特性】

全長は29cm。頭部および頸部、胸側、背面はオリーブ色をおびた褐色で、黒い縦斑が目立つ。嘴は比較的長い。下嘴は赤くてよく目立つ。足は太くて黄褐色。警戒心が強く、驚くとすぐに藪に隠れ、開けた場所に出ることはほとんどない。

## 【生息環境】

平野部の湿地、水田、河川敷、草地に飛来し、越冬する。警戒心が強く、藪で生活していることから、姿が確認されることは少ない。雨の日や朝夕の薄暗い時間帯に、水田の際や整備されていない小水路の草地で身を隠しながら活動する。

## 【生息状況】

乾田化および圃場整備による水路のコンクリート三面張り化、湿地や草地の消失により、生息適地は年々減少しており、特に圃場整備された地域での個体数の減少が著しい。

## 【保全・保護対策】

里地の生態系に配慮した農地の利用と開発方法の見直しが見られる。

## 【執筆者】

深瀬茂文

チドリ目チドリ科

## ケリ

*Vanellus cinereus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

飛来数がもともと少ない上に、生息環境となる農耕地と河川敷が圃場整備や開発により減少した。

## 【国内分布の概要】

本州中部と南西部、九州、四国で局地的に繁殖する

## 【県内での分布】

県内の平野部で越冬する

## 【生物学的特性】

全長は35.5cm。大形のチドリで、頭部から上胸は暗灰青色。体の上面は灰褐色。腰と尾は白く、尾の先に黒帯がある。飛翔時は翼の上面に灰褐色、白色および黒色の特徴のある斑紋が出る。腹部は白く、胸との境は黒い。眼は赤く、黄色のアイリングがある。嘴は黄色で先が黒く、足は黄色で長い。繁殖期になわばりを形成し、外敵を集団で威嚇して追い払う。キキッ、キキッと鋭い声で鳴く。旅鳥または冬鳥として飛来する。

## 【生息環境】

内陸の耕作地、休耕地、放棄水田、水田、河川敷、草地に飛来して繁殖する。一般に、地面に浅い窪みを掘って営巣する。水田では畦をよく利用する。

## 【生息状況】

過去に須崎市で求愛行動が確認されたことがあったが、繁殖には至らなかった。2000年までは単独または数羽で飛来していたが、耕作方法の変化により生息条件が悪化し、近年は単独で確認されているのみである。

## 【保全・保護対策】

飛来地が限定的であり、飛来が確認された地区の環境は極力保全したい。

## 【執筆者】

濱田哲暁

チドリ目シギ科

## オオジシギ

*Gallinago hardwickii*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

旅鳥として少数が飛来する。繁殖可能な場所は四国カルストの牧草地に限定されているが、高知県側では稜線の道路整備後に環境が変化し、生息情報が激減した。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州北部・中部・南西部、熊本、大分で繁殖

## 【県内での分布】

夏季に津野町と梶原町で記録があり、その他では旅鳥

## 【生物学的特性】

全長は31cm。タシギ属の中でも大きくてやや淡色。ジシギ類の数種は互によく似ていて尾羽の枚数で識別すると確実であるが、屋外では大きさや羽毛のわずかな色合いの違いで識別するしか方法がない。繁殖期には雄がズビヤークまたはジーエップと鳴きながら上昇し、尾羽でザザザという大きな音を発して急降下を繰り返すディスプレイ・フライトをすることが知られている。

## 【生息環境】

春季および秋季の渡りの時期にはタシギ属の他種と同様に平地の水田および蓮田、湿地、川岸を含む湿潤な環境に立ち寄り。

## 【生息状況】

主に春秋の渡りの時期に旅鳥として少数が南国市と高知市の平野部に飛来する。春季は水田および土の畦や草原で、秋季は湿潤な農耕地で生活する。県内での繁殖は確認されておらず、また、1988年以降は繁殖期の生体確認もない。過去に、夏季の繁殖期に四国カルストの牧草地で記録されている。

## 【保全・保護対策】

四国カルストの牧草地は放牧に合わせて管理されており、繁殖期に本種の飛来が確認された場合は環境の維持につとめる必要がある。

## 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

# コシャクシギ

*Numenius minutus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

春秋の渡りの時期に単独もしくは小群でまれに農耕地に飛来する。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州、南西諸島を通過する旅鳥

## 【県内での分布】

香南市、南国市、黒潮町、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は31cm。国内に飛来するダイシャクシギ属では最小の種。嘴は短くて下に曲がっており、全身バフ色のシギ。チュウシャクシギに似るが、嘴の湾曲具合は小さい。頭部の黒褐色の頭側線と過眼線は明瞭。体の上面は黄褐色で、黒い軸斑がある。顔から頸部および胸脇にかけて黒褐色の斑紋がある。腹部と下尾筒は白色。クイーッとかが、ピピピと鳴く。

## 【生息環境】

春と秋の渡りの時期に、全国の海岸沿いの水田、背丈の低い草地、埋立地、畑地に小群で飛来し、昆虫や液果、種子を餌とする。

## 【生息状況】

高知県沿岸部は本種の主要な飛来地であり、旅鳥として少数が隔年で飛来する。春季が圧倒的に多く、単独または数羽で飛来することもある。多くが高知龍馬空港の滑走路わきの草地で観察されている。過去10年間では2017年4月の14羽が最高。2000年以前は数十羽規模の飛来が確認されており、1995年4月に南国市久枝で45羽、1998年4月に南国市久枝で34羽、1999年4月南国市物部で20羽の記録がある。

## 【保全・保護対策】

全国的にみて高知県は本種の渡りの主要な中継地である。他のシギ科より乾燥した耕作地や草地を利用していることが多く、このような環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

# ダイシャクシギ

*Numenius arquata*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵2

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

旅鳥として湿潤な耕作地および河口に単独で飛来するが、個体数は少ない。

## 【国内分布の概要】

全国で旅鳥、本州中・南西部、九州、琉球諸島で越冬

## 【県内での分布】

旅鳥として土佐湾沿岸部、河口域、農耕地に飛来

## 【生物学的特性】

全長は60cm。大形のシギで、嘴は長く、下に曲がっている。同属のハウロクシギと大きさおよび形態はほとんど同じであるが、ハウロクシギよりも全体に淡色。下背および腰、上尾筒が白いことでハウロクシギと識別できる。よく通る大声でカーリューと鳴く。また、地上でホーイ、ホーイと鳴くことがある。

## 【生息環境】

広い干潟および河口域、沿岸の湿潤な耕作地に飛来する。高知県は山間部から河口までの勾配が急で、本種が休息できるような広大な干潟や農耕地といった適地がない。

## 【生息状況】

高知県には旅鳥として春季および秋季に少数が飛来するが、春季の確認例が多い。通常1羽から2羽で確認されるが、15羽から30羽が飛来することもある。

## 【保全・保護対策】

本種が経年的に飛来する地区については、個体を驚かせないように見守る必要がある。

## 【執筆者】

田中正晴



チドリ目シギ科

# ホウロクシギ

*Numenius madagascariensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

旅鳥として湿潤な耕作地や河口に単独で飛来するが、個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

旅鳥として全国に飛来、九州と琉球諸島で一部が越冬

**【県内での分布】**

土佐湾の海岸、河口、農耕地に旅鳥として飛来

**【生物学的特性】**

全長は61.5cm。大形のシギで、嘴は長く、下に曲がる。同属のダイシャクシギと大きさおよび形態はほとんど同じであるが、ダイシャクシギよりも全体に褐色が強い。また、ダイシャクシギは下面から上尾筒にかけて白いことで識別できる。習性もよく似ているが、越冬することはまれ。よく通る大きな声でコーリューと鳴く。地上でホーイ、ホーイという声を出すこともある。

**【生息環境】**

広い干潟および河口域、沿岸の湿潤な耕作地に渡来する。高知県は山間部から河口までの勾配が急で、本種が休息できるような広大な干潟や農耕地がない。

**【生息状況】**

旅鳥として少数が渡来するが、春季の確認例が多い。低気圧の接近で海が荒れた際に、沿岸部の河口および干潟、耕作地に数十羽の群れで渡来することがあるが、天候の回復とともに飛び立ち、滞在することはない。一方、単独および数羽の場合は数日間滞在することがある。

**【保全・保護対策】**

本種が経年的に渡来する地区については、環境の改変を控え、現状維持に努める必要がある。

**【執筆者】**

田中正晴

チドリ目カモメ科

# コアジサシ

*Sternula albifrons*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内の数か所にコロニーの適地があり繁殖しているが、営巣環境の悪化によりコロニーが消滅する例が多くなった。

**【国内分布の概要】**

本州、四国、九州、奄美群島で繁殖する夏鳥

**【県内での分布】**

安芸市、香南市、南国市、高知市、土佐市

**【生物学的特性】**

全長は25cm。夏鳥として飛来する小形のアジサシ。夏羽は額が白色で、頭頂から後頭が黒色。体と翼の上面は淡青灰色。嘴は黄色で先が黒く、足は橙黄色。冬羽は額から頭頂が白色、嘴と足は黒色になる。キリッ、キリッと鳴く。本州以南の海岸の砂浜、埋立地、河川の中州に集団で営巣する。周辺の海域、河川、湖沼、湿地でダイビングして餌の小魚をとる。

**【生息環境】**

海岸の砂浜、埋立地、河川の中州にコロニーを形成して繁殖する。コロニーは周囲より地盤が高く、草があまり生えていない小石混じりの砂地が選ばれる。県内のコロニーの規模は大きなもので50~60巣程度。ここ数年は海岸部と河川の中州に形成されることが多い。

**【生息状況】**

過去に、高知市高須と高知新港の立入り禁止区域の盛り土の上に一時的にコロニーが形成されたことがあった。中州は人や犬の侵入による影響は少ないが、増水によるコロニー流失の危険性が常にある。海岸部のコロニーは流出する可能性は少ないが、車の乗入れや犬の散歩、時にはモーターパラグライダーの飛行により、営巣環境が悪化している。

**【保全・保護対策】**

河川管理者により、人の立入りや車の乗入れについて注意を喚起する立て看板が設置されている河川がある。また、河川工事終了後に、増水の影響のない地盤高の中州にコロニー適地を造成したところもあり、生息地保全に対する意識は高まっていると判断される。

**【執筆者】**

西村公志

タカ目ミサゴ科

# ミサゴ

*Pandion haliaetus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

個体数は回復傾向にあるが、営巣木の枯死による個体数の減少が懸念される。

## 【国内分布の概要】

全国で繁殖し、東北以北で夏鳥、本州以南で留鳥

## 【県内での分布】

県内全域の海岸域、河川域で繁殖する留鳥

## 【生物学的特性】

全長は雄が58cm、雌が60cm。トビより大きく、下面が白っぽくみえるタカ。翼は細長くて尾は短い。体の上面は黒褐色。頭部および腹部は白色で、過眼線と胸の帯が黒色。ピョッピョッと細い声で頻りに鳴く。海岸、河川、大きな湖沼の近くで繁殖し、魚類を主食とする。水面上を羽ばたくかあるいは帆翔を繰り返す。獲物を見つければ停空飛翔をしてから水中に急降下して足で捉える。

## 【生息環境】

県内の海岸一帯、大きな河川の下流域から中流域、内陸部の湖沼、ダム湖に生息する。人が近づけないような海岸の断崖の岩場や水辺に近い大木に巣を造り、繁殖する。巣は毎年利用されるため次第に大きく、また、厚くなる。人工巣台による営巣地の誘致が可能である。

## 【生息状況】

近年、営巣に利用されるマツの立ち枯れが減ってきたことや、渡川水系に設置された人工巣台の効果もあって、以前に比べて姿を見かけることが多くなってきた。しかし河川では、カワウやサギの食害を防ぐ目的で漁協がアユの産卵場に設置した防鳥ネットや防鳥テグスに絡まって死亡した例がある。

## 【保全・保護対策】

海岸、河川、ダム湖周辺への人工巣台の設置が有効である。

## 【執筆者】

岡井義明

タカ目タカ科

# ハチクマ

*Pernis ptilorhynchus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

里山の森林が開発により改変されて繁殖環境が悪化しており、生息数および繁殖個体数は少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国で繁殖する夏鳥、九州以南で旅鳥

## 【県内での分布】

主に低山地で繁殖する夏鳥で、春と秋に県の上空を渡る

## 【生物学的特性】

全長は雄が57cm、雌が61cm。トビより少し小型のタカで、尾羽の先は円い。飛翔時は頭部が他のタカ科より細長く突き出て見える。ハチの幼虫を食べる習性があることが和名の由来になっている。体色は変異に富み、暗色型、褐色型、白色型の3タイプに分けられる。雌雄で育雛し、主にハチの幼虫を給餌するが、カエルや鳥も餌とする。ピーエーと鳴く。

## 【生息環境】

夏鳥として5月中旬ごろに飛来する。里山から標高1500mまでの自然林のアカマツやナラに営巣し、9月には渡去する。

## 【生息状況】

高知県では低山地のスギやヒノキの植林で営巣する例が多く、高い人工林率と関係している可能性がある。植林は樹高がそろっているが、営巣にはその中でも大きな樹木が選ばれている。春と秋に渡りの個体が県の上空を通過する。

## 【保全・保護対策】

自然林およびスギやヒノキの植林にかかわらず皆伐は控え、択伐による自然林に近い複層林の育成が望ましい。

## 【執筆者】

高橋 徹

タカ目タカ科

# チュウヒ

*Circus spilonotus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 図絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

県内には越冬に適した農耕地や河川敷の草地が少なく、生息個体数はきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州の一部、九州で繁殖し、本州中部以南で越冬

## 【県内での分布】

南国市、高知市、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は雄が48cm、雌が58cm。チュウヒ類は翼と尾が長く、足も長めの中型のタカ。雌の方が大きい。雌雄ともに体色の変異が大きい。体は褐色を基調とする。雄の成鳥は頭部の縦斑が黒く、背や雨覆の黒色斑と初列風切先端の黒色が特徴であるが、変異は大きい。腰の白帯が目につかないこともある。雄の成鳥は全体が褐色であるが、歳を重ねるほど暗色になる傾向がある。腰の部分は白っぽい個体が多い。地上5mほどの高さを、両翼をV字形に保った滑翔とゆっくりしたはばたきを交互にくり返し、ヨシの上を低く飛び回り索餌する。

## 【生息環境】

広い河川敷および農耕地、湿地に飛来し、越冬する。ねぐらとしてのある程度の背丈のある二番穂が生えた水田、雑草の茂る休耕地、畦、藪を利用する。

## 【生息状況】

愛媛県西条市には毎年5羽から10羽ほどが飛来しており、豊富な餌とねぐらとなる休耕地が整った環境があると考えられる。県内の数か所に毎年飛来し、越冬するが、繁殖はしていない。飛来数はきわめて少なく、定着していない。

## 【保全・保護対策】

県内の生息地は護岸工事により河川敷の草地や湿地が減っており、まとまった面積の環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

種の保存法に基づく国内希少野生動植物指定種。

## 【執筆者】

吉田直樹

タカ目タカ科

# オオタカ

*Accipiter gentilis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 図絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

繁殖事例は増えたが、生息個体数は依然として少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州では繁殖する留鳥

## 【県内での分布】

限定された地域で留鳥、越冬期は県内全域

## 【生物学的特性】

全長は雄が50cm、雌が57cm。翼は幅が広く短い。尾は長い。雄はほぼハシボソガラス大で、雌はハシブトガラス大。森林内に生息するが個体数は少なく、一部の個体が留鳥として生活する。主な繁殖地は本州中部以北。主に小型から中型の鳥類や小型哺乳類を捕食する。農耕地と森林が混在する地域では林縁やその付近で、林縁が連続する地域では面積の広い成熟した森林を採餌場所として利用する。繁殖期の行動圏の広さは約1000haであるが、非繁殖期には変化する。

## 【生息環境】

低地から亜高山帯の森林に広く生息するが、主に平地から低山地の農耕地や草地の開けた環境と森林が混在する森林に生息する。冬季には河口や河川、農耕地にも飛来する。アカマツおよびスギ、モミを主とする針葉樹に営巣するが、営巣林はある程度まとまった面積の針葉樹の単相林であることが多い。

## 【生息状況】

県内の繁殖確認事例は近年増えてきたが、繁殖個体はいまだに少ないと考えられる。本県の平地から低山地の森林では、近年、マツ枯れによりアカマツ林が減少しており、繁殖環境が悪化している。また、二次林や人工林の管理水準の低下により、餌となる鳥類と哺乳類の生息環境が悪化している可能性がある。

## 【保全・保護対策】

管理不足や管理放棄された森林の天然林への誘導や混交林化と、生物に配慮した人工林の整備が必要である。また、隣接する行動圏内に冬期の重要な餌動物や採餌環境が存在する場合、それらの保全も必要である。

## 【特記事項】

これまで本県では冬鳥として取り扱われてきたが、今後は留鳥とするのが適切である。

## 【執筆者】

谷岡 仁



タカ目タカ科

# クマタカ

*Nisaetus nipalensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

大型の森林性のタカで生息数は少ない。近年、森林の伐採と開発による生息環境の悪化が顕著で、繁殖の失敗や子育ての放棄ないし巣の放棄が確認されている。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県内全域の低山地から亜高山帯

## 【生物学的特性】

全長は雄が72cm、雌が80cm。大型のタカであるが翼は長さの割に幅が広く、短く見える。翼の先は指状に開き、後縁に膨みがある。尾はやや長めで、幅が広い。後頭の羽毛は少し長く、冠羽状になる。頭部から体の下面は白く、頭から首や胸に黒い縦斑が、腹に黒い横斑がある。背と翼は灰褐色。飛翔中の個体を下から見ると翼と尾の横斑が明瞭。

## 【生息環境】

標高200m程度の低山帯から2000mを超える亜高山帯の森林まで広く生息する。巣は大径木が生育する複雑で急峻な谷の中腹に造られることが多い。採食場所は主に成熟した広葉樹林内や林内空間のある針葉樹林の壮齢林内および森林の中に点在する草地や伐採地であり、多様な環境を必要とする。

## 【生息状況】

県内では主に標高200m以上の山林に生息するが、人里の人の目につきにくい生息環境の整った谷で確認されることも多い。営巣地周辺には餌となる中・大型鳥類、爬虫類、小・中型哺乳類が生息する多様な自然が残っている。近年、林道工事および砂防工事、風力発電施設工事、大規模な森林伐採により、生息が脅かされている事例が増えている。

## 【保全・保護対策】

森林生態系の保全に配慮した森林管理が必要で、営巣に適した大径木のマツやモミが生育する山林の保全が望まれる。

## 【特記事項】

種の保存法に基づく国内希少野生動物植物指定種。

## 【執筆者】

吉田直樹

フクロウ目フクロウ科

# コノハズク

*Otus scops*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵3

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

生息に適した自然林の分布は局地的で、その数も少なく、生息数は限られている。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州で繁殖する夏鳥、周辺の島嶼では旅鳥

## 【県内での分布】

大川村、いの町、仁淀川町、津野町、梶原町

## 【生物学的特性】

全長は約20cm。日本産のフクロウ類では最も小型の種である。羽色には褐色型と赤色型の2系統がある。赤色型は全体的に橙褐色を帯びる。体色は灰褐色、褐色、黒色、灰色など木肌のような複雑な斑紋がある。翼の下面は灰白色。風切に黒色の横斑がある。眼は黄色。足指に羽毛がない。

## 【生息環境】

県内では、深い山地の落葉広葉樹林や針広混交林および天然木が生育する環境で繁殖している。夜間に標高1000mを越す山深い林道を車で走行していると、まれにガードレールにとまっている姿や、道路に降りて何かを捕食している姿を目撃することがある。

## 【生息状況】

原生林や風景林と呼ばれる大木や古木が多く残る自然林で確認されることが多い。しかし、夜行性のため姿は見え、鳴き声で存在を知ることが多い。生息が知られる天然林でも、複数の声が聞こえる場所はまれである。以前、声が聞こえていた場所でも、近年声が聞こえなくなった森もある。本種は樹洞で営巣するため、比較的大きな木があることが生息条件となる。しかし、近年広域林道の整備や森林伐採により、生息地が明らかに減少している。

## 【保全・保護対策】

自然林の保全と間伐による人工林の階層化を進め、混交林や自然林への誘導をおこなう。

## 【執筆者】

西村公志

フクロウ目フクロウ科

# コミミズク

*Asio flammeus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵4

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

飛来して越冬するが、越冬に適した広さの農耕地および河川敷、湿地が開発により消滅しており、越冬個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、琉球諸島

## 【県内での分布】

南国市、高知市、土佐市、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は38.5cm。頭部から背面の羽毛は褐色。腹面の羽毛は薄い褐色。虹彩は黄色。外耳状の羽毛の短いことが和名の由来。夜行性で、昼は草の中にいて夕方から活動を始めるが、昼に活動することもある。地上数メートルをしなやかなはばたきで飛び回り地上の獲物を狙うが、時には杭、土塊、枝にとまる。草地性のネズミ類および小型鳥類、昆虫を捕食する。

## 【生息環境】

冬季に飛来し、広大な農耕地および草原、湿地、河川敷、中州に生息する。活動はもっぱら夜間で、日中は休耕地、畦、荒地をねぐらとして利用している。

## 【生息状況】

ヨシおよびガマが生育している休耕地と用水路、およびそれらに隣接する広い農耕地で数年連続して観察された例では、日没後30分ほどから活動を開始することが多かった。しかし、何かに追われた場合は、明るい時間帯から飛翔することもあった。なお、誤射による死亡例が数件あった。また、農耕地に張られた防鳥用のテグスに絡まった死体の確認事例と、農道での交通事故によると思われる死体の拾得事例もあった。

## 【保全・保護対策】

河川敷および農耕地、草地、湿地がモザイク状に組み合わさった谷戸地の保全が必要である。また、人為的な影響で越冬個体数が減った事例が確認されており、狩猟者の識別能力の向上と、狩猟モラルの啓発が望まれる。

## 【執筆者】

吉田直樹

鳥

類

絶滅  
野生  
絶滅

絶滅  
危惧  
Ⅰ類

絶滅  
危惧  
Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

地域  
個体  
群

ハヤブサ目ハヤブサ科

# ハヤブサ

*Falco peregrinus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵4

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

繁殖に適した場所が少なく、生息個体数は少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州まで留鳥として生息し、繁殖する

## 【県内での分布】

海岸を中心に内陸部まで広範囲に生息する

## 【生物学的特性】

全長は雄が41cm、雌が49cm。雌が雄より大きい。翼の先端は尖って見える。尾は比較的短く、黒帯がある。成鳥の体と翼の上面は暗灰青色で、頭部と頬は黒色。下面は白色で、腹は黄褐色を帯び、黒色横斑が密にある。翼下面は白地で、黒色の横斑がある。ケーケーケーと鳴く。

## 【生息環境】

海岸や山地の断崖にある岩棚で繁殖するが、市街地の高層ビルや工場の施設で営巣した例もある。狩りの対象は海鳥やカモ類をはじめハトや小型の猛禽類まで多岐にわたる。冬は全国の海岸、河口、湖沼畔、原野の開けた場所で生活し、見晴らしの良い場所で獲物を待ち伏せて急襲する。速くて浅いはばたきと、短い滑翔を交互に行って速く飛ぶ。また、上昇気流に乗り、輪を描いて舞い上がることがある。

## 【生息状況】

県内の繁殖地は県東部および県西部の海辺の断崖に多いが、山間部の崖や市街地の人工構造物上に営巣した事例がある。狩り場は海上、河川、農地、山地さらに市街地までを利用しており、行動圏はきわめて広い。

## 【保全・保護対策】

県内の繁殖地は景観を楽しむ観光客、ロッククライマー、釣り人、野鳥カメラマンが訪れる場所にあり、人間の行動が巣の放棄と繁殖の妨害の原因になっていると考えられることから、繁殖期の営巣に悪影響がないような配慮が必要である。

## 【特記事項】

種の保存法に基づく国内希少野生動植物指定種。

## 【執筆者】

吉田直樹

スズメ目ヤイロチョウ科

# ヤイロチョウ

*Pitta nympha*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵4

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

高知県内の山間部に飛来するが繁殖場所は限定的で、毎年  
の繁殖確認数は少ない。

## 【国内分布の概要】

夏鳥として本州中部以南の低山に飛来し、繁殖する

## 【県内での分布】

ほぼ全域だが、繁殖の確認は限定的

## 【生物学的特性】

全長は約18cm。雌雄同色で、足は太くて長く、尾は短い。  
和名の由来のように羽色は赤および白、黒、緑、青、黄、  
褐色など鮮やかで美しい。大木の茂った常緑広葉樹林に飛  
来する。飛来直後の約1週間はポポビー、ポポビーとよく  
通る声で鳴く。餌となるミミズや地上性の昆虫および甲殻  
類をホッピングしながら探す。崖地の窪みや岩の上部に営  
巣することが多いが、樹上に営巣することもある。

## 【生息環境】

標高200mから600mのシヤカシがうっそうと茂った下生  
えの少ない常緑広葉樹林に生息する。営巣地は谷の最上流  
部にある急傾斜地にあることが多い。採餌には森林内の開  
けた場所を利用する。

## 【生息状況】

四万十川上流域で確認例が多いが、県内の分布は局所的で  
あり、生息密度は低い。四万十町では保護活動と並行して  
生息調査が実施されている。繁殖は毎年確認されているが、  
繁殖数は多くなく、繁殖密度も低い。地上に営巣するため  
ヘビを含む天敵による被害を受けやすく、繁殖に失敗する  
ことも多い。

## 【保全・保護対策】

公益社団法人が生息密度の高い四万十川上流域に土地を購  
入し、生息環境の保護をするとともに企業とヤイロチョウ  
保全協定を結び、繁殖地の保全を図っている。姿が美しい  
ことから野鳥カメラマンが営巣地に入り撮影することが増  
え、繁殖行動が阻害されており、生息場所の情報管理が求  
められている。

## 【特記事項】

高知県指定天然記念物で国内希少野生動物種。

## 【執筆者】

中西和夫

スズメ目サンショウクイ科

# サンショウクイ

*Pericrocotus divaricatus divaricatus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵4

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

1980年代には県内に広く生息していたが、1995年ごろから  
個体数の減少が著しい。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州に夏鳥として飛来し、繁殖

## 【県内での分布】

春と秋に渡りの個体が各地を通過

## 【生物学的特性】

全長は20cm。体は細くて尾は長め。雄は額が白く、頭頂か  
ら後頸と過眼線は黒い。背から腰は灰色で、中央尾羽が黒  
くて外側尾羽は白い。下面は白い。翼は黒色で風切基部に  
白色部があり、飛行中は白線が目立つ。雌は頭頂から後頸  
が灰色。嘴は黒色で、先は少しかぎ形に曲がる。足は黒褐  
色。波状飛行をしながらヒーヒー、ヒーヒーと鳴く。

## 【生息環境】

平地から山地の高木の落葉樹のある林に生息する。地上に  
は降りず、樹上で生活する。高い梢に直立してとまる。高  
い位置の横枝や枝のまたの部分に枝、樹皮および地衣類を  
クモの糸で固定し、浅い椀形の小さな巣を造る。

## 【生息状況】

1980年ごろには高知市内でも確認記録があり、繁殖期に高  
知城公園や市街地近郊の林に普通に生息していた。2000年  
ごろから確認記録が急激に減少し、春季と秋季に県内の山  
林で渡り鳥としての確認になっている。

## 【特記事項】

奄美、沖縄、八重山列島の固有亜種リュウキュウサンショ  
ウクイ (*P. d. tegimae*) が九州と四国に生息地を拡大して  
いる。

## 【執筆者】

濱田哲暁



スズメ目カラス科

# ホシガラス

*Nucifraga caryocatactes*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵4

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

四国山地の亜高山帯にごく少数が生息しているが、生息地は限定的である。

## 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

## 【県内での分布】

大川村，いの町に生息し，津野町で記録がある

## 【生物学的特性】

全長は34.5cm。ハトより少し大きい小型のカラスの一種で、雌雄同色。体全体の地色は黒褐色。頬から背や腹は黒褐色で、白い斑点がある。飛んだ時に尾の先端と下腹と下尾筒が白く目立つ。ゆっくりと羽ばたいて直線的に飛翔する。雑食性であるが、木の実およびハイマツやブナの種子を集めて蓄える習性がある。濁った声でガーッガーッと鳴く。

## 【生息環境】

九州以北の標高1500mから2500mほどの亜高山帯から高山帯に生息するが、亜高山帯の針葉樹林に最も多い。冬期は積雪の多い山に残るが、山麓に移動する個体もいる。

## 【生息状況】

石鎚山系では瓶ヶ森から笹ヶ峰にかけて生息するが、剣山地の三嶺周辺では観察記録がない。また、筒上山から手箱山でも確認されていない。生息地の稜線を縦走しても常に確認できるわけではないので、個体数は少ないと考えられる。四国内では赤石山系の西赤石山から八巻山の間で観察例があるが、石鎚山系の個体群と交流があるかどうかは分かっていない。また、本州を含む他の地域の個体群とは隔離されていることが想定される。

## 【保全・保護対策】

亜高山帯へ入る車両および登山者の増加による生息地の環境悪化が懸念される。また今後、気候温暖化による森林への影響も否定できない。亜高山帯の脆弱な森林の保全を視野に入れた管理が必要である。

## 【執筆者】

西村公志

鳥

類

絶滅  
野生  
絶滅

絶滅  
危惧  
Ⅰ類

絶滅  
危惧  
Ⅱ類

準  
絶滅  
危惧

情報  
不足

地域  
個体  
群

カモ目カモ科

# ヨシガモ

*Mareca falcata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵4

## 【選定理由】

過去10年間のモニタリング調査では微増傾向にあるが、越冬数は300羽ほどと少なく、越冬環境の悪化によっては飛来数が減少する可能性がある。

## 【国内分布の概要】

本州以南では冬鳥で、北海道で一部が繁殖する

## 【県内での分布】

香南市、南国市、高知市、宿毛市に冬鳥として飛来する

## 【生物学的特性】

全長48cm。中形のカモで、雄の成鳥は紅紫色の光沢のある暗緑色の繁殖羽が後頭で冠羽状になり、ナポレオンの帽子のように見える。喉は白く、黒い横線がある。体は灰色。三列風切は長く、鎌のような形に垂れる。腰の両側に黄白色と白の斑紋がある。雄雌とも嘴が黒く、足は灰褐色である。飛翔時の翼の色彩パターンは、雌の雨覆は翼鏡に近い部分が最も淡く、翼の前縁になるほど褐色が濃くなる。

## 【生息環境】

冬鳥として湖沼、河川、内湾に飛来する。餌となる藻類が繁茂する地域に集中して生息し、河口や内湾の汽水域やため池で観察される。

## 【生息状況】

県内では繁殖していない。越冬地は限定的で、浦戸湾と宿毛湾で多く確認されている。水深が浅く藻類の多い河口および干潟で生活する。

## 【保全・保護対策】

汽水域の餌となる藻類が繁茂しやすい浅い部分の保全が必要である。本種は狩猟鳥であるが、狩猟禁止が望まれる。

## 【執筆者】

濱田哲暁

カモ目カモ科

# ハシビロガモ

*Spatula clypeata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵4

## 【選定理由】

飛来数の年変動が大きく、過去10年間での最大個体数は100羽ほどと少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道で繁殖記録があるが、本州以南には冬鳥として飛来

## 【県内での分布】

南国市、高知市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は50cm。中型カモの一種で、雌雄ともに平たくて大きな嘴が目立つ。雄の頭部は光沢のある黒緑色。首から胸は白い。脇と腹は栗色。上尾筒と下尾筒は黒く、尾羽は白い。嘴は黒いが黄色が混じる個体もいる。足は橙色。雨覆は灰青色。雌は褐色で、黒褐色の斑紋がある。雨覆は灰青色褐色で、眼は褐色。雄の非繁殖羽は雌に似るが、頭部は黒味が強く、眼が黄色いことで判別できる。

## 【生息環境】

河川、湖沼および内湾で越冬するが、淡水域を好む傾向がある。

## 【生息状況】

県内には冬鳥として飛来するが、繁殖はしていない。本種の生息環境である湖沼や低湿地が埋め立てにより徐々に消滅しており、河口部が唯一の生息地となっている。越冬個体は浦戸湾へ流入する南国市の石土池、国分川河口、鏡川河口、絶海池で確認されており、また、宿毛市の松田川河口でも確認されている。

## 【保全・保護対策】

現在飛来が確認されている生息環境の保全が望まれる。また、禁猟が望ましい。

## 【執筆者】

濱田哲暁

カモ目カモ科

# トモエガモ

*Sibirionetta formosa*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵4

**【選定理由】**

少数が県内で越冬するが、年変動が大きい。通常は数羽程度で、多い年で数十羽程度が確認されているのみ。

**【国内分布の概要】**

本州中部以南に飛来するが日本海側に多い

**【県内での分布】**

各地の河川、湖沼、湿地、ダム湖

**【生物学的特性】**

全長は40cm。小型のカモで、雄の顔に黄白色と緑黒色のともえ形の特徴的な斑紋があり、和名の由来になっている。肩羽は長く、黒くて栗色と白の羽縁がある。胸は紫褐色で、胸側に静止姿勢で白い縦線がある。飛翔中に翼の後縁に白い線が出る。雌は他の小型のカモと比較して赤褐色味が強く、嘴の付け根に淡色斑がある。本種だけの密集した群れをつくる傾向があるが、コガモと混群をつくることもある。

**【生息環境】**

河川、湖沼、内湾で越冬するが、淡水域を好む傾向がある。

**【生息状況】**

本県には冬鳥として飛来するが、繁殖はしていない。湖沼およびダム湖で小群が見られ、コガモと混群をつくって行動していることがある。

**【保全・保護対策】**

本種の生息地である湖沼や低湿地が埋め立てにより次々に消滅している。現在の生息環境の保全が望まれる。

**【執筆者】**

濱田哲暁

ミズナギドリ目ミズナギドリ科

# オオミズナギドリ

*Calonectris leucomelas*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：-

口絵5

**【選定理由】**

県内では西部の3か所の無人島で繁殖場所が確認されていたが、1990年には2か所に減少した。繁殖場所が増加する要因はなく、また、天敵による捕食と釣り人の上陸による影響が危惧される。

**【国内分布の概要】**

北海道から九州までの島嶼で繁殖し、海上で生活する

**【県内での分布】**

県西部の離島で繁殖し、日本周辺海域を餌場とする

**【生物学的特性】**

全長は48cm。ミズナギドリ科では最大の種。頭から顔にかけて白地に黒褐色の斑点がある。体の上面は褐色で、淡色の羽縁があり、風切と尾は黒褐色。体の下面と下雨覆は白。嘴と足は淡紅色。2月から3月に県西部の離島で集団繁殖する。

**【生息環境】**

繁殖期には島嶼の地面に穴を掘り営巣する。非繁殖期は洋上で過ごす。日中は水面近くを飛翔し、小魚を捕食し、黒潮に沿った洋上で生活する。

**【生息状況】**

繁殖に関しては、過去10年間で著しい減少は確認されていないと判断される。1990年代には土佐湾の数キロメートル沖で巨大な鳥柱を形成し、カタクチイワシを中心とする小魚を狙う様子がたびたび観察されていたが、近年は徐々に沖に移動し、鳥柱も小さくなっている。今後、繁殖地の近くの餌不足が急激な個体数の減少を招く可能性がある。

**【執筆者】**

中西和夫



ペリカン目サギ科

# ミゾゴイ

*Gorsachius gorsagi*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では毎年数例の確認があるが、繁殖地も安定していない。

## 【国内分布の概要】

本州以南の平地から低地の山林で繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

低山地帯の成熟した広葉樹林で繁殖する夏鳥

## 【生物学的特性】

全長は49cm。主に日本で繁殖する嘴が短い小型のサギ。頭は赤栗色で、後頭は少し冠羽状。体の上面は暗い栗褐色。風切羽は黒く、先端が栗色。雨覆は栗褐色。体の下面は栗色で黒や白の斑紋があり、中央に黒い縦斑がある。繁殖期には夜間にポーポーという声で連続して鳴く。

## 【生息環境】

主に標高1000m以下の平地から山地の林で繁殖する夏鳥。よく茂った森林内に生息し、暗い溪谷や鬱蒼とした社寺林を好む。明るい時間帯に姿を見かけることはほとんどない。

## 【生息状況】

県内の確認例および繁殖事例はきわめて少ない。里山では4月から5月の繁殖初期の夜間に、本種特有の鳴き声が聞こえることがある。身近な場所でも繁殖することがあるが、複数年にわたり繁殖した例はほとんどない。

## 【保全・保護対策】

生息が確認されている地域と、過去に生息が確認され、生息環境が変わっていない地域の環境の保全必要である。

## 【執筆者】

濱田哲暁

ペリカン目サギ科

# ササゴイ

*Butorides striata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

1990年代中ごろまでは河川で普通の小型のサギであったが、各地の繁殖コロニーが減少し、個体数が激減した。

## 【国内分布の概要】

北海道南部、本州、四国、九州に夏鳥として飛来し繁殖

## 【県内での分布】

県内全域の河川

## 【生物学的特性】

全長は52cm。雌雄同色。成鳥は頭が青みのある黒色で、後頭に数本の長い冠羽がある。背と雨覆は青緑色の光沢がある黒色で、足と眼の黄色がよく目立つ。主に夕方から活動し、川や水田で魚を捕るが、繁殖期には日中にも活動する。キューという鋭い声で鳴く。

## 【生息環境】

夏鳥として飛来し、河川や湖沼、水田で採餌する。大木および林、森林で繁殖する。条件が良ければ10巣以上のコロニーを形成する。

## 【生息状況】

1990年中ごろまでは市街地の社寺林で繁殖コロニーが確認されていたが、その後、糞害や臭気により取り払われた事例があった。近年確認されている巣は単独営巣ばかりである。魚食性の小型鳥類は全国的に減少しており、高知県も同様である。

## 【保全・保護対策】

本種のコロニーが現存する森林は、所有者に理解を求めて保全する必要がある。

## 【執筆者】

濱田哲暁

ツル目ツル科

## マナヅル

*Antigone vipio*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

飛来して越冬するが、個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

四国、九州で冬鳥、その他では迷鳥として飛来

## 【県内での分布】

南国市、高知市、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は127cm。雌雄ともに同色。頭部から後頸は白色。額から眼の周囲は赤い。背面と下面は暗灰色。翼は灰色と黒色を基調とする。嘴は黄緑色で、脚は淡紅色。同所で越冬するナベヅルはマナヅルより小型で、眼の周囲は赤くない。ナベヅルと似て、クルルと鳴く。

## 【生息環境】

越冬環境は水田および畑が広がる農耕地、河川敷および干潟のある水辺である。鹿児島県出水地方では人工的なねぐらがつくられている。ナベヅルよりも水分の多い湿地を好む。

## 【生息状況】

毎年ではないが、不定期に飛来が確認されている。1990年代前半までは毎年のように少数の飛来があり、最多の確認数は24羽であった。2000年代にはほとんど確認されなくなり、2013年に2羽が観察されたのみ。ナベヅルとは餌場およびねぐらともに共有して越冬している。本県ではナベヅルよりも狭い農耕地で採餌しており、ねぐらは広い面積でなくてもよい可能性がある。

## 【保全・保護対策】

県内において越冬させることにより、鹿児島県出水市における大量感染死のリスクを分散させる効果が期待される。2006年3月27日に中村商工会議所が中心となり、四万十つるの里づくりの会が設立され、民間団体と地域区長会等とが連携し、取り組みを進めている。また、国土交通省中村河川国道事務所、高知県、四万十市もオブザーバーとしてこの取り組みに参加している。

## 【執筆者】

木村 宏

ツル目ツル科

## ナベヅル

*Grus monacha*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

越冬のために主に県西部、中部、東部の平野に飛来するが年変動が大きく、また、越冬せずに移動してしまうことが多い。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州で冬鳥、その他で迷鳥

## 【県内での分布】

安芸市、香美市、南国市、土佐市、中土佐町、幡多地域

## 【生物学的特性】

全長は96.5cm。雌雄ともに同色。頭部から後頸は白色。その他の部位は灰黒色。前頭の裸出した部分は赤色。雨覆は灰黒色で、風切はやや黒味が強い。嘴は黄褐色で、足は黒い。

## 【生息環境】

越冬環境は水田および畑が広がる農耕地、河川敷および干潟のある水辺である。鹿児島県出水市では人工的なねぐらが作られている。山口県周南市八代地区にはかつて最大100羽ほどの群が越冬していたが、農地の改良に伴う環境の変化により越冬数が減少している。警戒心が強いので、餌場となる広い農耕地と安全なねぐらが必要である。

## 【生息状況】

県西部を含め、四国では多い時に100羽を超える越冬群が確認されている。飛来数は10羽までの群れで確認されることが多く、2015年には最大の181羽が確認されたが越冬することはなかった。本県では11月15日の狩猟解禁日の発砲音の影響と、12月1日の落ちアユ漁解禁日、1月末から2月初旬にかけての田畑および休耕田の野焼きがあることから、越冬群が定着できないと考えられる。

## 【保全・保護対策】

県内で越冬させることにより、鹿児島県出水市における大量感染死のリスクを分散させる効果が期待される。2006年3月27日に中村商工会議所が中心となり、四万十つるの里づくりの会が設立され、民間団体と地域区長会が連携し、保護の取り組みを進めている。また、国土交通省中村河川国道事務所、高知県、四万十市もオブザーバーとしてこの取り組みに参加している。

## 【執筆者】

木村 宏

チドリ目チドリ科

# ダイゼン

*Pluvialis squatarola*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

河口干潟や農耕地に飛来するが、県内の生息に適した環境は限定されており、確認された個体数は2000年代に入って減少してきている。

## 【国内分布の概要】

全国で旅鳥または冬鳥として飛来

## 【県内での分布】

香南市から宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は29.5cm。夏羽では顔から頸、胸、腹にかけて黒色。ムナグロに似るが、頭から上面の黒色と白色の斑紋は褐色を帯びない。飛翔時に黒い腋羽が目立つこと、腰と下尾筒が白いことでムナグロと識別できる。ピーユーと澄んだ尻上がりの声で鳴く。

## 【生息環境】

旅鳥または冬鳥として海岸や河口干潟に飛来する。本県には広大な干潟がなく、水田や休耕地も利用している。

## 【生息状況】

春季は水田や休耕地に旅鳥として飛来し、秋季は耕作後に湛水した圃場に飛来するが、河口でも確認されることがある。秋季はほぼ毎年確認されているが、その多くが単独である。冬季の記録は2003年1月に一度あるのみ。県内での繁殖は他県と同様に確認されていない。

## 【保全・保護対策】

本種が定期的に飛来する地区では環境の改変を控え、現状維持に努めるのが望ましい。

## 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

# ヤマシギ

*Scolopax rusticola*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

山地から平地の疎林に飛来して越冬するが、里山の開発と森林の伐採で生息環境が悪化しており、観察記録が減少している。

## 【国内分布の概要】

本州中部以北で夏鳥として繁殖し、中部以南で越冬する

## 【県内での分布】

県内全域の平地から山地の林地で越冬する

## 【生物学的特性】

全長は34cm。タシギ属の中で最大種。額は灰色で、頭頂から後頭に黒い横斑がある。体の上面や雨覆に赤褐色、黒色、灰白色の複雑な斑紋がある。夜間に活動し、主にミミズを捕食する。人が近づくと羽音を立てて飛びたち、木の間を巧みにぬって飛び去るが、遠くまで飛び去ることはない。

## 【生息環境】

冬鳥として飛来し、里山や公園の雑木林、海岸の防風林や河川敷の河畔林に生息する。夜間に山間部の林道上や道路脇に置かれた木くずや堆肥塊を、また、海岸および河川敷の林や藪を餌場として利用している。

## 【生息状況】

森林の伐採や海岸の防風林の減少により生息場所が減少している。また、現存する雑木林や防風林の林床が手入れされるようになり、餌場として利用できなくなった場所がある。なお、県内での繁殖は確認されていない。

## 【保全・保護対策】

里山の雑木林、公園の林、社寺林、海岸および河川敷に隣接する保全林の維持が必要である。

## 【執筆者】

濱田哲暁



チドリ目シギ科

## タシギ

*Gallinago gallinago*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵5

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

冬鳥として河川、湿田、湿地に飛来するが、越冬に適した環境が減少しており、生息数も徐々に減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道では旅鳥。本州、四国、九州では冬鳥または旅鳥

## 【県内での分布】

室戸市から宿毛市までの平野部で越冬

## 【生物学的特性】

全長は26cm。雌雄同色。タシギ属の数種は互いによく似ていて、識別が難しい。本種は真っ直ぐで長い嘴をもち、尾は長めに見える。飛翔時は次列風切の先端の白線と下雨覆白色部が目につく。また、黄白色の頭中央線、眉斑、眼の下の線と、黒色の頭側線および過眼線頬の線が目立つ。背と肩羽は褐色の地に黒い斑紋があり、黄白色の羽縁は連なって線になって見える。雨覆は褐色で、黒い斑紋と淡色の羽縁がある。人が近づくと突然足元から鳴いて飛び立ち、体を左右に傾けながらジグザグに飛んで、ある程度離れたところに急に下りる。飛びたつ時にジェットというしゃがれた声を出す。

## 【生息環境】

主に水田や湿地、河川に冬鳥として小群が飛来する。日中は畦の草や稲の切り株のそばでじっとしており、夕方から活動する。安全な場所では日中も活動する。

## 【生息状況】

以前は、冬期に水田の畦際で休息や採餌する越冬個体が観察されたが、近年は個体数が減少している。原因としては、秋以降に乾燥した水田が増えたことと、太陽光発電施設の設置により生息適地が次々と消失し、越冬個体に悪影響を与えた可能性がある。

## 【保全・保護対策】

農耕地の生態系に配慮した人にも自然にも優しい有機栽培法の検討と、太陽光発電施設の設置規制が望まれる。

## 【執筆者】

深瀬茂文

チドリ目シギ科

## サルハマシギ

*Calidris ferruginea*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵6

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

旅鳥として河口干潟や農耕地に少数が飛来する。県内では主に農耕地を利用するが、飛来数がきわめて少なく、また、一定していない。

## 【国内分布の概要】

全国各地の干潟、水田、湿地に旅鳥として飛来

## 【県内での分布】

香南市から土佐市、黒潮町に旅鳥として少数が飛来

## 【生物学的特性】

全長は21.5cm。雌雄はほぼ同色。成鳥の夏羽は、頭部から体の上面が暗紅褐色で、顔から腹部にかけては暗褐色、腰と下尾筒は白色。嘴と脚は黒色。嘴は長めで、下に曲がる。冬羽は、頭から体の上面が灰褐色で、不明瞭な軸斑があり、腰は白い。春は夏冬中間羽の個体が多い。

## 【生息環境】

湿地、湖沼、河川、水田および蓮田を利用する。

## 【生息状況】

県内では香南市から高知市までの高知平野に飛来し、陸水域を利用している。飛来数は少数で、隔年もしくは数年周期で確認されている。過去10年間では2012年に4個体、2013年に1個体、2016年に2個体で、いずれも5月に南国市で確認されおり、春季の飛来が多い。春季は水田を、秋季は湛水した圃場を主に利用する。

## 【保全・保護対策】

高知県での繁殖は確認されていない。本種が飛来する地区では、耕起および田に水がなくなる秋季に湛水することで生息地を保全する必要がある。

## 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

# キリアイ

*Calidris falcinellus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵6

## 【選定理由】

飛来する農耕地が減少しており、渡りの中継地としての生息環境が悪化している

## 【国内分布の概要】

全国各地の干潟、水田、湿地に旅鳥として飛来

## 【県内での分布】

土佐湾沿岸部の干潟、入り江、水田に旅鳥として飛来

## 【生物学的特性】

全長17cmの小型のシギ。足は黒くて短い。嘴は基部が太めで黒くて長く、先端がわずかに下に曲がる。成鳥の夏羽は頭部が黒褐色で、白い頭側線と眉斑により頭側が縞模様に見える。体の上面の羽色は軸斑が黒く、羽縁との間は褐色で、白い羽縁の幅は広い。下面は白くて、喉、胸、脇に黒斑が連なる。腹は白く、背にV字形の白線が、胸側に縦線がある。日本では夏羽や冬羽の個体がほとんど見られない。ジュールまたはビュールと鳴く。

## 【生息環境】

主に河口、干潟、湿地および湿潤な耕作地に飛来する。

## 【生息状況】

旅鳥として毎年1羽から数羽が飛来する。春季は主に水田に飛来し、秋季は耕作後に湛水した圃場に飛来するが、秋季の飛来が多い。県内での繁殖は確認されていない。

## 【保全・保護対策】

本種が飛来する地区では、秋季に湛水することで生息環境の保全に努める必要がある。

## 【執筆者】

田中正晴

チドリ目タマシギ科

# タマシギ

*Rostratula benghalensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵6

## 【選定理由】

未整備の水田と湿地の減少に伴う繁殖環境の悪化で、平野部の圃場の個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

東北では夏鳥、本州中部以西では留鳥として繁殖

## 【県内での分布】

安芸市から宿毛市で留鳥として繁殖

## 【生物学的特性】

全長は23.5cm。雄の喉から胸は灰褐色で地味であるが、雌は赤褐色で、雄より雌が美しい。眼の周囲は雌雄ともに白く、胸側の白帯とそれに続く背の外側の黄帯が目立つ。嘴は緑褐色で、先端が赤い。子育ては雄がおこなう。雌は繁殖期にコーコーコーと夕方から夜間に特徴的な声で鳴く。水田、蓮田および湿地に生息し、動作は緩慢で、足を垂らしてゆっくりと低く飛ぶ。

## 【生息環境】

県内では主に湿地、水田地帯、休耕地、水路、河川で一年を通して姿が見られる。春から夏にかけて長い繁殖期があると考えられるが、繁殖に適した環境は少ない。

## 【生息状況】

農地と湿地および湛水された休耕地を利用して繁殖する。とくに二期作で7月初旬に水稻を植える地区では、繁殖中の複数のつがいや当歳の若鳥が見られることがある。水田地帯周辺の用水路や川の浅瀬、湿地でも見られるが、農耕地の基盤整備事業や道路拡張工事、太陽光発電事業が原因で、生息地が急激に減少している。

## 【保全・保護対策】

農耕地や水辺の生態系に配慮した農業形態と生息環境の創造、さらに安全な移動経路の確保が望まれる。

## 【執筆者】

深瀬茂文

チドリ目ウミスズメ科

# カムリウミスズメ

*Synthliboramphus wumizusume*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵6

## 【選定理由】

高知県では県西部の離島で少数の繁殖が確認されているが、釣り人や外敵となる鳥獣の影響が懸念される。

## 【国内分布の概要】

日本沿岸の島嶼で繁殖する留鳥、本州中部以南海域で越冬

## 【県内での分布】

県西部の離島で繁殖し、非繁殖期は近海で生活する

## 【生物学的特性】

全長は24cm。雌雄同色。成鳥の夏羽は額から頭頂が黒く、冠羽があり、後頭は白い。喉、頬、頸側および胸側は黒く、体の上面は灰青がかかった黒色。体の下面は白い。嘴は灰青がかかった白色。冬羽では頭頂から上面が暗灰色で、眼の前後に白色部がある。

## 【生息環境】

繁殖期は波浪の影響を受けない高さの岩の隙間で営巣する。非繁殖期は本州中部以南の海上で生活するが、海岸から少し離れた海上で活動する。

## 【生息状況】

繁殖地は釣り人の上陸が多く、人による影響と、外敵が島に侵入して繁殖に影響を与える恐れがある。

## 【保全・保護対策】

国内においてはごく限られた地域でしか生息が確認されていない。繁殖期に巣周辺への立入り制限を検討する必要がある。

## 【特記事項】

国指定天然記念物。

## 【執筆者】

濱田哲暁

タカ目タカ科

# ハイイロチュウヒ

*Circus cyaneus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：-

口絵6

## 【選定理由】

県内には越冬に適した広い農耕地や河川敷草地が少なく、個体数はきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

国内のほぼ全域に冬鳥として飛来

## 【県内での分布】

安芸市、香美市から高知市、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長は雄が45cm、雌が51cm。チュウヒ類は翼と尾が長く、足も長めの中型のタカ。雌の方が大きい。雄の体色は上面が灰白色で、上尾筒は白い。下面は白色。飛行中、初列風切の外側6枚は黒色で、上尾筒の白色がよく目立つ。雌と幼鳥は全体が淡褐色で、黒褐色の縦斑がある。飛行中はほとんど褐色に見え、風切羽の不明瞭な黒帯と、尾羽の灰褐色の数本の黒帯が見える。上尾筒に白色があり、雄と同様に遠方からもよく目立つ。地上5mほどの高さで、両翼をV字形に保った滑翔と、ゆっくりしたはばたきを交互に行い、ヨシの上を低く飛び回って索餌する。

## 【生息環境】

県内の広い河川敷および農耕地、湿地に飛来し、越冬する。ねぐらとして、ある程度背丈のある二番穂の生えた水田、雑草の茂る休耕地、畦、藪を利用する。

## 【生息状況】

愛媛県西条市には毎年4羽から6羽ほどが飛来しているが、豊富な餌とねぐらとなる休耕地が整った環境があると考えられる。県内には毎年、冬に数か所に飛来するが、繁殖はしていない。飛来数はきわめて少なく、飛来しても定着はしていない。

## 【保全・保護対策】

県内では生息地となる河川敷の草地や湿地が減少しており、まとまった草地の保全が必要である。

## 【執筆者】

吉田直樹

鳥

類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

地域  
個体群



タカ目タカ科

# ハイタカ

*Accipiter nisus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵6

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

山地から平野に飛来して越冬するが、個体数は多くはない。山林、農耕地、河川敷の生息地となる環境が悪化している。

## 【国内分布の概要】

本州以北の山地の林で繁殖し、冬は全国的に分布する

## 【県内での分布】

県内のほぼ全域に冬鳥として飛来し、越冬する

## 【生物学的特性】

全長は雄が32cm、雌が39cm。オオタカに似るが雄はハト大の小型のタカ。雄の上面は暗灰青色で、眉斑は白くて小さい。下面は白色地に黄赤褐色の横斑があるが、変異がある。尾には明確な黒帯がある。雌の上面は灰褐色で、下面は白色地に褐色の横斑がある。幼鳥の上面は褐色で、胸から腹に不規則な三日月斑や横斑がある。飛翔中には喉の縦斑と翼下面の白色地に黒い横斑が見られる。

## 【生息環境】

春と秋の渡りの時期に通過する姿がよく観察される。越冬期には山林や平野部の農耕地に飛来し、小型や中型の鳥類と小型哺乳類を捕食する。

## 【生息状況】

県内での繁殖は確認されていない。平野部で越冬する個体の観察事例はあるが、森林内で活動する個体の確認は難しく、越冬状況は把握されていない。

## 【保全・保護対策】

越冬期に利用する平野部の草地や農耕地の保全と、生態系に配慮した山林の管理が望まれる。

## 【執筆者】

吉田直樹

タカ目タカ科

# サシバ

*Butastur indicus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵6

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

山地から低山地に飛来して繁殖するが、個体数は減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

夏鳥として全国に飛来するが、南西諸島では越冬する

## 【県内での分布】

県内の低地から山地で繁殖し、春と秋に渡りが通過する

## 【生物学的特性】

全長は雄が47cm、雌が51cmで、およそハシボソガラス大。体の上面は褐色で、白い眉斑があり、雌の方が顕著。頬は灰色。喉は白くて中央に黒い縦線がある。下面は白くて胸と腹に褐色横斑があり、胸では密であるが雌ではやや粗い。尾羽は灰褐色で、数本の黒帯がある。幼鳥の下面は黒い縦斑がある。暗色型も見られるが、少ない。ピックイーと鳴く。

## 【生息環境】

里山や谷津田および水田や農地の周辺の林で繁殖している。本県では春と秋に大規模な渡りが見られる。渡りのルートも渡りの時期によりほぼ決まっているが、春の渡りに関しては不明な点が多い。

## 【生息状況】

夏鳥として低山に飛来して繁殖するが、里山の耕作放棄地の増加により生息環境は悪化している。秋の渡りでは、以前は本県を通過する群れが1万羽を越えていたが、2011年以降は1万羽以下となっている。2017年の春の渡りは7000羽以上であった。

## 【保全・保護対策】

主な生息地である里山の環境を保全することが求められる。

## 【執筆者】

西村公志

タカ目タカ科

## ノスリ

*Buteo buteo*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵6

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

冬鳥として飛来するが、越冬に適したギャップのある森林、畑地、草地が少なく生息環境は貧弱である。本県における越冬期の個体数は1000未満と推定されている。

## 【国内分布の概要】

北海道から四国の山地で繁殖し、冬季は全国で見られる

## 【県内での分布】

冬鳥として県内全域に分布し、少数が夏越する

## 【生物学的特性】

全長は雄が52cm、雌が57cmで、カラスほどの大きさ。体の上面は暗褐色で、頭部は淡褐色。下面は黄白色で、飛翔時には胸から脇にかけての帯状の暗褐色の斑紋と、初列風切り羽の先端と付け根の暗褐色の斑紋がよく目立つ。雌雄とも成鳥および幼鳥はよく似ているが、成鳥の眼は褐色で、幼鳥は淡い。翼と尾を広げ、輪を描いて飛ぶことが多く、停空飛翔を頻繁におこなう。

## 【生息環境】

冬季には県内の亜高山帯の森林、農耕地、河川、湿地、海岸部を含む幅広い環境を利用している。小鳥や小型哺乳類を主とする小動物を捕食し、山地では森林に農地が隣接する場所、林内のギャップ、林道沿いを利用することが多い。

## 【生息状況】

県内では越冬期にさまざまな環境で見ることができ、個体数は多くないと判断される。繁殖期に標高1500m付近の稜線を愛媛県との県境を越えて飛翔する個体が確認されており、少数が越夏していると考えられる。また、毎年秋のタカの渡りの時期に、高知県の上空を西に渡る個体がカウントされているが、平均してシーズン中に50羽程度と少ない。

## 【保全・保護対策】

県内の基礎的な生息分布調査やモニタリング調査を通じ、効果的な保護対策を検討していくことが望まれる。

## 【執筆者】

西村公志

フクロウ目フクロウ科

## アオバズク

*Ninox scutulata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵7

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

営巣木となる樹洞のある古木の減少と、餌となる大型の昆虫の減少により繁殖個体が減少している。

## 【国内分布の概要】

夏鳥として全国に飛来して繁殖する

## 【県内での分布】

県内に広く分布

## 【生物学的特性】

全長は27cmから30.5cm。羽角はなく、尾が長い。頭部から体の上面は一律に黒褐色で、尾に黒帯がある。眼は黄色。体の下面は、白地に黒褐色の太い縦斑がある。翼の下面は淡くて黒褐色の横斑がある。ホッホー、ホッホーとくり返して鳴く。

## 【生息環境】

神社や寺の境内および公園にあるケヤキやカシなどの大木の樹洞で営巣する。低山の落葉広葉樹林や照葉樹林でも観察される。また、夜間に市街地に現れ、灯火に集まる昆虫を捕食することもある。

## 【生息状況】

営巣に適した大木の伐採や立ち枯れにより、営巣する環境が悪化している。県内でも良く知られている営巣地では、営巣木周辺の樹木が伐採されたことから巣に雨が入るようになり、繁殖できなかつたと考えられた例がある。また、人里の繁殖地では、洞のある老齢樹木の伐採や害虫駆除の消毒により、営巣環境が悪化した例がある。

## 【保全・保護対策】

近年、繁殖期の撮影によって営巣を放棄した事例があり、営巣地の公表を控えることが望ましい。また、営巣木が消滅した地域では、代替措置として巣箱の設置を検討する必要がある。

## 【執筆者】

西村公志

ブッポウソウ目ブッポウソウ科

# ブッポウソウ

*Eurystomus orientalis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

口絵7

## 【選定理由】

1998年ごろから県内の繁殖地が減少を続け、数か所にまで減少した。2008年以降、巣箱の設置による保護を実施中であるが、個体数はわずかである。

## 【国内分布の概要】

本州から九州で繁殖する夏鳥、北海道ではまれな旅鳥

## 【県内での分布】

安芸市、大豊町、梶原町、四万十町

## 【生物学的特性】

全長は約30cm。ハトよりやや小型で、翼は長い。体色は雌雄同色。頭部は黒褐色、体は青緑色で、翼の白斑および嘴と足の赤色が目立つ。ゲツゲツというよく響く声で鳴く。本来、低地から山地の主にスギの高木がある場所に渡来し、樹洞やキツツキが穿った穴に営巣する。枯れ木や電線から飛び立ち、空中で大型の昆虫を捕食する。

## 【生息環境】

県内では中山間部の河川沿いの農耕地や、集落がある開けた地区に生息する。これまでは、営巣地として洞や穴のある枯れ木や木製電柱、アーチ橋やトラス橋の上部矩形梁に開いた穴が利用されてきた。2007年以降は巣箱の設置を進めている。

## 【生息状況】

県内では、1965年以前の生息状況がよく分かっていない時期に、木製電柱の穴に営巣したという聞き取り情報と、橋梁での営巣を確認した報告がある。橋梁への営巣はこれまでに、伊尾木川、吉野川、四万十川でそれぞれ1ないし数か所で確認されている。現在、営巣は2橋の2つがいほどまでに減少している。2007年以降に、四万十町と梶原町で巣箱による繁殖を試みて成功している。2016年からは四万十市も加え、四万十川流域に次々と巣箱の設置が進められ、20つがい程度が営巣するまでになった。

## 【保全・保護対策】

現在、国内で繁殖しているつがいの約9割が人手によって設置された巣箱で繁殖している。県内の巣箱の総数は約60個である。内訳は、日本野鳥の会高知支部が30個、3名の個人の巣箱が約30個となっている。そのうち20個ほどが利用されており、国内の事例と同様に巣箱は保護対策として有効な手段であると考えられる。

## 【執筆者】

合田延寿

スズメ目ツバメ科

# コシアカツバメ

*Cecropis daurica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：-

口絵7

## 【選定理由】

2000年ごろまでは普通に生息していたが、それ以降はコロニーの減少に伴う個体数の減少が続いている。

## 【国内分布の概要】

日本に夏鳥として飛来し繁殖するが、北日本は少ない

## 【県内での分布】

県内全域の河川、湖沼、海岸沿いに限定的に分布

## 【生物学的特性】

全長は18.5cm。ツバメより大きくて尾は長い。体の上面は光沢のある黒色で、腰は赤茶色。喉から腹は淡い橙色で、細い黒色の縦斑がある。下尾筒は黒い。ジュビーツ、ジュビツと鳴く。水辺に沿って生息し、飛翔性の昆虫類を捕食する。主にコンクリート製の大きな建物の天井や軒先の下部に徳利を縦に割ったような形の巣を造り、数十巣のコロニーを形成することがある。

## 【生息環境】

海岸沿いや河川沿いに生息する。

## 【生息状況】

県内各地にあったコロニーの規模が小さくなり、消滅した場所もある。外観上、コロニーがあることによって汚れて見えるため撤去されることがある。また、耐震改修工事により撤去された事例も多い。

## 【保全・保護対策】

営巣が確認された建物の管理者に本種の希少性を説明し、巣の保護を要請する必要がある。

## 【執筆者】

濱田哲暁



スズメ目ヨシキリ科

# オオヨシキリ

*Acrocephalus orientalis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵7

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

オギ群落やヨシ群落で繁殖するが、河川改修による草地の消滅に伴い生息数が減少している。

**【国内分布の概要】**

北海道、本州、四国、九州、佐渡で繁殖する夏鳥

**【県内での分布】**

高知県沿岸域および河川流域の平野で繁殖する夏鳥

**【生物学的特性】**

全長は18.5cm。大型のヨシキリ属。体の上面は灰褐色。汚灰色の細めの眉斑がある。喉から下面にかけてはバフ白色で、胸側から脇は淡褐色を帯び、胸に不明瞭な灰褐色の縦斑がある。雄は高茎草に直立した姿勢でとまり、口内の橙赤色を見せて、ギョギョシ、ギョギョシ、ケケシ、ケケシ、チカチカと特徴のある声で鳴く。

**【生息環境】**

夏鳥として、海岸、河川敷、河口域、湖沼畔、湿地、休耕地に生育するヨシやオギの高茎の湿性植物群落に飛来し、繁殖する。

**【生息状況】**

県内では河川敷や低湿地が広がる物部川および仁淀川、四万十川、浦戸湾流入河川ならびに内陸部の遊水池に飛来する。近年、河川改修工事および圃場整備事業、太陽光発電施設の設置によって生息地が減少している。

**【保全・保護対策】**

繁殖地をできる限りまとまった面積で保全することが望ましい。細長く帯状に残すよりも、まとまりのある植物群落を保全エリアにすると効果が大きいと考えられる。

**【執筆者】**

岡井義明

スズメ目ヒタキ科

# コマドリ

*Larvivora akahige*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵7

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

夏鳥として飛来し、標高1400m以上の亜高山帯の天然林で繁殖するが、個体数は少ない。近年、ニホンジカの食害により生息環境が悪化している。

**【国内分布の概要】**

九州以北の亜高山帯以上の標高の山林で繁殖する夏鳥

**【県内での分布】**

四国山地の亜高山帯の山林に飛来し、繁殖する夏鳥

**【生物学的特性】**

全長は雌雄ともに14cm。雄の頭部から上胸および尾羽は橙赤褐色で、背と翼は暗橙褐色。下胸は黒色。胸側から脇は灰黒色で、腹は白い。雌は全体に色が鈍い。ブナ帯の谷沿いに茂るクマザサ群落になわばりをつくり、崖のくぼみや倒木の陰に営巣する。地鳴きはツンツンツンという細い声を発し、ヒンカラララと朗らかな大きな声で鳴く。

**【生息環境】**

四国山地の標高が1400m以上の亜高山帯の天然林に生息し、ブナ林の林床に下草としてクマザサが生育している薄暗い森林で生活している。溪流や谷筋の、少し湿気のある場所で繁殖する。

**【生息状況】**

2000年ごろまでコマドリがいた山林でも、近年になって姿が見られなくなった地域があり、生息個体数が減少していると考えられる。本種の生息が知られている石鎚山系と剣山地の三嶺周辺では、登山中に声を聞くことができるが、近年確認できる標高が徐々に上がっていると判断される。また、剣山地ではニホンジカが増え、その食害によって林床の植生が変化し、乾燥化している。

**【保全・保護対策】**

生息地である亜高山帯の天然林の保全と、その周辺の人工林の天然林への緩やかな移行が必要と考えられる。

**【執筆者】**

西村公志

スズメ目ヒタキ科

# コルリ

*Larvivora cyane*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

夏鳥として飛来し、標高1300m以上の亜高山帯の天然林で繁殖するが、個体数はもともと少ない。近年、ニホンジカの食害により生息環境が悪化している。

## 【国内分布の概要】

本州中部以北の山地に飛来して繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

剣山地と石鎚山系を主とする標高1300m以上の山地

## 【生物学的特性】

全長は14cm。他の小形のツグミ類より姿勢が直立しない。雄は上面が暗青色で下面が白く、眼先から喉の両側と胸側は黒い。雌は上面が灰褐色で、腰から尾には少し青味があり、下面は淡いオリーブ色。地鳴きは、細くチツ、チツ、チツと鳴く。コマドリに似た声でチツ、チツ、チツを続けてからピンツルルルとかチーンヨイジョイジョイとさえずる。

## 【生息環境】

県内では、標高1300m以上の天然林に飛来して繁殖する。春と秋の渡りの時期には、本州で繁殖すると考えられる個体が平地から山地の下生えの多い低木林を通過する。

## 【生息状況】

30年ほど前にコマドリがいた環境に進出し、現在はコルリの声が盛んに聞かれる場所がある。生息している地域は限定されているものの、個体数は若干増えている。石鎚山系と剣山地の三嶺周辺に加え、標高の少し低い天狗高原から愛媛県の大野ヶ原のラインにも生息している。また渡りの時期には、個体数は少ないものの平地の公園でも見られることがある。

## 【保全・保護対策】

生息地である亜高山帯の天然林の保全と、その周辺にある人工林の天然林への緩やかな移行が必要と考えられる。

## 【執筆者】

西村公志

スズメ目ホオジロ科

# ホオアカ

*Emberiza fucata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

繁殖地である山地の草原は面積が狭い上に分散しており、繁殖個体群は小さい。

## 【国内分布の概要】

九州以北で繁殖し、冬季は本州中部以南の暖地へ移動する

## 【県内での分布】

四国山地の数か所で繁殖し、冬季は平地で越冬する

## 【生物学的特性】

全長は16cm。雄は頭部が灰色で、頬が赤褐色。喉にかけては白色で、胸部に黒と褐色の2本の横帯がある。雌は雄とほぼ同色であるが、体色がやや鈍い。冬羽は頭部が灰褐色で、下部もバフ褐色になり全体的に淡くなる。さえずりと地鳴きはホオジロに似る。繁殖地でさえずる時は、目立つ枝先や岩の上にとまる。

## 【生息環境】

県内の標高1200mから1300m以上の草原で繁殖する。冬季は、平地の休耕田や耕作放棄地および河川敷の草地で観察されることが多い。

## 【生息状況】

県内では、主に剣山地、石鎚山系、天狗高原の草原で繁殖するが草原の面積は狭く、また、分散している。冬季は水田や里地に隣接する耕作放棄地に飛来し越冬する。越冬個体は警戒心が強く、藪の中で生活することから、観察記録は少ない。

## 【保全・保護対策】

繁殖地の環境を維持する必要がある。越冬地の草地は太陽光発電施設の設置や宅地開発により消滅しており、まとまった草地環境の維持が必要である。

## 【執筆者】

西尾喜量

スズメ目ホオジロ科

# カシラダカ

*Schoeniclus rustica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

冬鳥として飛来するが、越冬個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道は旅鳥、本州以南では冬鳥、一部地域で夏を越す

## 【県内での分布】

県内のほぼ全域に飛来する

## 【生物学的特性】

全長は15cm。短い冠羽がある。雄の夏羽では頭や頬が黒く、眉斑と喉以下の下面が白で、胸に褐色の帯と黒い縦斑がある。雌と雄の冬羽は頭と頬が褐色で、灰色の頭中央線があり、下面は白くて、胸から脇に褐色縦斑がある。腰は赤褐色。チツ、チツと細く鳴く。春はヒバリに似た細いさえずりをする。驚くと周囲の疎林や山林に身を隠す。

## 【生息環境】

平地から山地の農耕地、低木林、林縁、川原に飛来し、落ち穂や草木の種子を採食する。

## 【生息状況】

数羽から数十羽、時として100羽を越す群れで餌を探して移動する。国内外で本種の減少が報告されており、県内で数十羽以上の越冬群を観察できる機会は少なくなった。

## 【保全・保護対策】

越冬期に落ち穂のある農耕地および林縁部や河川敷の草地の保全が必要である。

## 【執筆者】

田中正晴

鳥

類

スズメ目ホオジロ科

# オオジュリン

*Schoeniclus schoeniclus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

冬鳥として飛来するが、越冬個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

本州北部以北では繁殖する夏鳥、本州中部以南では冬鳥

## 【県内での分布】

土佐湾沿岸の平野部と河川沿いの草地に冬鳥として飛来

## 【生物学的特性】

全長は16cm。雄の成鳥の夏羽では、頭部から腮、喉、上胸の中央部は黒色で、頬線は白色。後頸の白線と、背の赤褐色に黒色縦斑が特徴。下面は白色、翼の大部分は赤褐色で黒色縦斑が混じる。雌にはバフ色の眉斑と頬線があり、頭と頬は褐色、背から腰および翼は雄と同様。下面は淡灰褐色で、脇に褐色の縦斑がある。ヨシの茎に縦にとまり、茎の葉鞘をはがして隠れている昆虫を餌とする。冬期にはチュリーンという声で鳴く。

## 【生息環境】

冬季に、低地の農耕地および河川下流域、遊水池に生育する高茎の草地に群れで飛来し、河川低水敷のまとまったヨシ群落とオギ群落で姿が見られる。

## 【生息状況】

飛来するとヨシ群落の中で生活するが、先端部分まで出て穂をついばむ姿がまれに観察される。高知平野では、再生稲の二番穂の中で見かけることもある。3月には夏羽の個体が観察されるようになるが、県内での繁殖は確認されていない。

## 【保全・保護対策】

主な生息地である河川敷や湿地のヨシ群落の維持が重要である。洪水対策や護岸工事によってヨシが刈り取られることがあり、工事後のヨシ群落の再生が望まれる。

## 【執筆者】

田中正晴

絶滅  
野生  
絶滅

絶滅  
危惧  
Ⅰ類

絶滅  
危惧  
Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

地域  
個体  
群



キジ目キジ科

# シコクヤマドリ

*Syrmaticus soemmerringii intermedius*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

低山地の山林伐採で生息環境が悪化し、個体数が減少する可能性がある。

## 【国内分布の概要】

本州南西部、四国

## 【県内での分布】

県内の山林全域

## 【生物学的特性】

全長は雄が125cm、雌が52.5cm。雄は全体が赤銅色で、尾はキジの尾よりさらに長い。雌には黒褐色および赤銅色、黒色、灰白色などの複雑な斑紋があり、尾も長くない。繁殖期の雄はドドッと翼を打ち鳴らすドラミングによって威嚇や求愛を行う。

## 【生息環境】

低山地から亜高山帯のよく茂った樹林に生息する。広葉樹林および針葉樹林の他に、森林のギャップに生育するシダが茂った場所や林道で採餌している個体に遭遇することがある。

## 【生息状況】

狩猟の対象種であり県内の山林に広範囲に生息するが、個体数は決して多くない。山林の開発、植林の管理放棄、森林の皆伐といった生息環境の悪化が進行し、本種の生存を脅かしている。

## 【保全・保護対策】

森林生態系の多様性の維持に努める必要がある。

## 【執筆者】

濱田哲暁

ペリカン目サギ科

# チュウサギ

*Ardea intermedia*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

サギ類のコロニーの中で繁殖するが、サギ類のコロニー自体が減少しており、個体数の減少が危惧される。

## 【国内分布の概要】

本州以南に飛来し繁殖するが、本州中部以南で一部越冬

## 【県内での分布】

平野部に広く分布

## 【生物学的特性】

全長は68.5cm。コサギより大きくダイサギよりは小さい。全身は白く、嘴は短い。夏羽は蓑状の飾り羽が出る。夏季は嘴が黒く、冬季は黄色で、先端が黒い。アマサギやダイサギと混同されやすい。

## 【生息環境】

草地および湿地、水田に多く、時に川や干潟で見かけることもある。水辺よりも陸域で好んで採餌する。ねぐらや繁殖地は他のサギ類のコロニーに混じる。

## 【生息状況】

生息数が減少傾向にある。近年、県中央部や西部の河川沿いにあったサギ類のコロニーが森林の伐採によって減少している。

## 【保全・保護対策】

農業を使用しない農業の推進と、サギ類のコロニーの保全が必要である。

## 【執筆者】

濱田哲暁

ツル目クイナ科

# ヒクイナ

*Zapornia fusca*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

平野部の湿田と湿地の減少に伴い個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州で繁殖する夏鳥，本州中西部では留鳥

## 【県内での分布】

高知県内のほぼ全域で繁殖する夏鳥だが，一部は越冬

## 【生物学的特性】

全長は22.5cm。雌雄同色。頭から前頸と上腹は赤茶色で，後頸，背，翼は暗緑褐色。脇，下腹，下尾筒は白と黒の横斑。嘴は青黒色で，足は赤い。繁殖期にはキョッ，キョッ，キョッキョッキョと次第にテンポを速めて鳴く。

## 【生息環境】

夏鳥として湿地，水田，河川に飛来し，繁殖する。茂みがある水辺環境では，毎年少数の越冬個体が確認される。

## 【生息状況】

田植えの終わった4月の初めには，独特のさえずりが聞かれる。水田の畦や休耕地の草むらおよび湿地で繁殖するが，個体数は減少している。繁殖個体は毎年同じ場所を利用していることが多い。

## 【保全・保護対策】

毎年繁殖が確認されている農地や湿地環境の保全と，繁殖した親子が外敵から安全に隠れて移動できる経路の創出が望まれる。

## 【執筆者】

深瀬茂文

カッコウ目カッコウ科

# ジュウイチ

*Hierococcyx fugax*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

山間部の限られた地域に飛来し，コルリおよびルリビタキ，オオルリに托卵するが，生息数は少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州に夏鳥として飛来し繁殖

## 【県内での分布】

山間部に広範囲に分布

## 【生物学的特性】

全長は32cm。頭から上面は黒色。尾羽の灰褐色と黒の横斑が目立つ。下面は橙黄色で，喉と下腹は淡い。色彩は小型のタカに似る。鳴き声はジュウイチをくり返し，尻上がりに音程を上げる。

## 【生息環境】

主に標高500m以上の山林に夏鳥として飛来する。托卵相手となる鳥類が繁殖するよく茂った山地溪流沿いの針広混交林から，亜高山帯の山林まで広範囲に生息する。

## 【生息状況】

低山地ではオオルリの増加に伴いジュウイチが目につくようになった。一方，コルリとルリビタキが繁殖している亜高山帯では，ニホンジカによる樹木への食害が拡大しており，托卵相手のコルリとルリビタキの減少が危惧される。

## 【保全・保護対策】

ニホンジカの個体数を調整することにより，繁殖地の環境を維持することが望ましい。

## 【執筆者】

濱田哲暁

鳥

類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

地域  
個体群

カッコウ目カッコウ科

# カッコウ

*Cuculus canorus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息が確認されている地域は限定されており、個体数は少ない。

## 【国内分布の概要】

九州以北の草原、明るい林に飛来して繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

標高500m以上の草原、開けた山林で繁殖するが局所的

## 【生物学的特性】

全長は35cm。他種に托卵する習性が知られている。尾は長めでくさび形。翼の先は尖る。頭部と体の上面は青灰色。尾羽は灰黒色で白点があり、腹は白く、細い黒色横斑が帯状に並ぶ。鳴き声はカッコウをくり返し、雌はビビビビと鳴く。

## 【生息環境】

主に標高500m以上の草地、牧草地、明るい林のような開けた環境や林縁部に生息し、本種が托卵する宿主の生息域と重なっている。

## 【生息状況】

主に徳島県や愛媛県との県境付近の、標高の高いササ原と疎林からなる開けた場所に生息している。四国カルストでは頻繁に見られるが、出現頻度が低くなっている。

## 【保全・保護対策】

牧草地では、土地の活用方法により生息環境が維持されていることから、今後も人の関わりが重要である。

## 【執筆者】

西村公志

ヨタカ目ヨタカ科

# ヨタカ

*Caprimulgus jotaka jotaka*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

1995年ごろから個体数が減少した。近年、特定の地域で再び確認情報が得られ始めたが、県内の生息数はきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

九州以北に飛来して繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

安芸市、香美市、土佐町、高知市、津野町

## 【生物学的特性】

全長は29cm。体は灰白色、褐色、黒色、白色が複雑に混じった保護色。口は大きく、飛翔中の昆虫を空中で捕食する。地上に営巣し、外敵が近づくと口を大きく開けて威嚇する。キョッキョッキョッキョと連続して鳴く。

## 【生息環境】

里山から山地の草原、明るい林、林縁に飛来する。夜行性で、昼間は太い横枝に平行にとまり擬態している。日没後、草原や林の上空を飛翔して昆虫を捕る。

## 【生息状況】

1990年代に減少が進み、2010年ごろから再び生息情報が得られるようになったが、生息場所は限定的である。戦後の拡大造林政策による樹林が伐採期を迎え、伐採によりヨタカの生息環境が復活した可能性がある。

## 【保全・保護対策】

大規模な皆伐や植林を行わず、択伐により階層構造が維持できる管理が望ましい。

## 【執筆者】

高橋 徹



チドリ目チドリ科

## タゲリ

*Vanellus vanellus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

越冬に適した環境である湿潤な農耕地や河川敷が減少し、生息数が著しく減少した。

## 【国内分布の概要】

本州，四国，九州で越冬するが本州の一部で繁殖する

## 【県内での分布】

冬鳥として県内の平野部に飛来し，越冬する

## 【生物学的特性】

全長は31.5cm。額から後頭は黒色。長い冠羽と，後頭から体の上面の暗緑色や淡紅色の光沢に特徴がある。飛翔時には体と翼下面の黒色と白色が明瞭。ミューという声で鳴く。

## 【生息環境】

冬季に湛水した水田，休耕地，河川敷，河口干潟で小群で越冬する。また，短く刈られた空港周辺の草地にも飛来する。

## 【生息状況】

県中央部や幡多地方の中筋川流域の平野部に冬鳥として飛来し，10月中旬から3月中旬まで観察される。2000年以前は各所に小規模な蓮田や湿潤な休耕地が存在し，越冬群が観察された。ここ数年は，高知県中央部で20から30羽が確認されている。

## 【保全・保護対策】

水田の冬季耕起や乾田化が進み，越冬に適した湿潤な環境が減少している。本種が毎年飛来する地域については，現状の環境を維持するよう努力する。

## 【執筆者】

高木恭介

チドリ目チドリ科

## イカルチドリ

*Charadrius placidus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

主要な繁殖地である河川敷の環境が悪化したことにより，個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

全国で繁殖し，北日本で夏鳥，冬に暖地へ移動する

## 【県内での分布】

河川の中・上流の河原で繁殖し，秋から冬は海岸まで分布

## 【生物学的特性】

全長は20.5cm。コチドリに似るが，大きくて嘴は長い。体色はコチドリより淡色で，飛ぶと翼に淡色の帯が出る。繁殖期にはピッピッと鳴きながら飛び回る。

## 【生息環境】

大きな河川の中流や上流域で，地上に砂利，小石，小枝で造巣し，繁殖する。越冬期には河川敷の他に水田，海岸，干潟に小群で生活する。

## 【生息状況】

河川中流域の河川敷が砂礫質から砂質に変化し，生息環境が縮小している。また，犬を散歩させる人や車両が河川敷を荒らし，繁殖環境が悪化している。

## 【保全・保護対策】

現状で繁殖している環境を維持すると共に，繁殖期には河川敷への車両の乗り入れを制限することが望ましい。

## 【執筆者】

濱田哲暁

チドリ目チドリ科

# コチドリ

*Charadrius dubius*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息地および繁殖地の環境が開発に伴う攪乱により悪化し、個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

全国で繁殖する夏鳥、本州中部以南で少数が越冬する

## 【県内での分布】

室戸市から宿毛市の平野部で繁殖し、少数が越冬する

## 【生物学的特性】

全長は16cm。日本のチドリ科で最小。頭部は黒色、褐色、白色。眼の外縁および足は黄色。体の上面は砂褐色で、翼に白帯がない。繁殖期にはピョ、ピョ、ビュー、ビューと鳴いて飛び回る。

## 【生息環境】

埋め立て地、休耕地、河川敷および砂浜海岸で繁殖する。越冬期には農耕地を加えた裸地環境で越冬する。

## 【生息状況】

県中央部および西部の平野部では、埋め立て地および休耕地に住宅地や太陽光発電施設が設置され、生息環境が悪化している所がある。また、河川敷および砂浜海岸は、車両の進入と犬の散歩によって環境が攪乱されている。

## 【保全・保護対策】

本種の生息地は土地利用の目的や植生の遷移に伴い常に変化しており、繁殖に適した環境を人為的に維持することは困難である。本種の生息に適した一定の面積の環境を常時確保する必要がある。

## 【執筆者】

濱田哲暁

チドリ目チドリ科

# シロチドリ

*Charadrius alexandrinus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵7

## 【選定理由】

汀線の後退および海岸や河川敷の改修、生息地への人の出入りや車両の進入により環境が悪化し、繁殖個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

繁殖地の北海道では夏鳥、本州以南では留鳥

## 【県内での分布】

室戸市から宿毛市までの砂浜海岸および河川敷に生息する

## 【生物学的特性】

全長は17.5cm。体の下面の白色が目立つ。胸部の横帯は中央部で切れる。雄雌ともに冬羽は頭頂が灰褐色、過眼線と胸側は褐色。ピュル、ピュルとよく鳴き、驚いて飛ぶ際には翼の上面の白帯が目立つ。全国の海岸や埋め立て地で繁殖し、本州以南で越冬する。

## 【生息環境】

海岸に近い砂地や砂礫地で繁殖し、秋から冬は砂浜や海岸の埋め立て地および干潟で群れて越冬する。

## 【生息状況】

県内の砂浜海岸および河川の砂州に生息しているが、繁殖に適したきめ細かな砂のある広い砂浜は限られている。主な繁殖地である黒潮町と四万十市の海浜では年々生息数が減少している。

## 【保全・保護対策】

繁殖地への車両の乗り入れ制限および人の出入りの制限が望まれる。特にゴルフの練習と犬の散歩は厳しく制限すべきである。

## 【執筆者】

有田修大

チドリ目セイタカシギ科

# セイタカシギ

*Himantopus himantopus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

渡りの時期に小群が飛来するが、採餌場所となる干潟、湿地、水田の環境の悪化が懸念される。

**【国内分布の概要】**

全国で記録があり、東京湾、伊勢湾、大阪湾で繁殖する

**【県内での分布】**

春と秋に土佐湾沿岸の河口、沿岸の水田に飛来する

**【生物学的特性】**

全長は37cm。雄の夏羽は体の上面が緑色光沢のある黒で、雌は背や翼に褐色味がある。残りは白い。嘴は黒色でまっすぐであり、長くて細い。足は淡紅色で、きわめて長い。

**【生息環境】**

県内には大きな干潟が形成される場所がなく、春と秋の渡りの時期に海岸に近い水田や河口で見られる。

**【生息状況】**

春と秋の渡りの時期に立ち寄るが、栄養補給と休息可能な場所が減少している。県内には干潟が少なく、シギやチドリ類の個体数は多くはない。ただ、以前と比べると大きな群れが立ち寄るケースも見られるが、安定していない。

**【保全・保護対策】**

農閑期に水田の水位を保ち、シギやチドリ類の餌場となる環境を維持する。

**【執筆者】**

西村公志

チドリ目シギ科

# チュウシャクシギ

*Numenius phaeopus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：-

**【選定理由】**

旅鳥として河口、干潟、岩礁海岸、農耕地および湿地に群れで飛来するが、個体数は減少傾向にある。

**【国内分布の概要】**

北海道から九州の沿岸各地に旅鳥として飛来

**【県内での分布】**

香南市から宿毛市の河口および海岸に旅鳥として飛来

**【生物学的特性】**

全長は42cm。黒い嘴が下に曲がった比較的大型のシギ。体の上面に黒褐色と淡褐色の細い羽縁と斑点がある。飛翔時に腰と上尾筒の白色が目立ち、飛び立つ際にホイビビビビと口笛のような音質で鳴く。

**【生息環境】**

河口周辺の広い砂浜海岸に飛来するが、生息場所は限定的である。河口、干潟、岩礁海岸、農耕地、湿地に群れで飛来し、カニを中心とする甲殻類を捕食する。

**【生息状況】**

群の飛来は春季が多く、2007年までは100羽を超えることがたびたびあった。過去10年間の最大数は2015年8月の物部川河口における70羽である。県内での繁殖は確認されていない。

**【保全・保護対策】**

河口干潟が減少し、砂浜が後退したうえ、消波ブロックの設置により生息環境が悪化しており、水域と陸域の生態系に配慮した環境の維持管理が望まれる。

**【執筆者】**

田中正晴



チドリ目シギ科

## ツルシギ

*Tringa erythropus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

渡りの時期に餌場として利用する干潟と湿地が減少傾向にあり、個体数が次第に減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道から九州の各地で旅鳥、九州、琉球諸島で一部越冬

### 【県内での分布】

香南市、南国市、高知市、大月町、宿毛市

### 【生物学的特性】

全長は32.5cm。夏羽は全体が黒色で、眼の外縁の白色が目立つ。嘴は細くて長く、足も長い。嘴は黒くて基部は赤く、足は暗赤色であるがほとんど黒に見える個体もいる。チュイッと鳴く。

### 【生息環境】

旅鳥として干潟、水田、湿潤な耕作地、蓮田、湖沼に飛来するが、春は少なく秋に多い。

### 【生息状況】

過去10年間で、高知平野には毎年のように飛来しているが、単独個体が多い。春季に比べて秋季の飛来が圧倒的に多い。春季は水田に飛来し、秋季は耕作後に湛水した圃場に飛来する。2014年5月1日に、南国市で夏羽に換羽中の1個体が観察された事例がある。

### 【保全・保護対策】

高知県では繁殖が確認されていない。定期的に飛来する地区については、現状の環境を維持することが望まれる

### 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

## アカアシシギ

*Tringa totanus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

渡りの時期に栄養補給の中継地として利用する干潟と湿地が減少傾向にあり、確認数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道東部で繁殖し、それ以外では旅鳥

### 【県内での分布】

香南市、南国市、高知市、黒潮町

### 【生物学的特性】

全長は27.5cm。夏羽の頭から上面は灰褐色で、黒い縦斑、黒い軸斑、横斑および黄白色の羽縁がある。足は赤い。嘴は先端が黒く、基部が赤い。飛翔時は下腹と腰が白く、尾羽の白地に黒の横斑があり、次列風切は白く見える。

### 【生息環境】

北海道東部の湿地や草原で少数が繁殖する。春と秋の渡りの時期には全国を通過し、湿地、干潟、干拓地、水田で確認される。

### 【生息状況】

春季は水田に、秋季は湛水した圃場に飛来する。高知平野では過去10年間にほぼ毎年少数が飛来しており、秋の飛来が多い。最大観察数は2003年9月の南国市前浜における13羽である。

### 【保全・保護対策】

高知県での繁殖は確認されていない。定期的に飛来する地区については、現状の環境を維持することが望まれる。

### 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

## タカブシギ

*Tringa glareola*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

旅鳥として農耕地に飛来するが、2000年ごろから個体数が次第に減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道は旅鳥、本州以南では旅鳥で、一部が越冬する

### 【県内での分布】

安芸市から宿毛市の平野

### 【生物学的特性】

全長は21.5cm。雌雄同色。夏羽の体色は頭から体の上面が灰褐色で、黒斑や白斑がある。上尾筒は白色。尾は白地に黒の横斑が目立つ。顔から胸、脇に黒褐色の縦斑があり、腹は白い。嘴は黒色で、足は黄緑色。ピッピッと特徴的な声で鳴く。

### 【生息環境】

湿地をはじめ湖沼、河川、水田、蓮田を利用する。

### 【生息状況】

1990年以前の高知平野では100羽を越す群れが普通に見られたが、過去10年の最多確認数は2014年9月の38羽である。

### 【保全・保護対策】

高知県での繁殖は確認されていない。本種が定期的に飛来する地区の水田は、現状を維持することが望ましい。

### 【執筆者】

田中正晴

チドリ目シギ科

# ハマシギ

*Calidris alpina***【選定理由】**

海岸および河口干潟、湿潤な農耕地に群れて飛来するが、2010年ごろから減少傾向にある。

**【国内分布の概要】**

本州東北以北では旅鳥、本州以南では旅鳥または冬鳥

**【県内での分布】**

室戸市から宿毛市

**【生物学的特性】**

全長は21cm。嘴は黒色で比較的長く、わずかに下に曲がる。冬羽は頭部から背面が灰色で、軸斑は不明瞭。下面は白くて胸側は灰色。飛翔時に翼に白帯が出る。

**【生息環境】**

河口や干潟、湿潤な耕作地に多数飛来する。広い干潟では

**高知県：準絶滅危惧 (NT)**

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

大群をつくる。

**【生息状況】**

県内での繁殖は確認されていない。高知平野へは毎年春と秋に飛来する。2000年以前には200羽を越す群れが観察されていたが、過去10年間の最大観察数は2010年5月の南国市前浜における68羽である。なお、少数が越冬している。近年、河口干潟が減少し、また、海岸線が後退しており、生息環境がいちじるしく悪化している。

**【保全・保護対策】**

休憩や採餌の場となる大規模な河口干潟の砂州が減少しており、河口部の生態系の保全が望まれる。

**【執筆者】**

田中正晴

チドリ目ツバメチドリ科

# ツバメチドリ

*Glareola maldivarum***【選定理由】**

河口干潟や農耕地に飛来するが、生息地が限定的で個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

全国に旅鳥または冬鳥として飛来し一部が局地的に繁殖

**【県内での分布】**

香南市、南国市、高知市、黒潮町、四万十市、宿毛市

**【生物学的特性】**

全長は24.5cm。雌雄同色。翼と尾羽が長く、ツバメを大きくしたような形。夏羽は頭から体の上面と胸にかけてが灰褐色。喉は黄白色で黒い線で囲まれ、涙を流したように見える。嘴は黒く、基部は赤い。クリリ、クリリと鳴く。

**【生息環境】****高知県：準絶滅危惧 (NT)**

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

開けた草地、農耕地、埋立地、河川敷、河口干潟で採餌および休息する姿が観察される。飛来場所は限定的で、毎年ほぼ同じ場所で確認される。

**【生息状況】**

旅鳥として4月から5月および8月から9月に渡来する。春は草の少ない休耕田、河川の中州で休息する姿が観察される。また、8月以降は刈り入れの終わった水田で休憩していることがある。春、秋ともに空中でトンボやハエなどの昆虫を捕らえる。

**【保全・保護対策】**

飛来する場所は限定的で、飛来地の保全が望まれる。

**【執筆者】**

高木恭介

チドリ目カモメ科

# アジサシ

*Sterna hirundo***【選定理由】**

河口干潟、農耕地、湿地に渡りの途中に飛来するが、近年は減少傾向にある。

**【国内分布の概要】**

主に旅鳥として春と秋に全国の海岸や河口に渡来

**【県内での分布】**

海岸部と大規模な河川の河口

**【生物学的特性】**

全長は35.5cm。夏羽では頭が黒く、背と翼の上面は灰色。腰と尾は白く、外側尾羽の外弁が黒い。喉から顔は白く、胸から腹は淡紫灰色。嘴は黒くて足は黒褐色。ギリギリと鳴く。

**【生息環境】****高知県：準絶滅危惧 (NT)**

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

県内では春と秋の渡りの時期に、海岸部や大きな河川の河口部で一時的に滞在している姿が見られる。

**【生息状況】**

県内で毎年決まった時期に見られるのは現在では1か所のみ。その場所でも一時的な滞在のみで、数日のうちに移動してしまう。一度に見られる個体数は少なく、10羽未満の群れとなっている。また、クロハラアジサシ属の群れと行動を共にしていることもある。県内では繁殖しない。

**【保全・保護対策】**

渡りの途中で休憩や採餌する大規模な河口干潟の砂州が減少している。河口部の生態系の保全が望まれる。

**【執筆者】**

西村公志

フクロウ目フクロウ科

# キュウシュウフクロウ

*Strix uralensis fuscescens*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

繁殖に必要な樹洞のある大径木が減少し、生息環境の悪化が懸念される。

## 【国内分布の概要】

本州南部，四国

## 【県内での分布】

県内全域の市街地周辺の林から山間部に分布

## 【生物学的特性】

全長は48～52cm。翼は短くて幅が広い大型のフクロウ。雌雄同色であり、全体的に灰褐色で、黒色と褐色の複雑な斑紋がある。顔盤は大きく灰褐色で、眼は黒くて比較的小さい。羽角はない。ホッホ、グルスクホッホという太い声の間をおいてくり返し鳴く。おもに夜行性で、小型哺乳類、両生類、爬虫類、昆虫や鳥類を捕食する。巣立ちビナは白い綿毛に覆われた状態で巣から出て、2から3か月の間は巣周辺で親から給餌されながら巣立ちの訓練がおこなわれる。巣立ち直後は、誤って地面に下りていることも多く、その際に人に錯誤保護されることがある。

## 【生息環境】

平地から山地の林に生息する。営巣木として樹洞のある大木を必要とし、平地では社寺林にすることが多く、山地では大木がある自然林に生息する。

## 【生息状況】

平地では、工事の際に邪魔になる大径木や、倒木による危険を防止する目的で、営巣木が伐採されてしまう事例が増えている。

## 【執筆者】

山崎浩司

ブッポウソウ目カワセミ科

# アカショウビン

*Halcyon coromanda*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵7

## 【選定理由】

森林の大規模な伐採による生息環境の悪化や、営巣木となる大径木の朽ち木の減少により個体数が少なくなっている。

## 【国内分布の概要】

夏鳥として全国の山間部に飛来する

## 【県内での分布】

馬路村から宿毛市のよく茂った山林に飛来する

## 【生物学的特性】

全長は27.5cm。体色は黄褐色を帯びた赤で、上面には紫色の光沢がある。腰に瑠璃色の羽毛がある。嘴は太くて赤く、足も赤い。キョロロロと尻下がりに鳴く。大径木の朽ち木に穴をあけて営巣する。オオスズメバチの古い巣を利用することもある。

## 【生息環境】

山間の溪流沿いのよく茂った広葉樹林に生息する。豊かな山林が隣接していれば、人里で生活することもある。

## 【生息状況】

溪流沿いの常緑広葉樹林に生息するが、営巣に必要な朽ち木が少ないことから生息密度は低い。四万十川、仁淀川および物部川の上流域には比較的高密度で生息している。

## 【保全・保護対策】

現在生息が確認されている森林の維持が望まれる。なお、大勢のカメラマンが撮影のために集まると繁殖が失敗する可能性があり、生息情報の管理が必要である。

## 【執筆者】

中西和夫

ブッポウソウ目カワセミ科

## ヤマセミ

*Megaceryle lugubris*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

河川改修の工事および河川流域の森林開発により繁殖場所が消滅し、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

九州以北の山地溪流で留鳥

### 【県内での分布】

水量のある山地溪流や山地にあるダム湖

### 【生物学的特性】

全長は37.5cm。日本のカワセミ科では最大で、冠羽が目立つ。体の上面は白と黒のまだらで、下面は白い。水中にダイビングして魚を捕る。キャラツキャラツと鳴く。河岸や河川に近い土がけに深い穴を掘って営巣する。

### 【生息環境】

魚類や甲殻類が豊富な中規模以上の河川を生息域とする。警戒心が強く、人里から離れた場所を利用することが多い。

### 【生息状況】

一級河川の中・上流域に生息する。二級河川にも生息するが、生息場所は限定されている。営巣に必要な土がけが河川改修や道路法面工事により減少している。

### 【保全・保護対策】

営巣に適した垂直な土がけを造成することにより繁殖が可能になる。

### 【執筆者】

中西和夫

鳥

類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報不足

地域  
個体群

キツキ目キツキ科

## ナミエオオアカゲラ

*Dendrocopos leucotos namiyei*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

繁殖場所は標高500m以上の自然林の多い山林に限られており、生息数が少ない。

### 【国内分布の概要】

本州南西部、四国、九州に分布する留鳥

### 【県内での分布】

安芸市から宿毛市の標高500m以上の山林

### 【生物学的特性】

全長は28cm。背と中央尾羽は黒色、翼の地は黒く、白の横斑がある。下腹と下尾筒は桃紅色。雄は頭頂から後頭までが赤色で、雌は黒色。キョッ、キョッと鳴く。

### 【生息環境】

主に標高500m以上のよく茂った常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、針広混交林や自然林に生息する留鳥。直径40cmを越す枯れ木に穴を開けて営巣し、繁殖する。冬季には標高300m付近でも観察することができる。

### 【生息状況】

本県の山林ではスギやヒノキの植林が多く、本種にとって営巣可能な自然林が成立している場所は限定される。観察された事例では、針広混交林で直径30cmほどのアカマツの枯死木に営巣していた。

### 【保全・保護対策】

生態系保全を目的として、手つかずの自然林をまとまった面積で残す必要がある。

### 【執筆者】

高橋 徹



ハヤブサ目ハヤブサ科

# チゴハヤブサ

*Falco subbuteo*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

主に秋の渡りの時期に確認され、県内の平野部から低山地を通過するが、個体数は少ない。

## 【国内分布の概要】

本州中部以北で繁殖する夏鳥、本州中部以南では旅鳥

## 【県内での分布】

秋の渡りの時期に安芸市から宿毛市の平野を通過する

## 【生物学的特性】

全長は34～35cm。ハト大の小型のハヤブサの仲間。翼は細長くて先は尖る。頭から背中が青灰黒色。頬の黒いひげ状の斑と、下腹と足の付け根の赤茶色が目立つ。喉から体の下面は白色で、胸から腹にかけて黒色の縦斑がある。飛翔能力に優れ、直線的に速く飛び、急旋回や急降下をして小鳥を捕える。地表付近を飛ぶバッタや空を舞うトンボも捕食する。

## 【生息環境】

秋のタカの渡りの時期には標高300mほどの土佐市波介山の稜線付近に1週間程度滞在し、鳥類や飛翔する昆虫類を捕食する姿が頻繁に見られる。波介山およびその周囲の農耕地で昆虫を捕食し、渡りの途中に栄養を補給していると考えられるが、農業の近代化により、餌となる昆虫が減少している。

## 【生息状況】

本種の春の観察例は過去に数件程度しか記録されていない。高知県は本種の秋の渡りのルートになっており、確認事例は比較的多い。

## 【保全・保護対策】

餌生物が豊富な里地の環境を保全することが望まれる。

## 【執筆者】

武田和志

スズメ目カササギヒタキ科

# サンコウチョウ

*Terpsiphone atrocaudata*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

1995年ごろまでは里山で普通に繁殖する夏鳥であった。その後、生息数が次第に減少してきている。

## 【国内分布の概要】

本州以南の低地から山地のよく茂った林で繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

県内全域の低山地から山地の谷沿いの森林

## 【生物学的特性】

全長は雄が44.5cm、雌が17.5cm。長い尾羽と、頭部の冠羽が雄の特徴である。嘴と眼のコバルト色はよく目立つ。雄の尾は雄より短く、頭部の黒色や眼の外縁のコバルト色も淡い。チーチョ、ホイホイホイと口笛のような声でさえずる。

## 【生息環境】

低山地から山地の谷沿いにある良く茂った常緑広葉樹林で繁殖するが、スギやヒノキの植林にも生息する。

## 【生息状況】

高知市内でも観察されている。海岸部に分布するウバメガシの林で見られることもあり、県西南部では比較的個体数が多い。渡りの時期には市街地の公園も通過する。

## 【保全・保護対策】

里山の広葉樹林とスギやヒノキの植林の施業管理を行い、里山の森林保全を進めることが必要である。

## 【執筆者】

西村公志

スズメ目ムシクイ科

# メボソムシクイ

*Seicercus xanthodryas*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

夏鳥として飛来し、標高1700m以上の亜高山帯で繁殖するが生息環境が限られており、個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

九州以北の亜高山帯の林に飛来して繁殖する夏鳥

**【県内での分布】**

香美市、大豊町、本山町、いの町

**【生物学的特性】**

全長は12～13cm。上面はオリーブ色。黄白色の眉斑があり、大雨覆および中雨覆の先端はわずかに灰白色。下面は淡黄緑色。ジュリジュリ、ジュリジュリとさえずり、リュッリュッという低い地鳴きをはさむ。

**【生息環境】**

標高1700m以上の亜高山帯の針葉樹林に生息し、県境の稜線部や筒上山から手箱山で声が聞かれる。また、この鳥の音が聞こえ始めることで、登山中に標高を知ることができる。

**【生息状況】**

剣山地周辺と石鎚山周辺の稜線付近で見ることができ、生息数は多くはない。

**【保全・保護対策】**

亜高山帯の森林の保全が必要である。

**【執筆者】**

西村公志

スズメ目ムシクイ科

# エゾムシクイ

*Seicercus borealoides*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

夏鳥として飛来し、標高1700m以上の亜高山帯で繁殖するが個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

夏鳥として四国や本州中部以北の山地に渡来する

**【県内での分布】**

香美市、大豊町、本山町

**【生物学的特性】**

全長は11.5cm。頭は灰色味が強く、光の加減によっては頭とオリーブ緑色の背とは色が異なって見える。足は他のムシクイ類より赤味がある。地鳴きはピッ、ピッとセンダイムシクイより強い声で、ヒツツッキーという高い声でさえずる。

**【生息環境】**

県内では標高が1700m以上の、自然の落葉広葉樹林や針広混交林に生息している。春と秋の渡りの時期には、平地の公園や緑地でも確認されることがある。

**【生息状況】**

個体数は同じムシクイ科のメボソムシクイよりも少ないと考えられる。繁殖期でも、県内でコンスタントに本種の声を確認できる場所は少ない。

**【保全・保護対策】**

県内に残されている自然林を保全し、人工林を自然林に誘導していくことが必要である。

**【執筆者】**

西村公志

スズメ目キバシリ科

# キバシリ

*Certhia familiaris*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

標高の高い山林に留鳥として生息するが、生息地は限定されており、個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

北海道では平地、本州から九州では山地の針葉樹林に生息

**【県内での分布】**

馬路村、安芸市、香美市、長岡郡、高知市、四万十町

**【生物学的特性】**

全長は13.5cm。嘴は細く、下向きに曲がる。尾は細く、先が尖る。雌雄同色。体の上面は茶褐色と白色の縦縞模様で、眉斑は白く、過眼線が褐色。下面は白く、飛ぶと翼に黄褐色の細い線が出る。

**【生息環境】**

夏季は標高1000m以上の針葉樹林で繁殖するが、冬季は標高400～800mほどのスギやヒノキの植林および広葉樹林に生息する。

**【生息状況】**

繁殖期に剣山地や石鎚山系の稜線を調査しても、声を聞くことはほとんどない。冬季には、標高500m程度の山林で、カラ類の混群中に混じって行動する姿が見られることがある。

**【保全・保護対策】**

繁殖期に生息する森林の保全と、二次林および人工林の管理を徹底し、天然林に近い森林環境の維持が望まれる。

**【執筆者】**

西村公志

スズメ目ヒタキ科

# トラツグミ

*Zoothera aurea toratugumi*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息に適した広葉樹林が伐採や開発により減少し、それに伴い個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

奄美以北で繁殖し、北日本の個体は冬季に暖地に移動

## 【県内での分布】

夏は山地の広葉樹林に、冬は平地にも分布

## 【生物学的特性】

全長は約30cmで、日本のヒタキ科で最大。雌雄同色で、体は黄褐色の地に黒色の横斑や三日月斑がある。夜にヒー、ヒョーと口笛のような声でさえずる。

## 【生息環境】

低地から山地のよく茂った森林で繁殖する。山地の個体は秋に暖地や低地に移動し、冬季には市街地の公園や広い庭園で確認されることがある。

## 【生息状況】

繁殖期の夜間にはよく鳴くため、生息情報は得られやすい。しかしながら生息に適した森林は減少しており、個体数は多くないと考えられる。冬季には、暖地に移動してきた個体が里山の農耕地や市街地の公園で確認されることがある。

## 【保全・保護対策】

二次林および人工林の管理を徹底し、天然林への誘導と混交林化の促進が望まれる。

## 【執筆者】

西村公志

スズメ目ヒタキ科

# クロツグミ

*Turdus cardis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息に適した広葉樹林が伐採や開発により減少し、それに伴い個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

九州以北の丘陵から山地で繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

よく茂った森林に飛来し、繁殖する

## 【生物学的特性】

全長は21.5cm。雄は頭部から尾と胸が黒く、白い腹部の上腹と脇に黒い三角斑が並ぶ。嘴と眼の外縁は黄色。雌は上面が茶褐色で、下面は白く、胸側から脇は橙黄赤色で、黒い顎線と黒い三角斑がある。さえずりは、キョロイ、キョロイ、キョコキョコ、コケエコ、ケコ、コキョーなどであり、朗らかな声で複雑で美しく長く鳴く。

## 【生息環境】

丘陵地から山地のよく茂った広葉樹林やスギやヒノキの植林で繁殖する。春と秋の渡りの時期には平地から山地の森林を通過する。

## 【生息状況】

高知県内では、繁殖地として低山から亜高山の良く茂った森林を利用している。繁殖地の分布には偏りがあるようで、四万十川、仁淀川および物部川流域の広葉樹林で姿がよく見られる。

## 【保全・保護対策】

近年、木質バイオマス発電事業の拡大で、各地で広葉樹林の伐採が進んでいる。生息地である森林の維持と、山林の持続可能な利用方法の検討が必要である。

## 【執筆者】

中西和夫

スズメ目ヒタキ科

# ルリビタキ

*Tarsiger cyanurus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

繁殖地は四国山地の一部の地域に限られていると考えられ、生息個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

亜高山帯林で繁殖し、冬季は本州中部以南の暖地に移動

**【県内での分布】**

夏は香美市およびいの町の高標高地で、冬は低山地で生活

**【生物学的特性】**

全長は14cm。雄は体の上面から尾、頬と肩は明るい青色で、眉斑は白色。雌の上面はオリーブ褐色で尾羽には青味がある。雌雄ともに喉と腹は白く、脇は橙黄色。繁殖期はヒツチョロチョロチョロりとさえずる。

**【生息環境】**

繁殖期は亜高山帯の針葉樹林帯で生活し、本州中部以南の低山地から平地の雑木林や都市公園で越冬する。

**【生息状況】**

主に冬鳥として飛来し、低山地から里山の林で越冬する。夏季は四国山地の標高1700m以上の亜高山帯に少数が生息する。県内では巣卵は確認されていないが、繁殖していると考えられる。

**【保全・保護対策】**

繁殖の可能性のある亜高山帯の樹林と、越冬地の雑木林の保全が必要である。

**【特記事項】**

四国山地は国内の繁殖南限地域である。

**【執筆者】**

田中正晴

スズメ目ヒタキ科

# コサメビタキ

*Muscicapa dauurica*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

夏鳥として里山に少数が飛来して繁殖するが、情報は少ない。

**【国内分布の概要】**

夏鳥として北海道から九州に飛来して繁殖する

**【県内での分布】**

香美市、高知市、四万十町、宿毛市

**【生物学的特性】**

全長は13cm。夏鳥として飛来し、林内で飛翔性昆虫を空中で捕食して生活する。5月から7月に、高木の横枝の上に藓類や樹皮で椀型の巣を造る。小さくて複雑なさえずりを行う。

**【生息環境】**

低山地の雑木林から高地の原生林まで見られ、落葉広葉樹林、スギやヒノキの人工林および雑木林に生息し、密生した林よりも明るい林を好む。春と秋の渡りの時期には平地の林や公園にも現れる。

**【生息状況】**

4月から10月に各地で観察されるが情報は減少傾向にある。繁殖状況は不明であるが、スギの植林が伐採されて消失した例があり、繁殖地となっている森林が開発や土地造成により消失するおそれがある。また、二次林や人工林の管理の不徹底のため、本種の生息条件が悪化している可能性がある。

**【保全・保護対策】**

明るい森林の管理が重要であり。管理不足および管理放棄された森林の天然林への誘導と混交林化、さらに生物に配慮した人工林の整備が必要である。

**【執筆者】**

谷岡 仁



スズメ目ヒタキ科

# オオルリ

*Cyanoptila cyanomelana*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵7

## 【選定理由】

低山地の萌芽林の成長および密猟の減少により生息数は回復傾向にあるが、個体数はいまだに多くない。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州で繁殖する夏鳥

## 【県内での分布】

東洋町から宿毛市までの山地

## 【生物学的特性】

全長16.5cm。夏鳥として飛来する。雄は鮮やかな青色の羽毛を持ち、樹木の梢で美しい声で複雑なさえずりを行う。溪流沿いの林で主に昆虫を捕食して生活する。5月から8月に溪流近くの林内の崖地や岩にコケ類で椀型の巣を造る。

## 【生息環境】

低山地の雑木林から亜高山帯のブナ林にわたって生息し、溪流沿いのよく茂った林に多い。渡りの時期には市街地の公園でも観察されるものの、個体数はいまだ十分に回復していない。

## 【生息状況】

森林の伐採および密猟により生息数が減少したが、県内では各地の森林で確認例があり、個体数は回復の傾向にあると考えられる。

## 【保全・保護対策】

密猟による捕獲圧の除去が必要である。また、生息場所となる溪流沿いの森林管理が重要で、管理不足や管理放棄された森林の天然林への誘導に加え、混交林化および生物に配慮した人工林の整備が必要である。

## 【執筆者】

谷岡 仁

スズメ目イワヒバリ科

# カヤクグリ

*Prunella rubida*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

四国山地における分布域は狭く、繁殖個体数は少ないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

四国と本州中部以北の亜高山帯で繁殖、冬季は暖地へ移動

## 【県内での分布】

夏季は亜高山帯、冬季は低山地

## 【生物学的特性】

全長は14cm。頭部から上面は茶褐色。下面は暗灰褐色で、全体的に茶色に見える。地鳴きはチンチリリで、さえずりはチリチリチリと聞こえる。

## 【生息環境】

夏季は亜高山帯の低木林で見られる。冬季は低山地の雑木林の林床や林縁の藪や下草の中で越冬する。

## 【生息状況】

標高1700mを超す亜高山帯の低木林の樹上でさえずる個体が夏に観察される。高知県で巣卵は確認されていないが、繁殖していると考えられる。冬季は低山地の低木林やその林縁で少数が確認される。単独もしくは数羽の確認例が多く、越冬数は少ない。

## 【保全・保護対策】

繁殖の可能性がある亜高山帯の環境の保全に留意する必要がある。

## 【特記事項】

高知県は本種の国内繁殖地の南限である。

## 【執筆者】

田中正晴

スズメ目セキレイ科  
**ビンズイ**  
*Anthus hodgsoni*

**高知県：準絶滅危惧 (NT)**

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

繁殖地は四国山地の亜高山帯に限定されており、繁殖個体数は少ないと考えられる。

**【国内分布の概要】**

亜高山帯で繁殖し、冬季は本州中部以南の暖地に移動

**【県内での分布】**

香美市の亜高山帯で繁殖し、冬は平地から低山地

**【生物学的特性】**

全長は15.5cm。雌雄同色。頭と体の上面まではオリーブ褐色で、黒褐色の縦斑がある。汚白色の眉斑および眼の後方にある黒色斑と白色斑が特徴である。さえずりはヒバリに似る。

**【生息環境】**

夏季に亜高山帯の明るい森林や灌木のある草原で繁殖する。本州中部以南の低山地から平地の雑木林や都市公園で越冬する。

**【生息状況】**

主に冬鳥として見られるが、一部は四国山地で繁殖する。夏季は四国山地の亜高山帯に生息し、稜線付近の草地でさえずりが聞かれる。2016年6月に剣山地の三嶺で、巣立ち後間もない幼鳥が発見され、高知県での繁殖が確認された。

**【保全・保護対策】**

繁殖地となっている亜高山帯の環境保全に留意する必要がある。

**【特記事項】**

高知県は本種の国内繁殖地の南限である。

**【執筆者】**

田中正晴

スズメ目ホオジロ科  
**ノジコ**  
*Schoeniclus sulphuratus*

**高知県：準絶滅危惧 (NT)**

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

本州の限られた場所で繁殖し、個体数は少ない。県内には旅鳥として飛来し、少数が越冬する。

**【国内分布の概要】**

本州中・北部で繁殖する夏鳥、西日本では少数が越冬

**【県内での分布】**

南国市、香南市、高知市、土佐市、四万十市、宿毛市

**【生物学的特性】**

全長は14cm。雌雄とも頭部から背面の体色は灰緑色。下面は硫黄色で、雄の頭部は暗灰緑色。脇に灰緑色の縦斑がある。眼の外縁は白色で細い。雌の体色は雄と比べるとやや淡く、眼先は黒くない。雌雄ともに地鳴きはチッ、チッと聞こえる。

**【生息環境】**

平野部から山地の高茎草地および低地の林縁や低木林の藪に飛来する。

**【生息状況】**

10月中旬から11月初旬と4月下旬から5月上旬に河川敷の草地、耕作放棄地、低山地の林縁に旅鳥として移動中の小群が観察される。また、一部は越冬し、単独で確認されることがある。河川改修および圃場整備、道路改修により草地や低木の藪が減少し、生息環境が悪化している。

**【執筆者】**

濱田哲暁

スズメ目ホオジロ科

# クロジ

*Emberiza variabilis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

繁殖地は四国山地の亜高山帯に限定されており、分布域は狭く、繁殖個体数は少ないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

北海道から四国の山地で局所的に繁殖。冬季は暖地に移動

## 【県内での分布】

香美市の亜高山帯林で繁殖し、冬季は低山地

## 【生物学的特性】

全長は17cm。ホオジロ属の中では大型種。雄は全体が暗青灰色で黒っぽく、雌は灰黒褐色である。雌雄ともに冬羽は全体が淡く見える。地鳴きはツツ、ツツと鳴き、ホーイチュチュピーとゆっくりとしたテンポでさえずる。

## 【生息環境】

夏季は亜高山帯の落葉広葉樹林や針葉樹林で繁殖し、冬季は常緑広葉樹林やスギやヒノキの植林の林床植物が密生した環境で越冬する。

## 【生息状況】

冬鳥として低山地から山地のうっそうと茂る常緑広葉樹林やスギやヒノキの植林地に渡来し、林床で生活する。越冬個体は多くなく、分布は局所的。2009年6月に剣山地の三嶺において県内で初めて繁殖が確認された。

## 【保全・保護対策】

繁殖地の亜高山帯の環境は脆弱であるため、環境の保全に留意する必要がある。

## 【特記事項】

高知県は本種の国内繁殖南限地域である。

## 【執筆者】

田中正晴

カモ目カモ科

# ミコアイサ

*Mergellus albellus*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

越冬する個体数が少ないうえに確認事例が減少している。

**【国内分布の概要】**

北海道北部の湖沼で少数が繁殖し、九州以北では冬鳥

**【県内での分布】**

南国市、高知市、四万十市

**【生物学的特性】**

全長は42cm。雄は大部分が白く、眼の周囲と後頭の冠羽の黒色が特徴。雌は頭が茶褐色で、顔は白くて体が灰色。

**【生息環境】**

河川の中流域や河口部、池沼および波が静かな内湾で越冬する個体が見られるが、単独での確認例が多い。

**【生息状況】**

毎年実施されているガンカモ調査で記録されているが、個体数は少ない。確認個体は雌が多く、雄は少ない。

**【執筆者】**

西村公志

カモ目カモ科

# ウミアイサ

*Mergus serrator*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

越冬個体が少ないうえに確認事例が減少している。

**【国内分布の概要】**

冬鳥として全国の沿岸に飛来する

**【県内での分布】**

土佐湾沿岸の河川、河口、池沼、内湾

**【生物学的特性】**

全長は55cm。体は長く、嘴は細い。雄の頭部は緑黒色で、ぼさぼさした冠羽がある。雌は頭部が茶褐色で、冠羽がある。

**【生息環境】**

海もしくは海に近い河口部や内湾で生活する。

**【生息状況】**

毎年実施されているガンカモ調査で少数が記録されているが、短い滞在期間ですぐに移動する。

**【執筆者】**

西村公志

チドリ目シギ科

# アオシギ

*Gallinago solitaria*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

冬鳥として山間部の溪流に飛来するが生息地は限定されており、個体数は少ない。

**【国内分布の概要】**

北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島では冬鳥

**【県内での分布】**

奈半利川および四万十川の上流

**【生物学的特性】**

全長は30cm。タシギ属ではヤマシギに次ぐ大きさ。背、翼、下面は青灰色を帯びる。グエツというしゃがれた声で鳴く。

**【生息環境】**

冬鳥として低地から山地の溪流沿いおよび小河川、湿地で生活する。単独で隠れるようにしていることが多く、驚くと鳴いて川沿いに低く飛翔し、姿を消す。

**【生息状況】**

県内の山地溪流に少数が飛来するが、情報は少ない。

**【保全・保護対策】**

狩猟鳥のタシギと似ているため、狩猟者への注意喚起が必要である。

**【執筆者】**

濱田哲暁



タカ目タカ科

## ツミ

*Accipiter gularis*

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：－

#### 【選定理由】

高知県内での繁殖記録はわずかしかない。非繁殖期の観察記録も少なく、生息個体数は少ないと考えられる。

#### 【国内分布の概要】

全国的に留鳥として生息する

#### 【県内での分布】

県内全域の里山から山地

#### 【生物学的特性】

全長は雄が27cm、雌が30cm。ハトよりも小さく、形態はハイタカによく似ている。雄の上面は暗青灰色。眼は暗紅色。雌の上面は暗石板色。ピョーピョピョピョと尻下がりに鳴く。習性はハイタカに似る。

#### 【生息環境】

スギやヒノキの植林および常緑樹林の森の中で見かけることが多い。

#### 【生息状況】

県内の里山から山地にかけて生息する。高知市内の山林で繁殖した事例では、スギの約10mの高さに掛けられた巣で3羽の雛が巣立った記録がある。雄親が2ないし3度運び込んだ餌は全てネズミ類であった。

#### 【保全・保護対策】

繁殖期の生息環境として低山地の森林が重要と考えられる。放棄された里山の二次林や人工林を管理して、餌場および繁殖地として利用できる生物相の豊かな森にする必要がある。

#### 【執筆者】

吉田直樹

フクロウ目フクロウ科

## オオコノハズク

*Otus lempiji*

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

#### 【選定理由】

夜行性であることから発見が難しく、生息に関する情報が少ない。死体の拾得により確認される事例が多い。

#### 【国内分布の概要】

全国的に留鳥として分布する

#### 【県内での分布】

香美市、南国市、高知市、津野町

#### 【生物学的特性】

全長は23.5～26cm。コノハズクより少し大きく、褐色、灰白色および黒色の複雑な模様がある。眼は橙色。

#### 【生息環境】

低地から山地の林に棲み、大木のある社寺林でよく見かけられる。冬季には藪に数羽が集り、ねぐらを造ることがある。

#### 【生息状況】

常緑樹林内で生活しているが、夜間は森から出て、草地や街灯および自動販売機に集まる昆虫を捕食することがある。

#### 【保全・保護対策】

営巣可能な樹洞のある古木が倒壊の危険があるとして伐採される例が多くなった。本種の希少性を地域住民に説明し、営巣木を維持する必要がある。

#### 【執筆者】

吉田直樹

## 〈文献一覧〉

- 樋口博芳・森岡弘之・山岸 哲 (編). 1996. 日本動物大百科 4 鳥類 I. 平凡社, 東京, 180 pp.
- ・——・—— (編). 1997. 日本動物大百科 4 鳥類 II. 平凡社, 東京, 182 pp.
- 石原 保. 1982. 四国の野鳥誌. 築地書館, 東京, 190 pp.
- 石川和男・大野 正・澤田佳長・柴折史昭・曾良寛武・森川國康・山本正幸. 1995. 四国の野鳥. 高知新聞社, 高知市, 215 pp.
- 環境庁. 1981. 日本産鳥類の繁殖分布. 大蔵省印刷局, 東京, pp. 240-241.
- 環境庁自然保護局野生生物課. 2012. 猛禽類保護の進め方—特にイヌワシ, クマタカ, オオタカについて— (改訂版). 環境省自然環境局野生生物課, 86 pp.
- . 2016. ミゾゴイ保護の進め方. 環境省自然環境局野生生物課, 30 pp.
- 小林桂助. 1983. 原色日本鳥類図鑑 (新訂増補版). 保育社, 大阪, 261 pp.
- 高知県保健環境部. 1986. 高知県の鳥. 高知県保健環境部, 高知市, 86 pp.
- (編). 1995. データベース高知県の野鳥 (1986年~1993年). 高知県保健環境部自然保護課, 高知市, 444 pp.
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック〔動物編〕高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知市, 470 pp.
- 小島圭三. 1973. 高知県の鳥類, 昆虫類. 高知県環境保全局自然保護課 (編), pp. 53-57. 高知県の自然環境. 高知県環境保全局自然保護課, 高知市.
- 黒田長久. 1967. 鳥類の研究 生態. 新思潮社, 東京, 320 pp.
- (編・監修). 1984. 決定版生物図鑑鳥類. 世界文化社, 東京, 399 pp.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男. 1998. 図鑑日本のワシタカ類 (第2版). 文一 総合出版, 東京, 632 pp.
- 中村浩志. 2004. 甦れ, ブッポウソウ. 山と溪谷社, 東京, 99 pp.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉. 保育社, 大阪, 301 pp.
- ・——. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉. 保育社, 大阪, 304 pp.
- 中村 豊・児玉純一. 2001. 宮崎県の枇榔島と小枇榔におけるカラスバト *Columba janthina janthina* の地上営巣例. 日本鳥学会誌, 50: 37-41.
- 日本鳥学会. 2012. 日本産鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田, 438 pp.
- 岡 奈理子. 2004. オオミズナギドリの繁殖島と繁殖個体数規模, および海域, 表層水温との関係. 山階鳥類学雑誌, 35: 164-188.
- 澤田佳長. 1978. 環境と鳥相. 高知新聞社 (編), pp. 238-241. 土佐の博物誌. 高知新聞社, 高知市.
- . 1982. 姫島の鳥類. pp. 117-123. 高知県西南諸島学術調査書 (鳥類別冊), 高知.
- 榛葉忠雄. 2016. 日本と北東アジアの野鳥. 生態科学出版, 神奈川, 647 pp.
- 高野伸二 (監修). 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京, 474 pp.
- 和田豊洲. 1973. 四国の野鳥. 高知営林局, 高知市, 158 pp.



## 概説

## 爬虫類・両生類

## 【爬虫類】

2014年6月以降に確認された爬虫類は2000年の県内産のリストにアオウミガメとタイマイ、オサガメ、カミツキガメ、ワニガメの5種を加えた合計2目10科22種（外来種4種を含む）であり、その多くが本州と九州にも見られる。生息環境は概ね山地・丘陵部、平野部、海岸部に分けられるが、ヘビ類（有鱗目ヘビ亜目）、トカゲ類（有鱗目トカゲ亜目）が主に高地を除く山地・丘陵部や平野部に広く分布し、淡水ガメ類（カメ目カミツキガメ上科、リクガメ上科、スッポン上科）が主に平野部の水域周辺に、ウミガメ類（カメ目ウミガメ上科）が海岸部に見られる。718kmにおよぶ本県の海岸線は、海生種もしくは沿岸域を利用する多くの種に育成と繁殖の場を提供している。また、本県の海岸は黒潮の影響を強く受けるため、南方の海生種が確認されることもたびたびある。ウミガメ類に関しては一般の関心も高く、県内で調査および情報収集の機会が比較的多いため、より実態に近い結果が反映されているものと考えられる。一方で、ウミヘビ類（有鱗目ヘビ亜目コブラ科）に関しては調査員によって目視された事例はあるものの、標本はほとんど得られていない。既往の文献にもウミヘビ類の情報は極めて少なく、かつ調査が困難でその実態は不明であるため、今回の改訂では対象外とした。高知県に限らず、九州、四国以北のウミヘビ類の生息の実態を把握することは今後の課題といえよう。

絶滅のおそれのある種の総数は、改訂前は1種アカウミガメであったが、新たに1種アオウミガメを追加して2種となった。アカウミガメについては改訂前と同様に、県内の主要な産卵海岸において砂浜の退縮が見受けられるほか、近年、東部の海岸では産出された卵の大半が野生動物による食害を受ける事例も報告されており、また、沿岸の漁労における混獲も確認されている。このように、産卵地周辺の環境の悪化によって上陸・産卵个体数が減少の一途をたどっているため、本種を絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）とした。アオウミガメは県内の沿岸の藻場を摂餌場として利用していると考えられるが、混獲の事例も多く、その周辺環境の悪化によって生息が脅かされているため絶滅危惧Ⅱ類（VU）とした。両種は2004年3月に制定された高知県うみがめ保護条例の対象である。

ニホンイシガメは本県ではまだ減少傾向が見られないことからリスト外としたが、環境省が準絶滅危惧（NT）としており、また、他県のレッドリストに掲載されているなど全国的には減少が示唆されている。このことから本種を本県の注目種に指定することとした。

ニホンスッポンの生息情報は少なくはないものの、県

内で養殖が行われている事例がある。それらと在来種との交雑が進んでいる可能性もあり、移入個体か在来個体であるかの科学的研究も不十分であること、野外での実態が不明であることから、改訂前と同様に情報不足（DD）とした。

ミシシippアカミミガメは飼育個体が野外に遺棄されて定着し、個体数を増やししながら各地の池沼、河川の河口域から中流部まで分布を拡大し、在来種に大きな影響を及ぼしていると考えられる。カミツキガメとワニガメの2002年以降の捕獲事例は、高知市と南国市における3例、高知市における5例がある。これら2種が県内に定着し、自然繁殖しているかどうかは定かでないが、確認された例数が少なく、かつ、それらが市街地近郊に限られていることを考慮すると、飼育個体が遺棄された可能性がある。クサガメは近年の研究により、江戸時代以降に朝鮮半島から移入された個体が定着し、広がったと推定されている。県内のクサガメの個体数と生息地は、ニホンイシガメと比べてともに少なかったが、在来種との競合や交雑の問題があるため、本種の生息数および分布の動向には今後も注意が必要である。

情報不足（DD）としたタワヤモリは自然度が高い限られた環境に生息すると考えられているが、県中・東部および内陸部での生息情報を欠き、また、生息数が著しく少ないものとみなされる。今後、本種の実態を明らかにするとともに、自然海岸を保全し、生息地の環境改変の回避に努める必要がある。

地中性および夜行性の種を含むヘビ類については十分な調査を行うことが難しいが、2004年以降の調査でロードキルの事例も含めて多くの情報を集めることができた。その結果、従来準絶滅危惧（NT）としていたヒバカリと情報不足（DD）としていたジムグリ、シロマダラ、タカチホヘビについては、いずれもある一定の生息数と広範囲におよぶ分布が確認されたのでリストから除外した。

## 【両生類】

2002年以降に確認された両生類は2000年の県内産のリストに掲げられた18種（2目7科、外来種1種を含む）と同一である。生息環境は山地部と丘陵部、平野部に分けられ、山地部溪流にはサンショウウオ類（有尾目サンショウウオ上科）とタゴガエル、カジカガエルが生息する。県東部の湿地周辺ではカスミサンショウウオが生息するとされていたが、1970年代以降は確認されていない。丘陵部から平野部にかけては、水田を中心にニホンアカガエルとヌマガエルが生息する。ウシガエルはため池を中心に河川にも分布し、他の小型両生類の生息を脅かし



ている。高標高地域を除く全域に分布するのはアカハライモリとトノサマガエル、ツチガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエルである。

絶滅のおそれのある種の総数は、従来は4種であったが、本改訂ではニホンアカガエルが追加されて5種となった。そのうち有尾目は4種で大きな割合を占めている。これらは森林または低地の流水域から止水域の水辺と陸域を含む多様な環境に適応した種である。本レッドリストでは従来通りのランクとしたが、森林部では林道建設に伴う移動経路の寸断、皆伐による土地の乾燥化や産卵場の消滅により依然としてその生息が脅かされている。本県の有尾目に関しては早急に解決すべき課題が多い。

本県におけるオオサンショウウオの捕獲の事例は多々あるものの、そのほとんどが移入個体の放流と見なされていた。ところが、2015年に仁淀川水系での繁殖が確認され、四国初の事例であることが報告された。現在のところ、この繁殖集団が在来の個体に由来するかどうかは不明であり、本種を改訂前と同様に情報不足（DD）とした。

2002年から15年が経過し、その間の遺伝子解析を含む分類学的研究の進展により、学名や和名の変更があったサンショウウオ科が4種ある。2002年にオオダイガハラサンショウウオ *H. boulengeri* (Thompson, 1912) として扱われた個体群は四国4県に分布する個体群と合わせ、既知種ではあるものの、新たに四国固有種 *H. Hirosei* Lanz, 1931と同定され、和名イシヅチサンショウウオが提唱された。また、ブチサンショウウオ *H. naevius* (Temminck & Schlegel, 1838) として扱われた個体群は、本州南部（岐阜県、愛知県、滋賀県、大阪府、奈良県、和歌山県）、四国および長崎県を除く九州に分布する既知の独立種 *H. stejnegeri* Dunn, 1923としてまとめられ、和名コガタブチサンショウウオが提唱された。さらに、ハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn, 1782) として扱われた種は、高知県いの町をタイプ産地とし、徳島県、愛媛県、高知県、岡山県、広島県、山口県に分布するシコクハコネサンショウウオ *O. kinneburii* Yoshikawa, Matsui, Tanabe & Okayama, 2013 として新種記載された。そして、オオイタサンショウウオ *Hynobius dunnii* Tago, 1931として扱われた個体群は、高知県土佐清水市をタイプ産地とし、当産地だけに分布するトサシミズサンショウウオ *H. tosashimizuensis* Sugawara, Watabe, Yoshikawa & Nagano, 2018として新種記載された。本種は産卵地が限られていることから絶滅のおそれが高く、早急に適切な保護がなされるべきとの判断により、2017年4月に土佐清水市が市の指定文化財（天然記念物）にしている。

アカハライモリは本県ではまだ生息個体数の減少傾向が見られないことからリスト外としたが、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧（NT）とされているほか、他県のレッドリストにも掲載されているなど、全国的に個体数の減少が示唆されている。このことから、本種を本県の注目種に取り上げることとした。

2002年に準絶滅危惧（NT）とされていたニホンアカガエルについては、近年、既知の複数の地点で産卵が確認されず、とくに低地部での減少傾向が著しいと判断されたため、絶滅危惧I類（CR+EN）とした。

2002年に準絶滅危惧（NT）とされていたトノサマガエルは、多くの生息地および個体が確認されたためリストから除外したが、主要な生息地である低湿地の開発には依然として注意が必要である。

斉藤知己

高知県レッドリスト（爬虫類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>アカウミガメ</b> <i>Caretta caretta</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
<b>アオウミガメ</b> <i>Chelonia mydas</i>	絶滅危惧 II 類		
<b>ニホンスッポン</b> <i>Pelodiscus sinensis</i>	情報不足	情報不足	
<b>タワヤモリ</b> <i>Gekko tawaensis</i>	情報不足		

高知県レッドリストから除外された種および亜種（爬虫類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>タカチホヘビ</b> <i>Achalinus spinalis</i>	除外	情報不足	
<b>ヒバカリ</b> <i>Hebius vibakari vibakari</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>シロマダラ</b> <i>Dinodon orientale</i>	除外	情報不足	
<b>ジムグリ</b> <i>Euprepiophis conspicillatus</i>	除外	情報不足	

高知県レッドリスト（両生類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ニホンアカガエル</b> <i>Rana japonica</i>	絶滅危惧 I 類	準絶滅危惧	
<b>トサシミズサンショウウオ</b> <i>Hynobius tosashimizuensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	和名・学名変更 オオイタサンショウウオ <i>H. dunni</i>
<b>カスミサンショウウオ</b> <i>Hynobius nebulosus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
<b>コガタブチサンショウウオ</b> <i>Hynobius stejnegeri</i>	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類	和名・学名変更 ブチサンショウウオ <i>H. naevius</i>
<b>シコクハコネサンショウウオ</b> <i>Onychodactylus kinneburii</i>	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類	和名・学名変更 ハコネサンショウウオ <i>O. japonicus</i>
<b>イシヅチサンショウウオ</b> <i>Hynobius hirosei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名・学名変更 オオダイガハラサンショウウオ <i>H. boulengeri</i>
<b>オオサンショウウオ</b> <i>Andrias japonicus</i>	情報不足	情報不足	

高知県レッドリストから除外された種（両生類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>トノサマガエル</b> <i>Pelophylax nigromaculatus</i>	除外	準絶滅危惧	

カメ目ウミガメ科

# アカウミガメ

*Caretta caretta*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

表紙

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

県内の主要な産卵地で産卵回数が減少傾向にあり、今後の自然回復が見込めず、また、沿岸で混獲されている。

## 【国内分布の概要】

産卵地は主に関東以南の太平洋岸、南西諸島

## 【県内での分布】

産卵地は東部から西部までの全域

## 【生物学的特性】

頭は大きく、背甲は逆三角形で茶色。通常、肋甲板は5枚、椎甲板は5枚である。成体の平均甲長85cm。産卵は年に2ないし3回、産卵数は1回につき100~150卵とされる。7月から9月にかけて孵化し、砂浜から脱出した幼体は外洋へ分散した後、成熟前の甲長60~70cm、年齢16~17歳以降に産卵地周辺に戻ると推定されている。

## 【生息環境】

世界の温熱帯海域に広く分布し、ウミガメ類中最も高緯度地域で産卵を行うが、北太平洋では黒潮流軸に沿った南日本に点在する砂浜海岸が産卵場である。近年、本県では産卵が年間に100~300回確認されているが、大規模な産卵地はない。産卵には適度な砂浜の規模と基質、静かな環境が必要であるが、県内の砂浜の多くが後退する傾向にあり、波浪により多くの産卵巣が冠水し、流失していると考えられる。また、一部で野生動物による卵の被害も確認されて

いる。幼体と亜成体は北太平洋の暖流と寒流の混合域などの一次生産の高い海域を成育場とし、主に浮遊性動物を摂餌していると考えられる。成体は底生性の甲殻類や軟体動物を主食としている。雌は産卵期前後に産卵地周辺の沿岸に出現するが、雄については知見が少ない。

## 【生息状況】

県内沿岸のほぼ全域で亜成体と成体が確認されている。主な産卵地は生見海岸（東洋町）、元海岸（室戸市）、高知海岸（高知市・土佐市）、入野海岸（黒潮町）、双海・平野海岸（四万十市）、大岐海岸（土佐清水市）である。

## 【保全・保護対策】

2004年に高知県うみがめ保護条例が制定され、室戸市の元・岩戸・奈良師海岸うみがめ生育地等保護区と、土佐清水市の大岐浜うみがめ生息地等保護区が設定されている。産卵地において市民と連携し、調査と実態に則した保全が望まれる。

## 【執筆者】

斉藤知己

無尾目アカガエル科

# ニホンアカガエル

*Rana japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵8

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

生息地は低地に限られるが、産卵場所の環境が変化し、生息できなくなった地域が複数確認された。特に冬季に水が溜まっている産卵に適した水田や湿地の減少が顕著で、絶滅の危険性がきわめて高い。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州およびその周辺の島嶼

## 【県内での分布】

東洋町から宿毛市までの6市2町

## 【生物学的特性】

全長45~60mmで、雌が雄よりも大きい。背面は赤褐色で、背側線は鼓膜の後方で途切れない。腹面は茶色がかった白色で、近縁種であるヤマアカガエルに見られる喉の黒斑はない。幼生の背面に1対の黒斑がある。繁殖期は1月から2月中旬で、直径10cmほどの卵塊を水田や湿地の浅い水溜まりに産む。幼生は5月上旬に変態して上陸する。性成熟には1ないし2年を要し、寿命は3年程度である。

## 【生息環境】

主に低標高地域に生息し、高標高地域での情報は少ない。産卵場所は冬季でも水が溜まっている水田や湿地である。非繁殖期は産卵場所周辺の森林や草地で生活する。このため、産卵場所と非繁殖期の生活場所が隣接し、自由に行き来できる環境が必要である。

## 【生息状況】

東洋町と四万十市では生息地と個体数が比較的多い。しかしながら、その他の地域では確認例が少なく、また、地点ごとの生息数も少ない。近年、個体が確認されていた場所周辺の環境が変化し、生息の確認ができなくなった場所が見られはじめた。四万十市では河川敷の水溜まりで産卵が確認されていたが、その場所が陸地化した。高知市では産卵が確認されていた水田周辺の森林が宅地化され、産卵が確認されなくなった。

## 【保全・保護対策】

繁殖期である冬季に水が溜まっている産卵場所を維持すること、産卵場所周辺の森林や草地を保全し、非繁殖期の生活場所を確保するとともに、繁殖期と非繁殖期のそれぞれの生活空間の行き来ができるようにすることが重要である。

## 【執筆者】

谷地森秀二

有尾目サンショウウオ科

# トサシミズサンショウウオ

*Hynobius tosashimizuensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

表紙

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

1972年に発見された生息地以外に新たな確認例がなく、きわめて限られた地域のみで生息している。産卵場所の数が減少しており、森林の伐採による乾燥化および開発による生息地の消滅が懸念される。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

土佐清水市

## 【生物学的特性】

雄の全長は100～147mm、体重は7.2～20.8g。雌の全長は106～139mm、体重は7.2～19.2g。体の背面は黄緑褐色で、腹面は灰色。産卵は1月から4月に池沼の浅瀬および林内の小さな沢の溜りで行われる。卵嚢はコイル型で1対になっており、水中の小枝や石に引っ掛けるように産み付ける。一腹卵数は49～141個。約1か月で孵化した幼生は、止水性サンショウウオの特徴であるバランサーをもち、6月から9月に変態を終えて上陸する。

## 【生息環境】

丘陵地にある照葉樹林内やスギなどの人工林内の小さな沢の溜りや、林縁の池沼などの周辺に生息する。産卵や幼生の成育には、比較的浅く濁水しない止水域が必要である。また、成体や幼体の生活には、止水域に隣接して餌となるクモ、昆虫、ミミズが豊富な林や草地が必要である。

## 【生息状況】

サンショウウオ科の中では分布域が狭く、高知県土佐清水市でのみ確認されている。1972年の発見当初に比べて産卵場所の数が減少しており、生息域も狭められている。かつての安定した産卵場所は壊滅に近い状態であり、人工池において産卵が維持されている。

## 【保全・保護対策】

絶滅のおそれが高くて高く、適切な保護が必要との判断により、土佐清水市の天然記念物として保護されることとなった（2017年4月1日指定）。

## 【特記事項】

高知県レッドリスト（動物編）2017改訂版ではオオイタサンショウウオ *Hynobius dunni* として扱われたが、その後 Sugawara *et al.* (2018) により新種トサシミズサンショウウオ *H. tosashimizuensis* として記載された。

## 【執筆者】

渡部 孝

有尾目サンショウウオ科

# カスミサンショウウオ

*Hynobius nebulosus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

1967年ごろには県東部のごく限られた地域にわずかに生息していたとされている。もともと個体数は多くなかったとされ、2002年の絶滅危惧ⅠA類指定時から現在に至るまで個体の確認がなされていない。

## 【国内分布の概要】

岐阜県以西の本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県東部

## 【生物学的特性】

全長は84～118mm程度。体色は背面が暗褐色や緑褐色。尾は側扁し、上縁に黄色条線のある個体が多い。前後肢を体側に沿って折り返しても指間はかなり離れる。卵嚢はバナナ型または小さく巻いたひも状で1対になっており、水中の小枝や石に引っ掛けるように産み付ける。孵化した幼生は止水性サンショウウオの特徴であるバランサーをもつ。国内に広く分布し、個体群間で形態および遺伝的な相違があるとされている。

## 【生息環境】

主に低地から丘陵地の水田や湧水地と隣接した林および草地に生息する。産卵や幼生の成育には比較的浅く、濁水しない止水が必要である。また、成体や幼体が生活するためには餌となるクモ、昆虫、ミミズが豊富な土壌が止水域に隣接して存在する必要がある。

## 【生息状況】

県内に局地的に生息していたとされ、1967年ごろの県東部におけるごくわずかな生息例がある。その後、生体の発見や生息を裏付ける画像がなかったが、近年、かつての生息湿地と思われる土地の所有者から目撃情報が寄せられた。徳島県南部の牟岐町においては、住宅地周辺や離島を含む多様な水域環境に生息している。

## 【保全・保護対策】

牟岐町の生息状況を吟味した上で、生息確認のための調査を継続する必要があるとともに、毎年継続して安定した水量を確保できる産卵場所の整備、水源涵養および成体と幼体が生活できる環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

渡部 孝



カメ目ウミガメ科

# アオウミガメ

*Chelonia mydas*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵8

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

近年、本種が県内沿岸藻場を摂餌場として恒常的に利用していることが認められているが、沿岸環境の悪化や混獲が問題視されている。

## 【国内分布の概要】

日本での産卵地は小笠原諸島と南西諸島

## 【県内での分布】

東部から西部までの沿岸域

## 【生物学的特性】

頭はアカウミガメより小さく、前額板が2枚、下顎縁辺が鋸歯状である。背甲は楕円形で、緑褐色から黒褐色まで変異に富む。通常、肋甲板は4枚、椎甲板は5枚である。成体サイズで平均甲長約90cmになる。日本の沿岸を摂餌海域としている集団は遺伝子解析によりインドネシア、八重山諸島を含む西部太平洋のさまざまな産卵地で生まれた個体であることが判明しているが、室戸沖に回遊する集団は小笠原諸島で生まれた集団の割合が最も高いと推定されている。

## 【生息環境】

世界の温・熱帯域に分布するが、産卵場は熱帯域に限られる。国内では南西諸島以北には産卵場は無いとされ、本県でも産卵の観察例は皆無である。しかし、県内沿岸の藻場を摂餌場として恒常的に利用していると考えられる。甲長25～30cmの幼体が見つかることはまれで、この間の生活史は不明である。県内の沿岸域では甲長40～60cmの亜成体が周年確認される。

## 【生息状況】

県内全域の定置網で亜成体と成体が確認されている。また、県内沿岸各地の磯で、漁業者やダイバー、釣り人による目撃情報がある。

## 【特記事項】

小笠原諸島および沖縄県では制限頭数内の捕獲が認められている。

## 【執筆者】

斉藤知己

有尾目サンショウウオ科

# コガタブチサンショウウオ

*Hynobius stejnegeri*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵8

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内の限られた山地森林および源流部に生息するが、個体数は多くない。近年の自然災害や林道敷設により生息環境が悪化し、生息地および産卵場所の減少が確認されている。

## 【国内分布の概要】

京都府、兵庫県を除く本州中部以西、四国、九州の一部

## 【県内での分布】

大豊町、大川村、高知市

## 【生物学的特性】

県内の個体の全長は90～125mm。体側は紫色を帯びた褐色で、尾部にかけて銀白色の地衣状斑紋が顕著に広がる。主に5月にガレ場の伏流水中に産卵する。コイル状の卵嚢は透明で丈夫であり、長さ約100mm、一腹卵数は約20。孵化後の幼生は同所に産卵するタゴガエルのオタマジャクシに似て薄紫色をしており、腹部の大きな卵黄が目立つ。また、この卵黄のみで変態までのおよそ2か月間伏流水中に留まり、これを見かける機会はまずない。

## 【生息環境】

標高900m以上の山地森林、常緑・落葉広葉樹林の源流部の溪谷や枝沢周辺の林床湿地部の限られたガレ場周辺に生息する、日中は石やコケの下、土中に潜んでいる。

## 【生息状況】

県内に生息する流水性小型サンショウウオの中ではもともと個体数が少ない。2002年以降、生息が確認できない地点が増えている。

## 【保全・保護対策】

皆伐や林道整備により生息地の周辺が乾燥し、また、産卵場となるガレ場と伏流水の消失により生息環境が悪化しており、早急な対策が必要である。

## 【特記事項】

四国、近畿、本州中部以西、北西部を除く九州に分布するブチサンショウウオ *H. naevius* は中国地方と九州北西部に分布する個体群とは異なるとして、コガタブチサンショウウオ *H. stejnegeri* とされた。

## 【執筆者】

吉川貴臣

有尾目サンショウウオ科

# シコクハコネサンショウウオ

*Onychodactylus kinneburii*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵8

## 【選定理由】

生息地周辺の皆伐と、砂防堰堤整備による生息地の破壊と分断により生息環境が悪化し、絶滅が懸念される。

## 【国内分布の概要】

香川県を除く四国、中国地方の一部

## 【県内での分布】

香美市、いの町、高知市

## 【生物学的特性】

県内の個体は全長130~175mm。体は黒褐色で、鮮やかな朱色の帯状斑紋が背面にある。本種を含むハコネサンショウウオ属は国内の有尾目の中で唯一、肺を持たないグループである。5月中旬から6月中旬に、陽の差し込まない場所の冷たい湧き水や伏流水が流れる土中、巨大な岩の積み重なるの深部に産卵するが、卵囊の発見は難しい。長さ50mmほどの卵囊の表皮は丈夫で、一腹卵数は約20。孵化後の幼生は腹部の大きな卵黄が目立つ。卵黄を吸収するころになると溪流に適応した体型となり、黒い爪が生えそろうて行動範囲を広げる。

## 【生息環境】

標高の高い山地森林に見られ、限られた山地森林および溪流の周辺に生息する。成体は常緑および落葉広葉樹林内の溪谷や支沢周辺の林床湿地部に生息し、日中は石やコケの下、土中に潜んでいる。幼生の水中生活は3年以上と長く、

通年、溪流で見られる。

## 【生息状況】

標高700m以上の涼しい山地森林の溪流を好むが、近年の温暖化による集中豪雨、鉄砲水や土砂崩れ、自然災害に備えるための砂防堰堤の整備による生息環境の悪化で、個体数が年々減少している。

## 【保全・保護対策】

皆伐や林道整備により生息地周辺が乾燥し、また、産卵場となるガレ場と伏流水の消失が見られ、早急な対策が必要である。

## 【特記事項】

香川県を除く四国と中国地方の一部に分布するハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* は、中国地方の一部を除く本州に分布する個体群とは形態的および遺伝的に異なるとされ、シコクハコネサンショウウオ *O. kinneburii* とされた。

## 【執筆者】

吉川貴臣

有尾目サンショウウオ科

# イシヅチサンショウウオ

*Hynobius Hirosei*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵8

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内の山地森林および溪流に生息するが、自然災害や土木工事により生息環境が悪化し、個体数が減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

四国全県

## 【県内での分布】

香美市から四万十市までの8市町

## 【生物学的特性】

県内の個体は全長140~175mm。体色は茄子紺一色で、まれに尾部に銀灰色の斑紋がある。小型無脊椎動物を捕食し、主に5月に溪流中の岩の下で産卵する。幼生の指先に黒い爪がない。冬眠し、翌年または翌々年の初夏に変態する。したがって、生息地内の溪流では通年、大小の幼生が確認される。

## 【生息環境】

源流域に近い山地の常緑・落葉広葉樹林、針葉樹植林内の溪流や沢、伏流水が滲み出る林床に生息する。行動範囲は広い。

## 【生息状況】

標高600m以上の山地森林を流れる溪谷で確認される。幼生はシコクハコネサンショウウオと同所的に生息するが、指先の爪の有無で識別できる。

## 【特記事項】

四国に生息するオオダイガハラサンショウウオ個体群とされていたが、2008年に改めて独立種イシヅチサンショウウオ *Hynobius Hirosei* として認められた。

## 【執筆者】

吉川貴臣

爬虫類  
両生類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

カメ目スッポン科

# ニホンスッポン

*Pelodiscus sinensis*

高知県：情報不足 (DD)

口絵8

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

**【選定理由】**

目撃情報はあるが、県内の生息状況は一部を除き不明である。他県から持ち込まれた養殖個体の逃亡記録が残っているため、国内由来の外来種の可能性もある。

**【国内分布の概要】**

本州、四国、九州

**【県内での分布】**

県中央部を中心とした室戸市から土佐清水市までの10市町

**【生物学的特性】**

甲長30cm程度で、甲羅は柔らかい。動物食の強い雑食性で、魚や甲殻類を中心にさまざまな餌を食べる。

**【生息環境】**

砂泥質の河川や湖沼に生息する。普段は泥底に潜ったり岩かげに隠れたりしているが、石の上で日光浴も行う。

**【生息状況】**

生息情報が以前からあり、野外で安定的に生息していると考えられる。県中西部で生息情報が多く得られているが、その他の地域における生息状況は不明である。

**【保全・保護対策】**

分布を明らかにするとともに、養殖記録があることからDNA分析により在来種かどうかの確認が必要である。

**【執筆者】**

金城芳典

有鱗目ヤモリ科

# タワヤモリ

*Gekko tawaensis*

高知県：情報不足 (DD)

口絵8

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

自然度が高い限られた環境に生息するが、確認記録が少ないことから生息数は少ないと考えられ、調査の必要がある。

**【国内分布の概要】**

本州と大分県の瀬戸内海沿岸部、四国全県、宮崎県

**【県内での分布】**

県東部の一部と須崎市以西の県西部

**【生物学的特性】**

全長100～140mm。胴背面の大型鱗を欠く。小型無脊椎動物を捕食し、主に露岩の隙間で産卵する。

**【生息環境】**

自然海岸や丘陵地の露岩のある山林環境に生息し、その周辺の建物や擁壁工でもしばしば見られる。

**【生息状況】**

沿岸部に生息するが、全県的な分布情報は不足しており、ニホンヤモリとの競合や自然交雑が懸念される。

**【保全・保護対策】**

自然海岸や生息地の環境改変を回避することが重要である。

**【執筆者】**

谷岡 仁

有尾目オオサンショウウオ科

# オオサンショウウオ

*Andrias japonicus*

高知県：情報不足 (DD)

口絵8

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

近年、県内の河川で卵と幼生が発見され、遺伝子解析により本種であることが確認されたが、自然分布か否かを判断するための情報が不足している。

**【国内分布の概要】**

岐阜県以西の本州、四国、九州の一部

**【県内での分布】**

安芸川、吉野川、物部川、国分川、仁淀川、渡川水系

**【生物学的特性】**

全長750～950mmに達する。本種の地域ごとの遺伝的変異に関する調査はなされているが、高知県の個体群に関しては情報が少ない。

**【生息環境】**

繁殖場所は水中の横穴で、奥にわずかな湧水があることが不可欠と考えられる。幼生は水底の落ち葉溜りで発見されることから、周辺の森林植生も本種の生息環境を維持するために重要である。

**【生息状況】**

2015年以降の県内での調査において、仁淀川水系で成体5個体、幼生145個体と卵が発見された。この地域以外では、本州からの移入が確認された例もある。

**【保全・保護対策】**

国の特別天然記念物である。生息地域の住民との保護・監視体制の構築が必要と考えられる。

**【特記事項】**

四国で本種の化石が発見されている。外来種のチュウゴクオオサンショウウオ *Andrias davidianus* との競合および遺伝的攪乱が懸念される。卵は四国初の確認である。

**【執筆者】**

坂本美々



〈文献一覧〉

- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会 (編). 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014 RED DATA BOOK EHIME —愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物— 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山, 623 pp.
- Hamabata, T., S. Nishida, N. Kamezaki and H. Koike. 2009. Genetic structure of populations of the green turtle (*Chelonia mydas*) in Japan using mtDNA control region sequences. Bull Graduate School Soc Sci Cultural Stud, Kyusyu Univ, 15: 35-50.
- 生駒義博 (編). 1973. 日本ハンザキ集覧. 津山科学教育博物館, 岡山, 480 pp.
- 亀崎直樹 (編). 2012. ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会, 東京, 307 pp.
- 環境庁 (編). 1982. 日本の重要な両生類・は虫類の分布 (全国版). 大蔵省印刷局, 東京, 263 pp.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編). 2014. レッドデータブック2014 —日本の絶滅のおそれのある野生生物— 3 爬虫類・両生類. ぎょうせい, 東京, 153 pp.
- 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
- 小原二郎. 1985. 大山椒魚. どうぶつ社, 東京, 236 pp.
- 小牧祐里・谷地森秀二・斉藤知己・加藤元海. 2016. 高知県東洋町の生見海岸におけるアカウミガメ卵のキツネによる食害とその対策. 黒潮圏科学, 9: 164-173.
- 桑原一司. 2013. オオサンショウウオの現在. 東広島市の自然, (44): 3-14.
- 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版日本カエル図鑑. 文一総合出版, 東京, 223 pp.
- Matsui, M., A. Tominaga, W. Z. Liu and T. Tanaka-Ueno. 2008. Reduced genetic variation in the Japanese giant salamander, *Andrias japonicus* (Amphibia: Caudata). Mol Phyl Evol, 49: 318-326.
- 松井正文. 2009. 外来生物クライシス 皇居の池もウシガエルだらけ. 小学館, 東京, 254 pp.
- 松井正文 (編). 2017. これからの爬虫類学. 裳華房, 東京, 272 pp.
- Matsui, M., K. Nishikawa and A. Tominaga. 2017. Taxonomic relationships of *Hynobius stejnegeri* and *H. yatsui*, with description of the amber-colored salamander from Kyushu, Japan (Amphibia: Caudata). Zool Sci, 34: 538-545.
- 宮脇逸朗・亀崎直樹・Kolinski, S. 2000. ヤップ諸島から高知室戸へのアオウミガメの回遊例. うみがめニュースレター, (45): 13.
- 森川国康. 1975. 特別天然記念物オオサンショウウオの四国地方における分布. 愛媛の自然, 17: 11-13.
- 中西安男・吉川貴臣・清家晴男・久川智恵美・吉澤未来・山崎博継・大地博史・三宅由起・濱田早絵・渡部 孝. 2005. 高知県におけるオオイトサンショウウオの保護活動. 動物園水族館雑誌, 46: 125-130.
- Nishikawa, K., M. Matsui, S. Tanabe and S. Sato. 2007. Morphological and allozymic variation in *Hynobius boulengeri* and *H. stejnegeri* (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). Zool Sci, 24: 752-766.
- 西澤秀明. 2010. 遺伝からみる日本のウミガメ類の集団構造. 海洋と生物, (190): 419-423.
- Nishizawa, H., Y. Naito, H. Suganuma, O. Abe, J. Okuyama, K. Hirate, S. Tanaka, E. Inoguchi, K. Narushima, K. Kobayashi, H. Ishii, S. Tanizaki, M. Kobayashi, A. Goto and N. Arai. 2013. Composition of green turtle feeding aggregations along the Japanese archipelago: implications for changes in composition with current flow. Mar Biol, 160: 2671-2685.
- 大谷 勉. 2009. ポケット図鑑 日本の爬虫両生類157. 文一総合出版, 東京, 288 pp.
- Saito, T., M. Kurita, H. Okamoto, D. Parker, I. Uchida and G. Balazs. 2015. Tracking of male loggerhead turtle migrations around southwestern Japan using satellite telemetry. Chelonian Conserv Biol, 14: 82-87.
- 佐藤井岐雄. 1977. 日本産有尾類総説. 第一書房, 東京, 520 pp.
- 佐藤真一. 1996. 2. オオイトサンショウウオ サンショウウオ目 サンショウウオ科. (日本水産資源保護協会, 編: 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (Ⅲ)), pp. 244-249. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 澤田佳長. 1973. 野生動物調査 高知県産サンショウウオ. 中村高等学校研究紀要別冊号, 1-22.
- . 1982. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (両生類・は虫類) 1978 高知県 IV. (環境庁, 編: 日本の重要な両生類・は虫類 四国版), pp. 1-19. 大蔵省印刷局, 東京.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編). 2016. 滋賀県で大切にすべき野生生物 —滋賀県レッドデータブック2015年版—. 滋賀県自然環境保全課, 滋賀, 647 pp.
- Shikama, T. and Y. Hasegawa. 1962. Discovery of the fossil giant salamander (*Megalobatrachus*) in Japan. Trans Proc Palaeont Soc Jpn, 45: 197-201.
- 曾川和郎. 1977. 四国地方で発見捕獲されたオオサンショウウオについて. 徳島県立川島高等学校研究紀要, (1): 19-23.
- Sugawara, H., T. Watabe, T. Yoshikawa and M. Nagano. 2018. Morphological and molecular analyses of *Hynobius dunni* reveal a new species from Shikoku, Japan. Herpetologica, 74: 159-168.
- 高田榮一・大谷 勉. 2011. 原色爬虫類両生類検索図鑑. 北隆館, 東京, 292 pp.
- 谷岡 仁・谷地森秀二・美濃厚志. 2015. 高知県と愛媛県におけるタワヤモリ *Gekko tawaensis* の新産地. 四国自然史科学研究, (8): 22-25.
- 柄本武良. 1995. オオサンショウウオ サンショウウオ目 オオサンショウウオ科. 水産庁委託 “希少水生生物保存対策試験事業” (日本水産資源保護協会, 編: 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (Ⅱ)), pp. 422-428. 日本水産資源保護協会, 東京.

- 徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会. 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 —徳島県版レッドデータブック—. 徳島県環境生活部環境政策課, 徳島, 438 pp.
- Tominaga, A. and M. Matsui. 2008. Taxonomic status of a salamander species allied to *Hynobius naevius* and a reevaluation of *Hynobius naevius yatsui* Oyama, 1947 (Amphibia, Caudata). *Zool Sci*, 25: 107-114.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版日本の両生爬虫類. 平凡社, 東京, 335 pp.
- 上野俊一. 1976. 四国のオオイタサンショウウオ. 大平幸子 (編), pp. 8-11. 幡多の自然 第18回自然公園大会記念号, 幡多の自然を守る会, 高知.
- 和田真央子・藤本竜平・大山淳也・小林翔平・熊澤佳範・齊藤知己. 2017. 高知県仁淀川河口浜 (新居・仁ノ海岸) におけるアカウミガメの産卵生態および産卵場所の砂の粒径について. *黒潮圏科学*, 10: 136-147.
- 渡部 孝・中西安男・清家晴男・山崎博継・吉澤未来・久川智恵美・吉川貴臣・三宅由起・大地博史・武田早絵. 2013. 高知県におけるオオサンショウウオの分布生息調査 I (平成14年9月1日～平成18年12月31日). *わんぱくこうちアニマルランド研究記録集 II (開園20周年記念号)*, 22-26.
- 渡部 孝・中西安男・清家晴男・山崎博継・吉澤未来・久川智恵美・吉川貴臣・三宅由起・岡本宏昭・大地博史・武田早絵・早川大輔・山崎由希. 2013. 高知県におけるオオサンショウウオの分布生息調査 II (平成19年4月1日～平成24年3月31日). *わんぱくこうちアニマルランド研究記録集 II (開園20周年記念号)*, 67-78.
- 渡邊真子・谷地森秀二・齊藤知己・加藤元海. 2017. 高知県東洋町の生見海岸におけるアカウミガメの卵を狙う野生動物. *四国自然史科学研究*, (10): 9-15.
- Yoshikawa, N., M. Matsui, S. Tanabe and T. Okayama. 2013. Description of a new salamander of the genus *Onychodactylus* from Shikoku and western Honshu, Japan (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). *Zootaxa*, 3693: 441-464.
- 吉川貴臣・渡部 孝. 2009. 高知県におけるコガタブチサンショウウオの繁殖生態. *爬虫両棲類学会報*, 2009: 128-132.



## 概説

## 汽水・淡水産魚類

絶滅のおそれのある種は、改訂前は25種であったが本改訂では18種となり、7種減少した。ただしこの減少は生息環境が好転したことによるのではなく、分布ならびに生息状況がより詳細に把握されたことによりいくつかの種が絶滅危惧種のリストから除外されたことに起因しており、純淡水魚と両側回遊魚では個体群の維持がより厳しい状況になっていると判断される。以下に従前のレッドリストとの主な変更点を示す。

## 【不十分な記録に基づく種の整理】

過去に情報不足 (DD) とされていた種のうち、記録が不十分かもしくは無効分散と判断された以下の種をレッドリストの対象外とした：ミツバヤツメ、コウライニゴイ、メナダ、ナンヨウボラ、コボラ。

## 【移入・放流と判断され、リストから除外された種】

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) とされたタモロコ (四万十川・蛸瀬川水系個体群) は移入と考えられ、また、サツキマス (梶原川水系個体群) は放流されたアマゴとの交雑の可能性が否定できない。

## 【生息状況に基づきリストから除外された種】

アカメ：絶滅危惧IA類 (CR) とされていたが、東洋町から宿毛市に至る海岸の近く、内湾、感潮域に広く分布し、個体数を減少させる大きな要因がないことから、レッドリストから除外し、高知県の注目種に選定した。

ゴマハゼ：絶滅危惧IB類 (EN) とされ、確実に再生産が行われているのは黒潮町の蛸瀬川のみとされていたが、あしずり港、清水港、下ノ加江川、四万十川、浦ノ内湾の中部と最奥部に蛸瀬川の個体群をはるかに凌ぐ大きな個体群が確認された。

カワヨウジ：絶滅危惧IB類 (EN) とされていたが、浦戸湾と浦ノ内湾は湾口が狭く、河川もしばしば長期にわたり閉塞することから、外海性が強い本種が過大に評価されていたとみなした。

クボハゼ：絶滅危惧IB類 (EN) とされていたが、県内に多産するヨコヤアナジャコと密接な関係があることでリストから除外し、高知県の注目種に選定した。

スミウキゴリ、ボウズハゼ、マサゴハゼ、カワアナゴ、ベニツケサツキハゼ：準絶滅危惧 (NT) に指定されていたが、より広く分布することが判明した。ただし、ボウズハゼは小規模河川でも普通に見られ、冬季にも感潮域で成長した個体が見られることから、注目種に選定した。

クロホシマンジュウダイとギマ：四万十川河口域で知られており、準絶滅危惧 (NT) に指定されていたが、分布域が徐々に東に拡大し、浦戸湾では両種の成魚が釣りでも普通に得られるようになった。海水温の上昇による可能性が高い。

ビリンゴ (浦ノ内湾流入河川個体群)、クロヨシノボリ (浦ノ内湾流入河川個体群)、カワヨシノボリ (桜川水系個体群)：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) とされていたが、個体数に顕著な減少傾向が認められないことでレッドリストから除外した。

## 【ランクが下がった種】

ヨウジウオ：絶滅危惧IA類 (CR) とされていたが、カワヨウジと同様の理由で準絶滅危惧 (NT) とした。

チワラスボC種 (暫定リストではチワラスボ属の一種)：絶滅危惧IA類 (CR) とされていたが、それほど危険性がないことから絶滅危惧II類 (VU) とした。

オオウナギ：絶滅危惧IB類 (EN) とされていたが、いくつかの河川で新たに生息が記録されたため絶滅危惧II類 (VU) とした。

ヒモハゼ、タネハゼ、アシシロハゼ：絶滅危惧IB類 (EN) とされていたがより広範囲に生息していることが判明し、準絶滅危惧 (NT) とした。

## 【情報不足へ変更となった種】

アカザとアカザ属の一種：アカザとして絶滅危惧IB類 (EN) にされていた。ともに個体数は少なくないと考えられるが、分布域の解明が今後の課題となるため情報不足 (DD) とした。

ダイミョウサギとクロコハゼ：準絶滅危惧 (NT) とされていたが、個体数が少なく、情報不足 (DD) とした。

ギギ：吉野川の個体群は絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) とされていたが、一部に移入された可能性が否定できない。そのため在来個体群を含めた遺伝子解析が必要であり、情報不足 (DD) とした。

## 【ランクの変更がなかった種】

スナヤツメ (南方種)、ヤリタナゴ、ヒナイシドジョウ、ミナミメダカ、シロウオ、イドミミズハゼ：スナヤツメ (南方種) が絶滅危惧IA類 (CR) で他は絶滅危惧IB類 (EN) であったが、これらは絶滅危惧I類 (CR+EN) と判断された。イドミミズハゼは絶滅危惧IB類 (EN) で、新莊川個体群が絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) とされていたが、後者を指定する根拠はなくなった。

タビラクチ、トビハゼ、ドロクイ、カマキリ (アユカケ)：従来と変わりなく絶滅危惧II類 (VU) と判断され



た。ただし、生息調査が困難になりつつある種も含まれている。

チチブとチチブモドキ：従来と変わりなく準絶滅危惧 (NT) とした。

ドウクツミミズハゼ：新たな情報がなく、従来と同じ情報不足 (DD) とした。

### 【ランクが上がった種】

モツゴ, オオシマドジョウ, トサシマドジョウ, ドジョウ：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) であったが、これらは絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) と判断された。

### 【情報不足から変更となった種】

オクヨウジ, ツマグロスジハゼ, オカメハゼ, フナ (在来個体群)：準絶滅危惧 (NT) が適切であると判断された。

### 【新たに追加された種】

アマゴ (在来亜種)：いくつかの河川で確認されたが、それぞれの生息地が狭いことから絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) とした。

ドンコ：県西部以外では確認が困難になりつつあり、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定した。

ヌマチチブ, ニホンウナギ：いずれも個体数の減少と生息環境の悪化が著しいと判断されたため準絶滅危惧 (NT) とした。

### 【暫定リスト公表後に追加された種】

セダカダイミヨウサギとチワラスボB種：保存標本が高知大学で確認されたがともに個体数が少なく、情報不足 (DD) とした。

### 【絶滅種についての覚え書き】

2002年に小卵回遊型カジカ ? *Cottus reinii* として公表された種が県内唯一の絶滅種である。改訂にあたり標本を再検討した結果、ウツセミカジカ (回遊型) *Cottus reinii* と判断された。しかしながら、この種には分類学上の問題があると考えられる。なお、1954年の奈半利川産の標本が高知県の最後の個体として公表されたが、1969年5月15日に愛媛大学の伊藤猛夫・水野信彦両氏がいの町の仁淀川の八田堰で全長6.9cmの個体を採集している。

町田吉彦

高知県レッドリスト（汽水・淡水産魚類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ウツセミカジカ（回遊型）</b> <i>Cottus reinii</i>	絶滅	絶滅	和・学名変更 小卵回遊型カジカ
<b>スナヤツメ（南方種）</b> <i>Lethenteron</i> sp. S	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	初版スナヤツメ
<b>モツゴ</b> <i>Pseudorasbora parva</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ヤリタナゴ</b> <i>Tanakia lanceolata</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	
<b>ヒナイシドジョウ</b> <i>Cobitis shikokuensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	和・学名変更 初版イシドジョウ近似種
<b>オオシマドジョウ</b> <i>Cobitis</i> sp. BIWAE type A	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	和名・仮称変更 シマドジョウ4倍体性種
<b>トサシマドジョウ</b> <i>Cobitis</i> sp. BIWAE type D	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	和名・仮称変更 シマドジョウ2倍体性種
<b>ドジョウ</b> <i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>アマゴ（在来亜種）</b> <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>ミナミメダカ</b> <i>Oryzias latipes</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	初版メダカ
<b>シロウオ</b> <i>Leucopsarion petersii</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	
<b>イドミミズハゼ</b> <i>Luciogobius pallidus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類 絶滅のおそれのある地域個体群 新荘川個体群	
<b>オオウナギ</b> <i>Anguilla marmorata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
<b>ドロクイ</b> <i>Nematalosa japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>カマキリ（アユカケ）</b> <i>Cottus kazika</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ドンコ</b> <i>Odontobutis obscura</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>タビラクチ</b> <i>Apocryptodon punctatus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>トビハゼ</b> <i>Periophthalmus modestus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>チワラスボC種</b> <i>Taenioides</i> sp. C	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠA類	和名・学名変更 チワラスボ
<b>ニホンウナギ</b> <i>Anguilla japonica</i>	準絶滅危惧		

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>フナ（在来個体群）</b> <i>Carassius</i> sp.	準絶滅危惧	情報不足	分類学的に未整理
<b>ヨウジウオ</b> <i>Syngnathus schlegeli</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IA類	
<b>オクヨウジ</b> <i>Urocampus nanus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>チチブモドキ</b> <i>Eleotris acanthopoma</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>オカメハゼ</b> <i>Eleotris melanosoma</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>ヒモハゼ</b> <i>Eutaeniichthys gilli</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	
<b>タネハゼ</b> <i>Callogobius tanegasimae</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	
<b>アシシロハゼ</b> <i>Acanthogobius lactipes</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	
<b>ツマグロスジハゼ</b> <i>Acentrogobius</i> sp.	準絶滅危惧	情報不足	和名・学名変更
<b>ヌマチチブ</b> <i>Tridentiger brevispinis</i>	準絶滅危惧		
<b>チチブ</b> <i>Tridentiger obscurus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ギギ</b> <i>Tachysurus nudiceps</i>	情報不足	絶滅のおそれのある地域個体群 吉野川水系個体群	
<b>アカザ</b> <i>Liobagrus reini</i>	情報不足	絶滅危惧IB類	
<b>アカザ属の一種</b> <i>Liobagrus</i> sp.	情報不足	絶滅危惧IB類	
<b>セダカダイミョウサギ</b> <i>Gerres akazakii</i>	情報不足		
<b>ダイミョウサギ</b> <i>Gerres japonicus</i>	情報不足	準絶滅危惧	
<b>チワラスボB種</b> <i>Taenioides</i> sp. B	情報不足		
<b>クロコハゼ</b> <i>Drombus</i> sp.	情報不足	準絶滅危惧	
<b>ドウクツミミズハゼ</b> <i>Luciogobius albus</i>	情報不足	情報不足	
<b>クロヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius brunneus</i>	絶滅のおそれのある地域個体群 灰方川個体群	絶滅のおそれのある地域個体群 浦ノ内湾流入河川個体群	学名変更

高知県レッドリストから除外された種および亜種（汽水・淡水産魚類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
アカメ <i>Lates japonicus</i>	除外	絶滅危惧IA類	注目種
カワヨウジ <i>Hippichthys spicifer</i>	除外	絶滅危惧IB類	
クボハゼ <i>Gymnogobius scrobiculatus</i>	除外	絶滅危惧IB類	注目種
ゴマハゼ <i>Pandaka</i> sp.	除外	絶滅危惧IB類	
スミウキゴリ <i>Gymnogobius petschiliensis</i>	除外	準絶滅危惧	
ボウズハゼ <i>Sicyopterus japonicus</i>	除外	準絶滅危惧	注目種
マサゴハゼ <i>Pseudogobius masago</i>	除外	準絶滅危惧	
ビリンゴ <i>Gymnogobius breunigii</i>	除外	絶滅のおそれのある地域個体群 浦ノ内湾流入河川個体群	学名変更
カワアナゴ <i>Eleotris oxycephala</i>	除外	準絶滅危惧	
ベニツケサツキハゼ <i>Parioglossus philippinus</i>	除外	準絶滅危惧	
クロホシマンジュウダイ <i>Scatophagus argus</i>	除外	準絶滅危惧	
ギマ <i>Triacanthus biaculeatus</i>	除外	準絶滅危惧	
ミツバヤツメ <i>Entosphenus tridentatus</i>	除外	情報不足	
コウライニゴイ <i>Hemibarbus labeo</i>	除外	情報不足	
メナダ <i>Chelon haematocheilus</i>	除外	情報不足	
ナンヨウボラ <i>Moolgarda perusii</i>	除外	情報不足	
コボラ <i>Planiliza macrolepis</i>	除外	情報不足	
タモロコ <i>Gnathopogon elongatus</i>	除外	絶滅のおそれのある地域個体群 四万十川・蛸瀬川水系個体群	
サツキマス <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	除外	絶滅のおそれのある地域個体群 梶原川水系個体群	陸封型のアマゴ(在来亜種) は新たに絶滅危惧I類
カワヨシノボリ <i>Rhinogobius flumineus</i>	除外	絶滅のおそれのある地域個体群 桜川水系個体群	



ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科

# スナヤツメ (南方種)

*Lethenteron* sp. S

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

2002年当時と比べて生息状況がやや悪化した。

## 【国内分布の概要】

近畿以西の本州、四国、宮崎県を除く九州

## 【県内での分布】

吉野川水系

## 【生物学的特性】

全長20cmほどになる。無顎上綱頭甲綱に分類され、顎を持たないため魚類に含めない場合もある。非寄生性で、一生を淡水で過ごす。生後4年目の夏から秋に変態し、成体となった後は消化管が退化して摂餌を行わない。翌春、浮き石状態の礫底に集まって産卵し、その後死亡する。

## 【生息環境】

河川の中・上流域、周辺水路、湧水池に生息する。アンモシテス幼生は分解途上の植物質が厚く堆積した河床に潜って生活し、デトリタスや藻類を食べる。

## 【生息状況】

自然分布域である吉野川水系では生息状況が悪化しており、以前アンモシテス幼生が多く見られた場所でも容易に確認されなくなっている。

## 【保全・保護対策】

県内では特に保護対策はなされていない。日項目にする機会の少ない種であるため、生息地でも存在が認知され難く、特に配慮のないままに土木工事が行われることが多い。また、特殊な生態から、一般的な魚類調査では確認されないことが多い。実効性のある保護対策が望まれる。

## 【特記事項】

従来1種として扱われていたスナヤツメに遺伝的に分化した2群（北方種と南方種）が認められ、これらは同所的に生息する場合でも交雑しないことから、別種と推定されている。四国には南方種のみが分布するとされ、県内では昭和の初期に吉野川から移入された仁淀川水系でもまれに個体が確認される。

## 【執筆者】

高橋弘明

コイ目コイ科

# モツゴ

*Pseudorasbora parva*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

生息地の減少と個体数の減少が進行中で、より高いランクが妥当であると判断された。

## 【国内分布の概要】

自然分布域は関東地方以西の本州、四国、九州

## 【県内での分布】

香南市、南国市、高知市、日高村、四万十市

## 【生物学的特性】

一般的な遊泳性のコイ科魚類の体形をしている小型種で、全長13cmになる。口は小さく、斜位で、他のコイ科の種との識別は容易であり、口ひげを欠く。雑食性で、付着藻類や底生動物を餌とし、成魚はユスリカの幼虫を主に食することが知られている。抽水植物の茎の表面および石やコンクリートの壁面に卵を産みつける。寿命は3ないし5年とされている。

## 【生息環境】

水質汚濁に比較的耐性があるとされている。流速の遅い細流に多く、底に泥が堆積して水生植物が生育している環境を好む。

## 【生息状況】

香南市の生息場所は限定されている。南国市では物部川から導かれた用水路と池につらなる用水路に生息しているが、個体数は多くない。高知市の鏡川水系ではすでに絶滅したと考えられ、高知市内で見られるのは仁淀川からの水が流れ込んでいるごく一部の場所ではない。県西部の渡川水系は魚類相が豊富なことで知られているが、渡川水系では本種はもともと少ない。現時点で比較的安定した個体群があるのは仁淀川水系のごく一部ではない可能性が高いが、面積的に広いとは言えない。

## 【保全・保護対策】

高知県では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とされてきたが、県内では本種の存在が注目されたことはなく、保護の対象ではなかった。その一因として、かつては市街地の水路でも普通に見られたことが挙げられるだろう。現在の生息地の岸辺の保全と、人工の水路の場合は流速に変化をつける工夫が必要である。

## 【執筆者】

町田吉彦

コイ目コイ科

# ヤリタナゴ

*Tanakia lanceolata*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息環境の悪化や生息地の消失に伴い、危機的な状態が深刻化しつつある。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州北部

## 【県内での分布】

いの町、四万十市

## 【生物学的特性】

本種はタナゴ亜科のうち県内に産する唯一の在来種である。全長12cmほどに成長する。体は側扁し、口角に1対の長いひげがある。背鰭の基底は短く、鰭条間の鰭膜に1個のやや黒くて細長い斑紋がある。側線は完全で、側線鱗数は36~39とされている。雌は長い産卵管をそなえ、マツカサガイやニセマツカサガイを産卵母貝として利用する。雑食性で、付着藻類や底生動物を餌とする。寿命は2ないし3年で、1年で成熟するとされている。

## 【生息環境】

河川の中・下流に生息するとされるが、高知県内では平野部の細流で確認されている。まったくの止水域には生息せず、ゆるやかな流れがあり、水草が茂った場所に多い。

## 【生息状況】

生息地は仁淀川水系および渡川水系のごく一部に限定されており、いずれの場所でも個体数は少なく、安定した個体群であるとはみなせない。また、場所によりオオクチバスとブルーギルの影響が懸念される。県中部の浦戸湾流入河川と南国市の河川では生息確認の努力がさらに必要である。県西部の黒潮町の河川の下流ではかつて確実な生息情報があったが、2014年8月の台風により生息地が大きく破壊され、現時点で生息が確認されていない。

## 【保全・保護対策】

生息地には流れが直線化された所もあるが、川岸を複雑化し、また、水草が繁茂する環境を維持する必要があると同時に水草の管理が重要となる。状況はかなり切迫しており、自然状態での飼育による保護を検討する必要があるかもしれない。

## 【執筆者】

町田吉彦

コイ目ドジョウ科

# ヒナイシドジョウ

*Cobitis shikokuensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

2002年当時よりも生息状況が悪化している。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

仁淀川水系、渡川水系を含む5水系

## 【生物学的特性】

雌は全長7cm、雄は5cmほどになる。水系ごとに遺伝的に分化しており、表現型の変異も大きい。特に斑紋は水系ごとに異なり、Ⅰ~Ⅲ型に類型化されている。県内にはこのうちのⅠ型とⅢ型が生息する。

## 【生息環境】

清冽な河川の中・上流域の礫底に生息するが、下流域で確認されることもある。水温が15℃以下となる秋から翌年春まで河床の間隙に潜って生活するほか、産卵と仔魚の成育も河床の間隙で行われるため、伏流水が豊富で浮石状態が保たれた河床を必要とする。

## 【生息状況】

渡川水系以外の4水系では分布範囲が狭く、個体数も少ない。2002年以降の15年間で姿がほとんど見られなくなった生息地が複数ある。土木工事により生息地が消滅することが多い。

## 【保全・保護対策】

県指定希少野生動物植物に指定され、捕獲、採取、殺傷または損傷が禁止されている。生息地およびそれに隣接する場所での工事に際しては、規模の大小にかかわらず本種に対する事前調査に基づいた影響評価を義務づけるべきである。特に小規模河川の場合は、工事が決定的な影響をおよぼさぬよう注意を払う必要がある。

## 【特記事項】

四国産のイシドジョウは本州および九州産のイシドジョウと形態学的に異なり、また、遺伝的に異なることから、ヒナイシドジョウとして新種記載された。タイプ産地は四万十川の一支流で、高知県と愛媛県の一部にのみ分布する四国固有種であり、学術的な価値が高い。

## 【執筆者】

高橋弘明

コイ目ドジョウ科

# オオシマドジョウ

*Cobitis* sp. BIWAE type A

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

2002年当時と比較して個体数に著しい減少傾向が認められる。

## 【国内分布の概要】

近畿以西の本州，四国，大分県

## 【県内での分布】

野根川水系，吉野川水系

## 【生物学的特性】

雌は全長13cm，雄は10cmほどになる大型のシマドジョウ属。同属の他種とは尾鰭基部の黒色斑の形状と，雄の胸鰭基部にある骨質盤の形態により識別される。他のシマドジョウ種群は全て2倍体性であるが，本種は4倍体性で，染色体数は96。

## 【生息環境】

河川の中流域やこれに繋がる周辺水路の砂礫底に生息する。県内での産卵生態については不明であるが，本州では5月から6月ごろ，農業用水路や低水路内の湾処やクリークに進入し，水に浸かった草本の茎や根，浅い砂泥底に産卵することが知られている。

## 【生息状況】

県内で確実に生息しているのは野根川水系のみであり，吉野川水系では15年以上確認されていない。河川改修や圃場整備により，産卵場となる水路や水田への移動の阻害に加え，産卵場自体が消失している可能性がある。

## 【保全・保護対策】

保護対策は行われていない。生息地およびそれに隣接する場所で工事を行う際には，規模の大小にかかわらず事前調査の実施と生息に配慮した対策が望まれる。特に河床環境や水際の植生に影響をおよぼす可能性がある場合には注意が必要である。

## 【特記事項】

*Cobitis biwae* Jordan and Snyder, 1901のレクトタイプ(雌の成魚。オランダ国立自然史博物館所蔵)は斑紋の特徴から本種の可能性が高いことが指摘されているが，結論は出していない。高知県は本種の分布の南限である。

## 【執筆者】

高橋弘明

コイ目ドジョウ科

# トサシマドジョウ

*Cobitis* sp. BIWAE type D

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

2002年当時と比較して個体数に著しい減少傾向が認められる。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

伊尾木川水系から新荘川水系に至る土佐湾流入河川

## 【生物学的特性】

雌は全長10cm，雄は8cmほどになる。同属の他種とは，尾鰭基部の黒色斑の形状と，雄の胸鰭基部にある骨質盤の形態により識別される。シマドジョウ種群の雌と，スジシマドジョウ種群の雄との種間交雑を起源とする異質4倍体性シマドジョウ類の母系に近い遺伝子をもち，シマドジョウ属の中でも系統的に古い種と考えられている。

## 【生息環境】

河川の中流域やこれに繋がる周辺水路の砂礫底に生息する。5月から6月ごろ，農業用水路や低水路内の湾処やクリークに進入し，水に浸かった草本の茎や根，落葉溜まりの間で産卵すると考えられている。

## 【生息状況】

生息状況は悪化の一途をたどっており，2002年当時と比較して生息が確認された水系の数は57%に，同一地点での確認例数は31%に減少した。また，水系単位で絶滅したと判断された河川も複数存在する。

## 【保全・保護対策】

県指定希少野生動物植物である。生息にとって最大の脅威は土木工事であり，生息地およびそれに隣接する場所での工事に際しては，規模の大小にかかわらず事前調査に基づく本種に対する影響評価を義務づけるべきである。

## 【特記事項】

淡水魚で唯一の県固有種であり，加えてドジョウ科魚類の系統分類学上重要な位置を占めることから，保全の必要性はきわめて高い。

## 【執筆者】

高橋弘明



コイ目ドジョウ科

# ドジョウ

*Misgurnus anguillicaudatus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

圃場整備が進行して水路がコンクリート三面張りとなり、また、冬季に水田を完全に乾燥させるようになったことで、生息地と個体数が着実に減少しつつある。

## 【国内分布の概要】

日本全土

## 【県内での分布】

東洋町から宿毛市にいたる低地、まれに山間部

## 【生物学的特性】

体は細長く、背鰭、臀鰭、尾鰭は独立する。5対10本の口ひげをそなえる。体色は一様であることが多いが、体側ならびに体背部に黒褐色の小円形の斑紋がある個体も存在する。通常、尾柄の上部に明瞭な小黑斑があり、カラドジョウとの識別点とされる。また、口ひげがカラドジョウより短いことが指摘されている。低酸素の環境に耐え、ときどき水面に浮上して腸呼吸をする。成熟まで通常は2年かかるとされ、雌が雄より大きくなる。

## 【生息環境】

卵を産みつける水草やイネの株が必要で、これらから落ちた卵が発生を続ける場となる泥の堆積が必要となる。また、泥に潜って越冬することから、本種にとっては泥が堆積した環境が必須となる。

## 【生息状況】

水田で本種が確認できるのは山際の土砂が多少積もった用水路であることがほとんどであり、主要な水路で姿を見ることはまずない。放棄水田の面積は拡大しつつあるものの、本種の生息に適した環境であるとは言い難く、姿を見かけることはない。南国市の一部に外来種のカラドジョウが同時に生息していることは確実で、本種との競合が懸念される。

## 【保全・保護対策】

地域をあげて水田の用水路を昔のように維持している例もあるが、きわめて少ない。同様に、水田の中で姿が見られる場所もまた少ない。山際とは逆に、水路の末端部で泥が堆積していることがあり、本種が見られることがあるのは保護のヒントになり得る。

## 【執筆者】

町田吉彦

サケ目サケ科

# アマゴ (在来亜種)

*Oncorhynchus masou ishikawae*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：-

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地は県西部に多いが、いずれの生息地も狭く、個体数は少ない。県東部の確実な生息地は1か所で、県中央部では1河川で信頼性の高い情報があるのみ。

## 【国内分布の概要】

神奈川県西部以西の太平洋側、四国、九州の一部

## 【県内での分布】

奈半利町、高岡郡、四万十市

## 【生物学的特性】

体側に朱色をした円形の小斑紋があり、大きな特徴となる。溪流に生息し、落下昆虫や水生昆虫を主な餌とする。奈半利川の個体群は遺伝子分析により生息地が確定している。西部の個体群の場合、パーマークが放流アマゴより明らかに大きくて数が少なく、その間隔が狭い。ただし、河川間でパーマークの大きさと形態に微妙な相違がある。

## 【生息環境】

典型的な山地溪流に生息し、川幅がかなり狭い場所でも見られる。県内では多くの場合、生息地の上限と下限が砂防堰堤となっているのが大きな特徴であるが、砂礫からなる安定した産卵場が必須である。

## 【生息状況】

本亜種の在来個体群が野根川や吉野川の源流域に残存していたらしい事が指摘されているが、現在はすべて放流アマゴに置き換わっていると判断される。一方、四万十川上流域で在来亜種と思われるアマゴの存在が知られており、今般の調査で放流がなされていないいくつかの場所で生息が確認された。生息地は支流が異なっていることから遺伝子の交流は当然ながら考えられない。高知県の調査による奈半利川での確認に加え、香美市で信頼性の高い情報があり、生息はほぼ確実と判断されるが、現地調査による個体の確認が今後の課題となる。

## 【保全・保護対策】

生息地の水量を確保するために森林の管理が重要となる。県西部に関しては、生息地の上下端が砂防堰堤となることが多く、このことが放流アマゴとの交雑を妨げており、また、捕食者となる密放流のイワナによる食害を妨げていることにもなる。しかし、いくつかの場所で放流アマゴとの交雑個体が確認されていることから、放流域の拡大を禁止すると同時に、イワナの密放流を早急に禁止する必要がある。

## 【執筆者】

町田吉彦



ダツ目メダカ科

# ミナミメダカ

*Oryzias latipes*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵9

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地の消滅と個体数の減少がより顕著になっていると考えられる。現時点で確認されている生息地はいずれもきわめて狭く、大きな群れはきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

長野県、京都府以西、岩手県から南の太平洋側

## 【県内での分布】

東洋町から宿毛市までの主に低地の平野部

## 【生物学的特性】

雌が雄よりやや大きく、標準体長3.6cmに達する。背鰭は1基で、雄では後端の切れ込みが深く、キタノメダカとの識別形質のひとつになっている。また、尾部の黒色素胞が明瞭な網目模様とならないことでもキタノメダカと異なる。口は小さく、斜位で、動植物性プランクトンや落下昆虫を餌とする。卵には多くの付着糸がある。雌はしばらくの間、卵を腹部に付着させて保護するが、やがて主に水草に付着させる。寿命はほぼ1年。

## 【生息環境】

河川や用水路、池沼、水田が主であるが、県内において姿をみかける主な場所は護岸された小水路で、コンクリート三面張りであることが多い。

## 【生息状況】

県内の種はメダカとされていたが、ミナミメダカに変更された。高知県ではこれまで絶滅危惧IB類 (EN) に指定されていたが、生息地の消滅と個体数の減少傾向は否定し難い。主に平野部に生息しているが、川岸は石やコンクリートで固められ、個体群の維持が困難となっている。現時点で確認されている生息地はいずれもきわめて狭く、低密度で、自然の大きな群れはきわめて少ない。

## 【保全・保護対策】

住民が本種の自然状態での保護を目的として活動している地区がいくつかある。また、水田でも水路の管理に際して本種に注意を払っているケースがあるが、例数はきわめて少ない。県内では湿地につらなる水田がまれであり、人工の水路であっても流れに変化を生じさせるような工夫が必須となる。同時に、生息が確認されている池沼の水際の環境保全が望まれる。

## 【執筆者】

町田吉彦

スズキ目ハゼ科

# シロウオ

*Leucopsarion petersii*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵10

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

この10年ほどの間で個体数が激減した可能性が高く、生息の確認が困難になってきており、危機的な状況が加速していると判断される。

## 【国内分布の概要】

北海道南部から九州南端、奄美大島

## 【県内での分布】

高知市、須崎市、四万十市

## 【生物学的特性】

全長約5cm。体は細長い円筒形で、側扁する。頭は小さい。口は大きく、やや斜位で、下顎の先端が上顎の先端を越える。体は半透明で、鱗はなく、鰓が透けて見える。左右の腹鰭は癒合し、吸盤を形成する。早春に河口から産卵場となる河川の下流部に遡上する。卵は礫の下面に産みつけられ、付着糸で礫にぶら下がる。受精はその後に行われる。雄は卵を保護する。孵化後、仔魚はただちに海に下る。

## 【生息環境】

産卵場所は汽水域上端から淡水域の下端付近で、清澄な水であることが条件となる。また、流れが緩く、産卵に適した大きさの転石が必要である。

## 【生息状況】

絶滅危惧IB類 (EN) に指定されていたが、過去に多産したとされる場所において個体数が激減した可能性が高い。浦戸湾流入河川と高知市の土佐湾流入河川でも遡上個体数の減少が著しい。浦ノ内湾流入河川の一部では10年ほど前まで、季節になると網を手にした地元の住民が岸に並んで本種を狙う姿が見られたが、現在は皆無である。須崎市の河川はかつて有名な産地あったが、採捕を試みる地元の人はいない。四万十市の川では小さな群れをなして遡上する姿が見られるが、もともと個体数が少ない。南国市および黒潮町では調査を継続する必要があるが、生息の可能性は低く、個体数減少の主要因は産卵適地の減少と考えられる。

## 【保全・保護対策】

産卵適地の転石を埋め尽くすような土砂の流入、川岸の工事ならびに川床の整備に最大限の注意を払う必要がある。

## 【執筆者】

町田吉彦

スズキ目ハゼ科

# イドミミズハゼ

*Luciogobius pallidus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵10

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・新荘川個体群

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

2002年当時と比較して須崎市の河川での生息密度は保たれているが、他の河川では確認例が少ない。水質汚濁と河床の機能の劣化に弱く、県内には須崎市以外に安定した個体群がないと考えられる。

## 【国内分布の概要】

新潟県と静岡県以西の本州、四国、九州、奄美大島

## 【県内での分布】

南国市、高知市、須崎市、黒潮町、四万十市

## 【生物学的特性】

全長約6cm。体は細長く、体高は体長の約1/10。頭部は小さく、扁平で、幅が広い。眼はきわめて小さい。胸鰭上部に遊離軟条がない。鱗がない。体は半透明で、橙色から赤橙色。産卵期は秋から早春で、須崎市での産卵盛期は流下仔魚の個体数から9月から11月と推定されている。

## 【生息環境】

河川の感潮域で、伏流水や湧水があり、大きな礫の間隙、海岸や干潟および地下水系に生息する。須崎市の生息域は河口から1kmまでの範囲に限られる。

## 【生息状況】

特異な生態から発見が困難であり、通常の魚類調査では生息状況が把握できない可能性が高い。2002年当時は県内の6河川以上に生息するとされ、2008年には四万十市の河口での記録がある。その後の県内における生息実態は十分把握できておらず、2016年の調査で確認されたのは須崎市のみであり、生息密度はミミズハゼのおよそ1/3で、ある程度の個体群が維持されていると考えられる。

## 【保全・保護対策】

本種は2007年10月に県指定希少野生動植物に指定され、積極的な保護の対象となった。現時点では須崎市の生息地が県内で唯一の存在である可能性が高く、より具体的な保護策の策定が緊急の課題である。

## 【特記事項】

本種は分類学的な再検討が必要と考えられている。

## 【執筆者】

遠藤広光

ウナギ目ウナギ科

# オオウナギ

*Anguilla marmorata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵10

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

人為的影響に起因する生息環境の変動が大きい中小河川に遡上・定着することが多く、日本は分布の北限にあたる。県内各河川における生息個体数がもともと少ない。

## 【国内分布の概要】

千葉県および長崎県以南の暖流に直接面した水域

## 【県内での分布】

東洋町、土佐湾流入河川、足摺岬以西の河川や島嶼

## 【生物学的特性】

細長い円筒形の体で、全長220cmに達する。成魚は体全体が茶褐色で、背面と体側に不規則な斑紋があること、シラス期は尾鰭の基部に顕著な黒斑があることでニホンウナギとは容易に識別される。脊椎骨数は100～110で、ニホンウナギの112～119より少ない。

## 【生息環境】

外洋で産卵し、河川に遡上する降河回遊魚である。インド洋から西・中部太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。日本は分布の北限にあたり、南西諸島を除けば個体数は少ない。成魚は主に河川の中・下流域や湖底の石礫の間隙にすむ。日中は岩陰に潜んでおり、夜間に魚類、エビ・カニ類、カエルを捕食する。

## 【生息状況】

特異な形態、大きさ、希少性が一般の注目を集めることから、各地の捕獲事例が新聞記事になることが多い。2002年当時の記録に、その後の一般報道や生態調査結果をあわせて、野根川水系、奈半利川水系、安芸市の1河川、香南市、浦戸湾流入2河川、須崎市の1河川、黒潮町の2河川、渡川水系、土佐清水市の5河川、大月町、宿毛市ほかが生息確認地となった。いずれの河川でも採捕時の個体数は1ないし2個体ときわめて少ないが、足摺岬以西での確認事例が比較的多い。

## 【保全・保護対策】

和歌山県、徳島県および長崎県では、生息地が国の天然記念物として保護指定を受けている。四国では香川県を除く3県に分布し、いずれの県のレッドデータブックにも掲載されている。高知県では本種に対する保護対策は特に行われていない。海域沿岸から河川中流域まで稚魚が遡上できる水域の連続性が保たれること、河川中・下流域に多様な間隙をもつ河床空間があること、餌となる甲殻類や小型魚類が豊富に産する河川環境の保全が求められる。

## 【特記事項】

ゴマウナギやカニクイともよばれる。

## 【執筆者】

山下慎吾

ニシン目ニシン科

# ドロクイ

*Nematalosa japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

浦戸湾での聞き取り調査では、個体数の増減に関する情報は得られなかった。須崎湾の個体数はごく少ない。浦ノ内湾では近年の情報がなく、四万十川河口ではまれに見られる程度でしかない。

## 【国内分布の概要】

高知県、沖縄県

## 【県内での分布】

浦戸湾、浦ノ内湾、須崎湾、四万十市

## 【生物学的特性】

体は側扁する。口は小さい。ニシン科コノシロ属のコノシロによく似るが、本種の上顎は強く曲がり、後端部が下方に向くことで上顎が直線的なコノシロと異なる。動物プランクトンを餌とし、土佐湾での産卵期は3月から5月と推定されている。

## 【生息環境】

浅海や内湾の砂泥地付近に生息し、浦戸湾では外海との間を往復するとされている。

## 【生息状況】

本種はかつて浦戸湾に多産し、浦戸湾を代表する魚であった。1975年から1980年にかけて減少が目立ち始め、最初のレッドリストが作成された2000年ごろにはほとんど採捕されていないことから、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定され

た。浦戸湾には本種を対象としている漁師はいないが、カニ類を目的とした刺し網に成魚が掛かることが明らかとなり、特定の場所で捕獲される傾向にあることが示唆された。2005年から2007年にかけての調査では標準体長55～222mmの10個体が得られた。最近の浦戸湾での釣り人を対象とした聞き取り調査では、目視の例はあるが個体数に関する情報は得られなかった。浦戸湾内でのコノシロを対象とした釣りで混獲されている可能性は残されている。須崎湾では湾口部の小型定置網に入り、市場へ搬入されていることが明らかになったが、個体数はごく少ない。浦ノ内湾では近年の情報がなく、四万十川市の河口では時々見られる程度である。このように、ランクを変更するほどの有力な根拠が得られなかった。干潟の消失による自然の浄化能力の低下が本種の減少の原因のひとつとされているが、浦戸湾内の大規模な埋め立ては1965年を境に実施されていない。1971年6月の高知パルプ生コン事件以降、水質は格段に向上した。1974年の刺し網を用いた県の調査では、コノシロの2.8倍の個体数が記録されているが、その後の個体数の減少の原因は定かでない。

## 【執筆者】

町田吉彦

スズキ目カジカ科

# カマキリ (アユカケ)

*Cottus kazika*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵10

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

各地の小規模河川の下流から感潮域にかけてと、大規模河川の中・下流域で確認されたが、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 指定後の個体数の増減の判断は困難であった。

## 【国内分布の概要】

茨城県以南、青森県以南の太平洋側、四国、九州

## 【県内での分布】

県内各地の河川の主に中・下流

## 【生物学的特性】

頭は大きく、やや縦扁する。体側に3ないし4本の黒い横帯がある。前鰓蓋骨は4本の棘をそなえ、最上の棘は強く、上方に曲がる。幼期には水生昆虫を餌とし、成長に伴い魚食性が強くなる。成魚はもともと少ない。日中は大きな礫の下やすき間に潜んでおり、調査で近づくと素早く移動することがよくある。夜行性で、夜になると浅い場所で見かける機会が増加する。また日中、アユの友釣りで見かけることもある。

## 【生息環境】

本種は両側回遊魚であり、幼期に汚濁しやすい汽水域を通過しなければならないこと、河川に設けられた人工構造物が遡上の妨げになっていることが指摘されていた。近年は仁淀川の1支流を除けば、各地の河川で大規模な人工構造物の構築はなされていない。ただし、本種にとっては体

隠せるような岩や巨礫があると同時に、夜間の観察でよく見られるような平瀬がまた必要である。

## 【生息状況】

県内の代表的な汽水域である浦戸湾の水質は年々向上しており、湾内で河川を遡する前の未成魚がしばしば確認されている。また、県内各地の小規模河川の下端部や感潮域で大型の成魚がまれに観察される。高知市春野町の河川の下流部には比較的多くの個体が生息している。しかしながら、多くの中・大規模河川の下流域は護岸工事や川床整備の影響を受けていて、特に本種にとって好適な川岸付近の生息環境が均一化しており、多くの個体を維持できる環境ではなくなりつつある。

## 【保全・保護対策】

特に保護対策はなされてこなかったが、遡行を助ける人工構造物がどの程度の効果があったかどうかを検証する必要がある。また、河口堰の設置には慎重を期さねばならない。同時に、土砂の流入により川床が均一化していないかどうかの監視も重要となる。

## 【執筆者】

町田吉彦

スズキ目ドンコ科

# ドンコ

*Odontobutis obscura*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：-

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

県東部ではもともと個体数が少なく、県中央部でも山際の細流でかろうじて生息が確認できる程度でしかない。比較的多いのは渡川水系のみと考えられるが、大型個体はここでもほとんど姿を消してしまった。

## 【国内分布の概要】

愛知県ならびに新潟県以西の本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県中央部の低地、県西部

## 【生物学的特性】

頭部は大きく、やや縦扁する。口は大きく、下顎の先端は上顎の先端を越える。左右の腹鰭は癒合しない。第1背鰭と第2背鰭の下方および尾柄に輪郭が不明瞭なやや黒くて大きな斑紋がある。肉食性で、さまざまな動物を捕食する。夜行性で、夜は浅い場所に移動する。

## 【生息環境】

河川の流れの遅い部分から用水路、池沼、水田に生息する。河川ではツルヨシ群落の周辺で姿が見られる。川底の巨礫は身を潜めるのに使われ、また、雄が巨礫の下を掘って巣をつくることから、平坦な河床には生息しない。

## 【生息状況】

30年ほど前までは高知市の市街地の用水路でも見られたが、現在は市の周縁部でも姿を確認することが困難になった。県の東部ではもともと少なく、水田で姿を見かけることはまずない。中央部でも、水田につらなる山際の細流でかろうじて生息が確認できる程度の数しかない。現在、河川の下流から中・上流、水田の用水路で姿が確認できるのは渡川水系のみと考えられるが、それでも個体数は多くない。また、下流部や用水路で採集されるのは若い個体が多く、全長20cmを超えるような大型個体は流れのある部分ではほとんど姿を消してしまった。ドジョウと同様に、研究者もその存在にほとんど注目していなかったことが伺われる。

## 【保全・保護対策】

河川部では護岸を複雑化し、河床が土砂で埋まらないよう配慮する必要がある。水路でも同様で、流速に変化をつけたり表面を複雑にしたりする工夫が必要である。

## 【執筆者】

町田吉彦



スズキ目ハゼ科

# タビラクチ

*Apocryptodon punctatus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

新たな生息地が発見されたが、それを加味しても生息適地が少ない。

## 【国内分布の概要】

三重県および京都府以西の本州、四国、九州

## 【県内での分布】

浦戸湾、須崎湾、四万十市、宿毛湾

## 【生物学的特性】

全長8cmほど。テッポウエビ類の生息孔を利用する。干出時には生息孔内に潜み、潮が満ちてくると底質の表面に現れ、特異な形状の口で底質の表面の珪藻類を食べる。5月から7月にテッポウエビ類の生息孔内に産卵し、仔魚は一定期間の浮遊生活を経て着底する。

## 【生息環境】

河口や淡水の影響を受ける内湾の干潟に生息する。粒径の細かい泥質の干潟に多い。

## 【生息状況】

河口や内湾の干潟に生息し、開発の影響にさらされやすい。2002年以降、浦戸湾内で新たな生息地が発見されたが、本種の生息に適した干潟はもともと少ない。

## 【保全・保護対策】

本種に対する保護対策は行われていない。本種の生息には底質の内部が嫌気化していない良好な状態の保たれた干潟が必要である。こうした場所には貴重な種が多く生息することから、干潟全体を対象とした保護施策が求められる。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

# トビハゼ

*Periophthalmus modestus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵10

## 【選定理由】

浦ノ内湾と須崎湾の奥部で新たな生息場所が確認され、浦戸湾でも生息地の面積は拡大傾向にあると思われる。一方、土佐清水市の河口干潟では、以前ほどの個体数が確認できていない。

## 【国内分布の概要】

東京湾から沖縄本島

## 【県内での分布】

高知市、須崎市、四万十市、土佐清水市、宿毛市

## 【生物学的特性】

体は円筒状で、5ないし7本の不明瞭な暗色横帯がある。眼は頭頂にあり、突出するが、直下のくぼみに引き込むことができる。口は下向きに開き、干潟の表面にいる小動物を餌とする。左右の腹鰭は癒合し、吸盤となる。皮膚呼吸が可能で、干潟の表面から離れた場所にいるのがしばしば観察される。また、干潟の表面や水面をジャンプしながら素早く移動する。県内では11月ごろから越冬用の穴を掘り、翌年の活動期までその中で過ごす。

## 【生息環境】

泥質の干潟に生息するが、有機汚濁が進行している場所では見られない。満潮時にはヨシの茎、空中に出ている枯れ枝および岩の表面を利用することがある。

## 【生息状況】

2002年当時は仁淀川左岸の干潟では過去10年以上確認されていないとされていたが、その後は確認されている。ただし、年変動が大きく、毎年ではない。浦ノ内湾も同様とされていたが、小さいながら安定した個体群のあることが判明している。須崎湾の奥部でも新たな生息場所が確認され、浦戸湾でも生息地の面積は拡大傾向にあると思われる。かつて多産した土佐清水市の河口干潟は、2014年8月の台風により環境が大きく変化し、以前ほどの個体数が確認できていない。

## 【保全・保護対策】

県指定希少野生動物植物に指定され、捕獲、採取、殺傷または損傷が禁止されているが、保護条例が周知されていない可能性がある。自然観察会や環境学習会で、本種の希少性を訴える活動が必要である。

## 【執筆者】

町田吉彦

スズキ目ハゼ科

# チワラスボC種

*Taenioides* sp. C

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵10

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

2002年当時と比べ生息状況に大きな変化はない。

## 【国内分布の概要】

静岡県以西の本州，四国，九州および沖縄島

## 【県内での分布】

浦戸湾以西の内湾とその流入河川，河口干潟

## 【生物学的特性】

全長25cmほどになる。下顎のひげ状突起列が2-3-2の計7本であること，背鰭，臀鰭，胸鰭の鰭条数および総脊椎骨数の組み合わせにより他種と識別される。

## 【生息環境】

河口や淡水の影響を受ける内湾の砂泥底に孔を掘って生活し，主にゴカイを餌とする。泥が多い場所よりも砂質混じりの底質に多い。

## 【生息状況】

河口や内湾の干潟に生息し，開発の影響にさらされやすい。県内の干潟の面積については2002年以降大きな変化はないが，波浪や出水により河床に礫が堆積し，生息適地でなくなった場所がある。

## 【保全・保護対策】

チワラスボとして環境省の絶滅危惧IB類 (EN) に指定されている。県内では特に本種に対する保護対策は行われていない。本種の生息する干潟には他の貴重な種も見られることが多く，干潟全体を対象とした施策が求められる。

## 【特記事項】

国内に分布するチワラスボ属はこれまで1種と考えられてきたが，遺伝的ならびに形態的に4種を含むことが明らかにされた。本県にはこれらのうちB種とC種が分布するが，ほとんどの個体がC種に同定された。

## 【執筆者】

高橋弘明

ウナギ目ウナギ科

# ニホンウナギ

*Anguilla japonica*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵10

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

個体数が明らかに減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道幌別川と石狩川以南の日本各地

## 【県内での分布】

各河川と沿岸域

## 【生物学的特性】

通常は全長60cm、最大1m。降河回遊を行うが、一生を海域で過ごす個体もいる。産卵場はグアム島、マリアナ諸島西方沖の中層。

## 【生息環境】

沿岸域から河川上流域、周辺水路や池沼に生息し、餌となる魚や甲殻類が豊富で、抽水植物帯や転石、空石積護岸により隠れ場所となる間隙が多い環境を好む。

## 【生息状況】

本県の成魚の漁獲量は1982年の184トン进行ピークに暫減し、2011年には7トンにまで減少している。

## 【保全・保護対策】

高知県漁業調整規則と同内水面漁業調整規則により漁獲可能な大きさや漁獲方法、漁期に制限が設けられている。今後は生息環境の再生・保全に努める必要がある。

## 【執筆者】

高橋弘明

コイ目コイ科

# フナ (在来個体群)

*Carassius* sp.

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

個体数が明らかに減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

各地の河川、池、沼

## 【生物学的特性】

全長25cmほど。形態の変異が大きいだけでなく、2倍体性集団と、クローン生殖を行う3倍体性集団が存在する。

## 【生息環境】

流れが緩やかで、抽水・沈水植物の豊富な河川や湖沼、水路に生息する。

## 【生息状況】

近年、生息地と個体数が減少しており、特にダム湖での個体数減少が著しい。

## 【保全・保護対策】

特に保護対策はとられていない。減少の要因が不明確であり、産卵や仔稚魚の成育場所、外来種による食害、ゲンゴロウブナとの競合についての調査が望まれる。

## 【特記事項】

3倍体性集団は特定の種や亜種ではなく、同一地域の2倍体性集団から相互に発生することが明らかにされた。

## 【執筆者】

高橋弘明

トゲウオ目ヨウジウオ科

# ヨウジウオ

*Syngnathus schlegeli*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

県内での確認状況から常時生息している種とみなしたが、個体数は少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

浦戸湾、浦ノ内湾、県西部の数河川

## 【生物学的特性】

全長28cmほど。軀幹部と尾部の下降起線が連続すること、各隆起線が円滑であること、主鰓蓋骨の隆起線が未発達であることで他のヨウジウオ科魚類と識別される。

## 【生息環境】

河口域でも確認されるが、一般に内湾の藻場に生息する。このため、県内でも沿岸部や漁港内の藻場に生息している可能性があり、調査の必要がある。

## 【生息状況】

県内の汽水・淡水域で観察される無効分散を除くヨウジウオ科魚類としては個体数が比較的少ない。本種が生息する藻場は他の動物にとっても重要な生息環境であり、本種は良好な藻場の指標種となりうる。

## 【執筆者】

高橋弘明

トゲウオ目ヨウジウオ科

# オクヨウジ

*Urocampus nanus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

県内の汽水・淡水域で確認される無効分散を除くヨウジウオ科魚類としては個体数が比較的少ない。

## 【国内分布の概要】

松島湾、佐渡島以南の本州、四国、九州、沖縄

## 【県内での分布】

浦戸湾、浦ノ内湾、県西部の数河川

## 【生物学的特性】

全長13cmほど。躯幹部と尾部の上隆起線が連続すること、背鰭起部が肛門より後方にあること、吻長と頭部眼後長が等しいことにより他のヨウジウオ科魚類と識別される。

## 【生息環境】

河口域でも確認されるが、一般に内湾の藻場に生息する。このため、県内でも沿岸部や漁港内の藻場に生息している可能性があり、調査の必要がある。

## 【生息状況】

県内での確認状況から常時生息している種とみなした。本種が生息する藻場は他の動物にとっても重要な生息環境であり、本種は良好な藻場の指標種となりうる。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目カワアナゴ科

# チチブモドキ

*Eleotris acanthopoma*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵10

## 【選定理由】

2002年当時と比べて生息状況に大きな変化がない。

## 【国内分布の概要】

千葉県以南の本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島

## 【県内での分布】

各地の河口域、浦戸湾、浦ノ内湾、須崎湾

## 【生物学的特性】

全長13cmほど。カワアナゴ属の4種は形態が酷似しており、確実な同定には頭部孔器列を確認する必要がある。

## 【生息環境】

河口域や淡水の影響を受ける内湾の奥部に生息する。稚魚はコアマモ場やヨシの根元、成魚は石やブロックの下でよく観察される。柴漬けやウナギ筒でも捕獲される。

## 【生息状況】

県内では仔魚から成魚に至る各成長段階の個体が確認されており、定着・再生産は確実と判断される。主にエビ類や小魚、ゴカイ類を餌とする捕食者であり、餌となる動物が豊富な河口域や内湾の指標種とみなせる。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目カワアナゴ科

# オカメハゼ

*Eleotris melanosoma*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

口絵11

## 【選定理由】

複数個体の成魚が確認されたため、定着が確実な種と判断した。

## 【国内分布の概要】

静岡以南の本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島

## 【県内での分布】

奈半利町、南国市、黒潮町、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

全長17cmほど。カワアナゴ属の4種は形態が酷似しており、確実な同定には頭部孔器列を確認する必要がある。

## 【生息環境】

稚魚や未成魚はコアマモ場やヨシの根元および流木の下に、成魚は礫やブロックの下、パイプなどの筒状物の中に潜む。柴漬け漁や石ぐる漁、ウナギ筒でも捕獲される。

## 【生息状況】

仔魚から成魚に至る各成長段階の個体が記録されたことから、定着・再生産を行っていると考えられる。主にエビ類や小魚、ゴカイ類を餌とする捕食者であり、餌となる動物が豊富な河口域や内湾の指標種とみなせる。

## 【執筆者】

高橋弘明



スズキ目ハゼ科

## ヒモハゼ

*Eutaeniichthys gilli*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵11

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内に多いヨコヤアナジャコの生息地で普通に確認できることからランクを下げた。

### 【国内分布の概要】

青森県から西表島

### 【県内での分布】

各地の干潟の礫が多い場所

### 【生物学的特性】

全長5cmになるハゼであり、体は円筒形で細長い。頭部は小さく、吻は丸みを帯び、上顎の先端を越える。吻端から尾鰭に至る黒くて明瞭な縦帯がある。雑食性で、小型の動物や付着藻類を餌とする。

### 【生息環境】

礫の多い干潟と、ヨコヤアナジャコが生息している感潮区間の礫が多い場所。

### 【生息状況】

ヨコヤアナジャコの生息孔に潜んでいることが多いが、ニホンスナモグリの生息孔を利用することもある。

### 【保全・保護対策】

河川改修工事による土砂の流入で、感潮区間のヨコヤアナジャコの生息地に対する悪影響が懸念される。

### 【執筆者】

町田吉彦

スズキ目ハゼ科

## タネハゼ

*Callogobius tanegasimae*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵11

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

県内の汽水域に生息するハゼ科魚類としては個体数が少なく、生息適地が限定されている。

### 【国内分布の概要】

静岡県以南の本州、四国、九州の太平洋側、琉球列島

### 【県内での分布】

浦戸湾以西の河口域

### 【生物学的特性】

雄は全長6cm、雌は5cmほど。茶褐色の体に黒い横縞が4本走る。胸鰭、第2背鰭、尾鰭は伸長する。頭部に多数の皮質隆起線がある。動きは緩慢。

### 【生息環境】

河口域の砂泥底から砂礫底に生息し、礫や流木、ヨシの根元、落葉の下から単独で見つかる。

### 【生息状況】

2002年当時よりも生息地が多いことが明らかとなった。しかし、安定的に生息している場所はわずかである。河口域の良好な自然環境の指標種である。

### 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

## アシシロハゼ

*Acanthogobius lactipes*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵11

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

個体数が少なく、生息適地が限定されている。

### 【国内分布の概要】

琉球列島を除く日本各地

### 【県内での分布】

香南市以西の7河川、浦戸湾、須崎湾

### 【生物学的特性】

全長10cmほどになる。同属のマハゼに似るが、小型で、体側に暗色の横帯がある。雄の第1背鰭第3～5棘は糸状に伸長する。雌の第1背鰭後縁に黒色斑がある。

### 【生息環境】

河口域や淡水の影響を受ける内湾の砂泥底から砂礫底に生息する。

### 【生息状況】

2002年当時よりも生息地点数は多いことが明らかとなったが、内湾的な環境を好むため生息適地は限定的である。汽水域の指標種として相応しい。

### 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

# ツマグロスジハゼ

*Acentrogobius* sp.

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

2002年当時と比べて生息状況に大きな変化がない。

## 【国内分布の概要】

東京湾，京都府以西の本州，四国，九州，琉球列島

## 【県内での分布】

浦戸湾以西の内湾，河口干潟

## 【生物学的特性】

全長5cmほど。近縁のスジハゼ（旧スジハゼB）とは，頭部被鱗域の形状，胸鰭と尾鰭基部の斑紋，腹鰭先端の黒色部の有無により識別される。

## 【生息環境】

河口域や淡水の影響を受ける内湾の砂泥底に生息し，単独で確認されることもあるが，テッポウエビ類の生息孔もよく利用する。

## 【生息状況】

内湾的な環境を好み，本県では生息適地が少ない。本種の生息する場所には他の貴重な種も見られることが多く，良好な自然環境が保たれた河口域や内湾の指標種とみなせる。

## 【特記事項】

かつてはキララハゼ属の一種，一般にはスジハゼAと呼ばれていた。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

# ヌマチチブ

*Tridentiger brevispinis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

近年，各河川で個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

琉球列島を除く日本各地

## 【県内での分布】

県内の河川に広く分布

## 【生物学的特性】

全長10cmほど。同属のチチブに酷似するが，胸鰭基部に分岐した橙色線があること，雌の第1背鰭棘が伸長しないことにより識別される。

## 【生息環境】

主に河川中・下流域の砂礫底に生息する。成魚は石の下になわばりをつくる。

## 【生息状況】

近年個体数の減少によりゴリ漁が成り立たなくなっている。分布域が広く，かつては多く見られた。底生魚としては目につき易いが，場所により減少傾向に大きな差があり，全体的な減少に気づかれなかったと判断される。なお，山間部のダム湖に由来不明の個体群が定着している。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

# チチブ

*Tridentiger obscurus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵11

## 【選定理由】

2002年当時と比べて生息状況に大きな変化は認められない。

## 【国内分布の概要】

琉球列島を除く日本各地

## 【県内での分布】

浦戸湾以西の各河川

## 【生物学的特性】

全長10cmほど。同属のヌマチチブに酷似するが，胸鰭基部に分岐した橙色線を欠くこと，雌雄ともに第1背鰭棘が伸長することにより識別される。

## 【生息環境】

主に河口域の砂礫底や護岸の間に生息するが，浦ノ内湾に注ぐ小河川では淡水域にまで遡上する。

## 【生息状況】

内湾的な環境を好むことから生息適地が限定され，個体数もあまり多くない。

## 【保全・保護対策】

特に保護対策はとられていない。河口域の環境改変を行う際には本種の生息に配慮することが望まれる。

## 【特記事項】

浦ノ内湾流入河川では，ヌマチチブとの雑種の可能性が高い個体が採集されることがある。

## 【執筆者】

高橋弘明

ナマズ目ギギ科

## ギギ

*Tachysurus nudiceps*

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・吉野川水系個体群  
環境省2017ランク：－

#### 【選定理由】

自然分布域の範囲、個体数の増減、絶滅の危急度を判定するための情報が不足している。

#### 【国内分布の概要】

琵琶湖・淀川水系以西の本州、四国、大分県、福岡県

#### 【県内での分布】

吉野川水系、仁淀川水系

#### 【生物学的特性】

全長30cm。全身黒褐色で、体側に黄色の斑点がある。背鰭と胸鰭に後縁が鋸歯状の軟条があり、刺されると痛む。

#### 【生息環境】

主に河川の中流域に生息し、大きな礫や流木、抽水植物群落、間隙が多く餌となる小魚が豊富な環境を必要とする。

#### 【生息状況】

移入由来の個体も生息しており、生息状況の詳細は不明。

#### 【特記事項】

県内での自然分布は吉野川水系のみと考えられていたが、仁淀川水系にも自然分布している可能性が高いことが示唆されている。

#### 【執筆者】

高橋弘明

ナマズ目アカザ科

## アカザ

*Liobagrus reini*

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)  
環境省2017ランク：絶滅危惧II類 (VU)

口絵11

#### 【選定理由】

県内に2種のアカザ属が分布することが明らかとなったため、情報の整理が必要である。

#### 【国内分布の概要】

京都府以西の本州、四国、九州

#### 【県内での分布】

吉野川水系、物部川水系を除く各河川

#### 【生物学的特性】

全長13cmほど。全身透明感のある橙色で、白色斑はない。生時、尾鰭後縁に暗色帯がある。

#### 【生息環境】

清冽な河川の上・中流域に生息し、礫が積み重なって浮き石状となった河床を必要とする。

#### 【生息状況】

県西部では比較的多いが、東部ではおそらく少ない。

#### 【特記事項】

従来のアカザには2種 (C1, C2) が含まれるが、ここではC2種をアカザ *Liobagrus reini* Hilgendorf, 1878 とした。

#### 【執筆者】

高橋弘明

ナマズ目アカザ科

## アカザ属の一種

*Liobagrus* sp.

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)  
環境省2017ランク：絶滅危惧II類 (VU)

口絵11

#### 【選定理由】

県内に2種のアカザ属が分布することが明らかとなったため、情報の整理が必要である。

#### 【国内分布の概要】

秋田県、宮城県から広島県までの本州、四国

#### 【県内での分布】

吉野川水系、物部川水系、鏡川水系、仁淀川水系

#### 【生物学的特性】

全長13cmほど。全身透明感のある橙色で、眼径大の白色斑が散在する。尾鰭後縁に暗色帯がない。

#### 【生息環境】

清冽な河川の上・中流域に生息し、礫が積み重なって浮き石状となった河床を必要とする。

#### 【生息状況】

物部川水系と仁淀川水系では個体数が減少傾向にあると考えられている。

#### 【特記事項】

従来のアカザには2種 (C1, C2) が含まれるが、ここではC1をアカザ属の一種 *Liobagrus* sp. とした。

#### 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目クロサギ科

## セダカダイミョウサギ

*Gerres akazakii*

## 【選定理由】

分布や生息状況に関する情報が不足している。

## 【国内分布の概要】

静岡県から種子島に至る太平洋沿岸

## 【県内での分布】

沿岸部、内湾、河口域

## 【生物学的特性】

全長18cmほど。全身銀色で、腹鰭、臀鰭、尾鰭の下部は明るいレモン色。両眼間前方にU字型の窪みがない。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物)2017ランク：情報不足 (DD)

## 【生息環境】

沿岸域の砂泥底に生息し、河口域にもよく進入する。

## 【生息状況】

県内での分布や生息状況は不明。

## 【特記事項】

2006年に新種記載されたが、それ以前はダイミョウサギと混同されていた。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目クロサギ科

## ダイミョウサギ

*Gerres japonicus*

## 【選定理由】

分布や生息状況に関する情報が不足している。

## 【国内分布の概要】

千葉県から三重県、瀬戸内海、山陰、九州北西部

## 【県内での分布】

沿岸部、内湾、河口域

## 【生物学的特性】

全長17cmほど。全身銀色で、腹鰭、臀鰭、尾鰭下部はくすんだ黄色。両眼間の前方にU字型の窪みがある。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【生息環境】

沿岸域の砂泥底に生息し、河口域にもよく進入する。

## 【生息状況】

県内での分布、生息状況については不明。

## 【特記事項】

高知大学所蔵標本のうち、本種と同定された県内産標本(浦ノ内湾産)は2個体のみであった。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

## チワラスボB種

*Taenioides* sp. B

## 【選定理由】

分布や生息状況についての情報が不足している。

## 【国内分布の概要】

静岡県以西の本州、四国、九州、沖縄島

## 【県内での分布】

詳細不明

## 【生物学的特性】

全長25cmほど。下顎のひげ状突起列が2-2-2の計6本であること、各鰭条数、脊椎骨数により他種と識別可能。高知大学所蔵標本のうち県内産(産地の詳細不明)の1個

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

体のみがB種と同定された。

## 【生息環境】

河口や淡水の影響を受ける干潟に穴を掘って生息し、主にゴカイ類を餌とする。

## 【生息状況】

県内では1標本が知られるのみで、生息状況は不明。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

## クロコハゼ

*Drombus* sp.

## 【選定理由】

2002年当時よりも個体数が多いことが明らかとなったが、いまだ情報が不足している。

## 【国内分布の概要】

静岡県以南の本州、四国、九州の太平洋岸、南西諸島

## 【県内での分布】

浦戸湾以西の各河口域、浦ノ内湾

## 【生物学的特性】

全長5cmほど。全身茶褐色で、胸鰭基部に三角形の乳白色斑がある。雄の第1背鰭に黒色斑がある。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵11

## 【生息環境】

河口域の砂礫底に生息し、石や流木、ヨシの根元、落葉の下から単独でよく発見される。

## 【生息状況】

個体数の増減を判定する情報が不足している。

## 【特記事項】

クロコハゼ属は国内にも複数種が生息するが、分類学的に未整理である。

## 【執筆者】

高橋弘明



スズキ目ハゼ科

# ドウクツミミズハゼ

*Luciogobius albus*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

## 【選定理由】

分布や生息状況についての情報が不足している。

## 【国内分布の概要】

島根県大根島，長崎県福江島，高知県

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

全長5 cmほど。眼は皮下に埋没する。頭部が大きく，頭長は体長の1/4以上。全身が透明感のある橙色。

## 【生息環境】

地下水性ミミズハゼ類で，地下水で海と繋がる溶岩洞窟内や河口域の伏流水中に生息する。

## 【生息状況】

県内では1970年代に採集された1標本が存在するのみであり，詳細な調査が望まれる。

## 【執筆者】

高橋弘明

スズキ目ハゼ科

# クロヨシノボリ

*Rhinogobius brunneus*

高知県：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・灰方川個体群

高知県2002ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・浦ノ内湾流入河川個体群

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

県中央部で唯一の個体群であるが、生息基盤が脆弱である。

## 【国内分布の概要】

秋田県以南の本州、四国、九州、琉球列島

## 【県内での分布】

小河川に広く分布

## 【生物学的特性】

全長10cmほど。両側回遊性のヨシノボリ属魚類である。体側中央に黒点列があり、尾鰭基部の斑紋はハの字型。

## 【生息環境】

河川の中・上流域に生息し、特に河口近くから急流となる極小河川を好む。

## 【生息状況】

中流域に生息するが個体数は少ない。浦ノ内湾流入河川ではかつて出見川にも分布していたが、絶滅した可能性が高い。

## 【執筆者】

高橋弘明

〈文献一覧〉

- 藍澤正宏. 1998. イドミミズハゼ. 水産庁 (編), 日本の希少な野生生物に関するデータブック. pp. 186-187. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 道津喜衛. 1958. アカウオおよびチワラスボの生態・幼期. 九大農芸誌, 16: 371-380.
- . 1959. アシシロハゼの生態・生活史. 長崎大学水産学部研究報告, (8): 196-201.
- . 1961. タビラクチの生態・生活史. 長崎大学水産学部研究報告, (10): 133-137.
- . 1963. ドウクツミミズハゼについて. 動物学雑誌, 72: 1-5.
- 遠藤広光・清沢遼太郎・町田吉彦. 2009. 第17章 鏡川淡水域の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 389-401. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知市.
- 藤田朝彦. 2015. スナヤツメ (北方種および南方種), オオウナギ. 細谷和海 (編・監修), pp. 18-19, 30-32. 山溪ハンディ図鑑15 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 萩原清司. 2003. オクヨウジ. I.O.P. Diving News, 14: 1.
- 平嶋健太郎・高橋弘明. 2008. 和歌山県産イドミミズハゼの水槽内産卵および初期発育. 魚類学雑誌, 55: 121-125.
- 乾 隆帝. 2015. タビラクチ. 環境省自然保護局野生生物課希少種保全推進室 (編), pp. 306-307. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 4 汽水・淡水産魚類. ぎょうせい, 東京.
- 乾 隆帝・赤松良久・新谷哲也・小川亜彰彦. 2015. 希少イドミミズハゼの生息環境と生息場の河床変動および塩分変動特性. 土木学会論文集B1 (水工学), 71: I\_949-I\_954.
- 乾 隆帝・小川彰彦. 2014. 本州・四国・九州の干潟に生息するハゼ類. シリーズ 日本の希少魚類の現状と課題. 魚類学雑誌, 61: 105-109.
- 石川晃寛・町田吉彦・遠藤広光. 2009. 第19章 高知市新川川の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 475-496. 図版1-36. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知市.
- 岩田明久. 2001. クロコハゼ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), p. 568. 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社, 東京.
- Iwatsuki, Y., S. Kimura and T. Yoshino. 2007. A review of the *Gerres subfasciatus* complex from the Indo-West Pacific, with three new species (Perciformes: Gerreidae). Ichthyol Res, 54: 168-185.
- 蒲原稔治. 1961. 高知県の淡水魚類について. 高知大学学術研究報告, 10自然科学 I (2): 1-12.
- 金川直幸. 2015. ドウクツミミズハゼ, イドミミズハゼ. 環境省自然保護局野生生物課希少種保全推進室 (編), pp. 116-117, 352. —日本の絶滅のおそれのある野生生物— レッドデータブック2014 4 汽水・淡水産魚類. ぎょうせい, 東京.
- 川瀬成吾. 2015. イドミミズハゼ. 細谷和海 (編・監修), p. 399. 山溪ハンディ図鑑15 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 川瀬裕司. 2013. 南房総で発見されたオオウナギ *Anguilla marmorata*. 千葉中央博自然誌研究報告, 12: 55-59.
- 木村英造 (編). 1982. 淡水魚増刊ヤマメ・アマゴ特集. 財団法人淡水魚保護協会, 218 pp. 大阪.
- Kitagawa, T., M. Watanabe, E. Kitagawa, M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki. 2003. Phylogeography and the maternal origin of the tetraploid form of the Japanese spined loach, *Cobitis biwae*, revealed by mitochondrial DNA analysis. Ichthyol Res, 50: 318-325.
- Kitagawa, T., M. Watanabe, T. Kobayashi, M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki. 2001. Two genetically divergent groups in the Japanese spined loach *Cobitis takatsuensis*, and their phylogenetic relationships among Japanese *Cobitis* inferred from mitochondrial DNA analyses. Zool Sci, 18: 248-259.
- 高知県内水面漁業管理委員会. 2014. ニホンウナギの資源管理について (提言). 30 pp. 高知市.
- Kurita, T. and T. Yoshino. 2012. Cryptic diversity of the eel goby, genus *Taenioides* (Gobiidae: Amblyopinae), in Japan. Zool Sci, 29: 538-545.
- 三宅崇智・佐竹直人・黒木広大・町田吉彦. 2006. 高知市浦戸湾南部に生息するハゼ科魚類. 四国自然史科学研究, (3): 38-49.
- 水野晃秀. 2014. オオウナギ. 愛媛県レッドデータブック改訂委員会 (編), p. 118. 愛媛県レッドデータブック 2014 RED DATA BOOK EHIME —愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県民環境部環境局自然保護課, 松山.
- 水野晃秀・長澤和也. 2009. わが国におけるオオウナギの地理的分布の現状. 日本生物地理学会報, (64): 79-87.
- 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野, 2428 pp.
- Nakagawa, H., S. Seki, T. Ishikawa and K. Watanabe. 2016. Genetic population structure of the Japanese torrent catfish *Liobagrus reinii* (Amblycipitidae) inferred from mitochondrial cytochrome *b* variations. Ichthyol Res, 63: 333-346.
- 中島 淳・洲澤 譲・清水孝昭・齊藤憲治. 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59: 86-95.
- 落合 明・岡村 収・榎田 晋. 1975. 浦戸湾およびその地先の魚類の分布と生息の実態. 高知県 (編), pp. 101-120. 高知港 (種崎新港) 建設に係る環境事前調査報告書 —昭和49年度委託調査—, 高知県.
- 落合 明・寺岡 澄・半沢直人. 1980. 高知県における淡水魚の生息と分布の概況. 高知大学学術研究報告農学編, 28: 1-12.
- 岡部正也・小川章博. 2012. 高知県奈半利川水系における在来アマゴの識別と個体群構造の推定. 水産増殖, 60: 89-97.
- 岡村 収. 2002. スナヤツメ, オオウナギ, アカザ, メダカ, シロウオ, イドミミズハゼ, タネハゼ, ドロクイ, カマキリ (アユカケ), トビハゼ, タビラクチ. 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会 (編), pp. 172-173, 180-181, 186-189, 192-197, 206-207, 216-221. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部

- 環境保全課, 高知市.
- 大塚高雄・野村彩恵・杉村光俊. 2010. 四万十川の魚図鑑. いかだ社, 東京, 163 pp.
- 阪本匡祥・町田吉彦・遠藤広光. 2009. 第18章 浦戸湾とその流入河川の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 415-432, 図版1-20. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知市.
- 佐藤友康・高田陽子・佐竹直人・黒木広大・町田吉彦. 2005. 高知県浦戸湾で採集されたヨウジウオ科魚類 (硬骨魚綱: トゲウオ亜目). 四国自然史科学研究, (2): 26-32.
- 佐藤陽一. 2016. 徳島県におけるオオウナギ *Anguilla marmorata* の記録. 徳島県立博物館研究報告, (26): 49-55.
- 瀬能 宏. 2013. オクヨウジ. 中坊徹次 (編), p. 616. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Shimizu, T. 2008. Geographic differentiation of *Cobitis shikokuensis* inferred from mtDNA RFLP analysis. Ichthyol Res, 55: 101-111.
- 清水孝昭. 2014. ドジョウ: 資源利用の攪乱. 魚類学雑誌, 61: 36-40.
- 清水孝昭・高橋弘明. 2017. 四国固有の希少シマドジョウ属魚類の現状と保全: ヒナイシドジョウ, トサシマドジョウ. 魚類学雑誌, 64: 65-69.
- Suzawa, Y. 2006. A new loach, *Cobitis shikokuensis* (Teleostei: Cobitidae), from Shikoku Island, Japan. Ichthyol Res, 53: 315-322.
- 鈴木寿之. 2001. タネハゼ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), p. 575. 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 鈴木寿之・渋谷浩一・矢野維幾. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京, 534 pp.
- 立原一憲. 2015. チワラスボ. 環境省自然保護局野生生物課希少種保全推進室 (編), pp. 234-235. 一日本の絶滅のおそれのある野生生物— レッドデータブック2014 4 汽水・淡水産魚類. ぎょうせい, 東京.
- Takada, M., K. Tachihara, T. Kon, G. Yamamoto, K. Iguchi, M. Miya and M. Nishida. 2010. Biogeography and evolution of the *Carassius auratus* complex in East Asia. BMC Evol Biol, <http://Biomedcentral.com/1471-2148/10/7>.
- 高橋弘明. 1996. 純淡水魚を中心とした高知県中央部, 浦ノ内湾流入河川の魚類相. 南紀生物, 38: 107-114.
- . 2002. ヨウジウオ, チワラスボ, ヤリタナゴ, イシドジョウ近似種, ヒモハゼ, モツゴ, ドジョウ, シマドジョウ 2 倍体性種, シマドジョウ 4 倍体性種. 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会 (編), pp. 174-175, 178-179, 182-185, 198-199, 208-215. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知市.
- . 2015. 高知県におけるシマドジョウ属 2 種の分布・生息状況および形態的特徴. 日本生物地理学会報, 70: 73-86.
- 高橋弘明・橋本健一. 2004. 高知県で採集されたオカメハゼ *Eleotris melanosoma* Bleeker の大型個体. 南予生物, 13: 31-33.
- 高橋弘明・岡村 収・岡本 充. 1998. 吉野川水系 (高知県) で採集されたスナヤツメ. 徳島県立博物館研究報告, (8): 119-124.
- 高井 徹・溝上昭男. 1961. オクヨウジの形態および生態に関する 2・3 について. 広島大学水産講習所研究業績, (303): 79-84.
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会 (編). 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 — 徳島県版レッドデータブック—. 徳島県環境生活部環境政策課, 徳島市. 438 pp.
- 徳島県県民環境部自然保護課・徳島県立博物館. 2010. 徳島県希少野生動植物保護管理マニュアル2010. 18 pp.
- Yamazaki, Y. 2017. Microhabitat use by the larvae of two cryptic lamprey species in *Lethenteron reissneri* in a sympatric area. Ichthyol Res, 54: 24-31.
- 吉田隆男・道津喜衛・深川元太郎・宮本廉夫. 2006. 長崎県大村湾産イドミミズO型, *Luciogobius* sp. の生態, 生活史と飼育. 長崎県生物学会誌, (61): 113-125.





## 概説

## 汽水・淡水産十脚甲殻類

2002年の高知県レッドデータブック〔動物編〕には、19種の汽水・淡水産十脚甲殻類が掲載されており、そのうち、絶滅危惧IA類（CR）が2種、絶滅危惧IB類（EN）が1種、絶滅危惧II類（VU）が1種で、絶滅危惧種は計4種であった。本改訂の結果、36種が掲載され、絶滅危惧I類（CR+EN）が9種、絶滅危惧II類（VU）が10種であり、絶滅危惧種は計19種となった。その主な理由は、2002年には汽水域として河口干潟だけを対象としていたのに対し、本改訂では内湾域の干潟に生息する種も対象としたことによる。数字で示すと、レッドデータブック掲載種36種のうち、2002年の汽水・淡水産十脚甲殻類全記録種リストに含まれていない種が15種含まれている。また近年、高知県の干潟域の調査が進み、多くの知見が集積したことも掲載種の増加の一因となったと考えられる。2002年の全記録種リストでランク外であった種9種が改訂により掲載種となり、情報不足（DD）とされた4種のうち3種が絶滅危惧I類（CR+EN）またはII類（VU）のランクが付されることとなった。以上のように、本改訂における絶滅危惧種の大幅な増加の要因は複数あり、十脚甲殻類の生息環境が悪化したことだけを示すわけではない。しかし、それだけ多数の種が絶滅のおそれにあるということが高知県の現状であることを肝に銘じる必要がある。以下に詳細を述べる。

絶滅危惧種のほとんどは干潟を主な生息場所としている。その数は実に19種中18種であり、レッドリスト掲載種でも36種中31種が干潟の生物である。日本各地で干潟の生物が減少しているが、その主要因は埋め立てによる生息地の破壊である。高知県でも干潟環境の多くが埋め立てられ、現存する干潟は本来の干潟環境のごく一部が残されたものである。河口干潟も河川改修によりそのほとんどがなくなったと考えてよい。干潟は多様な生物の生息を可能にするだけでなく、食物連鎖とバクテリアの働きにより水質浄化の機能も有している。さらに、漁業とレクリエーションの場としても、私たちにとってなくてはならない環境である。本来であればわずかに残された干潟を保全し、これ以上の生息地の破壊を食い止め、さらに干潟環境の復元を試みるのが高知県のとるべき指針であろう。にもかかわらず、2016年に道路の拡張工事のために、浦ノ内湾の出見川の河口で埋立てが行われ、干潟が失われてしまった。このような生息地の破壊が続く限り、本改定で指定した絶滅危惧種はもちろん、準絶滅危惧とした種やランク外の種でも、その生息場所や個体数の減少には細心の注意が必要である。防災上どうしても必要な工事もあるが、干潟を失う場合には、それだけの干潟面積をどこかで回復することを真剣に考える必要があるだろう。

干潟といってもその環境は多様であり、砂質の干潟から砂泥質の干潟、泥の干潟や転石の干潟まで、その底質の様態はさまざまである。それぞれの底質にはそれを好む生物が生活している。例えば、マングローブテッポウエビは人が歩くと膝まで泥に沈んでしまうような軟らかい泥の干潟に生息する。シオマネキも泥干潟に多い種である。一方、オサガニはやや砂質を好み、ブイエスナモグリは砂質干潟にのみ生息する。このように、単に干潟があることだけではなく、さまざまな底質の干潟環境があることが多様な生物の生息環境として重要である。干潟の底質の粒度を決めているのは波あたりや河口との位置関係であり、地理的にさまざまな場所に干潟が存在することが、このような多様な底質の干潟を残すことにつながる。干潟の底質の変化は近年、四万十川で問題となっている。四万十川の河口には本来、自然にできた砂州があり、防波堤のように海からの波の侵入を防いできた。増水で砂州が流されても、時間が経つと自然に砂州は回復していた。近年、流された砂州が復元しない状態が続いており、海からの波を受けて四万十川のコアマモ場が失われ、干潟の底質環境も変化した。この変化はスジアオノリの不漁とも関係しているかもしれない。四万十川の異変の要因の一つとして、下田港の改修工事が挙げられる。この工事は、四万十川と合流する竹島川の水を直接海に流すために、河口の分離が予定されており、そのための工事を先取りして構築した防波堤が浜辺の流砂系を断ち切ってしまった。そのために四万十川の河口砂州が形成されなくなったのである。竹島川は高知県で最大の泥干潟を有しているが、もし河口の分離の工事が行われれば、四万十川本流と同様に海の波が泥干潟に達して底質が変化することが予想される。高知県をはじめ、九州から本州にかけての太平洋沿岸では、泥の干潟が特に少ない。竹島川の干潟はその数少ない泥干潟のひとつであり、泥の干潟に適応した生物が生息している。この個体群が、日本の泥の干潟の生物の遺伝子交流の橋渡しとなっている可能性もある。

干潟の底質だけではなく、干潟の地盤高もまた重要な環境要素となっている。いかにも干潟らしい環境は潮間帯中部から下部にかけて見られるが、潮間帯上部あるいは潮上帯も多様な生物の生活を支えている。シオマネキやハクセンシオマネキの生息場所は潮間帯の上部にある。彼らの生活に適した底質の干潟が潮間帯の中部や下部にあったとしても、そこでは彼らは生活できないのである。したがって、干潟があるだけではなく、潮間帯上部や潮上帯が残されていることがこれらの絶滅危惧種の生存に必要である。さらに、フジテガニも潮上帯の石の下から見つかる。まるで道路の脇の雑草の下のような環

境であり、多くの人はここが絶滅危惧種の生息場所であるとは気付かないであろう。干潟の上部から潮上帯にかけては、耐塩性を有するハマツツナやハマサジの群落（塩性湿地）が、同様に河口域ではヨシ原が発達し、かつてはクシテガニをはじめとするベンケイガニ科のカニ類やモクズガニ科のハマガニやアシハラガニ類の楽園となっていた。埋め立てや道路拡張工事で失われるのは真っ先にこの部分であるため、干潟の潮間帯上部から潮上帯にかけての保全と再生は逼迫した課題となっている。とくに塩性湿地は高知県にはわずかしか残っていない。さらに、アカテガニやベンケイガニは干潟だけではなく、後背地の土手や海に続く山に巣穴や隠れ家を得て生活圏としている。すなわち、干潟だけではなく、周辺の自然環境が保たれていることが多様な甲殻類の生存を可能にしている。

絶滅危惧種には、干潟に生息する他の種に依存して共生生活を送る動物も多い。このような関係は、住み込み共生として知られ、干潟の生物群集の中核をなす可能性が指摘されている。本改訂でレッドリスト掲載種となった種の中にも、7種がそのような共生関係を必要としている。特に、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴、ゴカイ類の棲管は大型となり、内部の空隙も大きいため、十脚甲殻類の共生者による巣穴利用が進化した。ムギワラムシやツバサゴカイは、高知県ではレッドリストの対象ではないが、環境省や日本ベントス学会により絶滅危惧種に指定されていることから、巣穴に共生する生物とともに保全されるべきである。さらに、ヨコヤアナジャコやニホンスナモグリのように、絶滅危惧種の生息場所を提供している場合には、レッドリスト掲載種でなくてもその保全が必要となることもあるだろう。

淡水産の十脚甲殻類では、1種が絶滅危惧種に、3種が準絶滅危惧に指定された。とくに、テナガエビ類3種が準絶滅危惧に指定されたことは特筆に値する。テナガエビ類は水産上の重要種であり、特に居酒屋などで消費されている。なかでも、四万十川産のテナガエビ類はブランド力が高く、オーバーユースとなっている可能性がある。四万十川のテナガエビ類が減少すれば、他の河川での採集圧も高まってくるかもしれない。その資源回復と持続的利用のために、高知県内水面漁場管理委員会は漁業法に基づき2018年9月1日から2019年3月31日まで、テナガエビ類の採捕の禁止を決定した。また、検討するデータが得られなかったためレッドリスト掲載種とはならなかったが、モクズガニも同様に水産資源として消費量が増加している可能性もあるため、その資源量のモニタリングを行う必要があるかもしれない。

本改訂で対象としなかった生息場所で、今後検討する必要があるのが、砂浜に生息する生物である。白砂青松の浜辺は日本人の琴線に触れる特別な自然環境である。砂浜はその背後の砂丘帯から後背の海岸林までが一体となった生態系をなすが、多くの場所では砂浜より上部は道路や住宅となっている。現在、津波対策として、より高い堤防を構築する工事が県内で行われているが、高い堤防を築くためにはより広範囲の砂浜を削る必要がある。さらに砂浜環境の脅威となっているのがダムと砂利採取である。海岸の砂の供給源は河川であり、ダムが砂の供給を制限している。さらに、海から砂利を直接、採取する行為とあわせて、日本各地で確認されている砂浜の縮小の原因となっている。今後の健全な砂浜環境の維持のためにも、そこに生息する生物のモニタリングを行う必要がある。植生下に見られるムラサキオカヤドカリは陸生甲殻類としてすでにレッドリストの対象としているが、今後はスナガニ類やスナホリガニ類などの砂浜に生息する十脚目甲殻類も対象として調査を行うべきであろう。

伊谷 行

高知県レッドリスト（汽水・淡水産十脚甲殻類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>マングローブテッポウエビ</b> <i>Alpheus</i> sp.	絶滅危惧Ⅰ類	情報不足	
<b>ヤドリカニダマシ</b> <i>Polyonyx sinensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>ウチノミカニダマシ</b> <i>Polyonyx utinomii</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>ヤドリムツアシガニ</b> <i>Hexapinus simplex</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>アマクサツェンナーガニ</b> <i>Zehntneriana amakusae</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>フジテガニ</b> <i>Clistocoeloma villosum</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>クシテガニ</b> <i>Parasesarma affine</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧IB類	2002年版では、オオユビアカベンケイガニと表記
<b>シタゴコロガニ</b> <i>Sestrostoma</i> sp.	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>オサガニ</b> <i>Macrophthalmus abbreviatus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	情報不足	
<b>シラタエビ</b> <i>Exopalaemon orientis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>アナジャコ</b> <i>Upogebia major</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>コブシアナジャコ</b> <i>Upogebia sakaii</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>ハマガニ</b> <i>Chasmagnathus convexus</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>ヒメアシハラガニ</b> <i>Helicana japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>トゲアシヒライソガニモドキ</b> <i>Parapyxidognathus deianira</i>	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	
<b>ムツハアリアケガニ</b> <i>Camptandrium sexdentatum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IA類	
<b>アリアケモドキ</b> <i>Deiratonotus cristatus</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>シオマネキ</b> <i>Tubuca arcuata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IA類	
<b>ハクセンシオマネキ</b> <i>Austruca lactea</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>クボミテッポウエビ</b> <i>Stenalpheops anacanthus</i>	準絶滅危惧		



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
ミナミテナガエビ <i>Macrobrachium formosense</i>	準絶滅危惧		
ヒラテテナガエビ <i>Macrobrachium japonicum</i>	準絶滅危惧		
テナガエビ <i>Macrobrachium nipponense</i>	準絶滅危惧		
テナガツノヤドカリ <i>Diogenes nitidimanus</i>	準絶滅危惧		
マメコブシガニ <i>Pyrhila pisum</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
アカテガニ <i>Chiromantes haematocheir</i>	準絶滅危惧		
ベンケイガニ <i>Sesarmops intermedius</i>	準絶滅危惧		
トリウミアカイトモドキ <i>Sestrostoma toriumii</i>	準絶滅危惧		
オトヒメテッポウエビ <i>Automate dolichognatha</i>	情報不足	情報不足	
ブビエスナモグリ <i>Paratrypaea bouvieri</i>	情報不足		
セビロオウギガニ <i>Epixanthus frontalis</i>	情報不足		
ウモレベンケイガニ <i>Clistocoeloma sinense</i>	情報不足		
ヒメアカイトモドキ <i>Sestrostoma depressum</i>	情報不足		
ヤマトオサガニ <i>Macrophthalmus japonicus</i>	情報不足		
ヒメメナガオサガニ <i>Macrophthalmus microfylacas</i>	情報不足		
ムラサキオカヤドカリ <i>Coenobita purpureus</i>	絶滅のおそれのある地域個体群 室戸市個体群	情報不足	2002年版では、ナキオカヤドカリと表記

高知県レッドリストから除外された種（汽水・淡水産十脚甲殻類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
カワスナガニ <i>Deiratonotus japonicus</i>	除外	準絶滅危惧	注目種
コンジンテナガエビ <i>Macrobrachium lar</i>	除外	情報不足	
トウヨウヤワラガニ <i>Halicarcinus orientalis</i>	除外	情報不足	
ヒメベンケイガニ <i>Nanosesarma vestitum</i>	除外	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
ハシリイワガニモドキ <i>Metopograpsus thukuhar</i>	除外	情報不足	
ヒメイワガニモドキ <i>Pseudograpsus albus</i>	除外	情報不足	
ホンコンスナガニ <i>Ocypode mortoni</i>	除外	情報不足	

十脚目テッポウエビ科

# マングローブテッポウエビ

*Alpheus* sp.

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵12

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省 (海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

本種は軟らかい泥底に巣穴を構築して棲むが、高知県ではそのような生息環境はきわめて限定されている。さらに護岸工事や河川改修、港湾工事により、生息地の破壊が続いている。

## 【国内分布の概要】

瀬戸内海、紀伊半島、四国、九州、琉球列島

## 【県内での分布】

須崎市、四万十市、宿毛市

## 【生物学的特性】

甲長10mm程度のやや小型のテッポウエビ類で、鉗脚の一方 (大鉗) が肥大化して、破裂音を発する。鉗脚のもう一方 (小鉗) の指節は短く、雌は直線状であるが、雄では嘴状になり剛毛が目立つ。類似した環境に棲むハシボソテッポウエビとは小鉗の指節が長く咬合部に隙間を生じることから区別することができる。全体に淡い色彩をしており、腹部には濃紺の細い縞を生じる。この色彩と歩脚の指節がヘラ状になることから、鉗脚形態の類似するイソテッポウエビと区別することができる。本種は *Alpheus euphrosyne richardsoni* あるいは *Alpheus richardsoni* とされることもあるが、日本産の種は未記載種である。分類学的な検討が進んでおらず、同胞種を含む可能性もある。

## 【生息環境】

本種はマングローブ林の水路などの軟らかい泥底に巣穴を構築して棲む。瀬戸内海や九州でも、細かい粒子からなる軟らかい泥底に生息することが多いが、高知県ではそのような生息環境はきわめて限定されている。

## 【生息状況】

高知県は本種を情報不足 (DD) に指定していたが、その後の調査で本種の生息地が、いずれも面積の狭い3か所の干潟に限られることが分かった。軟らかい泥質の干潟でも、本種が生息しない地点もあり、汚染などの水質条件も関係しているものと考えられる。本種の巣穴には、ハゼ類のタビラクチが共生することが知られており、本県でも共生関係が確認された。

## 【保全・保護対策】

生息地のうちの一つで、本種の最大の個体群を抱える干潟では、港湾工事の影響で泥質の干潟が維持できなくなる可能性がある。多様な干潟環境を保全する一層の努力が必要である。

## 【執筆者】

伊谷 行・邊見由美

十脚目カニダマシ科

# ヤドリカニダマシ

*Polyonyx sinensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵12

高知県2002ランク：-

環境省 (海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

本種は環形動物のムギワラムシの棲管内に共生する。本県では、ムギワラムシの分布が限られるため、本種の分布も極めて限定的である。さらに、宿主のムギワラムシが減少傾向にあるため、宿主に依存している本種も減少していると考えられる。

## 【国内分布の概要】

紀伊半島沿岸、瀬戸内海、有明海

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

甲幅6mm。甲は横長の楕円形で、体色は黄白色の地色に褐色の隈取り模様がある。ハサミ脚は著しく左右不相称。砂質の干潟の潮間帯下部に生息する環形動物のムギワラムシの棲管内に共生する。

## 【生息環境】

ムギワラムシは前浜タイプの砂質干潟に生息することが多いが、本県では、そのような生息地が限定されている。ムギワラムシは、環境省版海洋生物レッドリスト (2017) では準絶滅危惧 (NT)、日本ベントス学会では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。

## 【生息状況】

本種は2002年の高知県レッドデータブックの汽水・淡水産十脚甲殻類に含まれていない。本種は浦ノ内湾の砂質干潟に生息するムギワラムシの棲管内から発見された。浦ノ内湾では本種の生息地のひとつが2016年に道路拡張工事により埋め立てられた。また、赤潮の出現後にムギワラムシが減少したことから、宿主が貧酸素への耐性が低いことが考えられる。ムギワラムシの減少は、共生種であるヤドリカニダマシの減少に直結していると考えられる。一方、砂質干潟における宿主および本種の調査は十分ではないため、今後の調査で新たな個体群が発見される可能性もある。

## 【保全・保護対策】

浦ノ内湾の砂泥質干潟でも、砂質干潟が形成される箇所は極めて限られており、これ以上、埋め立てによる生息地の破壊が起きないように細心の注意が必要とされる。また、赤潮の発生を抑制するために、浦ノ内湾内の養殖魚の餌の管理、釣り人による撒き餌の抑制なども課題である。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【執筆者】

邊見由美・伊谷 行

十脚目カニダマシ科

# ウチノミカニダマシ

*Polyonyx utinomii*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵12

高知県2002ランク：－

環境省（海洋生物）2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

本種は環形動物のツバサゴカイの棲管内に共生する。本県では、ツバサゴカイの分布が限られるため、本種の分布も極めて限定的である。さらに、宿主のツバサゴカイが減少傾向にあるため、宿主に依存している本種も減少していると考えられる。

## 【国内分布の概要】

伊豆半島、紀伊半島、瀬戸内海、有明海、琉球列島

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

甲幅4mm。甲は円形で、体色は淡い灰色に濃淡の模様がある。ハサミ脚は、左右不相称の著しいヤドリカニダマシに比べると、左右相称に近い。砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息するツバサゴカイのU字型の棲管内に共生する。ひとつの棲管内から雌雄ペアで見出されることがしばしばある。

## 【生息環境】

ツバサゴカイは砂質から砂泥質の干潟に生息するが、全国的に減少しており、環境省版海洋生物レッドリスト（2017）では絶滅危惧IB類 (EN)、日本ベントス学会では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。本県でも、ツバサゴカイの生息地は限定されており、ウチノミカニダマシの生息

地も極めて少ない。

## 【生息状況】

本種は2002年の高知県レッドデータブックの汽水・淡水産十脚甲殻類に含まれていない。本種は浦ノ内湾の砂質干潟や砂泥質干潟から発見された。宿主のツバサゴカイが絶滅危惧種であることから調査は不十分であるが、そもそも宿主の分布が限定的である。有明海では共生率が10%程度であるとされ、宿主のツバサゴカイが豊富に生息する干潟が本種の生存に欠かせないとされている。

## 【保全・保護対策】

浦ノ内湾では、ツバサゴカイの生息地は少なく、また個体数も少ない。これ以上、埋め立てによる生息地の破壊が起きないように細心の注意が必要である。また、潮干狩りや餌掘りのために干潟が荒らされることも、宿主と本種の個体群に悪影響を与えていると考えられる。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧IB類 (EN)

## 【執筆者】

邊見由美・伊谷 行

汽水・淡水産十脚甲殻類

十脚目ムツアシガニ科

# ヤドリムツアシガニ

*Hexapinus simplex*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵12

高知県2002ランク：－

環境省（海洋生物）2017ランク：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

本種は環形動物のツバサゴカイの棲管内に共生する。本県では、ツバサゴカイの分布が限られるため、本種の分布も極めて限定的である。さらに、宿主のツバサゴカイが減少傾向にあるため、宿主に依存している本種も減少していると考えられる。

## 【国内分布の概要】

英虞湾～琉球列島

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

甲幅20mm。甲は小豆色をした横長の台形であり、甲の後縁は波打ち、2つの隆起を有する。本種は、近縁種のムツアシガニ *H. latipes* と混同されてきたため、過去の文献情報には注意が必要である。本種は砂泥質の潮間帯から潮下帯に生息する多毛類ツバサゴカイのU字型の棲管内に共生する。本種がトゲイカリナマコと共生するという記録もあるが、それは別属のヒメムツアシガニの誤同定だと推測されている。ムツアシガニは土佐湾からも採集されている甲幅30mmに達する大型種で、宿主の確実な記録はない。

## 【生息環境】

ツバサゴカイは砂質から砂泥質の干潟に生息するが、全国的に減少しており、環境省版海洋生物レッドリスト（2017）では絶滅危惧IB類 (EN)、日本ベントス学会では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。本県でも、ツバサゴカイの生息地は限定されており、ヤドリムツアシガニの生息地も極めて少ない。

## 【生息状況】

本種は2002年の高知県レッドデータブックの汽水・淡水産十脚甲殻類に含まれていない。本種は浦ノ内湾の砂質干潟や砂泥質干潟から発見された。宿主のツバサゴカイが絶滅危惧種であることから調査は不十分であるが、そもそも宿主の分布が限定的である。

## 【保全・保護対策】

浦ノ内湾では、ツバサゴカイの生息地は少なく、また個体数も少ない。これ以上、埋め立てによる生息地の破壊が起きないように細心の注意が必要である。さらに、潮干狩りや餌掘りのために干潟が荒らされることも、宿主と本種の個体群に悪影響を与えていると考えられる。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧IB類 (EN)

## 【執筆者】

邊見由美・伊谷 行

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群



## アマクサツェンナーガニ

*Zehntneriana amakusae*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵12

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息地が限定されている上に著しく狭く、また、個体数が減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

兵庫県、和歌山県、高知県、熊本県、沖縄県

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

甲幅が4から6mmの小型種で、甲は横長の楕円形をなす。額の中央に弱い窪みがある。前側縁に2つの小さな切れ込みがある。額の前縁、甲、歩脚にやや長くて柔らかい毛がある。大きな個体では鉗脚の掌部は白く、可動指と不動指の先端が黒くなる。

## 【生息環境】

県内の生息地は浦ノ内湾南岸の2地点しかない。礫質の潮間帯の中部から下部にかけて生息するが、泥質の基質に礫が埋まったような場所で発見される。また、大型の礫や岩の近くで発見されることが多い。

## 【生息状況】

暫定リストではヨコナガオキナガニ *Pseudolitochira integra* としたが誤査定である。本種が浦ノ内湾で最初に確認されたのは2005年で、湾口に近い地点で個体が採集された。その後、より奥部に生息することが確認された。生息地はともに著しく狭く、生息確認作業そのものが生存に悪影響を与える可能性がある。現時点では、湾口に近い生息地で個体の確認が困難になりつつあり、奥部の地点でも個体数が減少傾向にあると考えられる。

## 【保全・保護対策】

近年、貝を採る人たちが浦ノ内湾の南岸でも増えてきており、人為的攪乱が個体数の減少に関わっている可能性があるが定かではない。

## 【執筆者】

町田吉彦

## フジテガニ

*Clistocoeloma villosum*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵12

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物)2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内における確実な生息地は浦ノ内湾の1地点のみであり、生息範囲が狭い上に個体数が減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

大阪府、和歌山県から沖縄県

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

小型種で、浦ノ内湾の最大個体の甲幅は12.6mm。甲はほぼ四角形をなし、表面に多数の短毛の束がある。額の中央に浅い窪みがあり、2葉に分かれる。前側縁には眼後歯以外に歯がない。歩脚も多くの短毛を生じる。鉗脚の掌部は淡い藤色になる。

## 【生息環境】

県内唯一の生息地は浦ノ内湾に面した横浪半島の北岸にある。潮間帯の上部から潮上帯にかけて生息し、斜面から崩落した礫の下に潜んでいる。生息地のすぐ上方は照葉樹林の葉の陰になり、礫の下の土壌は湿った状態にある。落ち葉やゴミも見られ、生息地の高い場所ではクチバガイが同所的に生息する。

## 【生息状況】

本種は2002年の高知県レッドデータブックの汽水・淡水産十脚甲殻類に掲載されていない。これまで、県内では無効分散と考えられる1例があるものの、本種が常に観察できる場所は浦ノ内湾しかない。2地点で確認されたが、常時観察できる場所は1地点しかなく、他の1地点では1個体が1回確認されたのみである。本種の存在が明らかになったのは2004年であり、発見当時は個体数が多いと考えられていたが、その後、次第に減少傾向にある可能性が浮上したため、面積が狭いこともあって現地調査でも個体の採集は控えており、直接観察と写真撮影による確認のみをしている。

## 【保全・保護対策】

高知県の生息地は磯遊びをする人も気付かないような場所であり、個体数減少の要因は現在のところ不明である。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

町田吉彦

クシテガニ  
*Parasesarma affine*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵12

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省 (海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

本種は、発達した塩性湿地のある大きな内湾や大河川の河口域に限定して出現する傾向があるが、全国的に個体数は少なく希少。高知県内では、このような湿地のある環境は限定されており、また小規模であるため、護岸工事や埋立て、環境汚染による個体数の減少が懸念される。

## 【国内分布の概要】

関東以南 (東京湾, 相模湾) から沖縄

## 【県内での分布】

宿毛市

## 【生物学的特性】

甲長20mm, 甲幅25mm程度。甲は四角形で前側縁に切れ込みはなく、眼窩外後方はややくぼむ。色は全体に紫色を帯びた褐色であり、鉗脚の表面は小顆粒で被われ、赤みを帯びる。可動指上縁に6~8列の横長の顆粒があり近似種のユビアカベンケイガニやカクベンケイガニと区別できる。フタバカクガニは甲の前側縁に切れ込みがあり、鉗脚の色も黄色いことで区別できるが、可動指上縁の顆粒の形状は似ている。雑食性の種で、他のカニ類も捕食する。別名オオユビアカベンケイガニ。

## 【生息環境】

内湾や河川河口に形成されたヨシなどの塩生植物が繁茂する干潟やその周辺の石礫下、石積み護岸が施された箇所に生息する。

## 【生息状況】

2002年の高知県レッドデータブックでは、下ノ加江川、四万十川支流竹島川、須崎湾奥地のヨシのある干潟で確認されたところがあるが、現在、当該箇所での生息は確認されておらず、宿毛湾内に形成された小規模な干潟一か所のみで確認された。そもそもの個体数が少ない上に生息地の改変などにより更に個体数が減少している可能性がきわめて高い。

## 【保全・保護対策】

過去から確認されている場所については、現状以上の改変や汚濁がないよう監視する必要がある。また、個体数減少の主要因が判明していないため、今後も継続した実態調査を進めるとともに、本種幼生の生産状況や着定状態を把握する必要がある。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【執筆者】

美濃厚志

シタゴコロガニ  
*Sestrostoma sp.*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵12

高知県2002ランク：-

環境省 (海洋生物) 2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

本種は、高知県では、アナジャコ科のヨコヤアナジャコやコブシアナジャコの腹部に掴まって、常に宿主とともに生活している。高知県ではアナジャコ類の生息する干潟は多数あるものの、本種が生息する干潟は極めて限定されており、その保全が必要である。

## 【国内分布の概要】

瀬戸内海, 紀伊半島, 四国, 奄美大島

## 【県内での分布】

土佐市, 須崎市

## 【生物学的特性】

甲長7mm程度の濃灰色の小型のカニ類であり、アナジャコ類の腹部にぶら下がる特異な生態は世界でも本種のみである。同属のトリウミアカイソモドキはアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴内で生活するが、宿主の体表に取りつくことはない。本種は、鉗脚や歩脚の指節の先端が曲がっていること、眼下線が微小な顆粒からなることから、トリウミアカイソモドキとは区別できる。

## 【生息環境】

本種は常にアナジャコ類の巣穴内で、宿主とともに生活している。宿主は、ヨコヤアナジャコやコブシアナジャコ他に、アナジャコ、バルスアナジャコとナルトアナジャコが知られており、特異性は高くないが、スナモグリ類など他の科の甲殻類は利用しない。

## 【生息状況】

本種は未記載種であり、2002年の高知県レッドデータブックの汽水・淡水産十脚甲殻類に含まれていない。高知県ではヨコヤアナジャコやコブシアナジャコと共生する個体が浦ノ内湾と須崎湾から得られている。宿主の分布に比べて、本種の分布は極めて限られており、水質などの環境条件の影響を受けている可能性がある。

## 【保全・保護対策】

浦ノ内湾では、道路拡張工事などにより、現在でも埋め立て工事が続いている。また、生息地のいくつかでは、アナジャコ類やスナモグリ類を釣り餌に使うための餌掘りが行われており、干潟が荒らされている。工事と餌掘りの頻度を下げることが求められる。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧IB類 (EN)

## 【執筆者】

伊谷 行・邊見由美

# オサガニ

*Macrophthalmus abbreviatus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵13

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省 (海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

本種は、内湾や河口域の海域に近い砂質干潟低潮帯に生息する。九州沿岸では普通とされているが、その他の地域では大きな個体群は少なく知見は不十分である。高知県内での生息地も限定されており、環境変化にともなう生息個体数の減少が懸念される。

**【国内分布の概要】**

宮城県以南から九州

**【県内での分布】**

高知市、須崎市

**【生物学的特性】**

甲長17mm、甲幅35mm程度。甲は横長の四角形で鉗脚を含めて甲一面に顆粒があり赤黒色を呈すること、雄がウェービング行動（ハサミ振り行動）をおこなわないことで、近似種のヤマトオサガニやヒメヤマトオサガニと区別できる。和歌山県和歌川河口干潟での繁殖期は5月から8月である（塩崎による未発表データ）。

**【生息環境】**

内湾域にありながら、潮通しの良い砂質干潟に生息する。高知県内での砂質干潟形成箇所は砂泥干潟に比べ多いが、本種の生息する砂質干潟は極めて限定されている。底質の粒度の細やかな条件や水質などが本種の分布に影響を与えている可能性がある。

**【生息状況】**

高知県では情報不足 (DD) とされていた。現在の生息確認箇所は、浦戸湾内と浦ノ内湾内のそれぞれ一箇所である。いずれの干潟でも生息個体数は少なく、絶滅の危険性が極めて高い。

**【保全・保護対策】**

本種の生息する砂干潟は、潮干狩りによる錯誤捕獲を含めた人為的影響を受けている可能性がある。浦戸湾では、外来種の二枚貝コウロエンカワヒバリガイが本種の生息する干潟の表面を覆うことがあり、悪影響を与える場合もある。また、干潟の泥質化がおきて、泥干潟で生息が優占するヒメヤマトオサガニと競合している可能性もある。あまりにも個体数が急減していることから、干潟の汚濁防止対策や人為的影響を回避する施策を早急に講じる必要がある。

**【特記事項】**

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

**【執筆者】**

美濃厚志・塩崎祐斗

十脚目テナガエビ科

# シラタエビ

*Exopalaemon orientis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵13

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息地が限定的である。

## 【国内分布の概要】

函館以南から九州

## 【県内での分布】

県西部

## 【生物学的特性】

体長は最大で8cm。額角が細長く、前方は上を向くが、基部がとさか状に盛り上がることでスジエビ属の種と区別できる。第1触角の鞭状部は青い。生時は全身に目立った縞模様などは無く、褐色の斑点が多く散在するが、弱ると全身が白濁する。

## 【生息環境】

河口や汽水域、また、海水を取り入れる水路などにも生息する。

## 【生息状況】

県外では普通種であるが、高知県では限られた場所でのみ確認されており、隔離分布していると考えられる。

## 【保全・保護対策】

県内の浅海と汽水域における生息の実態や遺伝的特性を把握した上で、生息地の保全が望まれる。

## 【執筆者】

齊藤知己

汽水・淡水産十脚甲殻類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

十脚目アナジャコ科

# アナジャコ

*Upogebia major*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵13

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

全国的には砂泥質の干潟でしばしば優占する種であるが、高知県内の本種の生息地は浦ノ内湾内の1か所のみであり、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州

## 【県内での分布】

須崎市

## 【生物学的特性】

甲長30mmに達する大型の種であり、砂泥質の干潟に深さ250cmを越えるY字型の巣穴を構築する。植物プランクトン食者であり、懸濁物を除去するとともに、巣穴壁のバクテリアが水質浄化に貢献している。巣穴はハゼ類、カニ類、エビ類、二枚貝類をはじめとする多様な共生者の住処となることが知られている。熊本県と岡山県では食用とされる。東京湾や瀬戸内海、有明海では、冬期に抱卵し、春期に幼生が着底する。高知県で優占するヨコヤアナジャコは甲長15~20mm程度のアナジャコ類であり、体サイズが異なるうえ、鉗脚の形態が異なる。

## 【生息環境】

砂泥質の前浜干潟に生息し、内湾の広大な干潟ではしばしば優占種となる。ただし近年、瀬戸内海では減少傾向にある。

## 【生息状況】

本種は2002年の高知県レッドデータブックの汽水・淡水産十脚甲殻類に含まれていない。近年、本種が浦ノ内湾の最奥部でのみ確認された。本種は、分布域から考えると、冷温帯性の種である。浦ノ内湾の最奥部は外海の影響が少なく、冬期には水温が11度まで低下することが本種の生息の鍵となっているかもしれない。また、本種の高知県の個体群は、水期に南下していた個体群が太平洋岸に残存したものである。四国の太平洋側には近くに生息地はなく、何らかの理由により生息地が破壊されると、高知県の個体群の回復の見込みはほとんどない。

## 【保全・保護対策】

浦ノ内湾では道路拡張工事と護岸の拡張・整備により、現在でも埋め立て工事が続いている。また、生息地のいくつかでは、アナジャコ類やスナモグリ類を釣り餌に使うための餌掘りが行われており、干潟が荒らされている。生息地の破壊を避ける施策が求められる。

## 【執筆者】

伊谷 行



## コブシアナジャコ

*Upogebia sakaii*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵13

高知県2002ランク：－

環境省（海洋生物）2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

清浄な干潟にしか生息しない種であり、高知県内の生息地はきわめて限定されており、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

和歌山、徳島、高知、鹿児島、沖縄

## 【県内での分布】

土佐市、須崎市

## 【生物学的特性】

甲長15mm程度の小型の種であり、砂質から砂泥質の干潟にY字型の巣穴を構築する。植物プランクトン食者であり、海水中の懸濁物を除去することにより水質の浄化に貢献している。巣穴内は主にカニ類とエビ類が共生する。同所的に分布するヨコヤアナジャコにはマゴコロガイの付着がよく観察されるが、本種にはほとんど着生しない。鰓に寄生するエビヤドリムシ類も本種とヨコヤアナジャコでは種が異なる。かつてはインドネシアに分布する*Upogebia pugnax*と同種とされていたが、日本産の種は土佐市の浦ノ内湾産の標本を基に新種記載された。鉗脚の上面が紅色をしており、鉗脚や胸脚に鋭い刺が目立つことから、日本に分布する他のアナジャコ類とは容易に区別される。

## 【生息環境】

本種は宮古島から紀伊半島にかけての黒潮流域圏の清浄な干潟にしか生息しない。宮古島では本種の個体群密度が高いものの他県では縮小傾向にあり、奄美大島では個体数が激減している。

## 【生息状況】

本種は浦ノ内湾と須崎湾に分布する。湾奥には分布しないことから、水温との関係が示唆されるが、底質の粒度が影響している可能性もある。

## 【保全・保護対策】

浦ノ内湾では道路拡張工事などにより現在でも埋め立て工事が続いている。また、生息地のいくつかでは、アナジャコ類やスナモグリ類を釣り餌に使うための餌掘りが行われており、干潟が荒らされている。生息地の破壊を避ける施策が求められる。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【執筆者】

伊谷 行

## ハマガニ

*Chasmagnathus convexus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵13

高知県2002ランク：－

環境省（海洋生物）2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地は県中部から西部にかけて散在するが、いずれの場所も例外なく狭く、一部で個体群の消滅や個体数の減少傾向が確認されている。

## 【国内分布の概要】

宮城県から沖縄県

## 【県内での分布】

浦戸湾および高知市から西の河口干潟

## 【生物学的特性】

県内に産する半陸生のカニでは最大種。甲はやや丸みを帯び、盛り上がる。額に縦の溝があり、よく目立つ。鉗脚はよく発達して大きく、がっしりしている。甲の周縁、脚の関節が橙色で縁取られる。成長すると甲や脚が紫色になる個体が多い。雑食性で、ヨシを含む若い芽を食するとされる。

## 【生息環境】

汽水域の上部に生息し、通常はアシハラガニよりも高い場所で観察される。ヨシ群落が発達している場所に多いが、ヨシ群落からわずかに離れた底質が固くてオープンな場所に深い穴を掘り、日中はその中に潜んでいる。警戒心が強く、日中に姿を見かけても、穴に入るとなかなか出て来ない。草地や照葉樹の林縁部で観察されることもあるが、例数は少ない。

## 【生息状況】

本種はこれまで、高知県レッドリストの対象種ではなかった。生息地は県内に散在するが、いずれの場所もきわめて狭く、大きくて安定した個体群は少ない。近年では浦戸湾の一部の集団および高知市春野町の河口干潟の集団の衰退が顕著である。土佐清水市でも2014年の8月の大出水によりヨシ群落が大きな影響を受け、群落内の本種の個体数はまだ回復していない。また、須崎湾の奥部では一部の地域で集団が消滅したことが確認されている。四万十市と宿毛市の生息地も局所的である。

## 【保全・保護対策】

アシ群落の保全に留意する必要がある。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

町田吉彦

## ヒメアシハラガニ

*Helicana japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵13

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省 (海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内ではアシハラガニやシオマネキと同所的であるが、アシハラガニより泥質が多い場所を好み、また、アシハラガニやシオマネキより個体数をはるかに少ない。

## 【国内分布の概要】

神奈川県以南

## 【県内での分布】

浦戸湾以西の内湾と河口干潟

## 【生物学的特性】

形態はアシハラガニに似るがアシハラガニよりひと回り小さく、甲幅はおよそ20mm。前側縁にはアシハラガニと同様に2つの明瞭な切れ込みがある。本種の第1から第3または第4歩脚の腕節と前節は短毛を密に生じるが、アシハラガニでは第1または第2歩脚に限られる。眼窩下縁の顆粒の数は雄で10~12個、雌で12~14個。雑食性であるが、他のカニを捕食することが知られており、チゴガニやハクセンシオマネキの個体の間を移動するのがしばしば観察される。

## 【生息環境】

ヨシ群落でアシハラガニおよびシオマネキと共存していることが多いが、より泥質が多い場所で観察される。アシハラガニより生息範囲が狭く、行動範囲も狭い。また、シオマネキの集団内でも観察されるが、個体数はシオマネキよりはるかに少ない。河川では、感潮域にヨシ群落が発達する大・中規模河川で観察される。

## 【生息状況】

集団で生活することはなく、もともと個体数が少ない種である。高知県では準絶滅危惧 (NT) に指定されていたが、2014年8月の大出水で衰退したヨシ群落がまだ十分に回復していない場所があり、本種の個体数も回復したとは判断できない。

## 【保全・保護対策】

感潮域の埋め立てならびに護岸構築に際しては、ヨシ群落の保全を優先する必要がある。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

町田吉彦

## トゲアシヒライソガニモドキ

*Parapyxidognathus deianira*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵13

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

土佐湾に直接流入する河川の感潮域で記録されているが、産地が少なく、また、2014年8月の記録的な出水による生息地の河床の変化に伴う個体数の激減からいまだ回復していないと判断される。

## 【国内分布の概要】

千葉県、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県、沖縄県

## 【県内での分布】

安芸市、高知市、須崎市、黒潮町

## 【生物学的特性】

甲は厚く、表面は平滑で、光沢がある。前側縁には眼後歯を含めて鋭い3歯がある。鉗脚は不同であるが強力で、平滑無毛。歩脚の前・後縁に軟毛が密生し、長節の後縁に複数の棘がある。

## 【生息環境】

感潮域の岸近くの、砂泥にあるこぶし大から人頭大の比較的大きな礫の下に潜んでいる。常に水が動いている場所よりも水が滞留しやすい場所に多い。

## 【生息状況】

高知県は本種を情報不足 (DD) に指定していたが、産地や個体数に関する情報はなかった。これまでも東洋町から室戸岬を経て安田町までの河川と、四万十町から西の河川では記録されていない。安芸市では2河川で確認された。高知市では春野町1河川の左岸で確認されたが、2003年から2006年にかけての調査では県内で最も個体数が多かった。須崎市では2河川で標本が得られた。黒潮町でも2河川で記録されている。ただし、2014年8月の記録的な出水でどの河川でも個体数が減少した。多くの個体が記録されていた高知市春野町の河川では、その後の調査で個体が確認されていない。

## 【保全・保護対策】

比較的大きな礫がたまりやすい環境を保つ必要があり、コンクリートによる直線的な護岸は避ける必要がある。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

町田吉彦

十脚目ムツハアリアケガニ科

# ムツハアリアケガニ

*Camptandrium sexdentatum*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵13

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省(海洋生物)2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内の生息地はもともと少なく、また近年、生息地と個体数が減少傾向にあると判断される。

## 【国内分布の概要】

小笠原、宮城県、相模湾から長崎県、沖縄県

## 【県内での分布】

高知市、須崎市、黒潮町、四万十市

## 【生物学的特性】

甲は丸みを帯びた六角形。甲に多くの凹凸がある。額幅は幅広く、眼窩とはほぼ同長。前側縁に眼後歯を含めて3本の鈍歯がある。額域、肝域および鰓域のところどころに顆粒を伴った稜線が走る。鉗脚と歩脚に長毛が密生し、歩脚の長節に稜線がある。

## 【生息環境】

泥質の多い干潟に生息する。河川感潮域でも河口干潟の泥質が多い部分に生息するが、ほとんどの場合泥の中に埋もれており、泥ごと採集されることが多い。

## 【生息状況】

本種が高知県絶滅危惧IA類 (CR) に指定された当時は、浦戸湾東岸の流入河川と黒潮町の1河川のみが産地として知られていた。その後、浦戸湾内では西岸の3地点と2流入河川でも確認されており、湾口から湾奥にかけて広く分布することが判明した。また、東岸の干潟でも確認されている。須崎湾では流入河川の1地点から知られているに過ぎない。四万十川の感潮域では1地点で採集されたが、個体数は多くはない。近年では浦戸湾の一部での確認が困難になっている。須崎市と黒潮町でも個体数の減少が著しいが、これは2014年8月の大出水の影響と考えられる。また、他の地点でも減少傾向にあると判断される。

## 【保全・保護対策】

砂泥の流失が個体数の減少に関連していると考えられ、埋め立てはもちろん、護岸工事に際しても砂泥の堆積が確保できる配慮が必要である。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

町田吉彦

十脚目ムツハアリアケガニ科

# アリアケモドキ

*Deiratonotus cristatus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵14

高知県2002ランク：—

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

感潮域の上部に生息するが、生息環境が特殊であり、県内全体でも生息が確認されている場所が少なく、浦ノ内湾流入河川をはじめとして個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道から九州、奄美大島、沖縄島

## 【県内での分布】

高知市、須崎市、四万十市、土佐清水市

## 【生物学的特性】

小型種で、県内では甲幅12mmほどの個体はごくまれで、2004年から2005年の調査で得られた最大個体の甲幅は12.7mm。甲は横長の六角形。心域と鰓域を横に貫く明瞭な稜線がある。この前方にこれに平行する3本の短い陵がある。眼窩の上縁に稜線がある。前側縁に歯がない。歩脚の長節の上面に稜線が発達する。第1歩脚を除く歩脚には長短の毛が密生する。

## 【生息環境】

内湾の干潟の近くに流入する河川と土佐湾に流入する河川の河口干潟に生息する。内湾ではヨシが茂り、流れが遅く、砂泥に礫が堆積している場所に多いが、河口干潟では湾処に近い環境の礫が少ない場所に生息し、体を底質に埋めていることも多い。

## 【生息状況】

過去の調査で最も多くの個体が記録されたのは浦戸湾奥部の東岸に流入する1河川の河口域であり、さらに最奥部の小河川でも多くの個体が確認されている。高知市春野町でも多くの個体が採集されたが、シオクグが群生する湾処の砂泥底に多く、左岸の一部でも少数の個体が確認されている。浦ノ内湾と須崎湾では一部の河川で確認されたが、個体数は多くない。四万十市では河口の泥質の干潟に多く生息し、土佐清水市の土佐湾流入河川にも生息する。ただし、各生息地では2014年8月に大出水により個体数が激減したが、個体数はいまだ回復しておらず、小河川では生息が確認できないケースもある。

## 【保全・保護対策】

埋め立てと護岸の整備には細心の注意を払う必要がある。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧Ⅱ (VU)

## 【執筆者】

町田吉彦



## シオマネキ

*Tubuca arcuata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵 14

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

内湾や河口域に発達したヨシ原や泥干潟に生息する。高知県内の生息可能な泥干潟は限定されており、河川と港湾の浚渫や改修工事により生息地が消失した事例もある。

## 【国内分布の概要】

伊豆半島から沖縄

## 【県内での分布】

高知市から宿毛市までの6市2町

## 【生物学的特性】

甲長25mm, 甲幅35mm程度。甲は後縁が著しく狭く、前側縁が外側に張り出し、眼窩外歯は側方に向かう。背面は平滑で、膨らみ、網目模様がある。雄の鉗脚は左右不同であり片側が大きい、雌は両方とも小さい。雄の大鉗脚の掌部は朱色で指部は白色であり、雌の鉗脚は全体に真紅である。本土での繁殖期は夏期とされる。繁殖期の雄は、鉗脚を上下に振るウェービングを活発に行う。

## 【生息環境】

本種の生息環境では、底質の粒度組成と高さが重要な要素である。泥質分は65%以上で、50 $\mu$ m程度のシルトと100 $\mu$ m以上の細砂にピークを持つような底質と、平均水面に対する高さ40cmから100cm程度が好適な生息条件であるとされる。

## 【生息状況】

県内における本種の分布は、2007年に7か所、2008年から2009年に10か所の報告があるが、その後の公共工事により2か所の生息地が消失している。四万十川河口域では数千個体が生息しているとされているが、河川改修工事による本種への影響が危惧される。2011年に確認された高知市内の生息地では、現在も安定した個体群が維持されており、四万十川に次ぐ生息地である。その他の地区では数個体から数十個体と少ないが、県内の本種個体群の維持には重要であると考えられる。

## 【保全・保護対策】

本種は高知県指定希少野生動物植物であることから、個体のみでなく、希少な生息地の環境についても徹底した監視をしている。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【執筆者】

美濃厚志

## ハクセンシオマネキ

*Austruca lactea*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵 14

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

礫混じりの堅い砂泥質干潟の高潮線付近に生息する。高知県内では、数百個体規模の生息地は数か所に限られており、河川と港湾の改修工事により生息地が消失した事例が存在する。

## 【国内分布の概要】

伊豆半島から九州、種子島

## 【県内での分布】

高知市から宿毛市までの6市2町

## 【生物学的特性】

甲長12mm, 甲幅20mm程度。甲は長方形で背面は平滑で少し膨らむ。眼窩外歯は前方に向かう。雄の鉗脚は左右不同であるが、雌は両方とも小さい。本州、四国、九州では6月から8月に繁殖のピークをもつとされる。繁殖期の雄は鉗脚を上下に振るウェービングを活発に行う。

## 【生息環境】

本種の生息環境では、底質の粒度組成と高さが重要な要素である。砂泥質分は35%から65%程度で粒径数十 $\mu$ mの微細粒子の堆積は見られない。平均水面に対する高さ20cm~60cm程度が好適な生息条件であるとされる。

## 【生息状況】

2002年の高知県レッドデータブックでは準絶滅危惧 (NT) に指定されていた。高知県内には小規模な生息地が散在しており、数個体から数十個体の生息地が主である。数百個体以上の個体群が存在するのは浦戸湾内と浦ノ内湾内の一部であり、個体数はシオマネキより少ない可能性がある。

## 【保全・保護対策】

シオマネキと同様、本種の生息できる干潟環境は限られている。生息地が干潟の上部に位置するため、護岸工事の影響を受けやすい。個体の保全のみでなく、生息地についても監視が必要である。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

美濃厚志



十脚目テッポウエビ科

# クボミテッポウエビ

*Stenolpheops anacanthus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省 (海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

埋め立て、護岸工事などで、個体数が減少していると考えられる。

## 【国内分布の概要】

東京湾～九州

## 【県内での分布】

土佐市、須崎市、四万十市

## 【生物学的特性】

甲長7mmの小型のテッポウエビ類。鉗脚は小さく、テッポウエビ属のような破裂音を発しない。生時は背甲の一部が緑色で目立ち、他のテッポウエビ類とは容易に区別できる。

## 【生息環境】

砂質から砂泥質干潟に生息するアナジャコ科甲殻類やスナ

モグリ科甲殻類の巣穴内に生息している。

## 【生息状況】

県内中部から西部にかけて、アナジャコ類やスナモグリ類が生息する干潟で見られる。

## 【保全・保護対策】

宿主に依存して生活していると考えられるため、宿主の生息する干潟を保全する必要がある。特に、埋め立てや餌掘りの影響を受けると考えられる。

## 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

## 【執筆者】

伊谷 行

十脚目テナガエビ科

# ミナミテナガエビ

*Macrobrachium formosense*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵14

## 【選定理由】

県西部で個体数の減少がみられる。

## 【国内分布の概要】

福井県および千葉県以南の本州、四国、九州、沖縄

## 【県内での分布】

県内の各河川

## 【生物学的特性】

頭胸甲長31mm、体長100mmまで。額角歯式は2-3+8-9/2-3。第2胸脚の掌部は円筒形。頭胸甲側面に3本の斜横帯があること、第3胸脚指節が短いことで近縁種との識別は容易。

## 【生息環境】

河川の河口域から上流域に生息。両側回遊性。5～9月に多回産卵を行う。孵化したゾエア幼生は流下し、汽水環境

で稚エビとなって遡上する。ヒラテナガエビと比較して流れの緩やかな場所を好む。

## 【生息状況】

県内に広く分布する。四万十川では2010年頃から連続的に減少しており、近年その周辺河川や奈半利川でも減少傾向がみられる。

## 【保全・保護対策】

現況はヒラテナガエビと同様。個体群の安定化に向けて、幼生から稚エビが育つ汽水環境と、稚エビが遡上できる水域の連続性の維持、多様な間隙をもつ河床空間の保全、継続的モニタリングに基づく漁獲規制が求められる。

## 【執筆者】

山下慎吾

十脚目テナガエビ科

# ヒラテナガエビ

*Macrobrachium japonicum*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵14

## 【選定理由】

県西部で個体数の減少がみられる。

## 【国内分布の概要】

京都府および千葉県以南の本州、四国、九州、沖縄

## 【県内での分布】

県内の各河川

## 【生物学的特性】

頭胸甲長34mm、体長92mmまで。額角歯式は4-5+5-7/2-4。第2胸脚の掌部は扁平。頭胸甲側面に網目模様、第3腹節に暗色帯があることで、近縁種と容易に識別される。ヤマトテナガエビは本種の別名。

## 【生息環境】

河川の下流域から上流域に生息。両側回遊性。5～9月に

多回産卵を行う。孵化したゾエア幼生は流下し、汽水環境(50～70%海水)で育成する。汽水域で稚エビに変態したのち遡上し、四万十川では河口から約100kmにまで達する。

## 【生息状況】

県内に広く分布する。主にエビ筒(コロバシ)や柴漬けで漁獲されるが、特に県西部で減少傾向がみられる。

## 【保全・保護対策】

四万十川では漁業者による自主規制が継続的に実行されている。地域の重要な水産資源、環境学習資源として個体群の保全が求められる。必要な保護対策はミナミテナガエビと同様。

## 【執筆者】

山下慎吾

十脚目テナガエビ科

# テナガエビ

*Macrobrachium nipponense*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵 14

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

四万十川では近年テナガエビ類の漁獲量が激減しており、県全体で乱獲に対する注意喚起が必要として選定した。

**【国内分布の概要】**

本州，四国，九州

**【県内での分布】**

土佐湾沿岸の6市2町

**【生物学的特性】**

体長は最大で8～9cm。他のテナガエビ類と同様に、成長した雄ではハサミ脚がかなり長くなる。本種では類似種のミナミテナガエビに比べ、頭部側面の模様が細かく、脚の爪が長い。ただし、稚エビでは頭部側面の模様の差異は不明瞭。河川下流部（河口集団）と湖沼（陸封集団）に生息

し、本県では河口集団のみが確認されている。

**【生息環境】**

緩流部に生息し、物陰のある砂泥底に多く見られる。

**【生息状況】**

本県での出現頻度（調査水系に対する確認水系の割合）は2割程度と比較的低い。四万十川での生息数は減少している可能性があるが、他水系での生息動向は不明である。

**【保全・保護対策】**

生息状況や漁獲実態を把握した上で、必要な対策の検討・実施が望まれる。

**【執筆者】**

斉藤知己・平賀洋之

十脚目ヤドカリ科

# テナガツノヤドカリ

*Diogenes nitidimanus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省（海洋生物）2017ランク：情報不足 (DD)

**【選定理由】**

干潟に生息するが、その分布は限定的である。護岸工事や道路拡張工事により、生息地が破壊されている。

**【国内分布の概要】**

東北～九州

**【県内での分布】**

須崎市，宿毛市

**【生物学的特性】**

甲長10mmのヤドカリ類。干潟域に優占するユビナガホンヤドカリは右の鉗脚が左より大きい。本種は左の鉗脚が右より大きい。雑食であるが、触角が羽毛状であり、懸濁物も食べる。

**【生息環境】**

砂質から砂泥質干潟に生息するが、砂質干潟に多い。全国的に減少傾向であるとされる。

**【生息状況】**

県中部から西部の干潟の潮間帯の潮溜まりに群れをなしているところが観察される。しかし、浦戸湾には分布しないなど、生息地は限定されている。

**【保全・保護対策】**

生息地の保全が必要である。

**【特記事項】**

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

**【執筆者】**

伊谷 行

十脚目コブシガニ科

# マメコブシガニ

*Pyrhila pisum*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

**【選定理由】**

高知県では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されていたが、低密度ではあるものの県内の干潟に広く分布することから、ランクを下げた。

**【国内分布の概要】**

岩手県から奄美大島まで

**【県内での分布】**

高知市から土佐清水市までの内湾と河口干潟

**【生物学的特性】**

甲は半球形をなす。甲の表面に小顆粒がある。甲の正中線に白色の帯状の模様のある個体が多い。また、前方に歩くことができる。集団で観察されることはないが、歩行中の単独個体がしばしば観察される。

**【生息環境】**

砂泥質の干潟に生息するが、泥質に富んだ場所で頻繁に観察される。底質の表面がやや窪んだ場所に多く、体の半分ほどを底質に埋めていることが多い。

**【生息状況】**

浦戸湾と浦ノ内湾には広く分布し、湾中央部から奥部に多い。須崎湾奥部でも頻繁に観察される。仁淀川と四万十川の河口干潟のみならず、小規模河川でも見られる。

**【特記事項】**

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

**【執筆者】**

町田吉彦

十脚目ベンケイガニ科

## アカテガニ

*Chiromantes haematocheir*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵 14

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

干潟の後背地や土手、山林などの陸域に生息するが、護岸工事や法面工事により生息環境が減少している。

### 【国内分布の概要】

青森県から九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

甲長30mm, 甲幅35mm程度。甲は四角形で側縁に丸みがあり、背面の表面や鉗脚は平滑で朱色を呈する。成体の背面色は多様で、全体に赤い個体や黄土色の個体がある。

### 【生息環境】

干潟の後背地のヨシ帯や河川、小河川周辺の土手から山林

内に生息する。夏期に繁殖期を迎え、大潮の夜間に抱卵雌は水域に移動し、放仔する。

### 【生息状況】

県内全域の河川河口域から中流域までの土手や山林内などで見られる。石積護岸の隙間や土手、山林内に穴居して生息している。近似種のクロベンケイガニと同所的に見られる場所もあるが、個体数は多くはない。

### 【保全・保護対策】

生息場所は陸域であるが、幼生の放出時には水域に移動するため、生息地の保全とともに陸域と水域の分断を回避することが重要である。

### 【執筆者】

美濃厚志

十脚目ベンケイガニ科

## ベンケイガニ

*Sesarmops intermedius*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵 14

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

干潟の後背地や土手、山林などの陸域に生息するが、護岸工事や法面工事により生息環境が減少している。

### 【国内分布の概要】

房総半島および男鹿半島以南

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

甲長30mm, 甲幅32mm程度。甲は四角形で、前側縁に眼窩外歯を含めて2歯があり、鉗脚に顆粒がある。赤色の個体が多く、近似種のアカテガニと誤認しやすい。

### 【生息環境】

河口のヨシ原、土手、石垣、山林内、草地など水辺の暗く

湿った箇所に生息する。夏期に繁殖期を迎え、大潮の夜間に抱卵雌は水域に移動し、放仔する。

### 【生息状況】

県内全域の河川河口域から中流域までの土手や山林内などで見られる。石積護岸の隙間や土手、山林内に穴居して生息している。近似種のアカテガニよりも水域に近い場所で確認されることが多い。

### 【保全・保護対策】

アカテガニと同様の対策が必要である。

### 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【執筆者】

美濃厚志

十脚目モクズガニ科

## トリウミアカイソモドキ

*Sestrostoma toriumii*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物) 2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

主に埋め立ておよび護岸工事で、個体数が減少していると考えられる。

### 【国内分布の概要】

青森県から沖縄県

### 【県内での分布】

高知市、土佐市、須崎市、宿毛市

### 【生物学的特性】

甲幅9mm。甲は円形に近く、背面表面は色彩変異に富む。歩脚は細長く、褐色の縞模様が見られる。雄の眼下線は9つの顆粒からなり、同属の他種と区別できる。

### 【生息環境】

砂質から砂泥質干潟に生息するアナジャコ科甲殻類やスナモグリ科甲殻類の巣穴内に生息している。採集者が歩く際

に巣穴内の海水が吹きあがり、それとともに本種も巣穴外に出され、本種が堆積物の表面を歩く姿も見られる。

### 【生息状況】

県内中部から西部にかけて、アナジャコ類やスナモグリ類が生息する干潟で見られる。

### 【保全・保護対策】

宿主に依存して生活しているため、宿主の生息する干潟を保全する必要がある。とくに、埋め立てや餌掘りの影響を受けると考えられる。

### 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

### 【執筆者】

邊見由美・伊谷 行

十脚目テッポウエビ科

## オトヒメテッポウエビ

*Automate dolichognatha*

### 【選定理由】

高知県では2か所の砂質干潟で確認されたが、詳細な分布状況は分かっていない。

### 【国内分布の概要】

相模湾～琉球列島

### 【県内での分布】

高知市、須崎市

### 【生物学的特性】

甲長3mm程度の小型のテッポウエビ類。河口域に分布する個体群は、*A. johnsoni*を用いるべきとの意見もある。

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

### 【生息環境】

河口域の砂泥底に住む。アナジャコ類の巣穴に潜んでいたという記録もあるが、共生性の種かどうかは不明。

### 【生息状況】

本県では2か所の干潟のみで生息が確認された。アナジャコ類やスナモグリ類と同所的に生息していた。

### 【保全・保護対策】

該当する干潟における生息地の破壊がないよう注意する。

### 【執筆者】

伊谷 行

十脚目スナモグリ科

## ブビエスナモグリ

*Paratrypa bouvieri*

### 【選定理由】

工事により、生息地が減少する可能性がある。

### 【国内分布の概要】

長崎県、熊本県、高知県、沖縄、小笠原諸島父島

### 【県内での分布】

土佐市、大月町

### 【生物学的特性】

甲長5mm。鉗脚や腹部に桃色の色素胞が目立ち、大鉗脚指節に短い剛毛がブラシ状に密生する。

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物)2017ランク：情報不足 (DD)

### 【生息環境】

本種は熱帯性であり、四国や九州が分布北限である。

### 【生息状況】

本県では2か所の干潟のみで生息が確認されている。

### 【保全・保護対策】

該当する干潟における生息地の破壊がないよう注意する。

### 【特記事項】

日本ベントス学会は情報不足 (DD)

### 【執筆者】

邊見由美・伊谷 行

十脚目イソオウギガニ科

## セビロオウギガニ

*Epixanthus frontalis*

### 【選定理由】

県内の分布状況の解明が不十分であるため。

### 【国内分布の概要】

静岡県、徳島県、高知県、鹿児島県以南

### 【県内での分布】

室戸市、土佐市、大月町

### 【生物学的特性】

甲は長楕円形。前側縁に小さな切れ込みがあり、また、下端からやや斜め前方に向かう斜めの稜線がある。

### 【生息環境】

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

比較的大きな礫からなる潮間帯の上部に生息する。内湾に生息する一方、外海に面した場所でも採集されている。

### 【生息状況】

九州以北での分布状況は明らかではない。徳島県では1例の報告があるのみである。県内では、浦ノ内湾の1地点と大月町の5地点で確認されている。室戸市では過去の記録があるが、現時点で個体が確認されていない。

### 【執筆者】

町田吉彦

十脚目ベンケイガニ科

## ウモレベンケイガニ

*Clistocoeloma sinense*

### 【選定理由】

記録された場所が少なく、確認が困難になりつつある。

### 【国内分布の概要】

東京湾以南

### 【県内での分布】

東洋町、須崎市

### 【生物学的特性】

甲は丸みを帯びた四角形。甲の背面に凹凸があり、また歩脚にも凹凸がある。雄の掌部は黄土色。

### 【生息環境】

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物)2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

内湾の潮間帯上部に生息する。

### 【生息状況】

東洋町で1個体採集されているが、無効分散と判断される。浦ノ内湾のフジテガニと生息地が重複していると思われるが、未成熟個体であり、また、フジテガニの個体数が減少していることから調査が困難になりつつある。

### 【特記事項】

日本ベントス学会は絶滅危惧IB類 (EN)

### 【執筆者】

町田吉彦



十脚目モクズガニ科

## ヒメアカイソモドキ

*Sestrostoma depressum*

### 【選定理由】

工事により、生息地が減少している。

### 【国内分布の概要】

相模湾～琉球列島

### 【県内での分布】

土佐市、須崎市

### 【生物学的特性】

甲幅7mm。甲は円形に近く象牙色。歩脚は短く太い。

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省(海洋生物)2017ランク：情報不足 (DD)

### 【生息環境】

転石地に生息するバルスアナジャコやスナモグリの巣穴内に共生する。

### 【生息状況】

本県では浦ノ内湾の転石干潟と横浪半島の転石海岸でのみで生息が確認されている。

### 【保全・保護対策】

該当する干潟における生息地の破壊がないよう注意する。

### 【執筆者】

邊見由美・伊谷 行

十脚目オサガニ科

## ヤマトオサガニ

*Macrophthalmus japonicus*

### 【選定理由】

安定した泥干潟の消失により減少する危険性がある。

### 【国内分布の概要】

陸奥湾以南から種子島

### 【県内での分布】

高知市、須崎市、土佐市、四万十市、宿毛市

### 【生物学的特性】

甲長30mm、甲幅40mm程度。近似種のヒメヤマトオサガニとは雄の第3歩脚腕節と前節に毛がないことと、ウェービング行動の違いで識別できる。

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【生息環境】

内湾や河口泥干潟の低・中潮帯に生息。

### 【生息状況】

本種の雌個体や小型個体とヒメヤマトオサガニの識別は困難である。詳細な生息状況については不明。

### 【保全・保護対策】

泥干潟の保全とともにウェービング行動が活発となる春期から夏期にかけて、更に詳細な調査が必要である。

### 【執筆者】

美濃厚志

十脚目オサガニ科

## ヒメメナガオサガニ

*Macrophthalmus microfylacas*

### 【選定理由】

清浄な砂泥質干潟の消失による生息地悪化が懸念される。

### 【国内分布の概要】

伊豆半島から沖縄島

### 【県内での分布】

須崎市

### 【生物学的特性】

甲幅10mm程度。潮間帯下部から潮下帯の比較的硬い砂泥底に穴居する。冠水時のみ活動すると考えられている。

### 【生息環境】

### 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

内湾や河口泥干潟の低および中潮帯に生息。

### 【生息状況】

浦ノ内湾内の砂泥質干潟潮下帯で確認されている。

### 【保全・保護対策】

清浄な砂泥質干潟の維持を行うとともに県内の類似環境を詳細に調査する必要がある。

### 【特記事項】

日本ベントス学会は準絶滅危惧 (NT)

### 【執筆者】

邊見由美・美濃厚志

十脚目オカヤドカリ科

# ムラサキオカヤドカリ

*Coenobita purpureus*

高知県：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・室戸市個体群

高知県2002ランク：ナキオカヤドカリとして情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

県東部で唯一の個体群であるが、不法採取により壊滅状態となった。

## 【国内分布の概要】

東京都（小笠原諸島）、静岡県以南の太平洋岸

## 【県内での分布】

室戸市，県西部の2市2町

## 【生物学的特性】

オカヤドカリ属では最も北に分布する。幼若個体は淡いクリーム色をしているが、成長に伴い青から暗紫色になる。

## 【生息環境】

タイドプールがあり、海岸近くの植生が発達した場所。

## 【生息状況】

国指定の天然記念物であり、室戸市の個体群は県内で最大クラスであった。県西部の個体群の大きさはさまざまであるが、不法採取の対象となる可能性がある。

## 【執筆者】

町田吉彦

〈文献一覧〉

- Anker, A. and T. Komai. 2004. Description of two new species of alpheid shrimps from Japan and Australia, with notes on taxonomy of *Automate* De Man, *Coronalpheus* Wicksten and *Bermudacaris* Anker and Iliffe (Crustacea: Decapoda: Caridea). *J Nat Hist*, 38: 1895-1914.
- 荒木 昌・浜野龍夫. 2007. テナガエビ (河口域群・淡水湖群). 「水辺の小わざ」プロジェクトチーム, p. 111. 水辺の小わざ. 山口県土木建築部河川課, 山口.
- 有馬啓人. 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック ヤドカリ. 誠文堂新光社, 東京. 223 pp.
- 朝倉 彰. 2011. 淡水産コエビ下目の生物地理. pp. 74-102. 川井唯史・中田和義 (編), エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学. 生物研究社, 東京.
- Davie, P.J.F., D. Guinot and M. Türkay (Sakai, K., ed.). 2004. Crabs of Japan. Version 1.0. Biodiversity Center of ETI, World Biodiversity Database CD-ROM Series. UNESCO-Publishing, Paris.
- 藤田真人・中野 晋・安芸浩資・安井勝志. 2007. 河口干潟の平衡粒度分布の推定と底生動物の生息環境評価. 海岸工学論文集, 54: 1171-1175.
- 後藤 伸. 1997. ハクセンシオマネキの分布形式に関する野外実験. 南紀生物, 39: 113-118.
- 林 健一. 1999. 日本産エビ類の分類と生態 (108). テナガエビ科・テナガエビ亜科-フウライテナガエビ属・シラタエビ属. 海洋と生物, 124, (vol. 21 no. 5): 389-393, figs. 378-381.
- 逸見泰久・伊谷 行・岩崎敬二・西川輝昭・佐藤正典・佐藤慎一・多留聖典・藤田喜久・福田 宏・久保弘文・木村妙子・木村昭一・前之園唯史・松原 史・長井 隆・成瀬 貫・西栄二郎・大澤正幸・鈴木孝男・和田恵次・渡部哲也・山西良平・山下博由・柳 研介. 2014. 日本の干潟における絶滅の危機にある動物ベントスの現状と課題. 日本ベントス学会誌, 69: 1-17.
- 邊見由美・伊谷 行. 2012. 高知県浦ノ内湾における絶滅危惧種ムツアシガニのツバサゴカイへの共生の記録. 南紀生物, 55: 115-117.
- Henmi, Y. and G. Itani. 2014. Laboratory quantification of burrow utilization in the symbiotic varunid crab *Sestrostoma toriumii*. *Plankton Benthos Res*, 9: 203-206.
- Henmi, Y., Y. Okada and G. Itani. 2017. Field and laboratory quantification of alternative use of host burrows by the varunid crab *Sestrostoma toriumii* (Takeda, 1974) (Brachyura: Varunidae). *J Crust Biol*, 37: 235-242.
- 邊見由美・塩崎祐斗・美濃厚志・伊谷 行. 2018. 高知県浦ノ内湾におけるヒメメナガオサガニの記録. 四国自然史科学研究, (11): 51-54.
- 平賀洋之・山中弘雄. 2005. 四万十川中・下流域におけるミナミテナガエビおよびヒラテナガエビの成長と繁殖. 海洋と生物, 27: 3-9.
- Itani, G. 2001. Two types of symbioses between grapsid crabs and a host thalassinidean shrimp. *Publ Seto Mar Biol Lab*, 39: 129-137.
- . 2004. Host specialization in symbiotic animals associated with thalassinidean shrimps in Japan. Tamaki, A. (ed), Proceedings of the symposium on "Ecology of large bioturbators in tidal flats and shallow sublittoral sediments -from individual behavior to their role as ecosystem engineers." Nagasaki University, pp. 33-43.
- . 2004. Distribution of intertidal upogebiid shrimp in Japan. *Contr Biol Lab Kyoto Univ*, 29: 383-399.
- Itani, G., P.J.F., Davie and M. Takeda. 2002. Taxonomic notes on *Acmaeopleura balssi* Shen, 1932 and *A. toriumii* Takeda, 1974 (Crustacea, Brachyura, Grapsidae) from Japanese waters. *Bull Nat Sci Mus, Ser. A*, 28: 43-50.
- 伊谷 行・山田ちはる. 2009. 第22章 土佐湾の堆積物底の無脊椎動物. 高知市・国立大学法人高知大学 (編), pp. 593-602. 高知市総合調査第1編「地域の自然」, 高知市総合調査受託研究成果報告書. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知.
- 伊東 円. 2014. 静岡県内におけるシオマネキ類の分布について. 日本ベントス学会誌, 69: 76-84.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2007. 第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査 (干潟調査) 報告書. 環境省自然環境局 生物多様性センター, 山梨.
- Kinoshita, K. 2002. Burrow structure of the mud shrimp *Upogebia major* (Decapoda: Thalassinidea: Upogebiidae). *J Crust Biol*, 22: 474-480.
- Kinoshita K., S. Nakayama and T. Furota. 2003. Life cycle characteristics of the deep-burrowing mud shrimp *Upogebia major* (Thalassinidea: Upogebiidae) on a tidal flat along the northern coast of Tokyo Bay. *J Crust Biol*, 23: 318-327.
- Kinoshita K., M. Wada, K. Kogure and T. Furota. 2003. Mud shrimp burrows as dynamic traps and processors of tidal-flat materials. *Mar Ecol Prog Ser*, 247: 159-164.
- 高知県レッドデータブック [動物編] 編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック [動物編] 高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
- 久保田 信. 2013. ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の和歌山県白浜町海岸での幼生放出記録. 日本生物地理学会会報, 68: 121-123.
- Lee, S.-H., K.-H. Lee and H.-S. Ko. 2011. First record of two pilumnid crabs (Crustacea: Decapoda) collected from Jejudo Island, southern Korea. *Anim Syst Evol Diver*, 27: 191-196.
- 町田吉彦. 2009. 高知県初記録のトゲアシライソガニモドキの分布 (カニ下目モクズガニ科). 四国自然史科学研究, (5): 5-7.

汽水・淡水産十脚甲殻類

- . 2016a. 高知県のムラサキオカヤドカリ覚え書き (I). 文化高知, (189): 10-11.
- . 2016b. 高知県のムラサキオカヤドカリ覚え書き (II). 文化高知, (190): 10-11.
- . 2017. 浦ノ内湾の礫質の潮間帯から得られたカニの3稀種. 四国自然史科学研究, (10): 52-57.
- 町田吉彦・細木光夫・厚井 享. 2004. 高知県浦戸湾と須崎湾の潮間帯で記録されたカニ類の絶滅危惧種と希少種 (十脚目: 短尾下目). 四国自然史科学研究, (1): 1-7.
- 前之園唯史・佐伯智史. 2017. 新産地記録を伴う石垣島のベンケイガニ類相. Fauna Ryukyuana, 33: 1-13.
- 丸村真弘・小阪 晃 (編). 2003. 永井誠二コレクションカニ類標本目録. 和歌山県立自然史博物館, 海南市, 74 pp.
- 丸山智朗. 2016. 本州日本海側における両側回遊性コエビ類の分布について. Cancer 25: 55-60.
- 益子計夫. 2011. テナガエビ類はいかに進化してきたか. 「エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学」(川井唯史・中田和義 編著). 生物研究社, 東京, pp. 273-289.
- 松尾幸平・増田龍哉・御園生敏治・五十嵐 学・森本剣太郎・滝川 清. 2011. 有明海における干潟底生生物の指標化に関する研究. 土木学会論文集B3 (海洋開発), 67: I\_481-I\_486.
- 松澤圭資. 1977. 室戸産海岸動物図鑑. 室戸産海岸動物図鑑発行委員会, 室戸市, 126 pls.
- . 2002. オカヤドカリ (オカヤドカリ科). 高知県教育委員会文化財保護室 (編), 土佐の動物たち (天然記念物), pp. 25-26. 高知県教育委員会文化財保護室, 高知.
- . 2016. 室戸半島産海洋無脊椎動物・海藻目録 改訂版. 西村瞻写堂, 高知, 97 pp. (自家本)
- 美濃厚志. 2016. 高知県内で消失したスナガニ科シオマネキ (*Uca arcuata*) の生息地. 四国自然史科学研究, (9): 9-11.
- 三宅貞祥. 1998. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II) (3刷). 保育社, 大阪, vii+277 pp.
- 三浦知之. 2008. 干潟の生きもの図鑑. 南方新社, 鹿児島, 197 pp.
- . 2011. 宮崎県におけるオカヤドカリ類の生息状況. 宮崎大学農学部研究報告, 57: 71-77.
- 永井誠二・野村恵一. 1988. 沖縄海中生物図鑑 第7巻 甲殻類 (カニ). 新星図書出版, 那覇市, 250 pp.
- 中田和義・浜野龍夫・天野邦彦・三輪準二. 2011. 淡水性エビ類の生態と保全. pp.158-166. 川井唯史・中田和義 (編), エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学. 生物研究社, 東京.
- 中地シュウ. 2009. 黒潮生物研究所周辺で見られるオカヤドカリ属について. CURRENT, 10: 2-3.
- 成瀬 貫. 2010. 琉球大学資料館 (風樹館) 収蔵資料目録第3号. 琉球大学資料館 (風樹館) 甲殻類標本目録. 琉球大学資料館 (風樹館), 西原市, 72 pp.
- 成瀬 貫・渡部哲也・吉田隆太. 2017. ムツアシガニ類6種の分布と生息環境に関する追加情報, 及び和名の整理. Fauna Ryukyuana, 35: 17-28.
- Ng, P.K.L., D. Guinot and P.J.F. Davie. 2008. Systema Brachyurorum: Part I. An annotated checklist of extant brachyuran crabs of the world. Raffles Bull Zool, Supplement, 17: 1-286.
- 日本ベントス学会. 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸 ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 神奈川, 285 pp.
- 新島偉行. 2011. 淡水産エビ類の民話伝承, 伝統的な漁法, 食文化. pp. 340-362. 川井唯史・中田和義 (編), エビ・カニ・ザリガニ 淡水甲殻類の保全と生物学. 生物研究社, 東京.
- 野元彰人・木邑聡美. 2009. 高知県におけるシオマネキ (スナガニ科) の新たな生息地の記録と分布状況. 四国自然史科学研究, (5): 1-4.
- ・——. 2011. 高知県におけるシオマネキ (スナガニ科) の新たな生息地の記録と分布状況 (II). 四国自然史科学研究, (6): 1-5.
- 野元彰人・淀 真理・木邑聡美・岸野 底・酒野光世・和田恵次. 1999. 紀ノ川河口域で記録されたイワガニ科の6稀種. 南紀生物, 41: 5-9.
- 野村春松・蟹江節子. 1999. 四万十川がたり. 山と溪谷社, 東京, 260 pp.
- 岡田祐也・邊見由美・伊谷 行. 2016. 高知県浦ノ内湾におけるヤドリカニダマシおよびウチノミカニダマシの記録. 四国自然史科学研究, (9): 31-34.
- 岡村 収・為家節弥. 1977. 四万十川の魚類. pp. 159-232. 四万十川水系の生物と環境に関する総合調査. 高知県.
- 大野恭子・和田恵次・鎌田磨人. 2006. 河口域塩性湿地に生息する稀少カニ類シオマネキの生息場所利用. 日本ベントス学会誌, 61: 8-15.
- 大野 淳・小笠原義光・安田富士郎. 1977. 四万十川におけるテナガエビ類の分布域と生息場所. 日本生態学会誌, 27: 23-32.
- Rahayu, D.L. and P.K.L. Ng. 2014. New genera and new species of Hexapodidae (Crustacea, Brachyura) from the Indo-West Pacific and east Atlantic. Raffles Bull Zool, 62: 396-483.
- Sakai, K. 2006. Upogebiidae of the world (Decapoda, Thalassinidea). Crustaceana Monog, 6: 1-185.
- 酒井勝司・中野昭美・中野晴夫・中嶋茂範. 1987. 海部町の高産動物. 阿波学会郷土研究発表会紀要, (33): 34-47.
- Sakai, T. 1955. On some rare species of crabs from Japan. Bull Biogeogr Soc Japan, 15/16: 105-113.
- . 1976. Crabs of Japan and the Adjacent Sea. [In 3 volumes: (1) English text, (2) Plates volume, (3) Japanese text]. Kodansha, Tokyo.
- 佐藤あゆみ・森永純一・邊見由美・伊谷 行. 2013. 高知県におけるアナジャコ *Upogebia major* の新記録. 黒潮圏科学, 6: 238-242.
- 佐藤友康・山本藍子・町田吉彦. 2006. 高知県におけるアリアケモドキ属2種の分布 (カニ下目: ムツハアリアケガニ科).



- 四国自然史科学研究, (3): 9-14.
- 締次美穂・木村昭一・木村妙子. 2016. 本州初記録のヤドリムツアシガニ (新称) *Hexapinus simplex* Rahayu & Ng, 2014. 南紀生物, 58: 157-161.
- 諸喜田茂充. 1966. ミナミテナガエビの生態及び幼生変態について. 沖縄生物学会誌, 3: 13-21.
- . 1970. ミナミテナガエビ (*Macrobrachium formosense* Bele) の増殖に関する研究 - I 室内飼育水槽での幼期変態について. 沖縄生物学会誌, 6: 1-12.
- . 1979. 琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について - II. 琉球大学理学部紀要, 28: 193-278.
- 鈴木廣志・佐藤正典. 1994. かごしま自然ガイド 淡水産のエビとカニ. 西日本新聞社, 福岡, 137 pp.
- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典 (編). 2013. 干潟ベントスフィールド図鑑. 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合, 東京, 257 pp.
- 高木真成・藤本竜平・早稲田沙織・斉藤知己. 2018. 高知県下の砂浜海岸におけるスナガニ類 (スナガニ属, スナガニ亜科, スナガニ科, 短尾亜目) の出現. 黒潮圏科学, 11: 128-139.
- 武田正倫. 1982. 原色甲殻類検索図鑑. 北隆館, 東京, 284 pp.
- Takeda, M. and M. Miyake. 1969. A new species of the family Goneplacidae (Crustacea, Brachyura) from the Amakusa Islands Kyushu. Publ Amakusa Mar Biol Lab, 2: 9-15.
- 豊田幸詞・関 慎太郎. 2014. 日本の淡水性エビ・カニ: 日本産淡水性・汽水性甲殻類102種. 誠文堂新光社, 東京, 255 pp.
- 宇野宏司・中野 晋. 2003. 干潟底生生物を対象とした物理応答モデルの構築とその試行. 海岸工学論文集, 50: 1066-1070.
- 山口隆男・原田敬一・武田正倫・菊池泰二. 1987. 天草諸島のカニ類相. Calanus, 10: 1-71.
- 山本藍子・町田吉彦・佐藤友康. 2005. 土佐湾流入河川ならびに内湾の汽水域に生息する8種のカニ類の分布. 四国自然史科学研究, (2): 1-19.
- 山本藍子・水野晃秀・町田吉彦. 2007. 愛媛県愛南町の干潟で確認されたクシテガニ. 四国自然史科学研究, (4): 62-64.
- 山崎 武. 1993. 四万十川漁師ものがたり. 同時代社, 東京, 238 pp.
- 吉郷英範. 2009. 日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類 (甲殻類: エビ類). 比和科学博物館研究報告, 50: 221-273.

## 概説

## 昆虫類

現在までにチョウ目のチョウ類と一部の分類群を除くガ類、コウチュウ目のカミキリムシ、コガネムシ、クワガタムシ、オサムシ類、トンボ目、カメムシ目の一部、ハチ目の一部、カワゲラ目、トビケラ目の一部などで本県における分布や生態がかなり明らかになっているが、注目される種以外にはほとんど解明されていないグループもある。

高知県は亜熱帯性から冷温帯性の森林まで変化のある自然に恵まれ、全国から昆虫の研究者が訪れて「昆虫の宝庫」と言われて注目された時代もあったが、自然林の伐採、スギやヒノキを主とする人工林の拡大、大規模な道路工事などによる生息地の分断、燃料革命をはじめとする人間の生活様式の変化、大規模な開発などによって昆虫の生息環境は悪化し、以前にはごく普通に見られた種でさえも極端に個体数が減少したり、見つからなくなったりした種もある。

ゲンゴロウとタガメについては2002年の高知県レッドデータブック作成時に確認されていた生息地は周辺の環境だけでなく、水質も悪化し、生息に適した場所ではなくなっている。他の水棲昆虫についても、タイコウチ、シマゲンゴロウ、トンボ類の一部など今回の調査で明らかに減少している種があった。休耕地と放棄水田の増加、集落の人口減少により、ため池や沼地の管理が行き届かなくなったことによる水質悪化、移動先の減少などが原因として考えられる。逆に今までは県東部でしか生息が確認されていなかったコガタノゲンゴロウは近年、県全体の海岸部や低山地で見つかるようになり、明らかに勢力を強めている。

ルリクワガタ類については生息域は限られているものの、ほとんどの生息地は保護林内にあり、急激な生息環境の悪化がない限り絶滅の危機は今のところないと判断した。

オオクワガタについては四国の他県からは明確な記録が残されているが、高知県からは自然分布と確認できる記録は見つかっていない。近年オオクワガタや外国産の大型カブトムシなどが主に市街地で見つかることがあるが、ブリーダーによる飼育個体起源の個体であると思われる。

カドタチビメクラゴミムシは、タイプ産地のいの町の大内洞が石灰石採掘により失われ、絶滅したと思われていたが、近年再発見された。

外来種は近年増加が著しく、クロセセリは県内の海岸から市街地、低山地まで普通に見つかるようになった。アオマツムシは県内の市街地だけでなく低山地から海岸部にまで広く分布するようになった。タイワンクツワムシは県内全域に分布が広がり、在来のクツワムシは大きく減少している。ベニトンボは県内の海岸から平地でごく普通に見られるようになり、アカギカメムシは海岸部で分布を広げている。

ヨツモンカメノコハムシはグリーンカーテンや観賞用に用いられるイリオモテアサガオの野生化、分布拡大によって発見される場所が増加している。室戸岬では栽培されているサツマイモの葉上から見つかっており、被害が問題化する懸念がある。

中山絃一

## 高知県レッドリスト（昆虫類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ベッコウトンボ</b> <i>Libellula angelina</i>	絶滅	絶滅	
<b>タガメ</b> <i>Kirkaldyia deyrolli</i>	絶滅	絶滅危惧IA類	学名変更 (2002年版では <i>Lethocerus deyrollei</i> )
<b>カワラハンミョウ</b> <i>Chaetodera laetescripta</i>	絶滅	絶滅	属名変更(2002年版で は <i>Cicindela</i> )
<b>ルイスハンミョウ</b> <i>Cicindela lewisi</i>	絶滅	絶滅	
<b>アオヘリアオゴミムシ</b> <i>Chlaenius praefectus</i>	絶滅	絶滅	
<b>ヤマトオサムシダマシ</b> <i>Blaps japonensis</i>	絶滅	情報不足	
<b>アサカミキリ</b> <i>Thyestilla gebleri</i>	絶滅	絶滅	
<b>チャマダラセセリ</b> <i>Pyrgus maculatus maculatus</i>	絶滅	絶滅危惧IA類	
<b>ルーミスシジミ</b> <i>Arhopalaganesa loomisi</i>	絶滅	絶滅	属名変更(2002年版で は <i>Panchala</i> )
<b>クロシジミ</b> <i>Niphanda fusca</i>	絶滅	絶滅	亜種名削除(2002年版 では亜種名が <i>shijimia</i> )
<b>シルビアシジミ</b> <i>Zizina emelina</i>	絶滅	絶滅	種小名変更(2002年版 の亜種名 <i>emelina</i> が種小 名に昇格)
<b>オオウラギンヒョウモン</b> <i>Fabriciana nerippe</i>	絶滅	絶滅	
<b>オツネントンボ</b> <i>Sympecma paedisca paedisca</i>	絶滅危惧I類	情報不足	
<b>モートンイトトンボ</b> <i>Mortonagrion selenion</i>	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	
<b>オオイトトンボ</b> <i>Paracercion sieboldii</i>	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	属名変更 (2002年版では <i>Cercion</i> )
<b>タイリクアカネ</b> <i>Sympetrum striolatum imitoides</i>	絶滅危惧I類	情報不足	
<b>コガタカント</b> <i>Oecanthus similator</i>	絶滅危惧I類	準絶滅危惧	学名確定 (2002年版ではsp.)
<b>ハマスズ</b> <i>Dianemobius csikii</i>	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	属名変更(2002年版で は <i>Pteronemobius</i> )
<b>ヤマトマダラバッタ</b> <i>Epacromius japonicus</i>	絶滅危惧I類	絶滅危惧IB類	和名変更(2002年版で はヤマトバッタ)属名変更 (2002年版では <i>Aiolopus</i> )
<b>シマントササキリモドキ</b> <i>Shikokuconocephalopsis shimantoensis</i>	絶滅危惧I類	絶滅危惧IA類	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
アシズリフタエササキリモドキ <i>Tettigoniopsis ashizuriensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	
キュウシュウエゾゼミ <i>Auritibicen kyushyuensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IB 類	属名変更(2002年版では <i>Tibicen</i> )
ヒメミズカマキリ <i>Ranatra unicolor</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IB 類	
エサキアメンボ <i>Limnporus esakii</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IB 類	
ゴミアシナガサシガメ <i>Myiophanes tipulina</i>	絶滅危惧 I 類		
ハリサシガメ <i>Acanthaspis cincticrus</i>	絶滅危惧 I 類		
ヨドシロヘリハンミョウ <i>Callytron inspecularis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	属名変更(2002年版では <i>Cicindela</i> )
カドタメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus intermedius</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅	
オオトックリゴミムシ <i>Oodes vicarius</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IB 類	
エチゴトックリゴミムシ <i>Oodes echigonus</i>	絶滅危惧 I 類		オオトックリゴミムシと混同
イトウナガゴミムシ <i>Pterostichus itoi</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	
カガミムカシゲンゴロウ <i>Phreatodytes latiusculus</i>	絶滅危惧 I 類		
トサムカシゲンゴロウ <i>Phreatodytes sublimbatus</i>	絶滅危惧 I 類	情報不足	
ゲンゴロウ <i>Cybister japonicus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	
マルガタゲンゴロウ <i>Graphoderus adamsii</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	
オオメクラゲンゴロウ <i>Morimotoa gigantea</i>	絶滅危惧 I 類	情報不足	
トサメクラゲンゴロウ <i>Morimotoa morimotoi</i>	絶滅危惧 I 類	情報不足	
オオミズスマシ <i>Dineutus orientalis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	
オオチャイロハナムグリ <i>Osmoderma opicum</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 IA 類	
ホングウチビクロコメツキ <i>Ampedus honguanus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	
キイカズクビナガムシ <i>Nematoplus yamato</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
コゲチャヒラタカミキリ <i>Eurypoda unicolor</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
ベーツヒラタカミキリ <i>Eurypoda batesi</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
アカジマトラカミキリ <i>Anaglyptus bellus bellus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
ケブカトラカミキリ <i>Hirticlytus comosus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
リュウキュウルリボシカミキリ <i>Glenea chlorospila chlorospila</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
スネケブカヒロコバナカミキリ <i>Merionoeda hirsuta</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	
ヨツボシカミキリ <i>Stenygrinum quadrinotatum</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	学名修正 (2002年版の属名 <i>Stenygrinum</i> は誤記)
カスリウスバカゲロウ <i>Distoleon nigricans</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	
ヒトスジトゲシリアゲ <i>Panorpa gokaensis togephora</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	和名変更(2002年版で はマエヒトスジトゲシリ アゲ)
ギンイチモンジセセリ <i>Leptalina unicolor</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
台湾ツバメシジミ <i>Everes lacturnus kawaii</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
ウラギンスジヒョウモン <i>Argyronome laodice japonica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
ウラナミジャノメ <i>Ypthima multistriata nipponica</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	種小名変更(2002年版 では <i>motschulskyi</i> )
ニホンセセリモドキ <i>Hyblaea fortissima</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類	種小名変更 (2002年版では <i>esakii</i> )
ホウジャク <i>Macroglossum stellatarum</i>	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	
イッポンセスジズメ <i>Theretra silhetensis silhetensis</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
キゴシジガバチ <i>Sceliphron madraspatanum kohli</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
アオイトトンボ <i>Lestes sponsa</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
ベニイトトンボ <i>Ceragrion nipponicum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ネアカヨシヤンマ <i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
フタスジサナエ <i>Trigomphus interruptus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ハネビロエゾトンボ <i>Somatochlora clavata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
ハッチョウトンボ <i>Nannophya pygmaea</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IA類	
マイコアカネ <i>Sympetrum kunckeli</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
キトンボ <i>Sympetrum croceolum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
チッチゼミ <i>Kosemia radiator</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <i>Cicadetta</i> )
クロオビヒゲトオサムシ <i>Ceratoderus venustus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
シロヘリハンミョウ <i>Callytron yuasai yuasai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	属名変更(2002年版では <i>Cicindela</i> )
ミヤマハンミョウ <i>Cicindela sachalinensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
セアカオサムシ <i>Carabus tuberculatus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <i>Hemicarabus</i> )
イトウメクラチビゴミムシ <i>Trechiana itoi</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ケバネメクラチビゴミムシ <i>Chaetotrechiana procerus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
アシナガメクラチビゴミムシ <i>Nipponaphaenops erraticus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ヒメツヤメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus humeralis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ツヤメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus nipponicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
トサナガゴミムシ <i>Pterostichus tosanus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
チャイロマメゲンゴロウ <i>Agabus browni</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
クロゲンゴロウ <i>Cybister brevis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧IA類	
コガタガムシ <i>Hydrophilus bilineatus cashimirensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	
コガムシ <i>Hydrochara affinis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	
クロマダラタマムシ <i>Nipponobuprestis querceti</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
アオタマムシ <i>Eurythyrea tenuistriata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ミゾムネチビサビキコリ <i>Adelocera brunneus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ルリヒラタムシ <i>Cucujus mniszehi</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ジュウクホシテントウ <i>Anisosticta kobensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
オカモトツヤアナハネムシ <i>Tosadendroides okamotoi</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
ヒラヤマコブハナカミキリ <i>Enoploderes bicolor</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
フタスジカタビロハナカミキリ <i>Brachyta bibasciata japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ホンドニセハイロハナカミキリ <i>Rhagium femorale</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	和名変更(2002年版ではニセハイロハナカミキリ)
ヒゲブトハナカミキリ <i>Pachypidonia bodemeyeri</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
クロソンホソハナカミキリ <i>Mimotrangalia kurosonensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
タケウチホソハナカミキリ <i>Strangalia takeuchii</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
モモグロハナカミキリ <i>Toxotinus reini</i>	絶滅危惧Ⅱ類	情報不足	
ベニバハナカミキリ <i>Paranaspia anaspidooides</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
トガリバホソコバナカミキリ <i>Necydalis formosana niimurai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
オオホソコバナカミキリ <i>Necydalis solida</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ヒゲジロホソコバナカミキリ <i>Necydalis odai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ホソツヤヒゲナガコバナカミキリ <i>Glaphyra nitida nitida</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
イッシキキモンカミキリ <i>Glenea centrogettata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
カッコウメダカカミキリ <i>Stenhomalus cleroides</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
オオアオカミキリ <i>Chloridolum thaliodes</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
ムネマダラトラカミキリ <i>Xylotrechus grayii</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
トラフカミキリ <i>Xylotrechus chinensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
マダラゴマフカミキリ <i>Mesosa poecila</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
オオカマキリモドキ <i>Tuberontha strenua</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	学名変更(2002年版では <i>Climaciella magna</i> )
コカスリウスバカゲロウ <i>Distoleon contubernalis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
オナガシジミ <i>Araragi enthea</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ヒサマツミドリシジミ <i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
キリシマミドリシジミ <i>Thermozephyrus ataxus kirishimaensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	属名変更(2002年版では <i>Chrysozephyrus</i> )
エゾミドリシジミ <i>Favonius jezoensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ベニモンカラスシジミ <i>Fixsenia iyonis iyonis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	属名変更(2002年版では <i>Strymonidia</i> )
ミヤマカラスシジミ <i>Fixsenia mera</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	属名変更(2002年版では <i>Strymonidia</i> )
シートテハ <i>Polygonia c-album hamigera</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
キマダラモドキ <i>Kirinia fentoni</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	種小名変更(2002年版では <i>epaminondas</i> )
クロヒカゲモドキ <i>Lethe marginalis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
シロシモフリエダシャク <i>Biston melacron</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	種小名変更(2002年版では <i>exoticus</i> )
タケウチエダシャク <i>Biston takeuchii</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
アカオビケラトリバチ <i>Larra amplipennis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ネジロハキリバチ <i>Megachile disjunctiformis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	属名変更(2002年版では <i>Chalicodoma</i> )
クズハキリバチ <i>Megachile pseudomonticola</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
ガンバイトンボ <i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
モノサシトンボ <i>Copera annulata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
コフキヒメイトンボ <i>Agriocnemis femina oryzae</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
ムスジイトンボ <i>Paracercion sexlineatum</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	属名変更(2002年版では <i>Cercion</i> )



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>セスジイトトンボ</b> <i>Paracercion hieroglyphicum</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	属名変更 (2002年版では <i>Cercion</i> )
<b>ムカシトンボ</b> <i>Epiophlebia superstes</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>アオヤンマ</b> <i>Aeschnophlebia longistigma</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>カトリヤンマ</b> <i>Gynacantha japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>マルタンヤンマ</b> <i>Anaciaeschna martini</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>キイロサナエ</b> <i>Asiagomphus pryeri</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>タベサナエ</b> <i>Trigomphus citimus tabei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ミナミヤンマ</b> <i>Chlorogomphus brunneus costalis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>エゾトンボ</b> <i>Somatochlora viridiaenea</i>	準絶滅危惧	情報不足	2002年版では亜種の オオエゾトンボとして掲 載
<b>トラフトンボ</b> <i>Epitheca marginata</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	
<b>ヒメオオヤマカワゲラ</b> <i>Oyamia seminigra</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>モンカワゲラ</b> <i>Calineuria stigmatica</i>	準絶滅危惧		
<b>ウルシゴキブリ</b> <i>Periplaneta japanna</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クロモンチビゴキブリ</b> <i>Anaplecta japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名修正(2002年版で はクロテンチビゴキブ リ)
<b>ヒメチャバネゴキブリ</b> <i>Blattella lituricollis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クチナガコオロギ</b> <i>Velarifictorus aspersus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>カマドコオロギ</b> <i>Grylloides sigillatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名修正(2002年版で は <i>Grylloides</i> )
<b>カワラスズ</b> <i>Dianemobius furumagiensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名変更(2002年版で は <i>Pteronemobius</i> )
<b>カヤキリ</b> <i>Pseudorhynchus japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>イシツチササキリモドキ</b> <i>Sikokuconocephalopsis isizuchiensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>オニササキリモドキ</b> <i>Sikokuconocephalopsis onigajyoensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ウワササキリモドキ</b> <i>Tettigoniopsis uwaensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	種小名修正(2002年版では <u>uwa</u> )
<b>テングササキリモドキ</b> <i>Tettigoniopsis ryomai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クツワムシ</b> <i>Mecopoda nipponensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>エゾツユムシ</b> <i>Kuwayamaea sapporensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	学名変更(2002年版では <u>Ducetia chinensis</u> )
<b>イナゴモドキ</b> <i>Mecostethus parapleurus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	学名変更 (2002年版では <u>Parapleurus alliaceus</u> )
<b>カワラバッタ</b> <i>Eusphingonotus japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>コエゾゼミ</b> <i>Auritibicen bihamatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <u>Tibicen</u> )
<b>エゾゼミ</b> <i>Auritibicen japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <u>Tibicen</u> )
<b>エゾハルゼミ</b> <i>Terpnosia nigricosta</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ハルゼミ</b> <i>Terpnosia vacua</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヤナギカワウンカモドキ</b> <i>Andes marmoratiformis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ネグロカワウンカ</b> <i>Andes melanobasis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>オヌキグンバイウンカ</b> <i>Mesepora onukii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>フタオビマダラカモドキサシガメ</b> <i>Empicoris brachystigma</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名変更(2002年版ではオオカモドキサシガメ)
<b>キイロサシガメ</b> <i>Sirthenea flavipes</i>	準絶滅危惧		
<b>ニシキキンカメムシ</b> <i>Poecilacoris splendidulus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>タマカメムシ</b> <i>Sepontiella aenea</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>タイコウチ</b> <i>Lacotrephes japonensis</i>	準絶滅危惧		
<b>コオイムシ</b> <i>Appasus japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <u>Diplonychus</u> )
<b>ナベブタムシ</b> <i>Aphelecheirus vittatus</i>	準絶滅危惧		
<b>イトアメンボ</b> <i>Hydrometra albolineata</i>	準絶滅危惧		

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ヒメイトアメンボ <i>Hydrometra procera</i>	準絶滅危惧		
コハンミョウ <i>Miriochila specularis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <i>Cicindela</i> )
アイヌハンミョウ <i>Cicindela gemmata aino</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
イシツチオサムシ <i>Carabus tosanus ishizuchianus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
マルクビゴミムシ <i>Nebria chinensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヒョウタンゴミムシ <i>Scarites aterrimus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
フトキノカワゴミムシ <i>Leistus crassus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
ムロトメクラチビゴミムシ <i>Trechiana sonei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ケンザンメクラチビゴミムシ <i>Trechiana chikaichii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キノツメクラチビゴミムシ <i>Trechiana perissus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ノネメクラチビゴミムシ <i>Trechiana nonensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
カミゼキメクラチビゴミムシ <i>Trechiana cornutus longior</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クルマバメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius hirakei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アリノキメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius uozumii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
フルミヤメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius squamosus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ジャノアナメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius spinulosus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
オオドウメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius ishikawaorum</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ナガサワメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius tetsuoi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヨコクラメクラチビゴミムシ <i>Yamautidius eos</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
リュウガドウムクラチビゴミムシ <i>Ryugadous atorus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ガニゴエメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous elongatulus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
タイショウメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous pravus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
トリノスメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous solidior insperatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
リュウジンメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous solidior solidior</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヒラタメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous uozumii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
イシカワメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous ishikawai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ミズイデメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous mimus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
カジモトメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous kajimotoi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ワカミヤメクラチビゴミムシ <i>Ryugadous ciliatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ササメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus squamosus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヤマモトメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus ishikawai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ウオズミメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus uozumii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
リョウゾウメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus riozoi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ハズマメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus yoshiianus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
イラズメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus cerberus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ハヤシメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus hayashii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	種小名修正 (2002年版では <i>murakamii</i> )
メイドウモンメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus professoris</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アナドリメクラチビゴミムシ <i>Ishikawatrechus masazii</i>	準絶滅危惧	情報不足	学名確定(2002年版で はsp.)
フタボシチビゴミムシ <i>Lasiotrechus discus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヒサゴチビゴミムシ <i>Iga formicina</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ウミミズギワゴミムシ <i>Sakagutia marina</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
コホソトビミズギワゴミムシ <i>Bembidion aeneipes</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
トサヌレチゴミムシ <i>Apatrobus cornifer</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヨツボシツヤナガゴミムシ <i>Abacetus tanakai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
テングナガゴミムシ <i>Pterostichus carsticus</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
シコクヒラタナガゴミムシ <i>Pterostichus miyamai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	タイプ種
ヒメセボシヒラタゴミムシ <i>Agonum suavissimum</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クロソンモリヒラタゴミムシ <i>Colpodes kurosonensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ケンザンミヤママルガタゴミムシ <i>Amara kenzanensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	種の見直しにより別種になる可能性がある。
ヒトツメアオゴミムシ <i>Chlaenius deliciolus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クロヒゲアオゴミムシ <i>Chlaenius ocreatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アオヘリホソゴミムシ <i>Drypta japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
チャバネクビナガゴミムシ <i>Odacantha aegrota</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
トックリゴミムシ <i>Lachnocrepis prolixa</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
オオヨツボシゴミムシ <i>Dischissus mirandus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
クロケブカゴミムシ <i>Peronomerus nigrinus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
イグチケブカゴミムシ <i>Peronomerus auripilis</i>	準絶滅危惧	情報不足	
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ <i>Canthydrus politus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
オオマルケシゲンゴロウ <i>Hydrovatus bonvouloiri</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キボシツブゲンゴロウ <i>Japanolaccophilus nipponensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ルイスツブゲンゴロウ <i>Laccophilus lewisius</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
コウベツブゲンゴロウ <i>Laccophilus kobensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ウスイロシマゲンゴロウ <i>Hydaticus rhantoides</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>コガタノゲンゴロウ</b> <i>Cybister tripunctatus orientalis</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IA類	
<b>チャイロチビゲンゴロウ</b> <i>Liodessus megacephalus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>マメクワガタ</b> <i>Figulus punctatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヒメオオクワガタ</b> <i>Nipponodorcus montivagus montivagus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ネブトクワガタ</b> <i>Aegus laevicollis laevicollis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ツノクロツヤムシ</b> <i>Cylindrocaulus patalis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>フチトリアツバコガネ</b> <i>Phaeochrous emarginatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヒゲコガネ</b> <i>Polyphylla laticollis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>イシハラカンショコガネ</b> <i>Apogonia ishiharai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヨツバコガネ</b> <i>Ohkubous ferrieri</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>キンスジコガネ</b> <i>Mimela holosericea</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>シラホシハナムグリ</b> <i>Protaetia brevitarsis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ムラサキツヤハナムグリ</b> <i>Protaetia cataphracta</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>キョウトアオハナムグリ</b> <i>Protaetia lenzi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クロカナブン</b> <i>Rhomborrhina polita</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IB類	
<b>アオマダラタマムシ</b> <i>Nipponobuprestis amabilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>アヤムネスジタマムシ</b> <i>Chrysodema lewisii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>トサヒメサビキコリ</b> <i>Agrypnus miyamotoi tosa</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ニホンムネスジダングラコメツキ</b> <i>Harminius nihonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>チビマメコメツキ</b> <i>Quasimus chibi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>アカアシコハナコメツキ</b> <i>Paracardiophorus sequens sequens</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
オオキノコムシ <i>Encaustes praenobilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
トサヒラズゲンセイ <i>Cissites cephalotes</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名変更(2002年版ではヒラズゲンセイ)
キベリフトカミキリモドキ <i>Assesinia flavomarginata</i>	準絶滅危惧	情報不足	属名変更(2002年版では属名 <i>Alloxaxis</i> となっているがこれ自体 <i>Anoxaxis</i> の誤記)
オオクボカミキリ <i>Tengius ohakuboi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
トゲウスバカミキリ <i>Megopis formosana nipponica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
フタコブルリハナカミキリ <i>Stenocorus caeruleipennis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アカイロニセハムシハナカミキリ <i>Lemula nishimurai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヒメヨツスジハナカミキリ <i>Leptura kusamai</i>	準絶滅危惧	情報不足	
シコクヒメコブハナカミキリ <i>Pseudosieversia shikokensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ブロイニングヒメハナカミキリ <i>Pidonia limbaticollis stephani</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
マホロバヒメハナカミキリ <i>Pidonia leucanthophila</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
イガブチヒゲハナカミキリ <i>Stictoleptura igai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ベーツヤサカミキリ <i>Leptoxenus ibidiiformis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ナカネアメイロカミキリ <i>Obrium nakanei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
トワダムモンメダカカミキリ <i>Stenhomalus lighti</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ニッポンモモフトコバナカミキリ <i>Merionoeda formosana septentrionalis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アオカミキリ <i>Schwarzerium quadricollis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キュウシュウチビトラカミキリ <i>Perissus kiusiuensis kiusiuensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アカネトラカミキリ <i>Brachyclytus singularis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ケナガカミキリ <i>Artimpaza setigera japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
タキグチモモフトホソカミキリ <i>Cleomenes takiguchii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
カノコサビカミキリ <i>Apomecyna naevia</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
アヤモンチビカミキリ <i>Sybra ordinata ordinata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キボシチビカミキリ <i>Sybra flavomaculata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
タテジマカミキリ <i>Aulaconotus pachypezoides</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ツチイロフトヒゲカミキリ <i>Dolophrades terrenus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
セダカコブヤハズカミキリ <i>Parechthistatus gibber pseudogrossus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヨコヤマヒゲナガカミキリ <i>Dolichoprosopus yokoyamai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ナカバヤシモモフトカミキリ <i>Leiopus guttatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クロオビトゲムネカミキリ <i>Sciades fasciatus fasciatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ミヤマモモフトカミキリ <i>Leiopus montanus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ルリカミキリ <i>Bacchisa(Bacchisa) fortunei japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
シナカミキリ <i>Eutetrappa sedecimpunctata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ホソツツリンゴカミキリ <i>Oberea nigriventris</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ハッカハムシ <i>Chrysolina exanthematica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヨコミゾドロムシ <i>Leptelmis gracilis</i>	準絶滅危惧		
ヘイケボタル <i>Luciola lateralis</i>	準絶滅危惧		
エゴヒゲナガゾウムシ <i>Exechesops leucopis</i>	準絶滅危惧	情報不足	
プライヤーヒロバカゲロウ <i>Osmylus pryeri</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名修正(2002年版ではプライヤヒロバカゲロウ)
オガタヒロバカゲロウ <i>Lysmus ogatai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クシヒゲカゲロウ <i>Dilar japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ケカゲロウ <i>Isoscelipteron okamotonis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名変更(2002年版ではAcroberotha)



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>キントクサカゲロウ</b> <i>Brinckochrysa kintoki</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ムモンクサカゲロウ</b> <i>Chrysotropia ciliata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ニセミスジシリアゲ</b> <i>Panorpa globulifera</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名変更(2002年版ではシコクミスジシリアゲ)
<b>イッシキガガンボモドキ</b> <i>Bittacus issikii</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>ツマグロヒメガガンボモドキ</b> <i>Bittacus marginatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クロヒメガガンボモドキ</b> <i>Bittacus takaoensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>トワダオオカ</b> <i>Toxorhynchites towadensis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>オオイシアブ</b> <i>Laphria mitsukurii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>オオナガレトビケラ</b> <i>Himalopsyche japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	属名修正(2002年版ではHimalopsyche)
<b>ツマグロトビケラ</b> <i>Phryganea japonica</i>	準絶滅危惧		
<b>ホタルトビケラ</b> <i>Nothopsyche ruficollis</i>	準絶滅危惧		
<b>ウスリークサツミトビケラ</b> <i>Oecetis antennata</i>	準絶滅危惧		
<b>ギンボシツツトビケラ</b> <i>Setodes argentatus</i>	準絶滅危惧		
<b>ホソバトビケラ</b> <i>Molanna moesta</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヨツメトビケラ</b> <i>Perissoneura paradoxa</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	種小名変更(2002年版ではchrysea)
<b>カタツムリトビケラ</b> <i>Helicopsyche yamadai</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヘリグロチャバネセセリ</b> <i>Thymelicus sylvaticus</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>オオチャバネセセリ</b> <i>Polytremis pellucida</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧IA類	
<b>ウラキンシジミ</b> <i>Ussuriana stygiana</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ウラクロシジミ</b> <i>Iratsume orsedice orsedice</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ミドリシジミ</b> <i>Neozephyrus japonicus japonicus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	種小名変更(2002年版ではtaxila)

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
<b>アイノミドリシジミ</b> <i>Chrysozephyrus brilliantinus brilliantinus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>メスアカミドリシジミ</b> <i>Chrysozephyrus smaragdinus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>フジミドリシジミ</b> <i>Sibatanoizephyrus fujisanus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クツバメシジミ</b> <i>Tongeia fischeri shojii</i>	準絶滅危惧	情報不足	学名に亜種名追加
<b>オオウラギンスジヒョウモン</b> <i>Argyronome ruslana</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クモガタヒョウモン</b> <i>Nephargynnis anadyomene ella</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	亜種名変更(2002年版ではmidas)
<b>オオムラサキ</b> <i>Sasakia charonda charonda</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ナミジャノメ</b> <i>Minois dryas bipunctatus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ツマジロウラジャノメ</b> <i>Lasiommata deidamia kampuzana</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	学名修正(2002年版では亜種名interruptaを種小名に誤記)
<b>フチグロトゲエダシャク</b> <i>Nyssiodes lefuarius</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>キイロトゲエダシャク</b> <i>Apochima praeacutaria</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>フジキオビ</b> <i>Schistomitra funeralis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>クロウスタビガ</b> <i>Rhodinia jankowskii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>リュウキュウオオスカシバ</b> <i>Cephonodes xanthus</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ハネブサシャチホコ</b> <i>Platychasma virgo</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>コシロオビドクガ</b> <i>Numenes disparilis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ホソバミツモンケンモン</b> <i>Cymatophoropsis unca</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>コゴマヨトウ</b> <i>Chandata bella</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ムラサキシタバ</b> <i>Catocala fraxini</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>オニベニシタバ</b> <i>Catocala dula</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>シロシタバ</b> <i>Catocala nivea</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
ナマリキシタバ <i>Catocala columbina</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
マイコトラガ <i>Maikona jezoensis</i>	準絶滅危惧	情報不足	
ニッポンハナダカバチ <i>Bembix niponica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
フタモンクモバチ <i>Parabatozonus jankowskii</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名変更(2002年版ではフタモンベッコウ)
ツマアカクモバチ <i>Tachypompilus analis</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	和名変更(2002年版ではツマアカコブベッコウ)
モンズメバチ <i>Vespa crabro flavofasciata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
キバラハキリバチ <i>Megachile xanthothrix</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ルリボシヤンマ <i>Aeshna juncea</i>	情報不足	絶滅危惧IA類	
ミヤマサナエ <i>Anisogomphus maacki</i>	情報不足	準絶滅危惧	
オオキトンボ <i>Sympetrum uniforme</i>	情報不足		
ガロアムシ属全種 <i>Galloisiana</i> spp.	情報不足	情報不足	分類が不十分
タイワントビバナフシ <i>Sipyloidea sipylus</i>	情報不足	情報不足	
ウスバカマキリ <i>Mantis religiosa</i>	情報不足	情報不足	
サツマツチゴキブリ <i>Margattea satsumana</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版ではTheganosilpha)
ハネナシコオロギ <i>Goniogryllus sexspinosus</i>	情報不足	情報不足	
クチキウマ属全種 <i>Anolophilus</i> spp.	情報不足	情報不足	分類が不十分
コバネコロギス <i>Metriogryllacris magnus</i>	情報不足		
ヤマクダマキモドキ <i>Holochlora longifissa</i>	情報不足	情報不足	
タイワンクダマキモドキ <i>Ruidocollaris truncatolobata</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版ではSympaestria)
アカエゾゼミ <i>Auritibicen flammatus</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版ではTibicen)
シコクアリヅカウンカ <i>Tettigometra shikokuana</i>	情報不足	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ホッケミズムシ</b> <i>Hesperocorixa distanti hokkensis</i>	情報不足	情報不足	和名変更(2002年版ではミスムシ)亜種名変更(2002年版では <i>distanti</i> )
<b>ナガミズムシ</b> <i>Hesperocorixa mandshurica</i>	情報不足	情報不足	
<b>コケカスミカメ</b> <i>Bryophilocapsus tosamontanus</i>	情報不足		タイプ種
<b>ヒメケブカカスミカメ</b> <i>Tingitotum befui</i>	情報不足		タイプ種
<b>ツルギマルゲンバイ</b> <i>Acalypta tsurugisana</i>	情報不足	情報不足	
<b>ホソマキバサシガメ</b> <i>Arbela tabida</i>	情報不足		
<b>シロヘリツチカメムシ</b> <i>Canthophorus niveimarginatus</i>	情報不足		
<b>シコククチブトカメムシ</b> <i>Eocanthecona shikokuensis</i>	情報不足	情報不足	
<b>イシハラカメムシ</b> <i>Chalazonotum ishiharai</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Brachynema</i> )
<b>トゲツノカメムシ</b> <i>Lindbergicoris gramineus</i>	情報不足	情報不足	
<b>ヤマトセスジムシ</b> <i>Omoglymmius lewisi</i>	情報不足	情報不足	
<b>チャイロヒラタセスジムシ</b> <i>Clinidium veneficum</i>	情報不足	情報不足	
<b>ホソハンミョウ</b> <i>Cylindera gracilis</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Cicindela</i> )
<b>ムラサキシジアシゴミムシ</b> <i>Eobroscus lutshniki</i>	情報不足	情報不足	
<b>テングメクラチビゴミムシ</b> <i>Ishikawatrechus longipes</i>	情報不足	情報不足	
<b>スクモメクラチビゴミムシ</b> <i>Yamautidius sucmo</i>	情報不足		2006年新種記載
<b>クロソンメクラチビゴミムシ</b> <i>Yamautidius croson</i>	情報不足		2006年新種記載
<b>アオミズギワゴミムシ</b> <i>Bembidion chloreum</i>	情報不足	情報不足	
<b>シコクアオマルガタミズギワゴミムシ</b> <i>Ocydromus shikokuensis</i>	情報不足	情報不足	
<b>イシツチヌレチゴミムシ</b> <i>Apatrobus ishizuchiensis</i>	情報不足	情報不足	
<b>イシハラヌレチゴミムシ</b> <i>Apatrobus ishiharai</i>	情報不足	情報不足	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ムラサキオオゴミムシ <i>Trigonognatha coreana</i>	情報不足	情報不足	
フタモンマルクビゴミムシ <i>Nebria pulcherrima</i>	情報不足		
キンナガゴミムシ <i>Pterostichus planicollis</i>	情報不足	情報不足	
モモブトナガゴミムシ <i>Pterostichus colonus</i>	情報不足	情報不足	
コホソナガゴミムシ <i>Pterostichus longinquus</i>	情報不足	情報不足	
トックリナガゴミムシ <i>Pterostichus haptoderoides japonensis</i>	情報不足	情報不足	
ヒメホソナガゴミムシ <i>Pterostichus rotundangulus</i>	情報不足	情報不足	
ヒコサンナガゴミムシ四国亜種 <i>Pterostichus hikosanus kurosonis</i>	情報不足	情報不足	
イシハラヒメナガゴミムシ <i>Pterostichus ishiharai</i>	情報不足	情報不足	
ヒサマツナガゴミムシ <i>Pterostichus hisamatsui</i>	情報不足	情報不足	
ツルギヤマナガゴミムシ <i>Pterostichus tsurugiyamanus</i>	情報不足	情報不足	
サトウナガゴミムシ <i>Pterostichus satoi</i>	情報不足	情報不足	
カワノナガゴミムシ <i>Pterostichus kawanoi</i>	情報不足	情報不足	
イシヅチナガゴミムシ <i>Pterostichus ishizuchiensis</i>	情報不足	情報不足	
チュウジョウナガゴミムシ <i>Pterostichus chujoji</i>	情報不足	情報不足	
カジガモリオオズナガゴミムシ(仮称) <i>Pterostichus subabacipennis</i>	情報不足		2012年新種記載
ホソアシオオズナガゴミムシ <i>Pterostichus gracilitarsis</i>	情報不足		2010年新種記載
エサキクロヒラタゴミムシ <i>Colpodes esakii</i>	情報不足	情報不足	
ヨツボシヒラタゴミムシ <i>Agonum quadripunctatum</i>	情報不足	情報不足	
オグラヒラタゴミムシ <i>Agonum ogurae</i>	情報不足	情報不足	
サドモリヒラタゴミムシ <i>Colpodes limodromoides</i>	情報不足	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ベーツヒラタゴミムシ <i>Euplynes batesi</i>	情報不足	情報不足	
ホラアナヒラタゴミムシ <i>Jujiroa nipponica</i>	情報不足	情報不足	
クロサホソヒラタゴミムシ <i>Trephionus kurosai</i>	情報不足	情報不足	
ニセムナビロモリヒラタゴミムシ <i>Hikosanoagonum bungo</i>	情報不足		2015年新種記載
キアシマルガタゴミムシ <i>Amara ampliata</i>	情報不足	情報不足	
シコクフトゴモクムシ <i>Chydaeus shikokuensis</i>	情報不足	情報不足	
タナカツヤハネゴミムシ <i>Harpalomimetes orbicollis</i>	情報不足	情報不足	種小名変更(2002年版では <i>andrewesi</i> )
カラカネゴモクムシ <i>Platymetopus flavilabris</i>	情報不足	情報不足	
ハネグロツヤゴモクムシ <i>Trichotichnus lucidus</i>	情報不足	情報不足	
オオクロツヤゴモクムシ <i>Trichotichnus lewisi</i>	情報不足	情報不足	
ツルギヤマツヤゴモクムシ <i>Trichotichnus tsurugiyamanus</i>	情報不足	情報不足	
クビアカツヤゴモクムシ <i>Trichotichnus longitarsis</i>	情報不足	情報不足	
キュウシュウツヤゴモクムシ <i>Trichotichnus vespertinus</i>	情報不足	情報不足	
ルイスヒメゴモクムシ <i>Bradycellus lewisi</i>	情報不足	情報不足	
イツホシマメゴモクムシ <i>Stenolophus quinquepustulatus</i>	情報不足	情報不足	
クロズカタキバゴミムシ <i>Badister nigriceps</i>	情報不足	情報不足	
ヨツボシゴミムシ <i>Panagaeus japonicus</i>	情報不足	情報不足	
オオキベリアオゴミムシ <i>Epomis nigricans</i>	情報不足	情報不足	
コキベリアオゴミムシ <i>Chlaenius circumdatus</i>	情報不足	情報不足	
コアトワアオゴミムシ <i>Chlaenius hamifer</i>	情報不足	情報不足	
カタボシホナシゴミムシ <i>Perigona acupalpoides</i>	情報不足	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
クロズホナシゴミムシ <i>Perigona nigriceps</i>	情報不足	情報不足	
カドツブゴミムシ <i>Pentagonica angulosa</i>	情報不足	情報不足	
ダイショウツブゴミムシ <i>Pentagonica daimaiella</i>	情報不足	情報不足	
クロツブゴミムシ <i>Pentagonica subcordicollis</i>	情報不足	情報不足	
トゲアトキリゴミムシ <i>Aephnidius adelioides</i>	情報不足	情報不足	
カワツブアトキリゴミムシ <i>Amphimenes piceolus</i>	情報不足	情報不足	
メダカアトキリゴミムシ <i>Orionella lewisii</i>	情報不足	情報不足	
コアオアトキリゴミムシ <i>Taicona aurata</i>	情報不足	情報不足	
フタツメゴミムシ <i>Lebidia bioculata</i>	情報不足	情報不足	
クロヘリアトキリゴミムシ <i>Parena nigrolineata nipponensis</i>	情報不足	情報不足	
ヒラタアトキリゴミムシ <i>Parena cavipennis</i>	情報不足	情報不足	
オオヨツアナアトキリゴミムシ <i>Parena perforata</i>	情報不足	情報不足	
オオヒラタアトキリゴミムシ <i>Parena laesipennis</i>	情報不足	情報不足	
ミヤマジュウジアトキリゴミムシ <i>Lebia sylvorum</i>	情報不足	情報不足	
ジュウジアトキリゴミムシ <i>Lebia retrofasciata</i>	情報不足	情報不足	
キイロアトキリゴミムシ <i>Philorhizus optimus</i>	情報不足	情報不足	
チビミズアトキリゴミムシ <i>Apristus cuprascens</i>	情報不足	情報不足	
マルチビゲンゴロウ <i>Leiodytes frontalis</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Clypeodytes</i> )
ホソクロマメゲンゴロウ <i>Platambus optatus</i>	情報不足	情報不足	学名変更 (2002年版では <i>Agabus miyamotoi</i> )
エンマムシモドキ <i>Syntelia histeroides</i>	情報不足	情報不足	
シコクチビシテムシ <i>Catops hisamatsui</i>	情報不足	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
ヤマトモンシテムシ <i>Nicrophorus japonicus</i>	情報不足	情報不足	
ムナグロホソツヤシテムシ <i>Apteroloma discicolle</i>	情報不足	情報不足	
トサヤマツヤムネハネカクシ <i>Quedius kawasawai</i>	情報不足	情報不足	
ツルギヤマツヤムネハネカクシ <i>Quedius tsurugiensis</i>	情報不足	情報不足	
ラカンツヤムネハネカクシ <i>Quedius cephalotes</i>	情報不足	情報不足	
ルイスツノヒョウタンクワガタ <i>Nigidius lewisi</i>	情報不足	情報不足	
ミナミツヤハダクワガタ <i>Ceruchus lignarius nodai</i>	情報不足	情報不足	
チドリムネミゾマグソコガネ <i>Oxyomus ishidai</i>	情報不足	情報不足	和名変更(2002年版ではイシダマグソコガネ)
アイヌコブスジコガネ <i>Trox setifer</i>	情報不足		
クチキクシヒゲムシ <i>Sandalus segnis</i>	情報不足	情報不足	
ウグリチビマメコメツキ <i>Quasimus ugriensis ugriensis</i>	情報不足	情報不足	
オキチビマメコメツキ <i>Quasimus uguiensis okicola</i>	情報不足	情報不足	
ゴモクムシダマシ <i>Blindus strigosus</i>	情報不足	情報不足	学名変更 (2002年版では <i>Pedinus japonicus</i> )
クロソノマグソコガネダマシ <i>Bolitotrogus kurosonis</i>	情報不足	情報不足	
アトコブゴミムシダマシ <i>Phellopsis suberea</i>	情報不足	情報不足	
ケブカヒラタカミキリ <i>Nothorhina punctata</i>	情報不足	情報不足	
クロサワヘリグロハナカミキリ <i>Eustrangalia anticereductus</i>	情報不足	情報不足	
アワヒメハナカミキリ <i>Pidonia amentata</i>	情報不足		
カタキハナカミキリ <i>Pedostrangalia femoralis</i>	情報不足	情報不足	
オガサワラチャイロカミキリ <i>Comusis testacea</i>	情報不足	情報不足	
タカオメダカカミキリ <i>Stenhomalus takaosanus</i>	情報不足	情報不足	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
オダヒゲナガコバネカミキリ <i>Glaphyra gracilis</i>	情報不足	情報不足	
クロサワヒメコバネカミキリ <i>Epania septentrionalis</i>	情報不足	情報不足	
リョウブモモブトヒメコバネカミキリ <i>Epania shikokensis shikokensis</i>	情報不足	情報不足	
ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ <i>Molorchoepania mizoguchii</i>	情報不足	情報不足	
ヤマトチビコバネカミキリ <i>Leptepania japonica</i>	情報不足	情報不足	
ヤマトシロオビトラカミキリ <i>Kazuoclytus lautoides</i>	情報不足	情報不足	
オオトラカミキリ <i>Xylotrechus villioni</i>	情報不足	情報不足	
ヨコヤマトラカミキリ <i>Epiclytus yokoyamai</i>	情報不足	情報不足	
マツシタトラカミキリ <i>Anaglyptus matsushitai</i>	情報不足	情報不足	
エゾトラカミキリ <i>Oligoenoplus rosti rosti</i>	情報不足	情報不足	
クビアカモモブトホソカミキリ <i>Kurarua rhopalophoroides</i>	情報不足	情報不足	
ヨツボシシロオビゴマフカミキリ <i>Mesosa mediofasciata</i>	情報不足	情報不足	
フタスジゴマフカミキリ <i>Mesosa cribrata</i>	情報不足	情報不足	
ヒトオビチビカミキリ <i>Sybra unifasciata</i>	情報不足	情報不足	
クリサビカミキリ <i>Pterolophia castaneivora</i>	情報不足	情報不足	
エゾナガヒゲカミキリ <i>Hirtaeschopalea nubila</i>	情報不足	情報不足	
ハイイロツツクビカミキリ <i>Cylindilla grisescens</i>	情報不足	情報不足	
キュウシュウトゲバカミキリ <i>Rondibilis amanoi</i>	情報不足	情報不足	
ヒゴトゲハムシ <i>Dactylispa higoniae</i>	情報不足	情報不足	
タカハシトゲゾウムシ <i>Dinorhopala takahashii</i>	情報不足	情報不足	
ツマグロカマキリモドキ <i>Austroclimaciella quadrituberculata</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Climaciella</i> )

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
オオウスバカゲロウ <i>Synclistis japonica</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Heoclisia</i> )
ヒメウスバカゲロウ <i>Pseudoformicaleo nubecula</i>	情報不足	情報不足	種小名変更(2002年版では <i>jacobsoni</i> )
コーカサスイシアブ <i>Choerades caucasicus</i>	情報不足	情報不足	種小名修正(2002年版では <i>caucasicus</i> )
ヤマトクチブトメバエ <i>Leopoldius japonica</i>	情報不足	情報不足	種小名修正(2002年版では <i>japonicus</i> )
ベフミヤマトビケラ <i>Pseudostenophylax befui</i>	情報不足	情報不足	種名確定(2002年版ではオンダケトビケラの一 種)
ムネカクトビケラ <i>Ecnomus tenellus</i>	情報不足	情報不足	
クロツツトビケラ <i>Uenoa tokunagai</i>	情報不足	情報不足	
シロテンコウモリ <i>Palpifer sexnotatus</i>	情報不足	情報不足	種小名修正(2002年版 では <i>sexnotata</i> )
オキナワスカシバ <i>Scasiba okinawana</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版で は <i>Sesia</i> )
キタスカシバ <i>Sesia yezoensis</i>	情報不足	準絶滅危惧	
ハチマガイスカシバ <i>Glossospehia contaminata</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版で は <i>Toleria</i> )
キクビスカシバ <i>Nokona feralis</i>	情報不足	情報不足	
ムラサキスカシバ <i>Nokona purpurea</i>	情報不足	情報不足	
ヤシャブシキホリマルハキバガ <i>Casmara agronoma</i>	情報不足	情報不足	和名変更(2002年版で はホンバキホリマルハキ バガ)
ミノウスバ <i>Pryeria sinica</i>	情報不足	情報不足	
ウスバツバメガ <i>Elcysma westwoodii</i>	情報不足	情報不足	
ウスムラサキイラガ <i>Austrapoda hepatica</i>	情報不足	情報不足	
オオギンモンカギバ <i>Callidrepana hirayamai</i>	情報不足	情報不足	
マダラチズモンアオシャク <i>Agathia lycaenaria chizumon</i>	情報不足	情報不足	学名に亜種名追加
ノコバアオシャク <i>Timandromorpha enervata</i>	情報不足	情報不足	種小名変更(2002年版 では <i>discolor</i> )
スモモエダシャク <i>Angerona prunaria turbata</i>	情報不足	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
クロスキバホウジャク <i>Hemaris affinis</i>	情報不足	情報不足	種小名変更(2002年版では <i>fuciformis</i> )
スキバホウジャク <i>Hemaris radians</i>	情報不足	情報不足	
アカシャチホコ <i>Gangaridopsis citrina</i>	情報不足	情報不足	
アカネシャチホコ <i>Peridea lativitta</i>	情報不足	情報不足	
エゾクシヒゲシャチホコ <i>Ptilophora jezoensis</i>	情報不足	情報不足	
キシタケンモン <i>Acronicta catocaloida</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Hylonycta</i> )
ニセタバコガ <i>Heliocheilus fervens</i>	情報不足	情報不足	
サヌキキリガ <i>Elwesia sugii</i>	情報不足	情報不足	
ヒマラヤハガタヨトウ <i>Nycticia strigidisca</i>	情報不足	情報不足	
キモンクチバ <i>Ophisma gravata</i>	情報不足	情報不足	
キタエグリバ <i>Calyptra hokkaida</i>	情報不足	情報不足	
ミミモンクチバ <i>Anticarsia irrorata</i>	情報不足	情報不足	
クロヒラアシキバチ <i>Tremex apicalis</i>	情報不足	情報不足	
ナカネヒラアシキバチ <i>Tremex nakanei</i>	情報不足	情報不足	
アシジロヒラフシアリ <i>Technomyrmex albipes</i>	情報不足	情報不足	
トカラウロコアリ <i>Trichoscapa membranifera</i>	情報不足	情報不足	
フジジガバチ <i>Ammophila clavus japonica</i>	情報不足	情報不足	種小名変更(2002年版では <i>atripes</i> )
キバネアナバチ <i>Isodontia maidli</i>	情報不足	情報不足	
アカアシツチスガリ <i>Cerceris albofasciata</i>	情報不足	情報不足	
キスジツチスガリ <i>Cerceris arenaria</i>	情報不足	情報不足	
ジュウジドロバチ <i>Euodynerus trilobus</i>	情報不足	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>オオセイボウ</b> <i>Stilbum cyanurum pacificum</i>	情報不足	情報不足	亜種名追加
<b>シロスジヒゲナガハナバチ</b> <i>Eucera spurcatipes</i>	情報不足	情報不足	
<b>ミツクリヒゲナガハナバチ</b> <i>Tetraloniella mitsukurii</i>	情報不足	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Tetralonia</i> )
<b>シロスジフトハナバチ</b> <i>Amegilla quadrifasciata</i>	情報不足	情報不足	和名変更(2002年版ではシロスジコシフトハナバチ)
<b>ケブカトゲアシヒゲボソゾウムシ</b> <i>Phyllobius armatus</i>	絶滅のおそれのある地域個体群 高知市円行寺~宇津野地域個体群		
<b>オキノシマヒメオサムシ</b> <i>Carabus japonicus okinoshimanus</i>	絶滅のおそれのある地域個体群 宿毛市沖の島地域個体群	絶滅のおそれのある地域個体群 宿毛市沖の島地域個体群	
<b>ワシオヒメオサムシ</b> <i>Carabus japonicus yoshiyukii</i>	絶滅のおそれのある地域個体群 高知市鷲尾山周辺地域個体群	絶滅のおそれのある地域個体群 高知市鷲尾山周辺地域個体群	

高知県レッドリストから除外された種および亜種 (昆虫類)

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>アマミサソリモドキ</b> <i>Typopeltis stimpsonii</i>	除外	絶滅危惧IB類	
<b>チラカゲロウ</b> <i>Isonychia japonica</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>アジアイトトンボ</b> <i>Ischnura asiatica</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>コシボソヤンマ</b> <i>Boyeria maclachlani</i>	除外	絶滅危惧II類	
<b>ギンヤンマ</b> <i>Anax parthenope julius</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>クロスジギンヤンマ</b> <i>Anax nigrofasciatus</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>ヒメクロサナエ</b> <i>Lanthus fujiacus</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>オジロサナエ</b> <i>Stylogomphus suzukii</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>ヒメサナエ</b> <i>Sinogomphus flavolimbatus</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>アオサナエ</b> <i>Nihonogomphus viridis</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>ウチワヤンマ</b> <i>Sinictinogomphus clavatus</i>	除外	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <i>Ictinogomphus</i> )
<b>タカネトンボ</b> <i>Somatochlora uchidai</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>ショウリョウバッタモドキ</b> <i>Gonista bicolor</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>ベニツチカメムシ</b> <i>Parastrachia japonensis</i>	除外	絶滅危惧IB類	
<b>アカギカメムシ</b> <i>Cantao ocellatus</i>	除外	絶滅のおそれのある地域個体群 土佐清水市地域個体群	
<b>トホシカメムシ</b> <i>Lelia decempunctata</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>カワラゴミムシ</b> <i>Omophron aequalis</i>	除外	情報不足	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
ウミホソチビゴミムシ <i>Perileptus morimotoi</i>	除外	絶滅危惧IA類	
アオゴミムシ <i>Chlaenius pallipes</i>	除外	情報不足	
フタモンクビナガゴミムシ <i>Archicolluris bimaculata nipponica</i>	除外	情報不足	
スジゲンゴロウ <i>Prodaticus satoi</i>	除外	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Hydaticus</i> )
サワダマメゲンゴロウ <i>Platambus sawadai</i>	除外	情報不足	
ホソセスジゲンゴロウ <i>Copelatus weymarni</i>	除外	準絶滅危惧	
コルリクワガタ <i>Platycerus acuticollis</i>	除外	情報不足	
ニセコルリクワガタ <i>Platycerus sugitai</i>	除外	情報不足	
ルリクワガタ <i>Platycerus delicatulus delicatulus</i>	除外	情報不足	
マダラクワガタ <i>Aesalus asiaticus</i>	除外	情報不足	
オオクワガタ <i>Dorcus hopei binodulosus</i>	除外	情報不足	亜種名 <i>binodulosus</i> 追加
オニクワガタ <i>Prismognathus angularis angularis</i>	除外	準絶滅危惧	
チビクワガタ <i>Figulus binodulus</i>	除外	準絶滅危惧	
ヒラタクワガタ <i>Serrognathus platymelus pilifer</i>	除外	準絶滅危惧	
オオセンチコガネ <i>Phelotrupes auratus</i>	除外	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <i>Geotrupes</i> )
ミヤマダイコクコガネ <i>Copris pecuarius</i>	除外	情報不足	
ゴホンダイコクコガネ <i>Copris acutidens</i>	除外	情報不足	
ケブカマグソコガネ <i>Aphodius eccoptus</i>	除外	情報不足	
イガクロツヤマグソコガネ <i>Aphodius igai tsurugianus</i>	除外	情報不足	
コケシマグソコガネ <i>Myrnessus samurai</i>	除外	情報不足	属名変更(2002年版では <i>Rhyssesus</i> )
アカマダラハナムグリ <i>Poecilophilides rusticola</i>	除外	情報不足	和名変更(2002年版では アカマダラコガネ)
コカブトムシ <i>Eophileurus chinensis</i>	除外	情報不足	
ヤマトタマムシ <i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>	除外	準絶滅危惧	
カワラニンフジョウカイ <i>Podabrus owarianus</i>	除外	準絶滅危惧	
オオテントウ <i>Synonycha grandis</i>	除外	準絶滅危惧	
トサヒメハナカミキリ <i>Pidonia approximata</i>	除外	情報不足	
チュウジョウヒメハナカミキリ <i>Pidonia chujoi</i>	除外	準絶滅危惧	
トラフホソバネカミキリ <i>Thranium variegatus variegatus</i>	除外	情報不足	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
カエデヒゲナガコバナカミキリ <i>Glaphyra ishiharai</i>	除外	準絶滅危惧	
フトオビカンボウトラカミキリ <i>Hayashiclytus acutivittis inscriptus</i>	除外	準絶滅危惧	
クワカミキリ <i>Apriona japonica</i>	除外	準絶滅危惧	
シロモンオオヒゲナガゾウムシ <i>Mecotropis kyushuensis</i>	除外	情報不足	
オオシロオビゾウムシ <i>Cryptoderma fortunei</i>	除外	準絶滅危惧	
タイリククロスジヘビトンボ <i>Parachauliodes continentalis</i>	除外	準絶滅危惧	和名修正(2002年版ではクロスジヘビトンボ)
ヤマトクロスジヘビトンボ <i>Parachauliodes japonicus</i>	除外	準絶滅危惧	
イシハラシリアゲ <i>Panorpa ishiharai</i>	除外	準絶滅危惧	和名変更(2002年版ではシコクシリアゲ)
プライアシリアゲ <i>Panorpa pryeri</i>	除外	準絶滅危惧	和名修正(2002年版ではプライヤシリアゲ)
ケブカクモバエ <i>Penicillidia jenynsii</i>	除外	情報不足	
イワトビケラの1種 <i>Nyctiopylax</i> sp.	除外	情報不足	
ムラサキトビケラ <i>Eubasilissa regina</i>	除外	準絶滅危惧	
ヤマトスジグロシロチョウ <i>Pieris nesis</i>	除外	情報不足	和名学名変更(2002年版ではエゾスジグロシロチョウ <i>P. napi</i> )
メスグロヒョウモン <i>Damora sagana liane</i>	除外	準絶滅危惧	学名修正(2002年版亜種名 <i>liane</i> は誤記)
ウラゴマダラシジミ <i>Artopoetes pryeri pryeri</i>	除外	準絶滅危惧	
ミズイロオナガシジミ <i>Antigius attilia attilia</i>	除外	準絶滅危惧	
オオミドリシジミ <i>Favonius orientalis</i>	除外	準絶滅危惧	亜種名削除
イラガ <i>Monema flavescens</i>	除外	情報不足	
オオミノガ <i>Eumeta variegata</i>	除外	準絶滅危惧	種小名変更(2002年版では <i>japonica</i> )
クロオビシロナミシャク <i>Trichopteryx ustata</i>	除外	情報不足	
オオシモフリスズメ <i>Langia zenzeroides</i>	除外	情報不足	
ナカオビキリガ <i>Dryobotodes intermissa</i>	除外	情報不足	
ウスイロキシタバ <i>Catocala intacta</i>	除外	情報不足	
クロモンシタバ <i>Ophiusa tirhaca</i>	除外	準絶滅危惧	
キマエコノハ <i>Eudocima salaminia</i>	除外	情報不足	
ネジロフトクチバ <i>Serodes campanus</i>	除外	情報不足	種小名修正(2002年版では <i>campana</i> )
イトウハバチ <i>Neocolochelyna itoi</i>	除外	準絶滅危惧	
サトセナガアナバチ <i>Ampulex dissector</i>	除外	絶滅危惧IB類	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
イラガ（イツツバ）セイボウ <i>Praestochrysis shanghaiensis</i>	除外	準絶滅危惧	属名変更(2002年版では <i>Chrysis</i> )

カメムシ目コオイムシ科

## タガメ

*Kirkaldyia deyrolli*

口絵15

高知県：絶滅 (EX)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧II類 (VU)

### 【選定理由】

2000年から2002年の間に2件の目撃情報があったが、実地調査の結果生息は確認できなかった。2002年以降もその近辺および高知県に接している愛媛県側の調査を行ったが、生息は確認できなかった。ここ40年あまり生息の確認がされていないこともあり、高知県では絶滅したものと考えられる。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長50～60mm。成虫および幼虫が水の中で生活している昆

虫では最大で、最強である。小型の魚類またはオタマジャクシを主な餌とする。5月から7月ごろに、木の枝または杭に産卵された卵が孵化するまで雄がそれを保護する。その間、卵が乾燥しないように常に水で湿らしている。

### 【生息環境】

平地および山間部の沼、池、水田に生息している。農家の高齢化や山間部の不便さにより貯水地が放棄され、生息地が消滅した。

### 【生息状況】

2000年代は愛媛県の一部に生息していたが、本県では1970年以降の生息確認がない。

### 【執筆者】

別府隆守

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

## ヤマトオサムシダマシ

*Blaps japonensis*

口絵15

高知県：絶滅 (EX)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

家屋の建築様式の変化で生息環境が失われており、生息の確認ができない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県中部

### 【生物学的特性】

体長18.5～21.0mm。体色は黒色で光沢がない。複眼は横長で小さい。左右の上翅は癒着しており、飛ぶことはできない。

### 【生息環境】

納屋または古い木造民家の床下に放置された藁くずから発生する。

### 【生息状況】

県内では生息に適した家屋が失われており、近年の確認情報が全くない。

### 【執筆者】

中山紘一

チョウ目セセリチョウ科

## チャマダラセセリ

*Pyrgus maculatus maculatus*

口絵15

高知県：絶滅 (EX)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

### 【選定理由】

県内では1970年代までは局地的に数か所の生息地が知られていたが、その後、県内の分布南限である高知市円行寺をはじめとして全く生息情報は得られず、生息地の環境も改変されているため、生息の可能性はないと判断した。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国

### 【県内での分布】

長岡郡、高知市、吾川郡、高岡郡

### 【生物学的特性】

前翅長14mm程度。高知県の山麓部では1年3化性、山地では1年2化性。春型の翅表白斑はよく発達する。食草はバラ科のキジムシロおよびミツバツチグリ。

### 【生息環境】

草刈りが行われた後に食草が自生してくる放牧地および土手が主な生息地であるが、食草があっても生息が確認されない場所の方が多い。

### 【生息状況】

全国的に本種のような草原生息性のチョウ類は激減している。放牧地と土手の草刈り後の除草剤散布をはじめとした管理体制の変化が生息条件を悪化させたと考えられている。

### 【執筆者】

荒川 良



トンボ目アオイトトンボ科

# オツネントンボ

*Sympecma paedisca paedisca*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵15

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

近年、既知生息地での発生が全く認められない。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県西部

## 【生物学的特性】

腹長は26～31mm。淡い褐色の地に銅色の模様を有する。形態に雌雄差は認められない。

## 【生息環境】

平地および低山地の抽水植物が繁茂する池沼や湿地に生息する。

## 【生息状況】

野生絶滅が疑われるが、既知生息地に隣接する愛媛県松野町では生息が認められているので、再発見の可能性もある。

## 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目イトトンボ科

# モートンイトトンボ

*Mortonagrion selenion*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵15

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息に適した水域の減少に伴い、個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道南端、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県西部

## 【生物学的特性】

腹長18～24mm。雄の成虫の頭胸部は黄緑色の地に黒斑を有する。雌の成虫は鮮緑色で、腹部背面が黒色である。本県では4月中旬より羽化が始まる。

## 【生息環境】

主に低湿地の草丈の低い草本が繁茂した水域に生息する。

## 【生息状況】

県中東部では生息が確認されておらず、県西部の生息地も池沼の草原化により個体数が減少している。

## 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目イトトンボ科

# オオイトトンボ

*Paracercion sieboldii*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵15

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

多数の生息地が環境破壊により消失しており、わずかに残った生息地でも個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県中部、県西部

## 【生物学的特性】

腹長は15～24mm。雌雄ともに淡青色の地に黒色の斑紋を有する。

## 【生息環境】

平地および丘陵地の抽水植物の繁茂した池沼や湿地、水田に生息する。

## 【生息状況】

県内では2か所のみで発生が認められるが、草原化の進行や野生動物による環境攪乱により、生息環境の維持が困難になっている。

## 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目トンボ科

# タイリクアカネ

*Sympetrum striolatum imitoides*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 口絵 15

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

かつては県西部に広く分布していたが、その後個体数が減少し、県内に唯一残っていた生息地も埋め立てにより消失した。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県西部

## 【生物学的特性】

腹長は27～30mmで、雌雄差はない。アキアカネをひとまわり大きくしたような形態で、翅が淡い橙色に見える。

## 【生息環境】

平地や丘陵地の抽水植物が繁茂する池沼に生息する。

## 【生息状況】

多産地が存在する愛媛県からの飛来と推定される個体が確認されることがあるが、県内において継続的に発生する水域は認められていない。

## 【執筆者】

島崎祐樹

バッタ目マツムシ科

# コガタカンタン

*Oecanthus similator*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 口絵 15

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

2002年に示された県内4か所の生息地のいずれにおいても、環境の変化により生息が確認されなかった。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

香美市、四万十市、土佐清水市

## 【生物学的特性】

体長10mm前後。カンタンに酷似するが、腹板は黒くならない。リーリーリーと数回鳴いて少し休み、また同じように鳴く。

## 【生息環境】

標高500mより高い山の林縁でキイチゴ類が繁茂している場所に生息する。特にモミジイチゴとナガバノモミジイチゴを好む。

## 【生息状況】

これまで確認されていた生息地では確認されず、新たな生息地の確認もない。

## 【執筆者】

別府隆守

バッタ目ヒバリモドキ科

# ハマスズ

*Dianemobius csikii*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

自然度の高い海浜に生息するが、環境の改変により生息地が失われている。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

黒潮町、四万十市、土佐清水市

## 【生物学的特性】

体長10mm前後。成虫は5月から11月ごろまで観察されるが、成虫で越冬している可能性がある。夜間にジーンと連続的に鳴く。

## 【生息環境】

海浜植物がまばらに生育している砂浜に生息する。昼間はカニの生息孔または植物の根の周囲に潜んでいる。

## 【生息状況】

黒潮町以西の人手の入っていない海浜に生息するが、個体数は少ない。

## 【執筆者】

別府隆守

バッタ目バッタ科

# ヤマトマダラバッタ

*Epacromius japonicus*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

広くて自然度の高い砂浜または河原の比較的乾燥した環境に生息している。河川改修および砂浜の埋め立て、車両の乗り入れにより生息環境が悪化している。

## 【国内分布の概要】

北海道, 本州, 四国, 九州

## 【県内での分布】

黒潮町

## 【生物学的特性】

体長25~40mm。白い地色に暗褐色の斑紋を有し、砂浜の環境に合った体色をしている。後翅は淡い青色をしており、飛翔時にはよく目立つ。

## 【生息環境】

自然度が高く、海浜植物がまばらに生育している広い海浜に生息し、より乾燥した場所を好む。

## 【生息状況】

本種の生息地となる自然度の高い海浜が開発および浸食で失われている。

## 【執筆者】

別府隆守

バッタ目ササキリモドキ科

# シマントササキリモドキ

*Shikokuconocephalopsis shimantoensis*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

1993年に四万十市堂ヶ森で発見され、新種として記載された。生息域は狭く、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

四万十市

## 【生物学的特性】

体長10mm前後。体色は黄色味を帯びた淡い緑。翅はほとんど退化し、前胸背板より少し見えるだけである。雄の尾部付属器は上から見ると銀杏形に見える。夜間に雄が鳴くが、鳴き声は小さく発見しにくい。

## 【生息環境】

空間のある照葉樹林の混み合った葉上にいる。昼間はあまり活動しない。

## 【生息状況】

発見直後は伐採により一時的に個体数が著しく少なくなったが、現在は林のトンネルが形成され、生息環境が維持されている。

## 【執筆者】

別府隆守

バッタ目ササキリモドキ科

# アシズリフタエササキリモドキ

*Tettigoniopsis ashizuriensis*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

1993年に土佐清水市今ノ山で発見され、新種として記載された。生息地は限定されており、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

土佐清水市, 三原村

## 【生物学的特性】

体長10mm前後。体色は淡い緑。翅はほとんど退化して前胸背板より少し伸びるだけである。雄の尾部付属器は上から見ると楯状に見える。

## 【生息環境】

空間のある混み合った照葉樹林内の、主にサザンカとアセビの葉上で観察される。

## 【生息状況】

かつて多く生息していた場所が林道の開設により破壊され、個体数がきわめて少なくなった。

## 【執筆者】

別府隆守

カメムシ目セミ科

## キュウシュウエゾゼミ

*Auritibicen kyushyuensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

2002年以降に新たな生息場所が2か所確認されたが、個体数は少ない。針葉樹の高い枝で鳴き、採集は困難である。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，いの町，津野町

### 【生物学的特性】

体長30～36mm。雄の腹弁は短くて第3腹板に達せず，切れ込みは3mmから4mmで，コエゾゼミより短い。針葉樹の高い枝で鳴くため，個体の確認は困難である。

### 【生息環境】

標高700mから1400mの針葉樹林に生息する。特にアカマツを好み，晴天の午前7時ごろより午後3時ごろに鳴く。

### 【生息状況】

アカマツの生育する山間地に生息するが，県内のどの生息地も個体数は少ない。

### 【執筆者】

別府隆守

カメムシ目タイコウチ科

## ヒメミズカマキリ

*Ranatra unicolor*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地である池または沼の水質の悪化および環境の破壊により，個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高知市，日高村，四万十市

### 【生物学的特性】

体長25～30mm。体は棒状で細長く，淡黄色をしている。ミズカマキリに似ているが，本種の方がはるかに小さい。ミズカマキリの呼吸管の長さは体長とほぼ同じであるが，本種では体長の3分の2ほどしかない。

### 【生息環境】

平地の池または沼に生息している。池または沼の周りが自然林に囲まれ，水生植物の豊富な場所を好む。

### 【生息状況】

生息地の減少と環境の悪化で個体数が少なくなっている。

### 【執筆者】

別府隆守

カメムシ目アメンボ科

## エサキアメンボ

*Limnoporus esakii*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵16

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

全国的希少種である。県内においても生息地と個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州，対馬

### 【県内での分布】

県中部，県西部

### 【生物学的特性】

体長7～11mm。細身で両体側が平行。体色は鮮褐色で，体側の銀白色の毛条が目立つ。触角は長く，第4節が最長。

### 【生息環境】

ヨシを初めとする抽水植物が豊富な低地の池沼に生息し，その植物群落内にある閉鎖的な水面で生活している。

### 【生息状況】

生息環境が良好だった宿毛市の沼地は2006年に埋め立てにより失われた。残された生息地における個体数もきわめて少ない。

### 【執筆者】

伊東善之



カメムシ目サシガメ科

## ゴミアシナガサシガメ

*Myiophanes tipulina*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵16

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

1937年以降発見されていない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高知市，津野町

### 【生物学的特性】

体長16～17mm。体色は黄褐色で，腹部と脚には濃い褐色の斑紋がある。脚には長い毛が密生する。動きは緩慢である。

### 【生息環境】

古い家屋の壁または物置で見つかることが多い。

### 【生息状況】

県内では1937年の報告以降，記録がない。

### 【執筆者】

高井幹夫

カメムシ目サシガメ科

## ハリサシガメ

*Acanthaspis cincticus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵16

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

1937年以降発見されていない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長15mm前後。体は全体が黒く，背面に逆八の字の黄白色の模様がある。成虫と幼虫はアリの捕食し，幼虫はその死骸およびゴミを身にまとう。

### 【生息環境】

雑草がまばらに生え，餌のアリが生息している荒地に生息する。

### 【生息状況】

県内では1937年の報告以降，記録がない。

### 【執筆者】

高井幹夫

コウチュウ目ハンミョウ科

## ヨドシロヘリハンミョウ

*Callytron inspecularis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵16

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

西日本にのみ生息する希少種で，県内においては生息地も個体数も激減している。

### 【国内分布の概要】

本州（瀬戸内沿岸），四国，九州，種子島

### 【県内での分布】

四万十市

### 【生物学的特性】

体長9～12mm。背面は暗緑銅色で，上翅の側縁に白帯をそなえる。同属のシロヘリハンミョウとは上唇の形が異なる。夏季の晴天時には泥土上で捕食および交尾態勢をとる個体が確認される。

### 【生息環境】

河口部汽水域のヨシ原のある砂泥地に生息する。

### 【生息状況】

四万十市では2000年に生息が確認されたが，2014年には全く発見されていない。環境に大きな変化は認められないため，その理由は不明である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## カドタメクラチビゴミムシ

*Ishikawatrechus intermedius*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵16

高知県2002ランク：絶滅 (EX)

環境省2017ランク：絶滅 (EX)

### 【選定理由】

高知県固有種で絶滅種とされていたが、最近になってかつての生息地の近くの地中で発見されたという学術論文が発表された。生息地は限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

いの町

### 【生物学的特性】

体長4.5～5.7mm。体色は赤褐色で体表が微毛におおわれ、上翅は肩部に隆起をつくらない。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

石灰洞窟内とその近くの地中（地下浅層）に生息する。

### 【生息状況】

かつて生息が確認されていた石灰洞は採掘により完全に消滅した。しかし、2011年から2015年に石灰洞近くの地中（地下浅層）から新たに個体が発見された。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## オオトックリゴミムシ

*Oodes vicarius*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵16

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内での生息地は限定されており、個体数もきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

四万十市、宿毛市

### 【生物学的特性】

体長12～13mm。体型は紡錘形で、体色は鈍い光沢の黒色。同属の他種とは下唇基節の歯状突起の先端が切れ込むことで識別される。

### 【生息環境】

平地の溜め池または河畔林内の比較的大きな水たまりの水際に生息する。

### 【生息状況】

県西部の2か所で雄1個体がそれぞれ確認されたが、うち1か所は河畔林内が整備されており、生存が危ぶまれる。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## エチゴトックリゴミムシ

*Oodes echigonus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵16

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

四国では高知県からのみ記録されているが、近年は確認されていない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国（高知県）

### 【県内での分布】

県中部

### 【生物学的特性】

体長13～15mm。成虫の体は紡錘形で、鈍い光沢の黒色。同属の他種とは下唇基節の歯状突起の先端が丸いことで識別される。

### 【生息環境】

平地の池沼の水際に生息する。冬季に池のそばの岩崖のすき間で越冬中の個体が見つかる。

### 【生息状況】

県内では1981年に雄2個体が初めて採集された。2011年に再確認されたが、その後は全く記録されていない。

### 【特記事項】

2002年の高知県レッドデータブックではオオトックリゴミムシとして掲載されたが、その後、本種であることが判明した。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## イトウナガゴミムシ

*Pterostichus itoi*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵16

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

石鎚山脈の固有種。近年、個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

四国（愛媛県，高知県）

### 【県内での分布】

大川村，いの町

### 【生物学的特性】

体長11.5～13mm。成虫の体色は黒色で，雌雄ともに光沢がある。前胸の両縁は丸みを帯び，後方で強く狭まる。後翅は退化している。

### 【生息環境】

ブナ帯の樹林に覆われた谷または沢筋に生息する。日中は湿潤な転石下および土礫層の中に潜んでいることが多い。

### 【生息状況】

2001年以降，再三の調査にもかかわらず雌1個体しか発見されていない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

## カガミムカシゲンゴロウ

*Phreatodytes latiusculus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定されており，生息環境も特殊である。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長1.4mm。成虫の体は黄褐色。前胸背はほぼ台形で，前胸側縁部と上翅に長い感覚毛をそなえる。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

地下水中に生息する。

### 【生息状況】

1958年に高知市鴨部の井戸から雄1個体が確認されたのみで，その後60年近くにわたって採集されていない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

## トサムカシゲンゴロウ

*Phreatodytes sublimbatus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定されており，生息環境も特殊である。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長1.3mm前後。成虫の体は淡黄褐色。カガミムカシゲンゴロウに似るが，前胸前縁の幅がより広い。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

地下水中に生息する。

### 【生息状況】

1956年から57年にかけて，高知市秦泉寺の井戸の汲み上げ水より30個体ほどが採集されたのみで，その後現在に至るまで記録がない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## ゲンゴロウ

*Cybister japonicus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

全国的希少種で、県内においても生息地と個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県中部

### 【生物学的特性】

体長35～40mm。国内産ゲンゴロウ科では最大種。成虫の体形は卵形。背面は緑色を帯びた暗褐色で、上翅の外側は黄色に縁取られる。

### 【生息環境】

主に丘陵地の池沼に生息する。県内ではカヤツリグサ科の一種が岸辺に密生する池および水田で記録されている。

### 【生息状況】

かつて生息が確認された池には捕食者であるアカハライモリが多数生息しており、本種の存亡に関与した可能性がある。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## マルガタゲンゴロウ

*Graphoderus adamsii*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

全国的希少種で、県内においても生息地と個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県中部

### 【生物学的特性】

体長12～14mm。成虫の体は卵形で光沢がある。前胸背には黒色と黄褐色の横帯があり、上翅は黄褐色で、黒色の網目模様がある。

### 【生息環境】

主に丘陵地の池沼に生息する。県内ではカヤツリグサ科の一種が岸辺に密生する池から記録されている。

### 【生息状況】

かつて生息が確認された池には捕食者であるアカハライモリが多数生息しており、本種の存亡に関与した可能性がある。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## オオメクラゲンゴロウ

*Morimotoa gigantea*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定されており、生息環境も特殊である。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長4mm。成虫は同属の他種より大型で、体は赤褐色。前胸前部と頭部はきわめて幅が広い。後翅も複眼もない。

### 【生息環境】

地下水中に生息する。

### 【生息状況】

1956年に高知市秦泉寺の井戸の汲み上げ水から雄1個体が採集されたのみで、その後60年以上にわたり記録がない。

### 【執筆者】

伊東善之



コウチュウ目ゲンゴロウ科

## トサメクラゲンゴロウ

*Morimotoa morimotoi*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定されており、生息環境も特殊である。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長2.6mm前後。成虫の体は細長で平たく、淡黄褐色。頭部は小さく、前胸は前方に向かって狭まる。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

地下水中に生息する。

### 【生息状況】

1956年に高知市秦泉寺の井戸の汲み上げ水から雄2個体が採集されたのみで、その後60年以上にわたり記録がない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ミズスマシ科

## オオミズスマシ

*Dineutus orientalis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内の分布は限定されており、群棲地は県東部の1か所のみである。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

室戸市、宿毛市、土佐清水市

### 【生物学的特性】

体長8~10mm。成虫の背面は金属光沢を帯びた黒色で、黄色の縁取りがある。上翅側縁後方は棘状の突起をそなえる。成虫は水面を旋回し、落下してきた昆虫を捕食する。

### 【生息環境】

樹木に囲まれた池沼と古い溜め池に生息する。

### 【生息状況】

2000年に群棲していることが確認された県西部の溜め池では、その後記録されていない。現在確実に生息しているのは県東部の1か所のみである。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目コガネムシ科

## オオチャイロハナムグリ

*Osmoderma opicum*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

自然林の伐採と植林地の拡大による生息環境の分断と悪化により、本種の生息できる環境が減少し、近年の発見例は少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、屋久島

### 【県内での分布】

県中部

### 【生物学的特性】

体長21~33mm。古木の樹洞に棲み、幼虫は樹洞内の腐植質を食べて育つ。成虫は雌雄とも芳香を発する。

### 【生息環境】

標高800m付近から上部の山地の原生的な針広混交林内の樹洞内で発見される。飛翔中の個体も確認できる。

### 【生息状況】

自然林の減少によって生息地が失われ、個体数が少なくなっている。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目コメツキムシ科

## ホングウチビクロコメツキ

*Ampedus honguanus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地が限定されており、発見例も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国

### 【県内での分布】

四万十市

### 【生物学的特性】

体長5mm前後。成虫の体は光沢のある黒褐色。ずんぐりした体型で、触角と脚は黄褐色。幼虫は広葉樹の朽ち木の内部で育つと考えられているが、詳細な生態は不明である。

### 【生息環境】

ブナ帯の天然林に生息する。

### 【生息状況】

四国での発見例は少ない。

### 【執筆者】

中山絃一

コウチュウ目クビナガムシ科

## キイカクズクビナガムシ

*Nematoplus yamato*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地が局限されている。

### 【国内分布の概要】

本州（紀伊半島），四国（愛媛県，高知県）

### 【県内での分布】

香美市

### 【生物学的特性】

体長9.5～13mm。成虫の体は細長く、頭部は黒色で、前胸は赤褐色。上翅は暗褐色で、横じわ状に点刻を密布する。成虫は早春に出現し、飛翔は弱々しい。

### 【生息環境】

ブナ帯に属している日当たりの良い傾斜地のガレ場付近で見られる。ツガと思われる朽倒木より羽化直後の成虫および蛹が多数発見された記録がある。

### 【生息状況】

県内では1985年に香美市物部町で初めて発見され、1988年に多数の個体が発見されたが、その後の記録はない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目カミキリムシ科

## コゲチャヒラタカミキリ

*Eurypoda unicolor*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県西部の海岸部にわずかに残されている原生的な林のある場所で発見されるが、個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

本州（御蔵島），四国，九州，南西諸島

### 【県内での分布】

県西部

### 【生物学的特性】

体長17～25mm。南方系の種。成虫の体は扁平で、枯れ木の樹皮下または樹洞に潜り込んでいる。

### 【生息環境】

海岸部の原生的な自然林に生息する。

### 【生息状況】

県内で本種が生息している林はごく少ない。そのうちの1か所では開発の話がしばしば持ち上がっている。

### 【執筆者】

中山絃一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ベーツヒラタカミキリ

*Eurypoda batesi*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

本種の生育に適した平野部の丘陵と社寺林が激減している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，南西諸島

### 【県内での分布】

全域

### 【生物学的特性】

体長24～35mm。成虫は扁平な体をしている。樹洞または剥がれかかった樹皮の下に潜り込む。

### 【生息環境】

海岸近くに残されたシイおよびカシ類を主とする林内と、その周辺での灯火採集でまれに見つかる。

### 【生息状況】

生息に適した海岸部から低山地の自然林がほとんどなくなっているため、発見される個体が少なくなっている。

### 【執筆者】

中山絃一

コウチュウ目カミキリムシ科

## アカジマトラカミキリ

*Anaglyptus bellus bellus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵17

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県内での生息地は限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，大豊町，津野町

### 【生物学的特性】

体長12.5～17.0mm。成虫の背面は薄紅色から黄褐色の微毛を密生し、黒色の横縞斑紋がある。ケヤキの樹皮に静止すると樹皮に紛れて発見しにくい。イタドリの花に集まる。

### 【生息環境】

大木が残っているケヤキ林に生息する。

### 【生息状況】

県内ではケヤキの大木が多く生育している自然林が少なくなっている。ニホンジカの食害で生息地のイタドリの花が咲かなくなり、成虫の発見が困難になっている。

### 【執筆者】

中山絃一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ケブカトラカミキリ

*Hirticlytus comosus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県東部の狭い地域にのみ生息する。生息地の環境が悪化し、個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，種子島，屋久島

### 【県内での分布】

県東部

### 【生物学的特性】

体長8.0～11.5mm。成虫の前胸は横長で、上翅は幅広く、背面基部が隆起するという特異な形態を持つ。体の表面にはピロード状の微毛が密生する。幼虫はナギノキの生木または衰弱木を食べて育つ。若齢幼虫が生木に食入した場合は枯死することが多い。

### 【生息環境】

ナギノキの林に生息するが、県西部のナギノキが多い林では発見されていない。

### 【生息状況】

本種目的の採集者が発生木を持ち帰ることで生息地の環境が微妙に変化しており、加害木も少なくなっている。

### 【執筆者】

中山絃一

コウチュウ目カミキリムシ科

## リュウキュウルリボシカミキリ

*Glenea chlorospila chlorospila*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県西部のごく限られた場所でのみ発見されるが、発見できなくなった既産地も多い。

### 【国内分布の概要】

四国、九州、南西諸島の一部

### 【県内での分布】

県西部

### 【生物学的特性】

体長8～13mm。体色は黒色で、頭部と胸部の中央部から上翅縫合線に沿って、銀青色の一直線状の模様がある。上肢側方に7個の小斑紋がある。南方系の種で、本県は分布の北限に近い。

### 【生息環境】

スタジイ、アラカシ、タブを主体とする混交林周辺に生息し、環境は保たれている。

### 【生息状況】

明るい場所に生えるノブドウの生葉を後食している個体、または薪材に飛来した個体が発見されている。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## スネケブカヒロコバナカミキリ

*Merionoeda hirsuta*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地は限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州（東北南部以南）、四国、九州、対馬、屋久島

### 【県内での分布】

香美市、大豊町、高知市、いの町

### 【生物学的特性】

体長10～14mm。雄の前胸背板は黒色、雌では赤色。後脚腿節の黒色毛と脛節の金色の房状の長毛が目立つ。

### 【生息環境】

里山のリョウブおよびカラスザンショウの花上またはネムノキの立ち枯れで見つかる。

### 【生息状況】

以前は大豊町でリョウブの花上で発見されたが、近年はその場所で全く発見されていない。里山の荒廃と人工林の増加で、生息に適した環境が減少し、個体数が激減している。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヨツボシカミキリ

*Stenygrinum quadrinotatum*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) 口絵18

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

かつては普通種であり、高知市内でも頻繁に発見されていたが、近年はまれな種になっている。

### 【国内分布の概要】

北海道（南部）、本州、四国、九州、南西諸島の一部

### 【県内での分布】

全域

### 【生物学的特性】

体長8～14mm。成虫は暗赤色で、左右上翅に2個の白色紋がある。上翅端は合わさって丸みを帯びる。幼虫は主にクリとコナラの枯死部を食する。

### 【生息環境】

平地から低山地の比較的明るい雑木林およびその周辺に生息する。

### 【生息状況】

近年、全国的に個体数が減少している。雑木林の減少と薪材の減少で生息場所が失われている。

### 【執筆者】

中山紘一



アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

## カスリウスバカゲロウ

*Distoleon nigricans*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

河川敷または海浜の砂地に生息するが、生息場所は破壊されやすい環境にあり、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

東洋町，高知市，いの町，仁淀川町

### 【生物学的特性】

体長40mm前後。前翅の中央よりの褐色紋が鮮明で大きい。コカスリウスバカゲロウに似るが、本種の方が体が大きく、翅のカスリ状斑紋が明瞭で、数も多い。幼虫はすり鉢状の巣はつくらず、地上を徘徊して小さな昆虫を捕食する。

### 【生息環境】

自然度の高い河川敷または海浜の砂地に生息している。

### 【生息状況】

生息地である海浜または河川敷への車の乗り入れと砂の採取により生息環境が破壊され、個体数が減少している。

### 【執筆者】

別府隆守

シリアゲムシ目シリアゲムシ科

## ヒトスジトゲシリアゲ

*Panorpa gokaensis togephora*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県内では標高1000m以上の山地に生息するが、個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

四国，九州

### 【県内での分布】

県中部

### 【生物学的特性】

体長15mm前後。成虫の体色は黒褐色。前後翅ともに透明で、先端部と縁紋帯に褐色の帯がある。成虫は他の昆虫を捕獲して体液を吸う。

### 【生息環境】

標高1000m以上の山地の明るい谷筋および林縁の草地に生息する。少し湿った所を好む。

### 【生息状況】

開発により生息地である自然度の高い環境が破壊され、発見される個体数が少なくなっている。

### 【執筆者】

別府隆守

チョウ目セセリチョウ科

## ギンイチモンジセセリ

*Leptalina unicolor*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

仁淀川町雨ヶ森，大豊町梶ヶ森で記録されているが、前者では1950年代以降の記録がなく、後者でも近年は全く確認されていない。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

大豊町，仁淀川町

### 【生物学的特性】

前翅長16mm程度。前後翅表面は黒褐色で無紋。後翅裏面中央部に直線上の銀色（春型）または黄褐色（夏型）の斑紋を有する。高知県では1年1化性または1年2化性と考えられているが、詳細は不明である。幼虫の食草はイネ科の

ススキ類である。

### 【生息環境】

大豊町梶ヶ森では標高700m以上のススキの草原に生息する。

### 【生息状況】

草原性のチョウであり、全国的に生息地が少なくなっている。植林と道路開発で生息地が破壊され、個体の発見が困難になっている。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シジミチョウ科

# タイワンツバメシジミ

*Everes lacturnus kawai*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

かつては土佐湾沿岸に生息地が点在したが、その後土佐清水市と室戸市でのみ生息が認められ、2000年頃からは両地でも記録されなくなった。幼虫の食草となるシバハギが自生する道路および畦道の整備で生息地が奪われ、生息が困難になっている。

## 【国内分布の概要】

本州、四国（愛媛県、高知県）、九州

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

前翅長8mm程度。1年1化性。ツバメシジミに似るが、本種の発生時期は8月中旬から9月中旬に限られ、また、後

翅の裏面に濃色の3個の黒斑のあることから識別は容易である。幼虫はマメ科のシバハギで、花またはつぼみ、実を食する。成虫はシバハギの周辺で見られる。

## 【生息環境】

幼虫の食草であるシバハギの生息地に限定される。シバハギは人為的な影響の受けやすい不安定な場所で生育するため、道路整備の影響を受けやすい。また、シバハギの開花期に草刈りが行われると本種は生息できなくなる。

## 【生息状況】

土佐清水市では15年ほど前まで成虫の記録がある。

## 【執筆者】

荒川 良

チョウ目タテハチョウ科

# ウラギンスジヒョウモン

*Argyronome laodice japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

中山間地帯の草原に分布し、かつては個体数も多かったが、近年は県内に分布するヒョウモンチョウ類の中では本種のみがほとんど見ることができなくなった。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

前翅長35mm程度。後翅裏面中央部に筋状銀斑紋を有する。オオウラギンスジヒョウモンに似るが、本種の前翅端の突出部は弱く、翅形が丸みを帯びることと、前翅裏面中央2黒斑列の間に白斑列を有することで識別できる。1年1化

性で初夏と秋に成虫が出現する。成虫はアザミ類で吸蜜する姿が観察される。

## 【生息環境】

幼虫の食草であるタチツボスミレを初めとするスミレ類が生育する草地に生息する。

## 【生息状況】

全国的に本種のような草原性のチョウ類は減少している。幼虫がスミレを食草とするヒョウモンチョウ類の中で、本種は著しく個体数が減少しているが、他の種類はそれほどでもないため、その要因は不明である。

## 【執筆者】

荒川 良

チョウ目タテハチョウ科

# ウラナミジャノメ

*Ypthima multistriata nipponica*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) □絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内の生息地は限定されており、生息環境の改変によって生息適地が著しく減少している。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

前翅長20mm程度。ヒメウラナミジャノメに似るが本種の方がやや大型で、後翅裏面外縁の眼状紋が3個（ヒメウラナミジャノメはより小型の眼状紋が5個）であることから識別は容易である。幼虫の食草はイネ科またはカヤツリグサ科。

## 【生息環境】

平地から山地にかけての林縁部の草地に生息する。

## 【生息状況】

もともと生息地は限定されていたが、環境の改変で生息地がさらに失われ、近年は記録がない。

## 【執筆者】

荒川 良

チョウ目セセリモドキガ科

## ニホンセセリモドキ

*Hyblaea fortissima*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

以前は愛媛県久万高原町が四国唯一の産地であったが、その後、高知県東部と中部の奥地山間部で発見された。近年は県内での目撃および採集の記録がない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国（愛媛県、高知県）、九州

### 【県内での分布】

香美市、いの町

### 【生物学的特性】

前翅長12～13mm。前翅は暗灰色で、暗色点を密布する。後翅には4個の橙色紋があり、紋が接続して帯状になる個体もある。成虫は7月に羽化するが、ほとんど活動せずに過ごし、翌年3月から4月に現れ、暖かい日差しの昼間に溪

流沿いの岸辺または花上で観察される。セセリチョウに似た昼飛性のガの一種である。幼虫はムラサキシキブを食べる。

### 【生息環境】

内陸部の山間地に生息するが、生息地は限定されている。

### 【生息状況】

個体数は少なく、また、採集圧にさらされて個体数が減少している。

### 【執筆者】

真鍋泰彦

チョウ目スズメガ科

## ホウジャク

*Macroglossum stellatarum*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

1950年代に県内で採集されているが、その後は目撃および採集の記録がない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

大豊町、津野町

### 【生物学的特性】

前翅長20～30mm。前翅は灰褐色。後翅は全面橙黄色で、外縁は不明瞭な赤褐色を帯びるが、黒帯がないことで同属の他種と容易に識別できる。県内では6月から7月に採集されている。灯火には飛来しないようである。年2化で、成虫で越冬する。幼虫はアカネ科のカワラマツバまたはアカ

ネ、オオバノヤエムグラを食べる。

### 【生息環境】

日中にさまざまな植物の花に飛来し、翅を素早く羽ばたかせることによって空中で静止しながら吸蜜する。

### 【生息状況】

本種と同属のホウジャク類には似た形態および行動を示す種類が多く、目視では種の判別が困難であるため、生息状況の確認も困難である。

### 【執筆者】

真鍋泰彦

チョウ目スズメガ科

## イッポンセスジスズメ

*Theretra silhetensis silhetensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵18

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県内では昭和30年代頃までは平地または田園や浅い山地で採集することができた。しかし、近年は目撃および採集の情報がない。

### 【国内分布の概要】

本州（山口県）、四国（愛媛県、高知県）、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

高知市、四万十町

### 【生物学的特性】

前翅長26～30mm。同属のセスジスズメの腹部背面には白線が2本あるが、本種は1本であり、それが和名の由来にもなっている。蛹で越冬し、成虫は5月から10月に出現する。幼虫はサトイモおよびタイモを食べ、葉上で葉をつづって

蛹化する。

### 【生息環境】

人里のガで、戦前までは個体数は少なくなかった。サトイモの栽培地に生息する。

### 【生息状況】

サトイモの栽培地の減少と、行き届いた防除策が個体数減少の一因と考えられる。

### 【執筆者】

真鍋泰彦

ハチ目アナバチ科

# キゴシジガバチ

*Sceliphron madraspatanum kohli*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

かつては普通種であったが、第2次大戦後日本に侵入した近縁種のアメリカジガバチの分布拡大とともに競争置換が生じたようで、県内ではほとんど見られなくなった。

## 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，南西諸島

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

体長20～28mm。体は黒色。肩板，前胸背板，中胸側板，脚に黄色部がある。腹柄節は黄色。アメリカジガバチに似るが，本種の後脚の基節から腿節中部までが黄色であるのに対し，アメリカジガバチは黒色であることで識別できる。

オニグモ類の幼体またはハナグモ類を狩って幼虫の餌とする。

## 【生息環境】

建物の軒または壁に泥を練って営巣する。

## 【生息状況】

四万十川上流域の一部で生息が確認されているのみである。

## 【執筆者】

荒川 良



トンボ目アオイトトンボ科

# アオイトトンボ

*Lestes sponsa*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

生息地が激減しており、唯一残された生息地も環境の変化で個体数が激減している。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県西部

## 【生物学的特性】

雄の腹長は28～34mm、雌で26～33mm。体は黄白色で、背面は金緑色である。

## 【生息環境】

平地および低山地の抽水植物が繁茂する池沼や湿原に生息する。

## 【生息状況】

継続して発生している池沼は1か所であるが、干上がることもあり、個体数の維持が危ぶまれる。近年、他の池での確認記録がある。

## 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目イトトンボ科

# ベニイトトンボ

*Ceriagrion nipponicum*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵19

## 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、生息環境も悪化している。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県中部

## 【生物学的特性】

雄の腹長は27～31mm、雌で29～33mm。雄の体は朱色で、雌はややくすんだ橙色をしている。

## 【生息環境】

抽水植物または浮き草の繁茂した池沼に生息し、県内では5月下旬から出現し始める。

## 【生息状況】

県内の生息地は1か所のみであるが、周辺の過度の環境整備で生存が脅かされている。近年、同属のリュウキュウベニイトトンボが県中部の別水域に侵入して定着しており、同種の分布拡大により競争的置換が生じるおそれがある。

## 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目ヤンマ科

# ネアカヨシヤンマ

*Aeschnophlebia anisoptera*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵19

## 【選定理由】

生息地である池沼の消失に伴い個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

雄の腹長は54～59mm、雌で55～63mm。腹部がくびれずに棒状で、黒色が強い。

## 【生息環境】

平地または丘陵地のヨシが繁茂する池沼に生息する。特に山林近くにある池沼で観察されることが多い。

## 【生息状況】

生息域は県内全域におよんでいるが、かつて多く見られた本種の群飛数が近年著しく減少し、個体数が減少していると考えられる。

## 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目サナエトンボ科

## フタスジサナエ

*Trigomphus interruptus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵19

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内の生息地は限定されており、個体数も減少している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県東部，県中部

### 【生物学的特性】

腹長32～35mmで，雌雄差は小さい。胸部に2本の黒条がある。

### 【生息環境】

平地または丘陵地の抽水植物の繁茂する水域に生息し，県内では4月中旬から出現し始める。

### 【生息状況】

生息地では毎年発生しているが，発見される個体数は少ない。

### 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目エゾトンボ科

## ハネビロエゾトンボ

*Somatochlora clavata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

全県的に個体数が著しく減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

雄の腹長は41～45mm，雌で43～50mm。羽化後成熟するまでは，胸部に2本の明瞭な黄色条が認められる。

### 【生息環境】

主に丘陵地および低山地の湿地に繋がる細い清流に生息する。

### 【生息状況】

かつては水田地帯の灌漑用水路で普通に認められたが，圃場整備および放棄水田の増加によって生息地が失われ，個体数も激減している。

### 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目トンボ科

## ハッチョウトンボ

*Nannophya pygmaea*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵19

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

県内の分布は限定されており，既知の生息地の中には環境の変化で消失したところがある。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県東部，県中部

### 【生物学的特性】

雄の腹長は11～14mm，雌で10～12mm。日本産のトンボ科の中では最小で，他種との識別は容易である。

### 【生息環境】

背丈の低い抽水植物が繁茂する湿地に生息し，県内では5月下旬ごろから成虫が出現する。

### 【生息状況】

湿地帯の草原化により，県内の既知の生息地では確認できなくなった場所もあるが，県東部で新産地が複数発見された。

### 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目トンボ科

## マイコアカネ

*Sympetrum kunkeli*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

かつては複数の多産地が認められたが、放棄水田の増加および湿地の埋め立てにより多くの生息地が失われた。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県中部，県西部

### 【生物学的特性】

腹長は21～25mmで雌雄差はない。成熟した雄は顔面が青白く，体は鮮やかな赤色である。

### 【生息環境】

平地および丘陵地の抽水植物が繁茂する池沼に生息する。汽水沼でも生息が認められる。

### 【生息状況】

四万十川下流の一部の止水域で生息が認められるだけで，かつて多産地が存在した黒潮町および宿毛市では近年の生息が確認されていない。

### 【執筆者】

島崎祐樹

トンボ目トンボ科

## キトンボ

*Sympetrum croceolum*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地が減少し，個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県中部，県西部

### 【生物学的特性】

腹長は24～29mmで雌雄差はない。翅も含めて体全体が鮮やかな橙色である。

### 【生息環境】

岸辺に木立があり，抽水植物が繁茂した丘陵地および低山地の池沼に生息する。

### 【生息状況】

県西部を中心に複数の生息池が認められるが，いずれの生息地においても個体数は少ない。

### 【執筆者】

島崎祐樹

カメムシ目セミ科

## チッチゼミ

*Kosemia radiator*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

2002年に記録された数か所の生息地のすべてにおいて発見できず，個体数が激減していると判断された。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，いの町，津野町，梶原町，四万十市

### 【生物学的特性】

体長20mm前後。針葉樹の枝上に止まってチッチッチッと鳴くが，鳴き声と同所的に生息するバツタ目のホソクビツユムシおよびヤブキリの鳴き声とよく似ていて，判別が困難である。

### 【生息環境】

標高500mから1000m程度の山地の針葉樹林内に生息し，特にアカマツ林を好む。

### 【生息状況】

自然林およびアカマツ林が失われることに伴い，生息地も減少している。

### 【執筆者】

別府隆守

コウチュウ目ヒゲトオサムシ科

## クロオビヒゲトオサムシ

*Ceratoderus venustus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵19

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国，九州，屋久島

### 【県内での分布】

県西部

### 【生物学的特性】

体長4.7mm。原始的な形態的特徴を持つ。触角に太くて長い球桿部がある。本種が属するヒゲトオサムシ科の昆虫はアリとの共生生活に適応した分類群として知られている。

### 【生息環境】

海風が当たるような明るい海岸林の樹幹を歩行している個体が観察される。

### 【生息状況】

県内では西部の海岸の照葉樹林の限られた範囲のみに生息する。本種が観察される場所は国立公園内の保護林内なので環境の激変はないと考えられるが、毎年、本種目的の採集者が訪れており、個体数が減少している。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目ハンミョウ科

## シロヘリハンミョウ

*Callytron yuasai yuasai*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵19

### 【選定理由】

海岸性の種で、生息地および個体数とも減少している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，伊豆諸島，対馬，屋久島

### 【県内での分布】

県東部，県西部

### 【生物学的特性】

体長9～12mm。背面は暗緑銅色で、上翅の側縁に白帯がある。ヨドシロヘリハンミョウとは上唇の形が異なることで区別できる。

### 【生息環境】

海岸部の岩礁地帯に生息する。盛夏には隣接する砂浜で活発に活動する個体がしばしば観察される。

### 【生息状況】

1980年代に県西部の沖の島の3か所で生息が確認されたが、その後の調査は行われていない。2015年には県の東部と西部の2か所で新産地が確認された。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ハンミョウ科

## ミヤマハンミョウ

*Cicindela sachalinensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：—

口絵19

### 【選定理由】

剣山地の主に高所に生息するが、個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国（徳島県，高知県）

### 【県内での分布】

香美市

### 【生物学的特性】

体長14～18mm。背面は光沢がなく、暗緑色から暗銅色。上唇はほぼ三角形で、前方へ張り出し、中央に1歯がある。

### 【生息環境】

開けた裸地環境を好む。晴天時には未舗装の林道上で活動している個体を見かけることもある。

### 【生息状況】

高知県は本種の分布の南限にあたる。2005年を最後にしばらく発見されていなかったが、2017年に雌1個体が確認された。

### 【執筆者】

伊東善之



コウチュウ目オサムシ科

## セアカオサムシ

*Carabus tuberculatus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵19

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内を含む四国での生息地はきわめて限定されており、個体数も減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

高岡郡、長岡郡

### 【生物学的特性】

体長16～22mm。前胸背板は赤銅色。上翅は濃茶色で瘤状の突起列をもち、側縁は金緑から赤銅色を帯びる。後翅は退化している。

### 【生息環境】

県内では山地の草原のような開放的な環境に生息する。なかでも裸地がある場所を好む。

### 【生息状況】

1972年に大豊町梶ヶ森で記録されたが、以後、同地では確認されていない。現在の確実な生息地は高岡郡の1か所のみである。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## イトウメクラチビゴミムシ

*Trechiana itoi*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵20

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

高知県東部の固有種で、生息地が限定されており、個体数もきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

北川村、馬路村

### 【生物学的特性】

体長5.5～6mm。体は全体が赤褐色で、上翅の第3条と5条に各2本の剛毛をそなえる。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

樹林内の沢筋に堆積した土礫層から記録されているが、本来は地中の深いところに生息していると推察される。

### 【生息状況】

タイプ産地である北川村では2003年に再確認されたが、それ以降は未調査である。2006年には北川村に隣接する馬路村から新たに記録された。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## ケバネメクラチビゴミムシ

*Chaetotrechiana procerus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵20

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

### 【選定理由】

県西部に孤立して分布し、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

四万十市、宿毛市、三原村

### 【生物学的特性】

体長5～6mm。体は赤褐色から暗赤褐色で、上翅の第3条と5条にそれぞれ4本から5本の剛毛をそなえる。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

当初は廃坑で発見されたが、その後周辺の沢筋の地中でも記録された。地下に粘土層がある湿潤な地中環境を好む。

### 【生息状況】

地中性の種であるが、地上部の状況から判断して生息状況に従来と大きな変化はないと考えられる。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## アシナガメクラチビゴミムシ

*Nipponaphaenops erraticus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵20

### 【選定理由】

県内で生息が確認されている場所は1か所であり、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（愛媛県、高知県）

### 【県内での分布】

仁淀川町

### 【生物学的特性】

体長6～7mm。体は赤褐色から暗赤褐色で、前半部は細長く、後半部は半球状に膨らむ。触角と脚は長い。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

鍾乳洞の奥の暗黒部に生息する。洞窟内の湿った壁または岩塊の上を敏捷に動き回る様子が観察されている。

### 【生息状況】

既産地の洞窟は石灰岩の採掘が行われている山の一角に位置しているが、現地調査が困難であるため、現状は不明である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## ヒメツヤメクラチビゴミムシ

*Ishikawatrechus humeralis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵20

### 【選定理由】

生息地が県中部の石灰洞のみであり、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

日高村

### 【生物学的特性】

体長4.6～4.9mm。体は赤褐色で、上翅の肩部に顕著な隆起をそなえる。頬は細毛で覆われる。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

石灰洞の奥の暗黒部に生息する。洞床に湿潤な粘土層のある場所で発見されている。

### 【生息状況】

1957年に新種として記載された後、1968年と1992年にいずれも雌雄1個体が記録されたが、その後の記録を欠く。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## ツヤメクラチビゴミムシ

*Ishikawatrechus nipponicus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

口絵20

### 【選定理由】

生息地が県中部の石灰洞のみであり、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

日高村

### 【生物学的特性】

体長5.9～6.3mm。体は赤褐色。上翅の肩部は消失し、第3条に2本、第5条に1本の剛毛がある。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

石灰洞の奥の暗黒部に生息する。洞床に湿潤な粘土層がある場所で発見されている。

### 【生息状況】

1950年に新種として記載されたが、当初から個体数は少なく、2003年の雌1個体が最新の記録である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## トサナガゴミムシ

*Pterostichus tosanus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵20

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（愛媛県，高知県）

### 【県内での分布】

大豊町，土佐町，いの町

### 【生物学的特性】

体長11～12.5mm。体は暗赤褐色。雄の腹端節は後方が凹み、その末端中央部分が台形状に張り出す。後翅を欠く。

### 【生息環境】

山地の樹木に覆われた谷または沢筋の、水が絶えずしみ出ている地中で発見されることが多い。

### 【生息状況】

土佐町の生息地では採集圧と環境改変で、個体がほとんど発見できない状況になっている。その他の生息地では個体数の減少は認められない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## チャイロマメゲンゴロウ

*Agabus browni*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵20

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数もきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，宿毛市

### 【生物学的特性】

体長10～11mm。頭部と胸部の背面は黒色で、前胸背両側は黄褐色。上翅は暗黄褐色で、基部と両側に淡黄色の縁取りがある。上翅に3条の点刻列がある。

### 【生息環境】

自然度の高い池沼に生息する。

### 【生息状況】

宿毛市の溜め池で1999年と2000年に記録されているが、その後の記録はない。剣山地の高地の池で2001年に発見された。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## クロゲンゴロウ

*Cybister brevis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵20

### 【選定理由】

全国的希少種で、県内においても生息地が激減しており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，土佐市，四万十町，黒潮町，四万十市

### 【生物学的特性】

体長20～25mm。体は卵形。背面は黒色で、かすかに緑色または褐色の光沢を帯びる。上翅に3条の点刻列がある。

### 【生息環境】

平地から低山地にかけての水生植物の豊富な池沼と溜め池，放棄水田に生息する。

### 【生息状況】

県内で安定した個体数が維持されている場所は1か所のみである。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ガムシ科

## コガタガムシ

*Hydrophilus bilineatus cashimirensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

近年、生息が全く確認されていない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長23～28mm。ガムシと酷似するが、体が小さい。

### 【生息環境】

平地から丘陵地の水田または池沼に生息する。

### 【生息状況】

農薬散布および街灯の設置に伴い、個体数が激減したと考えられている。また、生息できる環境がほとんど消失している。

### 【執筆者】

荒川 良

コウチュウ目ガムシ科

## コガムシ

*Hydrochara affinis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

口絵21

### 【選定理由】

かつては普通に生息していたが、近年は全く確認されていない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、対馬

### 【県内での分布】

安田町、香美市、芸西村、須崎市

### 【生物学的特性】

体長15～19mm。体は黒色で光沢があり、脚は赤褐色。背面全体に微細な点刻を密布する。上翅に点刻列がある。

### 【生息環境】

平地から丘陵地の水田または池沼に生息する。

### 【生息状況】

1970年から80年代に、海岸部の3か所と内陸部の2か所で計7個体が確認されたが、その後は全く記録されていない。農薬散布および街灯の設置に伴い、個体数が激減したと考えられている。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目タマムシ科

## クロマダラタマムシ

*Nipponobuprestis querceti*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：—

口絵21

### 【選定理由】

全国的に記録されている個体数が少ない。県内においても生息地は限られており、個体数もきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

いの町

### 【生物学的特性】

体長17～28mm。体は黒褐色で、金緑色の光沢または赤みを帯びる。腹端が雄では三角形にえぐられるが雌では丸まる。アオマダラタマムシに酷似するが、本種は上翅の顕著な6斑紋を欠く。6月から7月にかけて、エノキの古木上を飛翔したり、生木のうろの部分に静止したりしている成虫が

確認される。

### 【生息環境】

河川敷または自然公園、神社仏閣にあるエノキの大木周辺で見つかる。

### 【生息状況】

県内では数か所しか記録がなく、いずれの記録地でも個体数は少ない。エノキの大木の減少により2001年以降記録がない。

### 【執筆者】

乾 孝二



コウチュウ目タマムシ科

## アオタマムシ

*Eurythrea tenuistriata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵21

### 【選定理由】

分布は限定的であり、近年は発見報告も減少している。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長17～28mm前後、体は金緑色で、前胸背と鞘ばねの側方が赤みを帯びる個体も見受けられる。雄の発見例はきわめて少ない。

### 【生息環境】

山地の暖温帯林上部から冷温帯林にかけての自然林に生息する。モミまたはマツ類の伐採木または新しい倒木の上で発見される。

### 【生息状況】

生息場所の人工林化が進み、生息地が減少している。高知市では40年以上前の採集記録があるが、木材について運ばれてきた個体と考えられる。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目コメツキムシ科

## ミゾムネチビサビキコリ

*Adelocera brunneus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

四国からの報告は高知県でのわずか1例のみで、全国的にも発見例がきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

四万十市

### 【生物学的特性】

体長6mm前後。ずんぐりした体型で、体表に不規則な灰白色の毛のかたまりがある。

### 【生息環境】

成虫は樹上性であるが、生態および幼虫期に関しては不明な点が多い。

### 【生息状況】

個体数はきわめて少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目ヒラタムシ科

## ルリヒラタムシ

*Cucujus mniszечи*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵21

### 【選定理由】

ブナ帯での天然林の減少により生息域が狭められており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、対馬

### 【県内での分布】

香美市、いの町、仁淀川町

### 【生物学的特性】

体長20～27mm。体は平たく黒色。上翅は青藍色で、光沢がない。幼虫も体が平たく、同所に棲む他の昆虫を捕食する。

### 【生息環境】

ブナ帯の広葉樹および針葉樹の比較的大きな枯れ木の樹皮下に棲む。

### 【生息状況】

県内では、1995年に剣山地の西熊山で成虫が発見されたのが最後である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目テントウムシ科

## ジュウクホシテントウ

*Anisosticta kobensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵21

### 【選定理由】

生息地となる湿地および沼地が埋め立てられ、個体数も激減している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高知市，宿毛市

### 【生物学的特性】

体長3.5～4mm。体はやや細長く，背面は淡黄色。頭部に1対，前胸背に3対，左右上翅に計19個の黒紋がある。

### 【生息環境】

平地のヨシ原のある湿地および沼地に生息する。

### 【生息状況】

宿毛市の生息地であった沼地は2006年に埋め立てられた。2016年に高知市の仁淀川河口で1個体が記録された。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目アカハネムシ科

## オカモトツヤアナハネムシ

*Tosadendroides okamotoi*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

分布が限られており，発見例も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国

### 【県内での分布】

香美市，大豊町，仁淀川町，いの町，津野町

### 【生物学的特性】

体長7.5～9.5mm。雄の上翅後方に凹んだ特異な模様がある。

### 【生息環境】

暖温帯林上部の天然林に生息する。

### 【生息状況】

四国での発見例は少ない。山地の倒木上またはその周辺を飛行中の個体が観察されることが多い。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヒラヤマコブハナカミキリ

*Enoploderes bicolor*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵21

### 【選定理由】

生息地が限定されており，個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，大豊町，高知市，いの町，津野町

### 【生物学的特性】

体長11～12mm。原始的な形態的特徴を有するとされている。

### 【生息環境】

低山地から亜高山帯の自然林に生息し，春先にカエデの花の上または広葉樹の大木上，枯れ木の洞内で発見されている。

### 【生息状況】

四国での発見例は少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## フタスジカタビロハナカミキリ

*Brachyta bibasciata japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵21

### 【選定理由】

自然林の減少に加え、訪花植物のヤマシャクヤクの乱獲により確認される場所が減少した。

### 【国内分布の概要】

本州，四国

### 【県内での分布】

香美市，大豊町，いの町，仁淀川町

### 【生物学的特性】

体長16～23mm。体型はずんぐりしている。体は黒色で，上翅は黄色から黄褐色と変異がある。

### 【生息環境】

暖温帯林上部から冷温帯林にかけてのブナ帯に生息する。

### 【生息状況】

5月初旬に，山地のヤマシャクヤクの花を訪れる個体が多い。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ホンドニセハイロハナカミキリ

*Rhagium femorale*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵21

### 【選定理由】

以前は低山地および山地に広く分布し，普通に発見されたが，自然林の減少とともに個体数がきわめて少なくなった。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長10～18mm。体はやや扁平で，触角は短く，樹皮下に潜り込むのに適した形態である。色彩はマツまたはモミの樹皮に似ている。

### 【生息環境】

低山地から山地の，主にアカマツまたはクロマツ，モミの自然林。

### 【生息状況】

以前は高知市および南国市の里山でも普通に観察されたが，近年は山地でまれに遭遇するのみである。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヒゲブトハナカミキリ

*Pachypidonia bodemeyeri*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息に好適な環境が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長13～14mm。成虫の頭部および前胸は赤褐色で，上翅は黒色。触角は雌雄とも短い。

### 【生息環境】

原始的な暖温帯林上部から冷温帯林のブナをはじめとした大木の樹洞に生息する。

### 【生息状況】

移動力が弱く，生息環境も特殊であるため，採集例が少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## クロソンホソハナカミキリ

*Mimostrangalia kurosonensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

人工林の成長によって森の回廊が分断され、本種に適した生息環境が悪化している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

四万十市，梶原町

### 【生物学的特性】

体長14～18mm。体は赤褐色で、黄褐色の微毛で覆われる。

### 【生息環境】

ハイノキの混じる比較的明るい暖温带林に生息する。

### 【生息状況】

ハイノキの枯れ木または花に飛来した個体が観察されるが、個体数はきわめて少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## タケウチホソハナカミキリ

*Strangalia takeuchii*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数も少ない。過去に生息が知られていたが、全く発見できなくなった場所もある。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長13～16mm。成虫の頭部の大部分は黒色。前胸背は黄褐色で、前縁と両側に黒条がある。上翅は黒色地に4本の黄帯がある。

### 【生息環境】

暖温带林上部から冷温带林の自然林に生息する。

### 【生息状況】

自然度の高い針広混交林の林縁部で、ノリウツギおよびリョウブの花上とその周辺を飛行中の個体がまれに発見される。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## モモグロハナカミキリ

*Toxotinus reini*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

口絵22

### 【選定理由】

四国ではもともと個体数が少ない。近年、山地の花上でまれに発見されるにすぎない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

大豊町，いの町，仁淀川町

### 【生物学的特性】

体長13～16mm。成虫の触角と上翅および脚は黄褐色で、脚の腿節と脛節の先端は黒色。

### 【生息環境】

山地から低山地の自然が残されている林縁で発見されることが多い。

### 【生息状況】

自然に残された山地の葉上に静止している個体が偶然発見されたり、ノリウツギの花上で発見されることがあるが、採集例は少ない。

### 【執筆者】

中山紘一



コウチュウ目カミキリムシ科

## ベニバナカミキリ

*Paranaspia anaspidoides*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

近年は発見される個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州，対馬，屋久島

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長8～12mm。体は黒色。上翅は暗赤色であるが、黒化する個体も存在する。

### 【生息環境】

自然度が高い林に生息する。幼虫は腐朽部のある樹洞内に生息する。成虫はノリウツギとガマズミの花上に集まることが多い。山頂部に吹き上げられた成虫が観察されることもある。

### 【生息状況】

発見できる場所が限定されており、個体数も少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## トガリバホソコバナカミキリ

*Necydalis formosana niimurai*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

本種の生息に好適な雑木林の減少および荒廃により、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

本州（関東以西），四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長17～24mm。体は黄褐色で、黄金色の微毛を密布する。上翅端が尖るといふ特異な形状を有す。

### 【生息環境】

ハイノキおよびタンナサワフタギの衰弱木または枯れ木で発見される。

### 【生息状況】

近年の個体数の減少は著しく、以前の生息地でも発見できなくなった場所が多い。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## オオホソコバナカミキリ

*Necydalis solida*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息環境が悪化し、個体数が減少傾向にある。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長11～30mm。体は黒色。上翅は褐色であるが、翅端の黒色部の広さは変異が大きい。

### 【生息環境】

石鎚山系と剣山地のブナ帯に生息する。

### 【生息状況】

ブナおよびダケカンバ、ミズナラの立ち枯れ木に集まり、特にブナを好む。山頂に吹き上げられた個体も観察される。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヒゲジロホソコバネカミキリ

*Necydalis odai*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

本種の生息に好適な自然林が減少し、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長14～22mm。雄は黒色で、雌は黒褐色。触角の第8節から第10節は黄白色。飛翔行動はハチ類に似る。

### 【生息環境】

暖温帯林上部から冷温帯林に生息し、ミズナラの立ち枯れ木を好む。

### 【生息状況】

過去には石鎚山系と剣山地での観察例が多かったが、近年発見される個体数は少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ

*Glaphyra nitida nitida*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息地が限定されており、発見される個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，対馬

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長5～7mm。体は黒色。上翅は暗い栗色で、鈍い青緑色の光沢がある。前胸背が同属の他種より長い。

### 【生息環境】

エノキの混じる暖温帯林中部の低山地で、イロハカエデの花上で発見される。

### 【生息状況】

集落に近い雑木林で発見されるが、過疎化が進み、雑木林の荒廃が著しいことから発見される個体数も少ない。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## イッシキキモンカミキリ

*Glenea centroguttata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

養蚕の衰退によるクワ畑の放置と外来種キボシカミキリの食害によるクワの減少により、発見される個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

本州（東京以西），四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長11～16mm。上翅は黒色で、背面中央にトランプ模様を思わせる黄色の大きい斑紋が縦に並ぶ。成虫はヤマグワを後食する。ヌルデから幼虫が得られている。

### 【生息環境】

中山間地のヤマグワの生葉上で観察される。

### 【生息状況】

養蚕用のクワ畑での採集例が多いが、養蚕の衰退に伴うヤマグワの放置と巨木化、キボシカミキリの食害の拡大で、本種の発見が困難になっている。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## カッコウメダカカミキリ

*Stenhomalus cleroides*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

生息に好適な雑木林の減少と生息地の分断により、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長5.5～8.0mm。大きい複眼を有する。体は扁平。上翅は黒色で、中央部に黄白色のV字紋が、後方に黄帯がある。

### 【生息環境】

平地または海岸，小高い丘陵地にある雑木林のアケビの枯蔓で観察される。

### 【生息状況】

以前は高知市内の雑木林で普通に発見できたが、環境の変化と生息地の分断により、個体数が減少している。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## オオアオカミキリ

*Chloridolum thaliodes*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

30年ほど前までは低山地から山地にかけて普通に発見されたが、近年は発見できる場所と個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長22～31mm。大型で青緑色の美麗種。上翅は後方に強く狭まる。幼虫はサワグルミの衰弱木または枯れ木に食入する。成虫は倒木または伐採木で発見されるほか、ノリウツギおよびリョウブ、イタドリの花上でも発見される。

### 【生息環境】

成虫は林内よりは林と道路との境目，開けた空間にある倒木または伐採木の上，花上で発見されることが多い。

### 【生息状況】

山地で多く発見されるが、生息地は限定されている。植生と環境が同様であっても発見できる場所と発見できない場所がある。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

## ムネマダラトラカミキリ

*Xylotrechus grayii*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

口絵22

### 【選定理由】

四国ではもともと個体数が少なかったが、近年は県内ではほとんど発見できない。

### 【国内分布の概要】

日本全国

### 【県内での分布】

室戸市，大豊町，高知市，四万十市，土佐清水市

### 【生物学的特性】

体長8.5～14mm。成虫の前胸背板は黒色で、背面に多数の白色から黄色の小紋がある。

### 【生息環境】

晩春から盛夏にかけて，海岸から低山地にかけての広葉樹の枯れ木または薪材，花の上で発見される。

### 【生息状況】

海岸から低山地のキリまたはサカキ，ハンノキが生育する自然林が減少し，発見される個体数が少なくなっている。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

# トラフカミキリ

*Xylotrechus chinensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

養蚕の衰退によるクワ畑の放置と外来種キボシカミキリによるクワの食害により、本種の生育に適したクワが減少し、個体数が激減している。

## 【国内分布の概要】

日本全国

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

体長17～26mm。触角は短い。前胸は丸く、黒色で、前方に黄色帯、中央に赤色紋がある。上翅は黄色で、黒条がある。ハチに擬態している。

## 【生息環境】

平地から低山地のクワまたはヤマグワの葉上にいることが多い。

## 【生息状況】

30年ほど前までは、高知市をはじめとする低山地のクワ畑または里山に自生するクワで普通に発見できたが、近年は個体数が減少している。

## 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目カミキリムシ科

# マダラゴマフカミキリ

*Mesosa poecila*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数は以前から少なかったが、近年はほとんど発見できなくなった。

## 【国内分布の概要】

日本全域

## 【県内での分布】

県内全域

## 【生物学的特性】

体長11～17mm。上翅は全面に長立毛があり、黒および灰色、黄灰色の微毛をそなえる。黒色毛の部分が4個の紋のように見える。

## 【生息環境】

ブナ科の直径10cmから15cmほどの太い枯れ木の樹皮に静止している個体が観察される。

## 【生息状況】

暖温帯林上部から冷温帯林での散発的な発見例があるにすぎない。針葉樹の植林で、生息地が分断されている。

## 【執筆者】

中山紘一

アミメカゲロウ目カマキリモドキ科

# オオカマキリモドキ

*Tuberontha strenua*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

2002年当時に数か所の生息地が発見されたが、その後、それらの地でも個体をほとんど観察できなくなった。

## 【国内分布の概要】

四国、九州

## 【県内での分布】

香美市、いの町、津野町、四万十市、土佐清水市

## 【生物学的特性】

開長45～50mmで、カマキリモドキ科の中では最大である。前脚が鎌状で、他の昆虫を捕食する。幼虫はクモ類の卵を食する。

## 【生息環境】

主に標高300mから1000mの中山間地の自然環境の豊かな林に生息している。

## 【生息状況】

中山間地の森林の荒廃により、発見される個体数が激減している。

## 【執筆者】

別府隆守



アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

## コカスリウスバカゲロウ

*Distoleon contubernalis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

河川敷および海浜の砂地場所に生息しているが、生息地が破壊され、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国

### 【県内での分布】

東洋町，高知市，黒潮町，土佐清水市

### 【生物学的特性】

体長32mm前後。カスリウスバカゲロウに似るが、体がやや小さく、翅の斑紋は淡くて小さい。

### 【生息環境】

河川敷および海浜の砂地に生息している。幼虫は地面にすり鉢状の巣をつくるが、河川敷よりも海岸の砂の方を好むようである。

### 【生息状況】

車両の乗り入れおよび砂の採取で海浜と河川敷の砂地が破壊され、個体数が減少している。

### 【執筆者】

別府隆守

チョウ目シジミチョウ科

## オナガシジミ

*Araragi enthea*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵22

### 【選定理由】

高知県では大豊町梶ヶ森のみで生息が確認されているが、個体数は少ない。同地では幼虫の食樹のオニグルミは点在するが、植林が進んでおり、生息地が狭められている。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

大豊町

### 【生物学的特性】

前翅長18mm程度。年1化で、成虫は7月下旬から8月上旬に出現する。幼虫の食樹はクルミ科のオニグルミおよびヒメグルミで、成虫もクルミ林に生息する。

### 【生息環境】

大豊町梶ヶ森のオニグルミが生育する林にのみ生息する。

### 【生息状況】

成虫は樹上性で、個体数は少なく、発見は困難である。生息地の梶ヶ森は県立公園に指定されており、開発はある程度制限されている。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シジミチョウ科

## ヒサマツミドリシジミ

*Chrysozephyrus hisamatsusanus*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵22

### 【選定理由】

成虫の個体数がきわめて少ない。主たる食樹であるウラジロガシの伐採で、発生源が失われている。

### 【国内分布の概要】

本州（中部以西），四国，九州

### 【県内での分布】

県東部，県中部

### 【生物学的特性】

前翅長20mm程度。雄の翅表は金緑色に輝き、後翅裏面の白条がV字型を示す。雌は黒褐色の地色で、前翅に紺色と橙色の斑紋がある。卵はウラジロガシの樹冠の花芽に産下される。

### 【生息環境】

中山間地の照葉樹林帯のウラジロガシが主たる発生源である。成虫は発生源からかなり離れた山頂または山中で観察されることが多い。

### 【生息状況】

県内の記録は散発的で、発見された個体数も著しく少ない。成虫が発見されたことのない地域のウラジロガシ大木の伐採木で卵が発見されることがある。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シジミチョウ科

## キリシマミドリシジミ

*Thermozephyrus ataxus kirishimaensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

発見される個体数は少なく、アカガシ林の伐採で生息地が狭められている。

### 【国内分布の概要】

本州（西南部）、中国、四国、九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

前翅長20mm程度。日本産ミドリシジミ類で雌雄とも翅裏面に白条を有しないのは本種だけである。卵はアカガシの下部の新芽の付け根に産下される。

### 【生息環境】

中山間地のアカガシが繁茂する照葉樹林帯に生息する。

### 【生息状況】

県内の記録は散発的で、成虫よりも卵による生息の確認が行われているが、卵の発見が容易であるため、採集圧にさらされている。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シジミチョウ科

## エゾミドリシジミ

*Favonius jezoensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

分布が限定されており、個体数も少ない。天然林の伐採で生息地が狭まっている。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

香美市、いの町、大川村

### 【生物学的特性】

前翅長18mm程度。雄の翅表は光沢のある青緑色。雌の翅表は暗褐色。低地から山地に広く分布するオオミドリシジミに似るが、判別には熟練を要する。

### 【生息環境】

四国山地の標高700m以上のミズナラを含む落葉広葉樹林帯に生息する。

### 【生息状況】

林道の開発による天然林の伐採で生息地が狭められ、発見される個体数も少ない。カシノナガキクイムシによるナラ枯れの被害拡大で、食樹の減少も懸念される。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シジミチョウ科

## ベニモンカラスシジミ

*Fixsenia iyonis iyonis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵22

### 【選定理由】

生息地がきわめて限られており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州（中部以西）、四国

### 【県内での分布】

香美市

### 【生物学的特性】

前翅長15mm程度。雌雄の成虫の翅表は黒褐色で、前翅は赤橙色の大きい斑紋を有する。成虫は6月中旬ごろの短期間のみに出現する。

### 【生息環境】

石灰岩地帯の川沿いの急峻な崖に生育するクロウメモドキが幼虫の食樹であり、斜面崩壊による生息地の消失が常に懸念される。

### 【生息状況】

斜面崩壊が頻繁に起こる急峻な崖に生息しており、生息の確認が困難である。

### 【執筆者】

荒川 良

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

チョウ目シジミチョウ科

## ミヤマカラスシジミ

*Fixsenia mera*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

四国山地沿いに局地的に生息地が知られているが、天然林の減少とともに個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

香美市、いの町、土佐町

### 【生物学的特性】

前翅長15mm程度。雌雄の成虫の翅表は黒褐色で、ベニモンカラスシジミのような赤褐色斑はない。成虫は7月下旬から8月にかけて観察される。卵で越冬する。

### 【生息環境】

幼虫の食樹であるクロウメモドキが生育する山間地の樹林帯に生息する。

### 【生息状況】

生息地における個体数は、以前は少なくなかったが、近年はほとんど発見できなくなった。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目タテハチョウ科

## シータテハ

*Polygonia c-album hamigera*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

口絵22

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

香美市、大豊町、高知市、仁淀川町

### 【生物学的特性】

前翅長25mm程度。普通種のキタテハに似るが、本種の秋型は翅縁の凹凸が顕著である。夏型は翅縁の形状での区別は困難であるが、キタテハでは前後翅の垂外縁の黒斑内に藍色鱗を有する。幼虫はニレ科のアキニレまたはハルニレを食するが、本県での食樹は不明。

### 【生息環境】

四国山地沿いの標高400m以上の樹林帯に局地的に生息する。

### 【生息状況】

林道の開発で天然林が失われており、生息地が狭まっている。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目タテハチョウ科

## キマダラモドキ

*Kirinia fentoni*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵22

### 【選定理由】

大豊町梶ヶ森の狭い範囲のみで発生し、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

大豊町

### 【生物学的特性】

前翅長28～36mm。ヤマキマダラヒカゲとサトキマダラヒカゲに似るが、翅形が丸みを帯び、前翅裏面に黒丸紋を欠くことで区別できる。幼虫の食草はイネ科とカヤツリグサ科。年1化で、成虫は夏季に出現する。

### 【生息環境】

明るい疎林の小草に生息し、周辺の草地にも見られる。

### 【生息状況】

生息に適した疎林が失われるとともに、個体数も激減している。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目タテハチョウ科

# クロヒカゲモドキ

*Lethe marginalis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵22

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

## 【選定理由】

生息する樹林の管理が行われなくなって、食草のイネ科植物が減少し、生息地が狭められて、個体数も少なくなっている。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

大豊町、大川村、いの町、越知町

## 【生物学的特性】

前翅長30mm程度。前翅裏面垂外縁に縦に並んだ3個の眼状紋があり、最下部の紋が最も大きいことで同属の他種と区別できる。年1化で、成虫は夏季に出現する。幼虫の食草はイネ科またはカヤツリグサ科。

## 【生息環境】

四国山地沿いの標高300mから1000mの樹林内およびその周辺に生息する。

## 【生息状況】

森林の荒廃とともに、食草となる樹林内のイネ科植物が生育しなくなり、生息地が狭められている。

## 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シャクガ科

# シロシモフリエダシャク

*Biston melacron*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵23

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

本州、四国（愛媛県、高知県）、九州、対馬

## 【県内での分布】

香美市、高知市、吾川郡、高岡郡

## 【生物学的特性】

前翅長は42～47mm。触角は櫛菌状。黒色の斑紋には変異がある。年1化で、4月から5月に出現する。雌はほとんど灯火に飛来しない。クロズエダシャクに似るが、本種は翅の地色がクリーム色を帯びた白色であることで区別できる。

## 【生息環境】

県内では中山間地で得られるが、幼虫の寄主植物は未知である。

## 【生息状況】

近年新たな産地が発見された。詳しい生態が不明であるため、生息状況の把握が困難である。

## 【執筆者】

真鍋泰彦

チョウ目シャクガ科

# タケウチエダシャク

*Biston takeuchii*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵23

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

分布は限定的であり、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

本州、四国（高知県）、九州

## 【県内での分布】

香美市、いの町、四万十町

## 【生物学的特性】

前翅長は雄33～36mm、雌42mm前後。翅の茶色がかった模様は独特である。前後翅の白色帯には変異がある。成虫は4月に出現し、雌はほとんど灯火に飛来しない。

## 【生息環境】

成虫は内陸部の中山間の集落周辺で多く発見されている。

## 【生息状況】

県内では、四万十町における1958年の雄1個体の記録以降発見例がなかったが、1982年に香美市で生息が確認され、また、他所でも発見されている。野外で幼虫が確認されていないため、生息状況の把握が困難である。

## 【執筆者】

真鍋泰彦

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群



ハチ目ギングチバチ科

## アカオビケラトリバチ

*Larra amplipennis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

狩りの対象となるケラが生息適地の減少により個体数を減少させており、それに伴って、本種の発見が困難になっている。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

香南市、四万十市、土佐清水市

### 【生物学的特性】

体長12~18mm。成虫は6月から9月に出現する。雌の成虫は巣をつくらず、ケラの坑道内に侵入し、ケラの成虫を産卵管で麻痺させてから産卵する。

### 【生息環境】

ケラの生息する海浜または川沿いで発見される。

### 【生息状況】

幼虫の餌となるケラの減少で、本種の個体数も減少している。

### 【執筆者】

荒川 良

ハチ目ハキリバチ科

## ネジロハキリバチ

*Megachile disjunctiformis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

かつては高知市でも確認されたが、最近は全く記録されていない。近年、南国市で発見された。

### 【国内分布の概要】

本州（中部以南）、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

南国市、高知市

### 【生物学的特性】

体長10~18mm。体は漆黒色で、前伸腹節と腹部第1節背板に白色毛を生じている。年1回8月に出現する。昆虫の脱出孔のような地上の既存孔筒に営巣する。育房の仕切りに松ヤニのみを用いる。

### 【生息環境】

人家周辺の既存孔筒のある場所で観察される。

### 【生息状況】

現在は南国市のみで観察されているが、個体数は少ない。

### 【執筆者】

荒川 良

ハチ目ハキリバチ科

## クズハキリバチ

*Megachile pseudomonticola*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

分布が限定されており、個体数もきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県東部

### 【生物学的特性】

体長16~20mm。枯れ木の材孔または竹筒に営巣し、育房の仕切りにクズの葉を使う。オオハキリバチに似るが、本種の腹部第1背板および第2背板後縁に顕著な明色の毛帯があることで区別できる。

### 【生息環境】

蜜源となる花を咲かせる植物が豊富に生育する県東部の海浜地帯で記録されている。

### 【生息状況】

全国的に個体数の少ない種であり、県内での発見個体数も少ない。

### 【執筆者】

荒川 良

トンボ目エゾトンボ科

## エゾトンボ

*Somatochlora viridiaenea*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

個体数が減少し、生息環境の悪化も認められる。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

雄の腹長は37～45mm、雌で40～51mm。胸部に2本の明瞭な黄条を有する。

### 【生息環境】

山間の湿地や抽水植物が繁茂する池沼に生息する。

### 【生息状況】

県内全域に生息地が認められるが、いずれの生息地においても個体数は少ない。

### 【特記事項】

高知産はエゾトンボの亜種のおオエゾトンボ *S. v. atrovirens* とされていたが、近年エゾトンボに統一された。

### 【執筆者】

島崎祐樹

カワゲラ目カワゲラ科

## モンカワゲラ

*Calineuria stigmatica*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵23

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

香美市、いの町

### 【生物学的特性】

体長25mm内外。体は明るい茶色。成虫の出現時期は6月下旬から8月で、燈火に飛来する。幼虫は水量の豊かな山地溪流に生息する。

### 【生息環境】

幼虫は高標高の山地溪流に生息し、成虫もその周辺で発見される。

### 【生息状況】

生息地はきわめて限定されているが、発見される個体数は多い。

### 【特記事項】

本種に酷似した未記載種が同所的に生息している。

### 【執筆者】

仁尾かおり

カメムシ目サシガメ科

## キイロサシガメ

*Sirthenea flavipes*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵23

### 【選定理由】

近年は個体数の減少が顕著で、生息地も減っている。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

高知市、四万十市、三原村

### 【生物学的特性】

体長は18～20mm。体は黄色く、前胸背後葉および小楯板、前翅の大半は黒い。ケラを捕食するとされている。

### 【生息環境】

大きな河川の河口または放棄水田の多い場所で発見される。

### 【生息状況】

県中部および県西部で生息が確認されたが、個体数は少ない。

### 【執筆者】

高井幹夫

カメムシ目タイコウチ科

## タイコウチ

*Laccotrephes japonensis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵23

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

近年は発見例数が少なく、個体数の減少が顕著である。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，南西諸島

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長は30～38mm。体は扁平で，全身濃い褐色。腹端に長い呼吸管を有する。池沼または水田に生息し，小型昆虫を捕食する。

### 【生息環境】

水生昆虫で，池沼および水田，水田脇の水路に生息する。

### 【生息状況】

かつて県内に広く生息していたが，近年は個体数が激減している。

### 【執筆者】

高井幹夫

カメムシ目ナベブタムシ科

## ナベブタムシ

*Aphelocheirus vittatus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

生息場所が限られており，個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

南国市，四万十市

### 【生物学的特性】

体長8～9mm。体は扁平で，丸みを帯びる。通常は短翅型で，まれに長翅型が出現する。

### 【生息環境】

水のきれいな河川の流れのある場所に生息している。水中の酸素を直接取り込んで呼吸するため，水質悪化の影響を受けやすい。

### 【生息状況】

県内の生息確認場所は限定されており，個体数も少ない。

### 【執筆者】

高井幹夫

カメムシ目イトアメンボ科

## イトアメンボ

*Hydrometra albolineata*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

個体数の減少が著しく，近年の発見事例はほとんどない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，南西諸島

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長13mm前後。体は細長く，黒褐色。体のサイズはイトアメンボ科の中では最大。長翅型と短翅型が存在する。

### 【生息環境】

水生昆虫で，池沼および水田に生息する。

### 【生息状況】

近年の発見例がなく，生息状況は不明。

### 【執筆者】

高井幹夫

カメムシ目イトアメンボ科

## ヒメイトアメンボ

*Hydrometra procera*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

個体数の減少が著しく、近年の発見例がない。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長8mm前後。体は細長く、黒褐色である。長翅型と短翅型が存在する。イトアメンボより小型であるが、形態の判別は肉眼では困難である。

### 【生息環境】

水面生活者で、池沼に生息する。明るく開放的な環境を好む。

### 【生息状況】

近年の発見例がなく、生息状況は不明。

### 【執筆者】

高井幹夫

コウチュウ目オサムシ科

## フトキノカワゴミムシ

*Leistus crassus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

口絵23

### 【選定理由】

県内では1993年9月の雌1個体の記録以降、発見されていない。

### 【国内分布の概要】

四国、九州、屋久島、トカラ列島中之島、奄美大島

### 【県内での分布】

四万十町

### 【生物学的特性】

体長9～10mm。体は黒色で、前胸は幅が広い。上翅は両側縁がほぼ平行で、条線には深くて粗い点刻がある。

### 【生息環境】

暖地の平地から山地に生息する。県内では、山地にある渓谷林内の枯れ木で発見されている。

### 【生息状況】

当初の記録から20年以上経過しても再発見されておらず、現状は不明である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## アナドリメクラチビゴミムシ

*Ishikawatrechus masazii*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

県中部の洞窟からのみ発見されているが、個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

いの町

### 【生物学的特性】

体長3.8～4.5mm。体は暗赤褐色で、上翅の肩部は外側に強く張り出す。後翅と複眼を欠く。

### 【生息環境】

生息地の洞床の前半には結晶片岩が堆積しているが、本種はその奥の暗黒部の湿潤な粘土層のある場所に生息している。

### 【生息状況】

1975年に県中部の洞窟で採集された個体に基づき新種記載され、その後、同じ洞窟内のごく少数の個体が確認された。

### 【執筆者】

伊東善之



コウチュウ目オサムシ科

## オオヨツボシゴミムシ

*Dischissus mirandus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：—

口絵23

### 【選定理由】

生息地と個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州，南西諸島

### 【県内での分布】

香美市，土佐市，仁淀川町，三原村，宿毛市

### 【生物学的特性】

体長17～19mm。体は黒色で，光沢は鈍い。上翅に鮮黄色の4個の斑紋がある。前胸背板はややしわ状に点刻される。

### 【生息環境】

主に河川敷および草地，荒地で発見される。冬季には丘陵地の伐採跡の切株の樹皮下からも発見されている。

### 【生息状況】

1900年代後半に県内の3か所，2000年と2002年にそれぞれ1か所で少数の個体が得られている。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## クロケブカゴミムシ

*Peronomerus nigrinus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：—

口絵23

### 【選定理由】

生息地の環境悪化により個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州，南西諸島

### 【県内での分布】

香美市，高知市

### 【生物学的特性】

体長7～8.5mm。上翅は黒褐色で，金属光沢がなく，黄褐色の立毛をよそおう。前胸両側は中央後方で丸くなる。

### 【生息環境】

主に平地の河川のヨシが生える多湿地に生息する。

### 【生息状況】

1980年代には高知市布師田の国分川に架かる橋梁の水銀灯によく飛来していたが，最近は全く発見されていない。1992年に剣山地の白髪山で雄1個体が発見された。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## イグチケブカゴミムシ

*Peronomerus auripilis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵24

### 【選定理由】

全国的希少種で，県内においても個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高知市，四万十市

### 【生物学的特性】

体長8.5～9.5mm。上翅は黒色で，金銅光沢を帯びる。前胸両側は中央後方でほぼ直角に角ばり，その後方は狭まって湾入する。

### 【生息環境】

主に平地の河川周辺の多湿地または池沼の岸辺の，ヨシが生育する場所に生息する。

### 【生息状況】

1985年に高知市布師田の国分川で雄1個体，1999年に四万十市で雌1個体が確認されただけで，その後の生息状況は不明である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## チャイロチビゲンゴロウ

*Liodesus megacephalus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

個体数が減少しており、かつての生息地では発見できず、少し離れた場所の小さな水たまりで数個体の生息が確認されたにすぎない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

室戸市、土佐清水市

### 【生物学的特性】

体長3mm前後。体は長楕円形で、背面は黄褐色。光沢は雄ではやや強く、雌ではやや弱い。

### 【生息環境】

海岸の水たまりに生息する。淡水よりも多少の海水の混じった水たまりを好むと考えられている。

### 【生息状況】

過去の生息地では採集により個体数が激減したと考えられる。

### 【執筆者】

別府隆守

コウチュウ目カミキリモドキ科

## キベリフトカミキリモドキ

*Assesinia flavomarginata*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

口絵24

### 【選定理由】

近年、生息地と個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、屋久島、奄美大島、徳之島

### 【県内での分布】

香南市、南国市、高知市、土佐市

### 【生物学的特性】

体長9～15mm。頭胸は黄褐色。上翅はより濃色で、灰黄色の毛をよそおう。前胸は前方が幅広く、後方で狭まる。

### 【生息環境】

海岸線に沿って生息する。1983年7月に仁淀川の河口近くの砂浜の流木下で、一度に多数の個体が発見されたことがある。

### 【生息状況】

高知市浦戸で、2010年から2016年にかけて計6個体が採集されたが、他の既知の生息地では近年の記録がない。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヒメヨツスジハナカミキリ

*Leptura kusamai*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

口絵24

### 【選定理由】

県内で生息が確認されている場所はわずかしかない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

いの町

### 【生物学的特性】

体長13～16.5mm。体は黒色で、上翅に4本の黄褐色帯がある。普通に見られるヨツスジハナカミキリ四国亜種によく似るが、本種の方が小型で、体の幅が狭い。

### 【生息環境】

石鎚山系の高標高の場所で、ノリウツギおよびリョウブの花に飛来した個体が発見されている。

### 【生息状況】

県内では高標高の場所でのみ発見されていないが、生息地は国定公園内で、環境が改変される可能性は低い。

### 【執筆者】

中山紘一

コウチュウ目ヒメドロムシ科

## ヨコミゾドロムシ

*Leptelmis gracilis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地が限定されており、生息環境も悪化している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

四万十市

### 【生物学的特性】

体長2.5mm前後。体は暗褐色。前胸背版の前縁から1/3近くを横切る溝があり，基部両側に斜めの溝がある。脚は長く，爪は大きい。

### 【生息環境】

成虫と幼虫はともに水生。主に平野部の河川に生息し，水中に沈んでいる木片または水草にしがみついている。

### 【生息状況】

生息地が限定されており，河川改修および護岸整備で生息環境が悪化している。生息地では多くの個体が観察されることがある。

### 【執筆者】

仁尾かおり

コウチュウ目ホタル科

## ヘイケボタル

*Luciola lateralis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

水田および周辺水路の生息環境の変化により，個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

体長7～10mm。前胸背中央の黒条は太く，中央で広がらない。幼虫は水生で，主にモノアラガイ類を捕食する。

### 【生息環境】

海岸から低山地の水田および用水路に生息する。

### 【生息状況】

水田とその周辺の大規模な整備により，生息に適した環境が減少している。

### 【執筆者】

中山絃一・仁尾かおり

コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科

## エゴヒゲナガゾウムシ

*Exechesops leucopis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

口絵24

### 【選定理由】

生息地が限定されており，個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，いの町，四万十市

### 【生物学的特性】

体長5mm前後。雄の頭部両端は突出し，その先に複眼をそなえる。体はずんぐりしている。

### 【生息環境】

雌はエゴノキの実に産卵し，幼虫はその実を食べて育つ。

### 【生息状況】

県内では低山から山間部にエゴノキが多く生育しているが，発見される個体数はきわめて少ない。

### 【執筆者】

中山絃一

シリアゲムシ目ガガンボモドキ科

# イッシキガガンボモドキ

*Bittacus issikii*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

仁淀川と四万十川の中流域の河畔林内に生息していたが、仁淀川ではモウソウチクの増加、四万十川では公園の整地でほとんど発見できなくなった。

### 【国内分布の概要】

本州，四国

### 【県内での分布】

高知市，いの町，四万十市

### 【生物学的特性】

前翅長20mm前後。体は黄褐色。翅は透明で、細かい翅脈を有する。雄は飛翔中の小昆虫を捕獲し、雌に差し出して交尾する。

### 【生息環境】

標高400m位までの低い標高地で、大きな河川の中流域の河畔林内に生息している。

### 【生息状況】

生息地におけるモウソウチクの拡大および環境の改変による地表の乾燥化で、個体数が激減している。

### 【執筆者】

別府隆守

トビケラ目トビケラ科

# ツマグロトビケラ

*Phryganea japonica*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵24

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

黒潮町，四万十市

### 【生物学的特性】

前翅長30mm前後。後翅の先端に特徴的な黒色の斑紋がある。成虫の出現時期は夏から秋で、灯火に飛来する。幼虫は溜め池のような止水域に生息し、落葉を短冊状に切り取ってつなぎ合わせた筒状の巣をつくる。

### 【生息環境】

主に平野部の溜め池に生息する。

### 【生息状況】

近年は生息環境の悪化が顕著で、個体数の減少をもたらしている。

### 【執筆者】

仁尾かおり

トビケラ目エグリトビケラ科

# ホタルトビケラ

*Nothopsyche ruficollis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵24

### 【選定理由】

生息地と個体数が減少している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

県内全域

### 【生物学的特性】

前翅長13～17mm。頭部と前翅は黒色で、前胸部は橙色。成虫は晩秋から初冬に出現し、灯火に飛来する。幼虫は小河川および用水路に生息し、石粒をつなぎ合わせた筒状の巣をつくる。

### 【生息環境】

幼虫は傾斜の少ない小河川および用水路に生息する。

### 【生息状況】

かつては普通種であったが、改修工事で生息環境が破壊され、個体数が減少している。

### 【執筆者】

仁尾かおり



トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ウスリークサツミトビケラ

*Oecetis antennata*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

口絵24

### 【選定理由】

生息地が限定されており、発見される個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

本州，四国

### 【県内での分布】

四万十市

### 【生物学的特性】

前翅長6mm前後。前翅は淡褐色で、濃褐色の条紋と点紋がある。成虫は初夏から秋に出現し、灯火に飛来する。

### 【生息環境】

本州では平野部で確認されているが、県内では山間部で確認されている。

### 【生息状況】

発見される個体数が少なく、生息状況は不明である。

### 【執筆者】

仁尾かおり

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ギンボシツツトビケラ

*Setodes argentatus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵24

### 【選定理由】

生息地が限定されており、発見される個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

香美市，高知市

### 【生物学的特性】

前翅長5～7mm。前翅は黄褐色で、特徴的な銀白色の線条紋が多数ある。夏に採集され、灯火に飛来する。

### 【生息環境】

山間部で発見されるが、生息地は限定されている。

### 【生息状況】

発見される個体数が少なく、生息状況は不明である。

### 【執筆者】

仁尾かおり

チョウ目セセリチョウ科

## ヘリグロチャバネセセリ

*Thymelicus sylvaticus*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

1970年代以降の記録がほとんどない。生息地の環境が著しく悪化している。

### 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高岡郡

### 【生物学的特性】

前翅長12～17mm。年1化性。幼虫の食草はイネ科。

### 【生息環境】

草原または明るい樹林帯に生息する。

### 【生息状況】

県内の生息地に大規模風力発電設備が設置され、取り付け道路の開設により生息環境が破壊されて個体数が激減している。

### 【執筆者】

荒川 良

チョウ目シジミチョウ科

# クロツバメシジミ

*Tongeia fischeri shojii*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵25

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

幼虫の餌となる多肉植物の採取によって生息地が破壊されており、さらに採集圧により個体数が激減している。

## 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

## 【県内での分布】

香美市，大豊町

## 【生物学的特性】

前翅長12mm程度。成虫は年4回から5回発生すると考えられているが、県内での実態は不明。食草はベンケイソウ科のツメレンゲおよびマルバマンネングサ。

## 【生息環境】

食草は崖および古い家屋の瓦屋根の隙間に生育し、成虫は食草の生育地周辺で観察できる。

## 【生息状況】

食草の生育地は破壊されやすい環境である。本種も食草も採集の対象となっており、個体数が減少している。

## 【執筆者】

荒川 良

チョウ目ヤガ科

# マイコトラガ

*Maikona jezoensis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

口絵25

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数が少ない。

## 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州，屋久島

## 【県内での分布】

香美市，香南市

## 【生物学的特性】

開帳43～46mm。体全体が毛に覆われている。前翅は黒色で、翅端近くに巨大な勾玉状の白斑を有する。成虫は早春に灯火に飛来する。

## 【生息環境】

幼虫はノブドウを食草とすることが知られている。

## 【生息状況】

成虫は早春の短い期間に出現するため、発見が困難である。県内では2個体目の発見以降、12年以上確認されていない。

## 【執筆者】

川島保夫

コウチュウ目ゾウムシ科

## ケブカトゲアシヒゲボソゾウムシ

*Phyllobius armatus*

高知県：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・高知市円行寺~宇津野地域個体群 口絵25

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

高知市円行寺付近の個体群（円行寺型）であるが、生息地が住宅地となり、個体数が激減している。

### 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長8～8.5mm。別名リングコフキゾウムシ。本種は高知県内に広く分布し、個体数も多いが、高知市円行寺から宇津野にかけての蛇紋岩地に生息する個体群は円行寺型とされ、トサミズキの生育する狭い範囲で発見される。

### 【生息環境】

トサミズキやアラカシの生木の葉上に見られる。

### 【生息状況】

生息地が宅地造成によって急激に失われている。

### 【執筆者】

中山絃一

コウチュウ目オサムシ科

## オキノシマヒメオサムシ

*Carabus japonicus okinoshimanus*

高知県：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・宿毛市沖の島地域個体群 口絵25

高知県2002ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・宿毛市沖の島地域個体群

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

1993年に記載された宿毛市沖の島の固有亜種で、生息地が限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

宿毛市

### 【生物学的特性】

体長25～29mm。背面は銅褐色で、上翅は強くふくらみ、鎖状隆条は他種に比べて頻繁に分断されている。後翅は退化している。

### 【生息環境】

照葉樹林の林床部に生息する。

### 【生息状況】

1993年の調査では多くの個体が確認されたものの、2007年には全く発見されなかった。その後の状況は不明である。

### 【執筆者】

伊東善之

コウチュウ目オサムシ科

## ワシオヒメオサムシ

*Carabus japonicus yoshiyukii*

高知県：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・高知市鷲尾山周辺地域個体群 口絵25

高知県2002ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・高知市鷲尾山周辺地域個体群

環境省2017ランク：－

### 【選定理由】

1999年に記載された高知市鷲尾丘陵の固有亜種で、生息地が限定されており、個体数も少ない。

### 【国内分布の概要】

四国（高知県）

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

体長21～29mm。背面は銅褐色で、前胸背板と上翅は強くふくらみ、上翅側縁は後方へ向けて強く狭まる。後翅は退化している。

### 【生息環境】

照葉樹林の林床部に生息する。

### 【生息状況】

個体数は比較的安定した状態で維持されている。

### 【執筆者】

伊東善之

〈文献一覧〉

- 秋田勝己・益本仁雄. 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. むし社, 東京, 302 pp.
- 秋山秀雄. 2000. 日本産カミキリモドキ図説解説. 神奈川虫報, (132): 1-53.
- 朝比奈正二郎 (編著). 1993. 滅びゆく日本の昆虫50種. 築地書館, 東京, 183 pp.
- 東 清治 (監修). 2002. 増補改定 琉球列島産昆虫目録. 沖縄生物学会, 沖縄, 570 pp.
- 出嶋利明. 1993. 物部村にてニホンセセリモドキを採集. へりぐろ, (14): 38.
- 愛媛県レッドデータブック改訂委員会 (編). 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014 RED DATA BOOK EHIME 一愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物一. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 松山, 623 pp.
- 榎戸良裕. 1991. ハンミョウ類, 観察と採集のポイント. 昆虫と自然, 26: 16-21.
- 林 匡夫・森本 桂・木本新作 (編著). 1984. 原色日本甲虫図鑑. 保育社, 東京, 369 pp.
- 林 正美・税所康正 (編著). 2015. 日本産セミ科図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 221 pp.
- 平嶋善宏 (監修). 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター, 福岡, 1767 pp.
- 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編). 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 学研, 東京, 359 pp.
- 井村有希・出嶋利明・水沢清行. 1993. ヒメオサムシの6新亜種. 月刊むし, (264): 10-16.
- 井村有希・水沢清行. 1999. 西南日本におけるヒメオサムシの2新亜種. 月刊むし, (338): 2-5.
- ・——. 2013. 日本産オサムシ図説. 昆虫文献六本脚, 東京, 368 pp.
- 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊. 1998. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 東海大学出版会, 東京, 140 pp.
- 伊藤 研・山川幸雄. 1973. 足摺崎のカミキリムシ2種. 四国虫報, (18): 87.
- Ito, N. 2010. Systematics of *Pterostichus yoshidai* and its relatives (Coleoptera: Carabidae: Pterostichini). Entomol Rev Japan, 65: 333-374.
- . 2012. Five species of macrocephalic *Pterostichus* from Shikoku, Japan (Coleoptera, Carabidae, Pterostichini). Jpn J Sys Entomol, 18: 85-99.
- 伊東善之. 1987. 四国南岸におけるキベリフトカミキリモドキの産地. げんせい, (51): 14.
- . 1991. キイカズクビナガムシ四国に産す. げんせい, (58): 3-5.
- . 1993. 四国未記録のゴミムシ3種について. げんせい, (63/64): 37.
- . 1993. 高知県沖の島のヒメオサムシについて. 月刊むし, (267): 37-38.
- . 2015. 四国の地下浅層性オオズナガゴミムシ類. 昆虫と自然, 50: 19-22.
- . 2016. 採集例の少ない高知県産ゴミムシ類6種について. げんせい, (92): 7-9.
- 香川県希少野生生物保護対策検討会. 2004. 香川県レッドデータブック 香川県の希少野生生物. 香川自然環境保全調査会, 香川, 416 pp.
- 賀好光男・田中光治. 1995. 徳島県におけるセアカオサムシの新たな生息地について. 徳島昆虫, (7): 4.
- 亀澤 洋. 2015. 千葉県房総半島南部におけるキベリフトカミキリモドキの発見. SAYABANE, N. S., (19): 52-53.
- 菅 晃. 1981. 愛媛県のオサムシ. 愛媛県立博物館研究報告, (11): 1-33.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編). 2015. レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-5 昆虫類. 株式会社ぎょうせい, 東京, 509 pp.
- Kasahara, S. 1986. Two new pterostichine carabids from the islands of Shikoku and Kyushu, Southwest Japan. Elytra, Tokyo, 14: 47-56.
- Kasahara, S. and Y. Ito. 1986. A new pterostichine carabid beetle from the Central Karstic Plateau in the island of Shikoku, Southwest Japan. Kanagawa-chuho, 90: 153-157.
- ・——. 1997. A remarkable new *Pterostichus* (Coleoptera, Carabidae) from Shikoku, Southwest Japan. Elytra, Tokyo, 25: 169-173.
- 片岡敬一. 2017. 愛媛県蛾類採集記録. 愛蝶会. 愛媛, 365 pp.
- 川島保夫. 2017. 四国産の蛾類 (5). げんせい, (93): 24.
- 岸田泰則 (編). 2011. 日本産蛾類標準図鑑Ⅰ. 学研, 東京, 352 pp.
- (編). 2011. 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ. 学研, 東京, 416 pp.
- 小林草平・野崎隆夫・竹門康弘. 2017. 琵琶湖の流出河川, 瀬田-宇治川のトビケラ群集. 日本生態学会誌, 67: 13-29.
- 小島圭三・和田豊州・中村重久・河上友三・岩崎起久子. 1964. 四国産ガ類. 高知大学学術研究報告自然科学編, (4): 1-184.
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会 (編). 2002. 高知県レッドデータブック〔動物編〕高知県の絶滅の恐れのある野生動物. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470 pp.
- 黒佐和義. 1949. 四国産歩行虫目録. 宝塚昆虫館報, (60): 1-20.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編). 1985. 原色日本甲虫図鑑 (Ⅲ). 保育社, 東京, 424 pp.
- 眞鍋泰彦. 2002. 高知県本川村の蛾 (Ⅱ). げんせい, (76): 8-14.
- . 2004. 高知県本川村の蛾 (Ⅲ). げんせい, (79): 13-17.
- 丸山博紀・花田聡子. 2016. 原色川虫図鑑 成虫編. 全国農村教育協会, 東京, 482 pp.
- 三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸. 2017. 水生昆虫Ⅰ ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ ハンドブック. 文一総合出版, 東京, 176 pp.
- 森 正人. 2011. 兵庫県のトックリゴミムシ類. きべりはむし, 34: 9-11.



- 森 正人・北山 昭. 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 231 pp.
- Morita, S. and Y. Ito. 2015. A new *Hikosanoagonum* (Coleoptera, Carabidae) from West Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser.), 5: 293-297.
- 長尾 悟. 1972. 梶ヶ森のセアカオサムシ. 月刊むし, (19): 23.
- 中越敏博. 1995. 高知県未記録の蛾数種を採集. げんせい, (67): 2.
- 中村重久. 1985. エゾヨツメとシロシモフリエダシヤクの高知県における新産地. げんせい, (47): 28.
- 中根猛彦・大林一夫・野村鎮・黒沢良彦. 1963. 原色昆虫大図鑑Ⅱ (甲虫編). 北隆館, 東京, 443 pp.
- 中山紘一. 1982. 高知県香美郡下で採れた蛾数種. げんせい, (42): 32-33.
- . 2000. 生息が確認されたゲンゴロウ. げんせい, (75): 1.
- 中山紘一・竹東正. 1993. タケウチエダシヤクの母蛾からの採卵及び食餌植物, 卵・幼虫・蛹などの記録. げんせい, (63/64): 31-35.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編). 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅳ. 学研, 東京, 552 pp.
- 日本直翅類学会 (編). 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道出版会, 北海道. 687 pp.
- (編). 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研, 東京, 384 pp.
- 日本環境動物昆虫学会 (編). 2010. 改訂 トンボの調べ方. 日本環境動物昆虫学会, 大阪, 339 pp.
- 日本昆虫目録編集委員会 (編). 2017. 日本昆虫目録 第2巻 旧翅類. 日本昆虫学会, 東京, 94 pp.
- (編). 2016. 日本昆虫目録 第4巻 準新翅類. 日本昆虫学会, 東京, 629 pp.
- (編). 2016. 日本昆虫目録 第5巻 脈翅目群, 長翅目, 隠翅目, 毛翅目, 撚翅目. 日本昆虫学会, 東京, 186 pp.
- (編). 2013. 日本昆虫目録 第7巻 鱗翅目 (アゲハチョウ上科-セセリチョウ上科). 日本昆虫学会, 東京, 119 pp.
- (編). 2014. 日本昆虫目録 第8巻 双翅目 (第1部・第2部). 日本昆虫学会, 東京, 1101 pp.
- 日本鱗翅学会四国支部 (編). 1979. 四国の蝶. 日本鱗翅学会四国支部. 高知, 229 pp.
- 野崎隆夫・伊吹信一. 2014. ツマグロトビケラの卵塊. 陸水生物学報, 29: 1-4.
- Ohbayashi, N., 1993. Notes on the Japanese species of the genus *Rhagium* (s. str.) (Coleoptera, Cerambycidae), with description of a new species. *Elytra*, 22: 171-179.
- 大林延夫・新里達也 (編). 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会, 東京, 818 pp.
- 大桃定洋・福富宏和. 2013. 日本産タマムシ大図鑑. むし社, 東京, 206 pp.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2012. 日本のトンボ. 文一総合出版, 東京, 531 pp.
- 酒井 香・藤岡昌介. 2007. 日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群Ⅰ. 昆虫文献六本脚, 東京, 173 pp.
- 佐野信雄. 1990. 徳島県のセアカオサムシ. 月刊むし, (228): 38.
- 佐々治寛之. 1988. ヨコミゾコブゴミシダマシ亜科の分布と種分化. 佐藤正孝 (編), pp. 117-124. 日本の甲虫 その起源と種分化をめぐって. 東海大学出版会, 東京.
- . 1998. テントウムシの自然史. 東京大学出版会, 東京, 251 pp.
- 白水 隆. 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学研, 東京, 336 pp.
- Sugaya, K., R. Ogawa and Y. Hara. 2017. Rediscovery of the "extinct" blind ground beetle (Coleoptera: Carabidae: Trechinae). *Entomol Sci*, 20: 159-162.
- 杉 繁郎 (編). 1987. 日本産蛾類生態図鑑. 講談社, 東京, 453 pp.
- 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司. 1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学出版会, 北海道, 917 pp.
- 立川周二・堀 繁久. 1999. エサキアメンボ *Limnoporos esakii*, 四国からの記録 (Gerridae, Heteroptera). 昆虫と自然, 34: 28.
- 立川周二・堀 繁久・安細元啓. 1999. エサキアメンボ *Limnoporos esakii*. 北海道から新記録. *Jezoensis*, (26): 97-100.
- 多田内修・村尾竜起 (編). 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 文一総合出版, 東京, 479 pp.
- 竹東 正. 1980. セアカオサムシを地芳峠で採集. げんせい, (37): 17.
- 寺山 守・須田博久 (編著). 2016. 日本産有剣ハチ類図鑑. 東海大学出版部, 神奈川, 735 pp.
- 徳島県版レッドデータブック掲載種検討委員会. 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物 徳島県版レッドデータブック. 徳島県環境生活部環境政策課, 徳島, 438 pp.
- Uéno, S. 1957. Studies on the Japanese Trechinae (VI) (Coleoptera, Harpalidae). *Mem Coll Sci Univ Kyoto*, (B), 24: 179-218.
- . 1971. Occurrence of an aphaenopsoid trechinae beetle in Japan (I). *Annls Speleol Moulis*, 26: 451-462.
- . 1982. A new genus and species of anophthalmic, trechine beetle from a mine adit of Southwest Japan. *Annot Zool Japon*, 55: 51-58.
- . 1995. Further records of anophthalmic, *Trechiana* (Coleoptera, Trechinae) from Southeastern Shikoku, Japan. *J. Speleol Soc Japan*, 19: 1-7.
- . 1998. Occurrence of *Chaetotrechiana procerus* (Coleoptera, Trechinae) in the Upper Hypogean Zone. *Elytra*, Tokyo, 26: 79-80.
- . 1999. New trechine beetles of genus *Ishikawatrechus* (Coleoptera, Trechinae) dedicated to the memory of Riozo Yoshii. *J Speleol Soc Japan*, 24: 1-12.
- . 2002. Two new *Ishikawatrechus* (Coleoptera, Trechinae) with discal hairs on the pronotum. *J Speleol Soc Japan*, 27:

1-11.

- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝（編著）. 1985. 原色日本甲虫図鑑（Ⅱ）. 保育社, 大阪, 440 pp.
- Uéno, S. and T. Naito. 2006. Occurrence of *Yamautidius* (Coleoptera, Trechinae) in the Upper Hypogean Zone of southwestern Shikoku, Southwest Japan. *Elytra*, Tokyo, 34: 249-256.
- 魚住政二・川澤哲夫・毛利俊樹. 1980. 仁淀川流域における洞窟性メクラチビゴミムシ類の分布. *げんせい*, (37): 11-17.
- 魚住政二・毛利俊樹・見山 博・川澤哲夫. 1980. アシナガメクラチビゴミムシについて. *げんせい*, (38/39): 27-28.
- 山本栄治・増井武彦. 2000. 小田深山およびその周辺の蛾類. *小田深山の自然*, (2): 1023-1144.
- 矢野真志. 2003. トラップトラップによる石鎚山系からのキイカクズクビナガムシの採集記録. *四国虫報*, (37): 11.
- 矢野俊郎. 1960. 四国産既知甲虫類目録1（始原亜日・食肉亜日）. *松山昆虫同好会時報*, (10): 1-36.
- 吉田正隆・黒田祐次. 1996. 徳島県ハンミョウ類の記録. *徳島昆虫*, (8): 15-17.



## 概説

## 陸・汽水・淡水産貝類

## 【陸産貝類】

陸産貝類は標高1800m近いブナ林から海岸まで、また、自然林、人工林、農地、市街地および海浜を含むさまざまな場所に生息している。

県内で確認された在来の種・亜種の数、未記載の種・亜種を除いても約170（亜種を除けば約160）に達する。この数は全国的にも多い方である。種数が多い理由として、山岳から海岸まで多様な環境が存在すること、石灰岩が広く分布することおよび県土が東西に長いことが考えられる。

石灰岩地は陸産貝類の生息環境として重要である。本県固有種も多く、その代表はヒラコベツマイマイ、ナカムラギセルおよびイジマギセルであり、微小種としてクビナガムシオイおよびサルダアツブタムシオイがある。これらはごく限られた範囲にだけ生息する。一方、環境省が絶滅危惧Ⅱ類（VU）としている殻長2.5mmほどのベニゴマオカタニシは、本県の石灰岩地では普通に見られ、個体数も多い。しかし、石灰岩は鉱産資源として各地で採掘され、貝類の生息地が失われてきた。特にヒラコベツマイマイは、生息地である石灰岩地がほんのわずかしか残されていないため、貝類で唯一、高知県指定希少野生動植物に指定され、捕獲、採取、殺傷または損傷が禁止されている。

石灰岩地以外にも本県固有種が存在し、その代表は広葉樹の老木に依存するタビトギセルおよび西南部の離島に生息するトクサギセルである。

本県固有種はほとんどが絶滅危惧種であるが、固有種以外の絶滅危惧種も多い。その代表は、生息地が県境付近の山岳に限定されるシコクタケノコギセル、シロハダギセル、パツラマイマイ、アツブタムシオイおよびマルクチゴマガイ、樹上性のハナコギセルおよびホソキセルガイモドキである。

絶滅危惧種は2002年の25種から40種へと15種増加した。これは、準絶滅危惧種のうち個体数の減少が認められた9種のランクを上げ、県内で新たに確認された種を含む7種を絶滅危惧種に選定した一方、別の種の異名になった1種を除外したことによる。ランクを上げた代表的な種はオオギセルおよびアワクリイロベッコウであり、新たに確認された種はサルダアツブタムシオイ、シロハダギセル、カワリダネビロウドマイマイおよびカタマメマイマイである。サルダアツブタムシオイは、日高村の石灰洞内の約3万3000年前の堆積物から化石として発見され、その後生きた個体が発見されて2016年に新種として発表された。このほか、ムロトキセルガイモドキおよびムロトマイマイは2002年にはそれぞれ別の種の異

名として扱ったが、今回の改訂では独立種として扱うとともに、絶滅危惧種に選定した。

絶滅危惧の要因は生息環境の悪化または生息地の一部消失である。石灰岩地に生息する種は石灰岩の採掘によって生息地が狭められてきた。また、自然林に生息する種は人工林化または森林の荒廃によって生息地が狭められ、さらに、巨樹に依存する種は巨樹の枯死または伐採によって生息地が失われてきた。

本県に生息する在来種の地理的分布は、狭い種では県内のごく一部地域から、広い種では日本全域までとさまざまである。例えばキセルガイ科では、前出の本県固有種のほか、四国西部だけに分布するタキギセル、四国西部および九州東部に分布するスギモトギセル、四国西部および中国地方に分布するモリヤギセルがある。

本州・四国・九州にわたって分布する種には、高知県レッドリストに掲げる絶滅危惧種もあるし、同リストに掲げない普通種もある。代表的な普通種は、里山および市街地に生息するヤマタニシ、ヤマクマ、アズキガイおよびセトウチマイマイである。セトウチマイマイは高知市内で普通に見かけるカタツムリである。

移入種は市街地および農地に多く、代表的な種はウスイロオカチグサ、トクサオカチヨウジおよびオナジマイマイである。また、海浜には、チャコウラナメクジが多数生息している。

## 【淡水産貝類】

淡水産貝類は四国山地から平野まで、溪流、河川、池、水田、水路および道路の側溝を含むさまざまな場所に生息している。

県内で確認された在来種は、移入の可能性のあるものを含めて26種である。そのうち11種がレッドリストに掲載されている。

本県固有種はこれまで報告されていないが、県内にタイプ産地のある種として高知市の井戸から発見され、1958年に新種記載されたコウチミジンツボがある。

絶滅危惧種は2002年の5種から3種へと減少した。これは、情報の不確かな二枚貝2種を情報不足に変更したことによる。絶滅危惧種はミズコハクガイ、ミズゴマツボおよびニセマツカサガイである。

準絶滅危惧種はタガイおよびヌマガイを含む4種である。情報不足とした種は、地下水に生息するため調査が困難なコウチミジンツボおよび2014年以降の調査で初めて確認されたヒメマルマメタニシを含む4種である。

普通に見られる在来種で広く分布し個体数も多い種は、河川および水路ではカワニナ、水田ではヒメモノアラガイ、溪流ではホラアナミジンナである。ホラアナ



ミジンナは殻長1.5mmほどの微小種で、環境省は絶滅危惧Ⅱ類（VU）としているが、本県では石灰岩の分布地に限らず、結晶片岩、蛇紋岩および碎屑岩の分布地にも生息している。

移入種は平野部に多い。通称ジャンボタニシと呼ばれるスクミリンゴガイは各地の水田およびその周辺に多数生息し、カネツケシジミというタイワンシジミの色彩型は各地の水路に高密度で生息している。サカマキガイは平野部に限らず各地に広がっていて、道路の側溝を含むさまざまな場所に生息している。

## 【汽水産貝類、内湾干潟の貝類】

2002年の高知県レッドデータブックでは、汽水産貝類の範囲を「ヤマトシジミおよびイシマキガイを指標種として、高知県の河川内において、それらの両者または一方と同所的に生息していることを確認した種まで」としていた。これに該当すれば、主として海水域に生息する種であっても汽水産貝類として調査・評価の対象にするという趣旨である。今回の改訂にあたっては、汽水産貝類の範囲は変更していないものの、汽水産貝類以外で内湾の干潟に生息する種を調査・評価の対象に加えた。ただし、内湾にも外海にも生息する種は原則として対象外とした。また、過去の記録がなく無効分散の可能性が大きい種および移入された可能性が大きい種も、2002年の汽水産貝類での取扱と同様に対象外とした。

県内の内湾には、湾口が狭くて奥行きが深い浦戸湾および浦ノ内湾のほか、湾口が広い須崎湾、野見湾および宿毛湾がある。これらの湾にある干潟は、貝類にとっても重要な生息地となっている。しかし、本県では、このような干潟はもともと狭いうえ、埋立ておよび護岸によって多くが失われてきた。

内湾に流入する河川では、河口域に海水と淡水が混じり合う汽水域が生じる。また、外海に流入する一部の河川にも汽水域がある。これらの汽水域には特有の貝類が生息している。その中には、ヒロクチカノコおよびナラビオカミミガイを含む絶滅危惧種、ツバサコハクカノコおよびカワアイを含む準絶滅危惧種のほか、本県では普通種であるカノコガイ、タケノコカワニナ、マガキおよびヤマトシジミがある。タケノコカワニナは、環境省は絶滅危惧Ⅱ類（VU）としているが、県内では各地に生息し、高知市の中心市街地の河川でも群生している。そのため、絶滅のおそれのない普通種とした上で注目種に選定した。

絶滅危惧種は2002年の6種から12種へと増加した。これは前述のとおり汽水産貝類以外を対象に加えたことによる。該当する種は、2014年以降の調査において、生息が確認されなかったイボウミニナ、確認地点がそれぞれ1か所しかなかったツボミおよびヒメアカガイを含む10種である。

一方、汽水産貝類のうち、2000年前後の調査では全く確認されなかったヘナタリおよび1か所でしか確認されなかったカワアイは、2014年以降の調査ではそれぞれ複数の水域の複数か所で群生が確認された。また、ツバサコハクカノコおよびフトヘナタリは、2014年以降も各地で確認された。そのため、これら4種は絶滅危惧種から準絶滅危惧種に変更した。その結果、汽水産貝類では、2002年に比べて絶滅危惧種は6種から2種に減少し、準絶滅危惧種は5種から9種に増加した。

汽水域および海水域に生息する貝類のほとんどは、幼生期に浮遊生活をするため分布範囲が広い。中には、イボウミニナのように北海道南部以南の日本を含む西部太平洋からインド洋まで分布している種もある。

移入種では、浦戸湾のコウロエンカワヒバリガイが注目される。本種は、既に1984年には湾内全域および湾内に流入する河川の汽水域に高密度で群生していた。ただし、浦戸湾以外では、浦ノ内湾のごく一部で確認されているにすぎない。浦戸湾流入河川の汽水域には、イガイダマシも定着しているが、浦戸湾以外では確認されていない。

三本健二

## 高知県レッドリスト（陸産貝類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
クビナガムシオイ <i>Cipangocharax placeonovitas</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
サルダアツブタムシオイ <i>Awalycaeus yanoshokoae</i>	絶滅危惧 I 類		
ホソキセルガイモドキ <i>Mirus rugulosus</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
ムロトキセルガイモドキ <i>Mirus murotonis</i>	絶滅危惧 I 類		
イヨギセル <i>Megalophaedusa iyoensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧 II 類	
タビトギセル <i>Megalophaedusa aratorum</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
シンチュウギセル <i>Megalophaedusa aenea</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
シロハダギセル <i>Tosaphaedusa akiratadai</i>	絶滅危惧 I 類		
シコクタケノコギセル <i>Stereophaedusa affinis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
トクサギセル <i>Stereophaedusa hiraseana</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
アズママルクチコギセル <i>Reinia masai</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
ハナコギセル <i>Reinia euholostoma</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
トカラコギセル <i>Reinia ashizuriensis</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
パツラマイマイ <i>Discus pauper</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IB類	
ヒラコベソマイマイ <i>Satsuma wiegmanniana</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
トサビロウドマイマイ <i>Nipponochloritis tosana</i>	絶滅危惧 I 類	絶滅危惧IA類	
カワリダネビロウドマイマイ <i>Nipponochloritis silvatica</i>	絶滅危惧 I 類		
カタマメマイマイ <i>Lepidopisum conospira</i>	絶滅危惧 I 類		
ムロトマイマイ <i>Euhadra murotonis</i>	絶滅危惧 I 類		
アツブタムシオイ <i>Awalycaeus abei</i>	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧 II 類	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>マルクチゴマガイ</b> <i>Diplommatina circumstomata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ナタネガイモドキ</b> <i>Pyramidula conica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>オオギセル</b> <i>Megalophaedusa martensi</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>コシボソギセル</b> <i>Megalophaedusa nankaidoensis nankaidoensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>シタツキギセル</b> <i>Megalophaedusa platyderula</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
<b>ナカムラギセル</b> <i>Tosaphaedusa cincticollis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>タキギセル</b> <i>Stereophaedusa hemileuca takii</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>モリヤギセル</b> <i>Stereophaedusa vasta moriyai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>イイジマギセル</b> <i>Stereophaedusa ijimae</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>オキノシマナミギセル</b> <i>Stereophaedusa japonica okinoshimana</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	2002年版では、ナミギセルと表記
<b>カモハラギセル</b> <i>Stereophaedusa kamoharai</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>アワクリイロベッコウ</b> <i>Japanochlamys awaensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>シコクベッコウ</b> <i>Bekkochlamys shikokuensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>オオツヤマイマイ</b> <i>Satsuma textilis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ヒラコウベマイマイ</b> <i>Aegista kobensis discus</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>タシマイマイ</b> <i>Aegista cavitectum</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
<b>ハダカケマイマイ</b> <i>Aegista aemula hadaka</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>カドバリオトメマイマイ</b> <i>Aegista carinata</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>スミスオトメマイマイ</b> <i>Aegista smithiana</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
<b>ギュリキマイマイ</b> <i>Euhadra eoa gulicki</i>	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	2002年版では、ギュリーキマイマイと表記
<b>ノミガイ</b> <i>Tornatellides boeningi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>スナガイ</b> <i>Gastrocopta armigerella armigerella</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ミジンマイマイ</b> <i>Vallonia costata</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ホソヒメギセル</b> <i>Megalophaedusa gracilispira</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ニセコスジギセル</b> <i>Megalophaedusa ventriluna</i>	準絶滅危惧		
<b>ナガオカモノアラガイ</b> <i>Oxyloma hirasei</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ミヤマオオベソマイマイ</b> <i>Aegista proba goniosomoides</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>コケマイマイ</b> <i>Aegista aemula subdivesta</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヒラケマイマイ</b> <i>Aegista pressa</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヤマガマイマイ</b> <i>Euhadra dixonii montivaga</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ホラアナゴマオカチグサ</b> <i>Cavernacmella kuzuuensis</i>	情報不足	情報不足	
<b>ナタネキバサナギガイ</b> <i>Vertigo eogea eogea</i>	情報不足	準絶滅危惧	

## 高知県レッドリストから除外された種（陸産貝類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>シコクヒロウドマイマイ</b> <i>Nipponochloritis hiromitadae</i>	除外	絶滅危惧Ⅱ類	トサビロウドマイマイの新参異名
<b>ヒメオカモノアラガイ</b> <i>Succinea lyrata</i>	除外	準絶滅危惧	
<b>オビシメクチマイマイ</b> <i>Satsuma zonata</i>	除外	準絶滅危惧	シメクチマイマイの新参異名

## 高知県レッドリスト（汽水・淡水産貝類）

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>ツボミ</b> <i>Patelloida conulus</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>ヒロクチカノコ</b> <i>Neripteron (Dostia) pileolus</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
<b>イボウミニナ</b> <i>Batillaria zonalis</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
<b>ナラビオカミミガイ</b> <i>Auriculastra duplicata</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	



和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備考
ミズコハクガイ <i>Gyraulus soritai</i>	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠA類	
ヒメアカガイ <i>Scapharca troscheli</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
マスオガイ <i>Psammotaena elongata</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
ムラサキガイ <i>Soletellina diphos</i>	絶滅危惧Ⅰ類		
ヒメカノコ <i>Clithon oualaniense</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
カハタレカワザンショウ <i>Nanivitrea ? sp.</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
ヤマトクビキレ <i>Truncatella pfeifferi</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
ミズゴマツボ <i>Stenothyra japonica</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
ニセマツカサガイ <i>Inversiunio yanagawensis</i>	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	
マゴコロガイ <i>Peregrinamor ohshimai</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
ユキガイ <i>Meropesta nicobarica</i>	絶滅危惧Ⅱ類		
ツバサコハクカノコ <i>Neritilia mimotoi</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	2002年版では、コハクカノコ属の1種と表記
コゲツノブエ <i>Cerithium coralium</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
カワアイ <i>Pirenella pupiformis</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
ヘナタリ <i>Pirenella nipponica</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠA類	
フトヘナタリ <i>Cerithidea moerchii</i>	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ) <i>Stenothyra edogawensis</i>	準絶滅危惧		
ヒナタムシヤドリカワザンショウ <i>Assimineea aff. parasitologica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	ムシヤドリカワザンショウから同定変更
ヨシダカワザンショウ <i>Assimineea ? yoshidayukioi</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
クリイロカワザンショウ <i>Angustassimineea castanea</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ヒラマキガイモドキ <i>Polypylis hemisphaerula</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	

和名・学名	高知県2018ランク	高知県2002ランク	備 考
<b>クルマヒラマキガイ</b> <i>Helicorbis cf. cantori</i>	準絶滅危惧	情報不足	
<b>タガイ</b> <i>Sinanodonta japonica</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヌマガイ</b> <i>Sinanodonta lauta</i>	準絶滅危惧		
<b>ハザクラ</b> <i>Gari minor</i>	準絶滅危惧	準絶滅危惧	
<b>ヒメマルマメタニシ</b> <i>Gabbia kiusiuensis</i>	情報不足		
<b>コウチミジンツボ</b> <i>Akiyoshia morimotoi</i>	情報不足	情報不足	
<b>イシガイ</b> <i>Unio douglasiae</i>	情報不足	絶滅危惧IA類	
<b>マツカサガイ</b> <i>Pronodularia japonensis</i>	情報不足	絶滅危惧IA類	
<b>スジホシムシモドキヤドリガイ</b> <i>Nipponomysella subtruncata</i>	情報不足		

原始紐舌類ヤマトニシ科

# クビナガムシオイ

*Cipangocharax placeonovitas*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

石灰岩地という特殊な環境で種分化をとげたとされているが、生息地では現在も石灰岩の採掘が行われており、生息域はさらに狭まっている。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

高知市

## 【生物学的特性】

殻長1.8～2.3mm、殻径3.1～3.8mm、4層前後。ムシオイガイ亜科の中では小型である。淡黄白色。体層の殻口側4分の1の部分は、前の螺層から離れて突き出る。殻表の成長脈は、体層の殻口側3分の2の部分で特に粗い。殻口は一旦完成したように肥厚するが、さらに再生したように伸びて肥厚し、二重唇となる。蓋は革質で、内面の中央部が乳頭状に突き出る。ムシオイ（虫負い）という名称は、体層の縫合に沿って細い虫のような呼吸管があることに由来する。クビナガ（首長）は、体層の殻口に近い部分が前の螺層から離れて伸びる形態から名付けられた。

## 【生息環境】

広葉樹の低木が繁る石灰岩地のガレ場に生息する。

## 【生息状況】

微小なため発見は容易でない。採掘を免れたガレ場でかろうじて種が維持されている。過去に確認されていても、近年は確認できなくなった地点がある。

## 【保全・保護対策】

生息地では今も石灰岩の採掘が行われている。何らかの方法で、保護区として現状を維持できるようにすべきである。

## 【特記事項】

高知市春野町荒倉をタイプ産地とする本県固有種である。石灰岩地には形態が特殊化した貝類が多く、ムシオイガイ亜科だけでも県内で3種が確認されている。今後、緻密な調査によって未記載種が発見される可能性もある。

## 【執筆者】

多田 昭

原始紐舌類ヤマトニシ科

# サルダアツブタムシオイ

*Awalycaeus yanoshokoae*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：—

環境省2017ランク：—

## 【選定理由】

2016年に新種記載されたばかりであるが、生息域が限定されており、個体数もきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

日高村

## 【生物学的特性】

殻長1.8～2.2mm、殻径3.8～4.5mm、3.5層前後。ムシオイガイ亜科の中では中型である。黄白色。蓋は石灰質で、内面の中央が盛り上がる。愛媛県の小天下島をタイプ産地とするタダアツブタムシオイによく似ているが、より大型で、首に見立てられる部分が高い。

## 【生息環境】

石灰岩地のガレ場の石の下に生息している。

## 【生息状況】

生息が確認されているのは2か所だけであり、どちらも範囲が狭く、個体数も少ないことから、きわめて脆弱な種と考えられる。殻色が付近の石の色によく似ているうえ微小なため、確認は容易でない。

## 【保全・保護対策】

現在の生息環境を保全することが重要である。地元の理解で貴重な種を保護する動きがあるが、具体的な対策はこれからの課題である。

## 【特記事項】

日高村の猿田洞内の約3万3000年前の堆積物から化石として発見され、2012年に和名が付けられたが、新種記載はされなかった。その後、付近で現生個体が発見され、2016年に新種として発表された。本県中部の石灰岩地の固有種である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイモドキ科

# ホソキセルガイモドキ

*Mirus rugulosus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内では3か所で確認されているにすぎず、各生息地の個体数はきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

徳島県、愛媛県、高知県、九州

## 【県内での分布】

馬路村、安芸市、中土佐町

## 【生物学的特性】

殻長17.8~20.1mm、殻径5.1~5.6mm、8層前後。キセルガイモドキ科の中では小型である。淡褐色。樹上性で、樹幹に登っていることが多い。同属のムロトキセルガイモドキとは形態、殻色および生息環境に微妙な違いがある。

## 【生息環境】

谷沿いの広葉樹林の樹幹に生息している。現在確認されている生息地では、大人の腕ほどの太さの幹に生息しているが、個体数が少なく、注意深く探さなければ確認が困難である。

## 【生息状況】

本県の各生息地では単独での確認がほとんどで、複数個体の例は少ない。詳しい生態は明らかでないが、少産の種と考えられる。

## 【保全・保護対策】

生息地付近の環境を保全すべきである。

## 【特記事項】

2002年の高知県レッドデータブックでは外部形態による分類に基づき、本種の中に本県固有種とされていたムロトキセルガイモドキを異名として包含させていた。しかし、上記のように両者には殻の形態のほかにも相違点があるので、分子系統解析を含めた総合的な観点での分類体系が提示されるまではムロトキセルガイモドキとは別種として扱う。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイモドキ科

# ムロトキセルガイモドキ

*Mirus murotonis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：-

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

生息地がタイプ産地しかない。しかも、生息範囲がきわめて限定されているうえ個体数が少なく、絶滅寸前と判断される。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

室戸市

## 【生物学的特性】

殻長17.5~21.0mm、殻径5.5~6.9mm、8層前後。キセルガイモドキ科の中では小型である。紫がかった褐色で、チャイロキセルガイモドキに似ている。殻口は卵形で、口縁は白く、背面に反り返る。

## 【生息環境】

生息地は海岸部の自然林であり、同属のホソキセルガイモドキの生息環境とは異なる。樹上性で、広葉樹の樹幹に這い登って活動する。冬季には地表に降り、落葉下で越冬する。

## 【生息状況】

近年、個体数が急激に減少し、目撃する機会がほとんどない。2014年以降の調査では、少数個体が確認されたにすぎない。

## 【保全・保護対策】

タイプ産地は貝類愛好者の間では知られている。樹上性のため人目につきやすく、採集圧が心配される。産地一帯は室戸阿南海岸国定公園の特別保護地区に指定されていて、採集には特別な許可が必要であるものの、減少傾向に歯止めがかからない。環境保全は必須であるが、移殖も考慮する必要がある。

## 【特記事項】

本県固有種である。2002年の高知県レッドデータブックではホソキセルガイモドキの異名として扱っていたが、分類学上問題があるので、別種として扱う。本種群には明確な識別形質がなく、分子系統解析を含めた検討が必要である。

## 【執筆者】

多田 昭



真有肺目キセルガイ科

# イヨギセル

*Megalophaedusa iyoensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では中西部山岳部の限られた場所では確認されておらず、個体数は年々減少している。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

仁淀川町、津野町、四万十市

## 【生物学的特性】

殻長15.9~23.1mm、殻径3.9~4.8mm、12層前後。キセルガイ科の中では中型である。淡黄白色で、老成すると白色になる。このような殻色はキセルガイ科では特異である。殻の内面にある腔襞は右側面にあり、逆J字状。仁淀川町の鳥形山に生息する個体は特に大型である。

## 【生息環境】

うっそうと繁る広葉樹林の倒木および落葉の下のほか、石灰岩地の石の下にも生息する。

## 【生息状況】

分布の中心は愛媛県にあり、本県の生息地は分布の南縁部に当たる。近年、県内ではどの生息地でも個体数が激減し、2014年以降の調査では確認されていない。

## 【保全・保護対策】

生息域の環境を大きく改変しないよう保全すべきである。

## 【特記事項】

1895年にSykesによって記載された四国産キセルガイ科貝類のうち、Kinnayamaをタイプ産地とする*Clausilia ignobilis*は長い間特定されていなかった。当初はイヨギセル=*C. ignobilis*と考えられていたが、記載図からアベギセル=*C. ignobilis*とされたため、イヨギセルは愛媛県大洲市長浜町金山出石寺をタイプ産地として新種記載された。1965年の土佐産貝類総目録ではアベギセルの産地として天狗高原も挙げられているが、その産地の種はイヨギセルである。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# タビトギセル

*Megalophaedusa aratorum*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

限られた樹種に依存しており、その樹木の枯死または伐採により死滅する。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

香美市から四万十市までの2市7町1村

## 【生物学的特性】

殻長9.7~12.7mm、殻径2.3~2.6mm、10層前後。キセルガイ科の中では小型である。淡黄白色で、殻表に粗い縦肋がある。殻の内面にある腔襞はT字状で、殻形がよく似たホンヒメギセルの三の字状や逆J字状と異なる。

## 【生息環境】

主に社寺林にある広葉樹の樹幹や根元に生息し、樹幹のコケを食している。微妙な環境の変化にも不応で、樹相が変われば死滅する。本種とシンチュウギセルは生態がよく似ており、両種が同所的に生息していることがある。

## 【生息状況】

どの生息地でも個体数が減少し、生きた個体が確認されない産地も増えている。

## 【保全・保護対策】

社寺林のような狭い森の限られた樹木にしか生息していないため、周辺を含めた環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

タイプ産地は、シンチュウギセルと同じ津野町下半山である。1981年の徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌では、徳島県内の産地として2か所が記録されているが、標本が見つかっておらず、その後の調査でも確認できていない。したがって、現段階では高知県固有種とする。和名のタビト(田人)は農民のことで、殻の縦肋を農地の畝になぞらえて付けられたと思われる種小名の和訳である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# シンチュウギセル

*Megalophaedusa aenea*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

樹木に依存しており、樹木の枯死または伐採による環境改変が進行している。

## 【国内分布の概要】

奈良県、徳島県、愛媛県、高知県、九州中央部山岳部

## 【県内での分布】

いの町、佐川町、越知町、仁淀川町、津野町

## 【生物学的特性】

殻長10.8~15.0mm、殻径2.5~3.3mm、10層前後。キセルガイ科の中では小型である。タビトギセルよりは一回り大きい。淡褐色ないし褐色で、鈍い光沢があるが、老成すると白く錆びたようになる。殻表に細かい成長肋がある。殻の内面にある腔襞は、短い平行な襞が数本あってハシゴ状を呈する。まれにやや小型のタビトギセルおよびよく似た大きさのトサギセルが同所的に観察されるが、そこでのトサギセルは殻表が平滑で、慣れると識別は容易である。

## 【生息環境】

広葉樹の古木の樹幹、樹洞および根元に生息している。タイプ産地がタビトギセルと同じ津野町下半山であり、両種が同所で発見されたと記述されている。近年、佐川町および津野町の古木でも同所的な分布が確認されている。

## 【生息状況】

狭い樹洞内に多産していたことがあるが、環境の変化で激減した。現在も健全な個体群が維持されている生息地はきわめて少ない。従来は原生林に普通に生息していたと想定されるが、依存している樹木の伐採または枯死により生息地が狭まったと考えられる。

## 【保全・保護対策】

生息地付近では、針葉樹の植林または周囲の樹木の伐採をせず、現状を維持すべきである。長年適応してきた種にとって、環境の改変は絶滅を意味する。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# シロハダギセル

*Tosaphaedusa akiratada*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵26

高知県2002ランク：-

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

生息地が山岳部のガレ場2か所に限定され、しかも個体数がきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

いの町

## 【生物学的特性】

県内産の個体は殻長15.8~19.0mm、殻径3.3~3.6mm、11層前後。キセルガイ科の中では小型である。愛媛県では殻長10.5mm、殻径2.6mmのより小型の個体も出現する。白色。殻の内面にある腔襞は、長い主襞に平行な短い上腔襞があり、より短い下腔襞との中間に1本ないし4本の短い平行襞が並ぶ。

## 【生息環境】

山岳部の広葉樹林の、こぶし大の石がごろごろしているガレ場の石の下に生息している。タイプ産地は愛媛県内のスギの人工林である。広葉樹林が本来の生息地と想定されるが、愛媛県では多様な環境に適応している。

## 【生息状況】

ガレ場に生息しているため確認は容易ではない。2か所の生息地ともに個体数がきわめて少なく、環境が変われば容易に絶滅する。

## 【保全・保護対策】

生態的特性から、生息域の改変がなければ種は細々とでも維持できる。地元の方の理解のもと、生息地周辺の環境を保全する必要がある。

## 【特記事項】

愛媛県レッドデータブック2014では愛媛県固有種とされたが、2016年の調査で本県でも発見された。また、これまで *Neophaedusa* に分類されていたが、2017年の論文で分子系統解析に基づきナカムラギセルと同じ *Tosaphaedusa* に属が変更された。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# シコクタケノコギセル

*Stereophaedusa affinis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

生息地が限定され、個体数がきわめて少なく、確認が困難になりつつある。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

津野町

## 【生物学的特性】

県内産の個体は殻長22～25mm、殻径4.5～4.8mm、14層前後。キセルガイ科の中では中型である。細長く、殻頂部が少し膨らみ、棍棒状となる。淡褐色。殻口は、全体の大きさの割に小さく特異な形態である。殻の内面にある腔襞は右側面に位置し、三の字状を呈する。

## 【生息環境】

ブナ林の倒木の下に生息している。深い山の限定された場所で発見されており、そこから少しでも離れると生息していない。

## 【生息状況】

2014年の調査で、1975年の発見から39年ぶりに生きた個体が再発見され、健在が確認された。現在までに数個体が確認されただけの希少な種である。限定された場所に生息しているので、今後とも機会をとらえ、追跡調査をする必要がある。

## 【保全・保護対策】

近年、針葉樹の植林によりブナ林の面積が狭められている。限定された場所でかろうじて種を維持しているような希少な種にとって、周囲の環境変化は絶滅に直結する。地元の理解を得て、環境の保全に努めなければならない。

## 【特記事項】

たけのこの皮を剥いたような形と四国で見つかったことから、シコクタケノコギセルの和名が与えられた。新種記載では、本県の発見地で得られた標本をホロタイプにしたかったが、そこでは個体数が少なく絶滅が心配されたので、後に発見された愛媛県産の標本をホロタイプにしたという経緯がある。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# トクサギセル

*Stereophaedusa hiraseana*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

生息地が西部の離島に限定されている。近年、個体数が減少しつつある。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

宿毛市、大月町

## 【生物学的特性】

殻長29～32mm、殻径6.0～6.5mm、13層前後。キセルガイ科の中では大型である。紫がかった褐色で、殻表に粗い成長肋があり、トクサの茎の表面を連想させることからトクサギセルと名付けられた。老成すると殻頂部が欠損し、尻折れ状になる個体が多い。殻の内面にある腔襞は右側面に位置し、やや斜めの三の字状を呈する。

## 【生息環境】

タイプ産地の沖の島では、うっそうと繁った広葉樹林の太い樹幹に生息している。大月町の離島では、広葉樹林の中の限られた樹に生息している。冬季には地表の落葉下で確認されることがある。

## 【生息状況】

本種が発見された明治後期には、多くの個体が生息していたと考えられる。一時島の人口が増えた時期に自然林が伐採され、生息地が畑と化した。最近では島を一周する道路の延長工事で生息地および付近の環境が改変され、個体数がますます減少している。また近年、樹上で見かけることが少なくなった。

## 【保全・保護対策】

生息が確認されている樹木および付近の環境を大きく変えないようにすることが重要である。減少傾向が続けば、よく似た環境への移殖も考えなければならない。

## 【特記事項】

本県固有種である。沖の島は本種を含む数種の四国固有種のタイプ産地となっており、分類学的研究上重要である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# アズママルクチコギセル

*Reinia masaoi*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

## 【選定理由】

現在までに知られている生息地では既に絶滅したか、または絶滅寸前である。

## 【国内分布の概要】

徳島県、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

香美市、いの町、越知町、仁淀川町、須崎市、津野町

## 【生物学的特性】

県内産の個体は殻長12.5~14.8mm、殻径3.3~3.7mm、8.5層前後。キセルガイ科の中では小型である。殻は薄質で脆弱。褐色の地に縫合下が淡褐色になる染め分け状で、成長肋に沿って白い縞状の模様走る。殻口内にある歯状突起は上板の発達弱く、下板がかすかに突き出る程度である。

## 【生息環境】

広葉樹の樹幹および根元に生息している。

## 【生息状況】

近年、生きた個体の確認例がきわめて少なくなった。限られた樹木で、少数個体によりかろうじて種が維持されている。既産地のうちの半数で絶滅した。減少傾向はこれからも続くと思われる。

## 【保全・保護対策】

樹上性のため、生息している樹木が伐採されたり枯死したりすると絶滅する。また、周囲の環境が変わると絶滅する。樹上性の貝は全種が減少傾向にあり、本種も絶滅寸前である。生息している樹を保護するためにも、地元の協力を得て効果的な保護対策をたてる必要がある。

## 【特記事項】

香川県を除く四国の固有種で、越知町横倉山がタイプ産地である。徳島県の個体は本県の個体よりひと回り小さい。本種の新種記載は1940年で、1939年末に本種を発見した陸産貝類研究家の東 正雄氏に献名された。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# ハナコギセル

*Reinia euholostoma*

高知県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

## 【選定理由】

県西部の2か所で見つかったが、2002年以降1か所の依存木が枯死したため生息地が1か所になってしまった。樹上性のキセルガイで、絶滅に直面している。

## 【国内分布の概要】

静岡県、高知県、九州中南部

## 【県内での分布】

三原村（絶滅）、宿毛市

## 【生物学的特性】

殻長7.7~9.7mm、殻径2.4~2.6mm、7.5層前後。キセルガイ科の中では小型である。淡褐色で、成長脈に沿って不規則な白い斑が走る。殻は薄くて壊れやすい。殻口は楕円形で、殻口内の歯状突起は上板を欠き、下板のみという特異な形態である。

## 【生息環境】

広葉樹の樹幹の樹皮下に生息している。雨上がりのような空中湿度の高い時には樹皮上を這っていることがある。

## 【生息状況】

三原村では絶滅してしまい、現在は宿毛市の1本の樹上に少数個体が生息しているのみと考えられる。

## 【保全・保護対策】

本種の希少さ、生息の重要性を地元の方に理解していただき、できるだけ現状を維持しながら増殖を図っていくことが望まれる。四国で唯一の個体群を何としてでも保存しなければならぬ。

## 【特記事項】

本県での発見前には、九州と伊豆半島という大きく離れた2地点での分布が知られていた。本県での発見は、2つの産地の間をつなぐという点で意義あるものであった。日本貝類学会発行の「貝類の分類と分布」の中でも、広義の襲速紀要素型分布をする種として取り上げられた。三原村での絶滅は惜しまれる。

## 【執筆者】

多田 昭



真有肺目キセルガイ科

# トカラコギセル

*Reinia ashizuriensis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

海岸部の3か所で確認されているだけである。そのうちの1か所では、過去には多産したが、近年は個体数が大きく減少している。

## 【国内分布の概要】

愛知県、高知県、宮崎県、鹿児島県

## 【県内での分布】

高知市、黒潮町、土佐清水市

## 【生物学的特性】

殻長9.3~11.5mm、殻径2.7~3.0mm、7層前後。キセルガイ科の中では小型である。巻き数が少なく、太短い。淡褐色の地に、成長肋に沿った白っぽい縞模様がある。殻口は比較的大きく、唇縁は白く肥厚して外側に向けて広がる。殻口内には上板および下板があり、それらの先端部が向かい合う特徴的な形態をしている。同属のヒロクチコギセルに比べれば殻形は細く、すらりとしている。また、ヒロクチコギセルは殻口内の歯状突起が痕跡的であることから、両種を識別することができる。卵胎生。

## 【生息環境】

広葉樹の樹幹の樹皮下および隙間に生息している。薩南諸島から黒潮によって運ばれて沿海に漂着し、生息域を拡げたと考えられる。

## 【生息状況】

足摺岬では、かつて多数の個体が生息していたヤブツバキの群落が荒廃し、減少傾向に歯止めがかかっていない。高知市および黒潮町では生息個体数が極端に少なく、いずれ絶滅する可能性が大きい。

## 【保全・保護対策】

本種は環境の変化に弱く、生息域の植物群落の保全が必要である。

## 【特記事項】

足摺岬(足摺岬)をタイプ産地として1968年に新種記載された。そのときの和名はアシズリコギセルであったが、現在はトカラコギセルが使われている。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目バツラマイマイ科

# バツラマイマイ

*Discus pauper*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)・近畿地方以西個体群

## 【選定理由】

北方系の種で、山岳部の限定された場所で少数見つかるにすぎない。

## 【国内分布の概要】

北海道、本州、高知県

## 【県内での分布】

大川村

## 【生物学的特性】

殻長4mm、殻径8mm、4.5層。低く平らで円盤状。赤褐色で、殻表に細かい縦肋がある。体層周縁は角張るが、鋭くはない。殻口縁は成貝でも肥厚しない。臍孔は広く、殻径の3分の1を占める。殻形は龍河洞付近に普通に産するジタロウマイマイの幼貝に似ている。

## 【生息環境】

ブナの倒木の下に生息している。寒冷な気候を好むため、暖地では高標高の限定された場所にしか生息していない。地球温暖化は、本種にとっては棲みにくい環境への変化をもたらすと思われる。

## 【生息状況】

四国では本県でのみ生息が確認されている。確認個体は数個体と極端に少ない。2015年の調査でも生きた個体が確認され、かろうじて種が保たれていることが明らかとなった。

## 【保全・保護対策】

本種が生息しているブナ林では近年、ブナの枯死が相次ぎ、ブナそのものの生育が危ぶまれている。ブナ林の保全が急務である。

## 【特記事項】

四国では1956年に徳島県那賀町の甚吉森で発見され、当時は四国唯一の産地であった。しかし、その後再三の調査にもかかわらず再発見されていないことから、絶滅した可能性が高い。高山植物と同様に、寒冷な環境に適応した種が氷期に南へ分布を拡げ、その後の温暖化で寒冷な高山に逃避した遺存種と考えられている。環境省は近畿地方以西の本種をLP(絶滅のおそれのある地域個体群)としている。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# ヒラコベソマイマイ

*Satsuma wiegmanna*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

生息地がきわめて狭い範囲の石灰岩地に限定されているうえ、長期にわたる石灰岩の採掘により狭められてきた。生息環境の悪化が顕著で、個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

南国市

## 【生物学的特性】

殻長14mm、殻径22mm、6層前後。殻は低くて平ら。淡い黄褐色で、鈍い光沢がある。体層の周縁には弱い角があり、そこに不明瞭な褐色帯をめぐらす。臍孔は深い。低い殻形は、シメクチマイマイをはじめとする近縁種とは異なる。

## 【生息環境】

石灰岩地の雑木林に生息する。落ち葉の下および下草の根元に多い。生息地での石灰岩採掘の歴史は古く、採掘により生息地のほとんどが失われた。さらに、残された生息地に自動車道が建設されることになり、着工前の2010年に移植された。しかし、移植可能な範囲は限りなく狭いうえ竹林と隣接しており、今後の植生の変化が懸念される。

## 【生息状況】

南国市稲生の石灰岩地の固有種である。2010年に移植された地点では、2014年の調査において幼貝を含めて生息が確認された。

## 【保全・保護対策】

かろうじて残されたわずかな生息地の環境を確実に保全することは必須であるが、移植先を含めて生息状況を継続的に監視する必要がある。

## 【特記事項】

高知県希少野生動植物保護条例に基づき県指定希少野生動植物に指定され、捕獲、採取、殺傷または損傷が禁止されている。

## 【執筆者】

山崎博継

真有肺目ナンバンマイマイ科

# トサビロウドマイマイ

*Nipponochloritis tosana*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵27

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

自然林に生息しており、生息環境の悪化により生息地が減少する危険性が高い。

## 【国内分布の概要】

近畿、淡路島、四国

## 【県内での分布】

室戸市から四万十市までの7市8町5村

## 【生物学的特性】

殻長9.5~17mm、殻径15~27mm、4.5~5.5層。殻は平巻きに近く、薄質でもろい。暗褐色ないし淡褐色。体層は大きく、その長さは殻長の大部分を占める。体層周縁は円い。殻表は全体に短い殻皮毛があり、ピロード状。殻口外唇は反転も肥厚もしない。ただし、十分に成長した個体では、まれに外唇縁の内側に白色の滑層をリング状にめぐらす。臍孔は小さく、軸唇の反転により半ば覆われる。

## 【生息環境】

主にブナ林に生息し、樹洞および倒木の下に潜んでいる。また、腐葉土に覆われた場所およびガレ場にいることもある。

## 【生息状況】

県内全域に分布しているが、各生息地とも個体数は少ない。また、過去に確認された場所であっても、再発見の例は少ない。環境の変化に弱く、樹木の伐採または植林が行われれば、その場所の個体群はたちまち消滅してしまう。

## 【保全・保護対策】

本種が生息する自然林は神社の参道沿いおよび舗装された県道沿いにかろうじて残っているにすぎず、その保全が必要である。

## 【特記事項】

タイプ産地は現在の須崎市新荘である。2002年の高知県レッドデータブックでは、本種は絶滅危惧ⅠA類とされ、同属のシコクピロウドマイマイは絶滅危惧Ⅱ類とされていた。その後、2010年にシコクピロウドマイマイは本種の新参異名とされた。

## 【執筆者】

山崎博継

真有肺目ナンバンマイマイ科

# カワリダネビロウドマイマイ

*Nipponochloritis silvatica*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵28

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

2016年に県内で初めて確認された。山岳部の1か所だけに生息している希少な種で、個体数がきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

島根県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

本山町

## 【生物学的特性】

県内産の個体は殻長12mm、殻径17mm、5層。平巻き状で、殻頂部は少し盛り上がる。褐色で、ピロウド状の細かい殻皮毛がある。ピロウドマイマイ類は殻口縁が肥厚しないため、成貝と幼貝との区別が難しい。上記の個体は生殖器がほぼ形成されていたものの、殻の大きさや形態から垂成貝と考えられる。本県に広く分布するトサビロウドマイマイとは、生殖器の陰茎付属肢が内部へ陥入していることで識別される。

## 【生息環境】

ブナ林の湿気のある倒木の下および狭い空洞に生息している。ピロウドマイマイ類は殻口が大きくて蓋はなく、直射日光を避けて軟体部を乾燥から守る習性があると考えられている。秋季のように空中湿度の高い季節には、地表まで出てくることがある。

## 【生息状況】

2016年の調査では生貝1個体および死殻1個が得られたにすぎない。現在までに四国では4か所、11個体を確認している。個体数の少ない種である。

## 【保全・保護対策】

生息域の自然環境を改変しないようにすることが重要である。特に、多様な生物を温存するブナの原生林は保全していかなければならない。

## 【特記事項】

徳島県でヒメビロウドマイマイとして記録されていた種は、最近の解剖の結果、本種であることが判明した。本種をトサビロウドマイマイの一型とする見解もあるが、生殖器の形態が特異で、しかもその形態が安定しており、別種として扱う。本種の発見で、本県の陸産貝類相に新たに1種が加わるようになった。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# カタマメマイマイ

*Lepidopisum conospira*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵28

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

最近、県内で発見された種の一つ。2か所で確認されているが、1か所は数個体、もう1か所も生きた個体は少ない。

## 【国内分布の概要】

中部以西の本州、徳島県、高知県

## 【県内での分布】

香美市、南国市

## 【生物学的特性】

筆者が採集した個体は殻長5.1mm、殻径5.8mm、5.5層。丸い小型のエンドウの種子に似た貝である。淡褐色で、産毛のような細かい殻皮毛が密生している。

## 【生息環境】

大きな川沿いの堤防林、畑、低山の自然林、高山の草本群落および石灰岩地と多様な環境に生息している。必ずしも植物の茎または葉に付着するとは限らず、人工物に這い登っていることがある。生態が不明なためか発見は偶然のことが多いようである。今回も、県外の方が偶然発見し、その情報で本県にも生息していることが判明した。

## 【生息状況】

香美市ではダム湖沿いの民家の軒で発見され、付近の草地でも少数が見つかった。南国市では川沿いの堤防林の落葉の下で少数が見つかった。生息地の詳しい位置情報に基づいて調査したが、確認されたのは1個体だけであった。現在のところ2産地だけで、しかも生息状況もはっきりしていない。

## 【保全・保護対策】

生息地の環境保全を図りながら観察を継続していく必要がある。

## 【特記事項】

陸産貝類は森林に生息している種が多いが、本種のように必ずしも森林性ではなく、平地の草地に生息し、川沿いの人工物に付着するような貝の生活史には不明な部分が多い。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# ムロトマイマイ

*Euhadra murotonis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵28

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息域が限られ、個体数が少なく、減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

室戸市

## 【生物学的特性】

殻長16.4～18.6mm、殻径21.5～25.1mm、6層前後。マイマイ属の中では小型である。淡褐色で、褐色の色帯がある個体が一般的であるが、無帯の個体もいる。従来はセトウチマイマイの地方型とみなされていたが、殻高が大きい特異な形態および分子系統解析に基づき独立種とされた。

## 【生息環境】

広葉樹の樹幹に生息し、地表で越冬する。通常は社寺林に生息しているが、その近くの自然林にも生息する。

## 【生息状況】

室戸地方の固有種である。近年、個体数が減少し、見かける機会が急に少なくなった。特に、色帯のない無帯の個体が多く生息していた産地では絶滅寸前になっている。樹上性のため人の目に付きやすく、採集圧を受けやすい。減少の要因は自然環境の変化もあるが、乱獲も考えられる。

## 【保全・保護対策】

タイプ産地一帯は室戸阿南海岸国定公園の特別保護地区に指定されていて、採集には特別な許可が必要である。ただ、古くから生息地が知られており、今後も観光客に紛れた無許可の採集がないとは言えない。地元の理解のもと、積極的な啓蒙活動が必要である。

## 【執筆者】

多田 昭



# ツボミ

*Patelloida conulus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵30

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

内湾の干潟に生息するウミナ科貝類の殻に付着するという特殊な生態の貝である。生息地が限定され、個体数も少ない。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

宮城県以南の本州、四国、九州、沖縄島

## 【県内での分布】

宿毛湾

## 【生物学的特性】

殻口長径1 cm。口絵写真の個体は小型で、殻口長径6.3mm、殻口短径4.7mm、殻の高さ3.7mmである。他のユキノカサガイ科貝類に比べて、殻口長径に対する殻の高さの割合が大きいことが特徴である。殻は薄質。殻頂は中央よりやや前に位置する。殻表には多数の放射状の細肋がある。

## 【生息環境】

内湾の干潟に生息し、通常はウミナ科貝類に付着するが、礫に付着することもある。

## 【生息状況】

2014年以降の調査では、宿毛湾の河口干潟において、ヤドカリの入ったイボウミナナの死殻に付着した1個体が確認された。1965年の土佐産貝類総目録では、代表的な産地名は浦戸湾および浦内湾とされている。そのうち浦ノ内湾では、各地にウミナ科貝類が群生しているものの、2014年以降の調査では本種の付着は確認されなかった。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

本種は、最初は独立種とされたが、後にヒメコザラの亜種とされたり、シボリガイが特殊な生態によって特異な形態に変異した型と考えられたりした。現在では独立種と考えられている。

## 【執筆者】

三本健二

# ヒロクチカノコ

*Neripteron (Dostia) pileolus*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵30

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地が限定されているうえ、各生息地での個体数が少ない。また、本種の生息地となるような河口汽水域は、本県ではもともときわめて狭い。

## 【国内分布の概要】

本州中・西部、四国、九州

## 【県内での分布】

東洋町、浦戸湾、四万十市

## 【生物学的特性】

殻長1.5cm、殻径2 cm。螺塔が高まらず、平巻きに近い。楕円体を縦半分にしたような形をしている。殻口域はきわめて広い。軸唇に広がる滑層は前後に張り出す。軸唇縁には細かい鋸歯がある。蓋は石灰質で、半円形をしている。

## 【生息環境】

河口汽水域の干潟において、アシ原およびその周辺に生息する。

## 【生息状況】

2014年以降の調査では、上記の3か所で生息が確認された。東洋町ではこれまで確認記録がなかったが、1地点で主に流木に付着した15個体が確認された。浦戸湾では1個体ではあるが、1982年以来34年ぶりに確認された。四万十市ではこれまでに引き続き、わずかな個体が確認されたのみである。本種は1965年の土佐産貝類総目録には掲載されてい

ない。本種の化石は、高知市の沖積層（かつての浦戸湾の堆積物）から産出している。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような汽水域の河口干潟は、本県ではもともときわめて狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形、底質および植生を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

2002年の高知県レッドデータブックでは、「未成貝が数個体確認された」と記述し、本種の未成貝として写真を掲載したが、それらは未記載種のウスベニツバサカノコの成貝であることが判明した。その産地は香南市である。

## 【執筆者】

三本健二

オニノツノガイ上科ウミミナ科

# イボウミミナ

*Batillaria zonalis*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵30

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が限定されている。近年では、2005年から2009年までの間に浦ノ内湾を含む3つの水域で生きた個体が採集されているが、2014年以降の調査では確認されなかった。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

北海道南部、本州、四国、九州、南西諸島

## 【県内での分布】

浦ノ内湾、黒潮町、宿毛湾

## 【生物学的特性】

殻長4cm。殻表に螺肋と太い縦肋がある。殻口外唇の上部は明らかに湾入し、この点でウミミナ科の他種と識別できる。緑藻類のアナアオサを食するとされている。

## 【生息環境】

内湾の潮間帯中部から下部にかけての砂泥干潟に生息する。徳島県では、ヘナタリと同所に生息している。

## 【生息状況】

1965年の土佐産貝類総目録では代表的な産地名を宇佐および浦内湾としている。2010年の高知大学修士論文によれば、生きた個体が浦ノ内湾で2006年、2007年および2009年に、宿毛湾で2005年に、黒潮町で2007年に採集されている。2014年以降の調査では、上記の場所を含め生きた個体は確

認されなかった。ただし、黒潮町および宿毛湾の河口干潟において、ヤドカリが利用している死殻が多く確認され、中にはほとんど損壊も摩耗もない殻があった。高知市地下の沖積層（かつての浦戸湾の堆積物）からは、本種の化石が多産する。例えば、布師田では約7000年前の層準から多産している。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

三本健二

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

真有肺目オカミミガイ科

# ナラビオカミミガイ

*Auriculastra duplicata*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

□絵30

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が1か所に限定されている。また、本種の生息地となるような河口汽水域は、本県ではもともときわめて狭い。

## 【国内分布の概要】

三河湾以西の本州、四国、九州

## 【県内での分布】

四万十市

## 【生物学的特性】

殻長1cm。殻は楕円体状で、螺塔は低い。殻頂部は欠損することが多い。縫合は明瞭であるが、くびれない。殻表には彫刻はなく、光沢のある黄褐色の殻皮に覆われる。殻口には、内唇下端に1本の強い褶、軸唇に二分した1本の褶がある。同じ科のオカミミガイは殻長2.5cmで、本種より大きく、殻形も異なるが、未成貝は本種によく似ている。ただし、オカミミガイでは軸唇の褶は二分せず、縫合直下の殻表に4本前後の螺肋がある。

## 【生息環境】

河口汽水域の潮間帯上部から潮上帯にかけて、アシ原およびその周辺に生息する。

## 【生息状況】

生息が確認されているのは、一つの河口域の複数地点である。底質上にある石や瓦の下に生息している。1965年の土佐産貝類総目録には掲載がなく、愛媛県在住の研究者によって1999年に県内で初めて確認された。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような河口汽水域の干潟は、本県ではもともときわめて狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形、底質および植生を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

三本健二

水棲目ヒラマキガイ科

# ミズコハクガイ

*Gyraulus soritai*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が湧水に由来する湿地および湿田に限定されている。2014年以降の調査では、過去に生息が確認された場所でも確認されなかった。

## 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

## 【県内での分布】

高知市，四万十市

## 【生物学的特性】

ホロタイプは殻長0.9mm，殻径2.8mm。殻は平巻きに近く，円盤状で，左巻きである。上面は広い臍孔のようにくぼむ。殻底は中央が僅かに突き出て螺塔のように見え，この点で同じ科の他の種とは異なる。殻は半透明。殻表は平滑である。殻形が陸産種のコハクガイに似ているため，ミズコハクガイと名付けられた。ただし，殻の凹凸は上下逆である。

## 【生息環境】

湿地および湿田に生息している。湿地で浮葉植物の葉の裏に付着している個体が確認されやすい。湧水時には堆積した枯れ草の下にいる。

## 【生息状況】

県内では2か所での確認記録がある。高知市春野町では，香川県在住の研究者によって1990年3月および2008年6月に確認されているが，その後再確認されていない。四万十市では，1999年9月には浮葉植物の葉裏に付着している複数個体が確認されたが，2014年以降の調査ではまったく確認されていない。本種は1976年に埼玉県行田市産の標本に基づき新種記載された。

## 【保全・保護対策】

湿地および湿田は，湧水によって成り立っているため，水源地まで含めた環境の保全が必要である。また，本種が確認された場所は平地に位置し，畑または宅地に改変される可能性があり，注意を要する。

## 【執筆者】

三本健二

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

フネガイ目フネガイ科

# ヒメアカガイ

*Scapharca troscheli*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵30

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

生息地が限定されているうえ，確認された個体数がきわめて少ない。今回のレッドリスト改訂で，汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため，本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

本州，四国，九州

## 【県内での分布】

浦ノ内湾

## 【生物学的特性】

殻長4.5cm，殻高3.5cm，殻幅3cm。殻表は黒褐色の殻皮に覆われる。殻表に24本前後の放射肋がある。左殻の放射肋上には顆粒がある。サルボウガイは本種に似ているが，もっと大きくて殻長6cmに達し，放射肋が28～32本と多い。

## 【生息環境】

内湾の干潟の泥底ないし砂泥底内に生息する。

## 【生息状況】

2012年の論文では，浦ノ内湾内の2地点で多くの死殻が得られ，そのうち8個が合弁であったとされている。2016年の調査でも，底質に埋もれた状態の合弁死殻が得られた。1965年の土佐産貝類総目録では，代表的な産地名は浦内湾とされている。また，西宮市貝類館には，1956年の日付のある土佐浦内産の標本 (No. 01563) が保管されている。なお，宿毛市の宿毛貝塚 (縄文時代) から本種の殻が出土している。高知市地下の沖積層 (かつての浦内湾の堆積物) では，布師田の約7000年前の層準から化石が産出している。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は，本県ではもともと狭いうえ，古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

三本健二

ザルガイ目シオサザナミ科

## マスオガイ

*Psammotaena elongata*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

生息地が限定されている。かつて浦戸湾で生息が確認されているが、2014年以降の調査では確認されなかった。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

### 【国内分布の概要】

紀伊半島以南の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

浦戸湾

### 【生物学的特性】

殻長5cm、殻高3cm、殻幅2cm。殻は前後に長い。前縁は円く、後縁は斜めに切断状となる。殻は紫色で、殻表は緑褐色の殻皮で覆われる。

### 【生息環境】

内湾奥部の潮間帯の砂泥底ないし砂礫底内に生息する。

### 【生息状況】

2014年以降の調査では生息が確認されなかったが、1984年には浦戸湾で生きた個体が採集されている。また、1965年の土佐産貝類総目録では、代表的な産地として浦戸湾および浦内湾が示されている。さらに古い記録としては、西宮市貝類館に1945年（標本番号01177）および1947年（同01176）の日付のある浦戸湾産標本が所蔵されている。

### 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

ザルガイ目シオサザナミ科

## ムラサキガイ

*Soletellina diphos*

高知県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地が限定されており、最近では1か所で生息が確認されただけである。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

### 【国内分布の概要】

房総半島以南の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

浦ノ内湾

### 【生物学的特性】

殻長12cm、殻高6cm、殻幅3cm。殻は前後に長い。前縁は円く、後縁はやや切断状となる。殻は紫色で、殻表には殻頂から斜め後方の腹縁に向かって伸びる2本の白い放射帯がある。殻皮は褐色をしている。

### 【生息環境】

内湾の干潟から水深30mまでの砂泥底に深く潜って生活する。

### 【生息状況】

近年の調査では生息が確認されていなかったが、2016年の文献において浦ノ内湾で生きた個体が確認された状況が報告されている。1965年の土佐産貝類総目録では、代表的な産地として宇佐が示されている。

### 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二



原始紐舌類ヤマトニシ科

# アツブタムシオイ

*Awalycaeus abei*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では香美市の石灰岩地の限定された場所だけに生息するが、個体数が少なく、減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

徳島県、高知県

## 【県内での分布】

香美市

## 【生物学的特性】

殻長1.5mm、殻径3.0～3.5mm、3.5層前後。微小で扁平な貝である。ムシオイガイ亜科の中でも小さい方である。薄い桃色がかかった白色で、石灰岩の色に近い。殻口は体層のくびれがないまま延長し、二重唇を形成する。外唇は肥厚して外に向けて反り返り、内唇は突き出る。石灰質の堅くて厚い蓋があり、それが和名の由来になっている。蓋の内面の中央部に乳頭状突起がある。

## 【生息環境】

石灰岩地のガレ場および落ち葉の下に生息している。好石灰岩性の種とされているが、徳島県では非石灰岩地で発見されている。微小なうえ殻色が石灰岩の色によく似ており、確認は容易ではない。

## 【生息状況】

徳島県那賀町から本県香美市にかけての石灰岩地に飛び石状に分布している。各生息地での個体数は少ない。当初、徳島県固有種とされていたが、石立山の高知県側でも確認され、現在では奥物部県立自然公園一帯に広く分布していることが明らかとなっている。

## 【保全・保護対策】

香美市の生息域はスギの植林が進み、本種の生息範囲が狭まっており、自然林の保全が必要である。

## 【執筆者】

多田 昭

原始紐舌類ゴマガイ科

# マルクチゴマガイ

*Diplommatina circumstomata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

県内では3か所で見ついているだけである。各生息域が狭く、個体数も少く、減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

徳島県、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

大豊町、本山町

## 【生物学的特性】

殻長2mm、殻径1mm、5層前後。微小なゴマガイ科貝類の中でも特に小さい。紅色で、殻表には細密な糸状脈がある。各層ともよく膨らみ、特に次体層が大きく膨らむため殻形が卵形になっている。殻口は円く、ゴマガイ科では特異である。この円い殻口に因んで和名が付けられている。殻の内面にある縦に伸びる緊線は、縫合線に対して直角に滑層裏を伸び、その中央部の左に少し間隔を置いて短い腔襞がある。

## 【生息環境】

標高1000m前後の広葉樹がうっそうと繁った森に生息している。県内ではすべての個体が広葉樹林の落葉の下で記録されている。そのような場所が本来の生息地と考えられるが、愛媛県ではスギの植林の落葉の下に多産しているのを確認している。

## 【生息状況】

ゴマガイ科貝類は一般に各生息地での個体数が多いが、本種は個体数がきわめて少ない。過去に記録があった場所で調査しても、再発見が困難になっている。

## 【保全・保護対策】

地元の方の理解のもと、生息域の環境を保全することが必要である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナタネガイモドキ科

# ナタネガイモドキ

*Pyramidula conica*

## 【選定理由】

石灰岩地の限られた所に生息している。県内では5か所で見ついているだけで、近年、個体数が減少して絶滅する可能性が高い。

## 【国内分布の概要】

群馬県、埼玉県、滋賀県、広島県、徳島県、高知県、九州

## 【県内での分布】

香南市、香美市、津野町

## 【生物学的特性】

殻長2mm、殻径2.5mm、4層前後。円錐形の微小種。黒褐色で、光沢がある。臍孔は大きく開く。

## 【生息環境】

好石灰岩性の種で、石灰岩の表面に集まって生活している。近くに石灰岩地があっても生息していない場合もあり、分布は断続的である。

## 【生息状況】

近年、各生息地とも個体数が減少している。過去には、石灰岩の表面が黒っぽくなるほど多くの個体が観察されたこともあったが、現在はどこでも減少傾向にある。

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【保全・保護対策】

生息する石灰岩地の保全が重要である。

## 【特記事項】

タイプ産地は徳島県阿南市水井である。そこから香美市の龍河洞付近までの石灰岩地に分布しているが、さらに西の天狗高原までの間は空白地帯になっている。また、天狗高原から西も空白地帯で、宮崎県の山岳部までの間には記録がない。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# オオギセル

*Megalophaedusa martensi*

## 【選定理由】

県内の生息地は決して少なくはないが、近年減少傾向が著しく、過去の生息地での再確認が困難になっている。

## 【国内分布の概要】

関東以西の本州、四国

## 【県内での分布】

室戸市からいの町までの4市4町4村

## 【生物学的特性】

殻長32~42mm、殻径8.8~10.2mm、10層前後。キセルガイ科の中では超大型で、世界でも最大級である。褐色。殻長に比べて殻径が大きく、ずんぐりとしていて、殻口も大きい。殻および生殖器がキセルガイ科の他の種と形態が明瞭に異なるため、同定は容易である。愛知県の石灰岩地には殻長50mmを越す巨大な個体もいる。日本の代表的なキセルガイ科貝類である。

## 【生息環境】

主としてブナ林の倒木および落葉の下に生息している。石灰岩地および古木の残る神社でも観察されることがある。大型で、ガレ場に隠れることができず、周囲の環境の変化によって生息困難になっている所が増えている。

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【生息状況】

県内では30か所以上の生息地が確認されているが、数か所を除いて1個体ないし3個体しか確認できていない。2014年以降に追跡調査を行ったが、絶滅したと判断された産地が多かった。2002年の高知県レッドデータブックでは準絶滅危惧とされていたが、危険度が高くなっていると判断し、絶滅危惧Ⅱ類に変更した。

## 【保全・保護対策】

生息地となっているブナの原生林が荒廃しているため、今以上に改変しないようにすべきである。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# コシボソギセル

*Megalophaedusa nankaidoensis nankaidoensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

山岳部の限定された場所に生息している。個体数が少なく、2014年以降の調査では1か所で1個体が確認されたにすぎない。

## 【国内分布の概要】

和歌山県、大阪府、兵庫県、四国4県

## 【県内での分布】

本山町

## 【生物学的特性】

殻長11.1~15.5mm、殻径2.6~3.2mm、12層前後。キセルガイ科の中では小型である。細長く、すらりとしている。体層から数層は徐々に細くなり、さらに殻頂部へ向けてより細くなり、殻頂部付近でやや太くなって棍棒状となる。白色で、若い個体は半透明である。殻表の成長肋は細かく、体層では粗い。殻の内面にある腔襞はエの字状を呈し、殻口に向かって右の端に位置する。殻の大きさおよび腔襞は地理的変異が大きい。

## 【生息環境】

主に広葉樹林のガレ場および落葉の下に生息している。県内で生息が確認された場所はすべてガレ場である。

## 【生息状況】

生息地4か所のそれぞれで確認された個体数は、3か所で1個体、1か所で2個体であり、キセルガイ科の中ではきわめて個体数の少ない種である。分布の中心は四国北東部にあり、愛媛県および本県の産地はともに分布の西端部に当たる。

## 【保全・保護対策】

生息地およびその周辺的环境保全が必要である。

## 【特記事項】

タイプ産地は淡路島にある。種小名の*nankaidoensis*は、昔の五畿七道の一つである南海道に分布していること由来する。

## 【執筆者】

多田 昭

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

真有肺目キセルガイ科

# シタツキギセル

*Megalophaedusa platyderula*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：-

環境省2017ランク：-

口絵28

## 【選定理由】

広葉樹の樹幹および根元に生息しており、個体数が減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

徳島県、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

北川村から高知市までの4市3町2村

## 【生物学的特性】

殻長12.4~17.8mm、殻径3.2~3.8mm、10層前後。キセルガイ科の中では小型である。淡褐色。生息地により殻の大きさに変異がある。同属のニセコスジギセルに酷似するが、生殖器および腔襞の形態が異なる。

## 【生息環境】

広葉樹の大木の根元に生息し、雨上がりには樹上に這い登っている。生態もニセコスジギセルとよく似ていて、社寺林でよく見られる。

## 【生息状況】

大木の根元に少数個体が集まっている。また、海岸に近い自然林の落葉の下にいることもある。個体数は各産地ともに少ない。

## 【保全・保護対策】

近年、神社が整備されたり、逆に荒廃したりして生息環境が悪化している。分布域の環境保全が重要である。

## 【特記事項】

安芸がタイプ産地となっており、本県中東部を代表する種の一つである。以前本種に含まされていたニセコスジギセルは産地が多いのに対し、本種は産地がきわめて少ないことから、新たに絶滅危惧Ⅱ類に選定した。本種は変異が大きく、やや細長い個体群がシタロウギセルと称されていたことがある。その名称は、勤王の志士中岡慎太郎に因むとされている。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# ナカムラギセル

*Tosaphaedusa cincticollis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵28

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が狭い範囲の石灰岩地に限定されているうえ、石灰岩の採掘によりさらに狭められてきた。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

南国市、高知市

## 【生物学的特性】

殻長18.4~24.8mm、殻径3.7~4.1mm、15~18層。紫褐色。体層を含む下部の約5層は紡錘形であるが、それより上の螺層は殻径がほぼ同じであるため、全体の殻形はきわめて細長い棍棒状をしている。殻口外唇は反転し、その外側に強い縦方向の隆起(クレスト)がある。成長脈は、体層ではやや粗く、それ以外では微細である。殻口縁にある歯状突起は上板だけであり、下板および下軸板は殻口縁に達しない。

## 【生息環境】

石灰岩地の自然林内のガレ場および落葉の下に生息する。

## 【生息状況】

高知市内では2017年にも生息が確認されている。南国市内では石灰岩の採掘が進み、2016年にはかつて生息していた場所でも確認されなかった。

## 【保全・保護対策】

本県固有種であり、しかも狭い範囲にしか生息しないため、生息地保全の緊急度がきわめて高い。

## 【特記事項】

本県中央部の石灰岩地の固有種である。殻および閉弁の形態に基づいて、1929年に本種のために土佐を冠した *Tosaphaedusa* という分類群(節:section)が設けられ、後年、生殖器の形態を加味して属に昇格させられた。ナカムラギセル属には本種およびシロハダギセルだけが属している。本種は1900年に新種記載されて以降、長年再発見されていなかったが、旧制高知高等学校に在学していた中村定八氏(後に旧長崎医科大学助教授)によって1927年に再発見され、和名は同氏に献名されている。

## 【執筆者】

山崎博継

真有肺目キセルガイ科

# タキギセル

*Stereophaedusa hemileuca takii*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

## 【選定理由】

生息地が少ないうえに、個体数が減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

越知町から宿毛市までの2市5町1村

## 【生物学的特性】

殻長16.4~20.3mm、殻径3.6~4.1mm、11層前後。キセルガイ科の中では小型と中型の間である。各層の上半分が淡黄白色、下半分が紫がかかった褐色であり、染め分け状になっている。本県の個体はタイプ産地のある愛媛県の個体よりもやや大型であり、殻色の染め分けが明瞭で美しい。

## 【生息環境】

広葉樹の樹幹に生息し、地表の落葉の下およびコケの下で冬眠するが、中には樹皮の下で越冬する個体もある。樹上性ではあるが、まれに草本群落内で見かけられることもあり、この点で他の樹上性の種と異なる。

## 【生息状況】

県内では産地数が少なく、また、各生息地とも個体数も少ない。しかも近年、どの生息地でも減少傾向にあり、絶滅する可能性が高い。

## 【保全・保護対策】

生息域の環境を改変しないことが必要である。依存している樹木の伐採および付近への針葉樹の植林は、減少傾向を促進することになる。

## 【特記事項】

中国地方西部に分布するハンジログセルの亜種とされている。種全体としては四国西部から中国西部にかけて分布しており、南北方向の分布型として早くから注目されていた。現在では、同様の分布をすることが明らかになった種が増え、この分布型の存在が確認づけられた。

## 【執筆者】

多田 昭



真有肺目キセルガイ科

# モリヤギセル

*Stereophaedusa vasta moriyai*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息個体数は多い方であるが、生息できる環境が限られているため、生息地は少ない。

## 【国内分布の概要】

中国地方、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

仁淀川町、津野町、四万十市

## 【生物学的特性】

殻長26~37mm、殻径7~8.5mm、12.5層前後。殻の大きさの変異は大きいものの、キセルガイ科の中では大型である。特別に大きいオオギセルに次ぐ大きさで、殻質は堅固である。淡褐色。殻の内面にある腔襞は右側面に位置し、三の字状を呈する。同種内の別亜種とされているオキギセルに似るが、やや大きく、殻表の縦肋が粗くて光沢が鈍い。また、生殖器の盲管の長さや交尾囊の長さなどを比較すると、オキギセルでは盲管が短く太いのに対し、本亜種では同長かもしくは盲管が長いことで識別される。

## 【生息環境】

通常、キセルガイ科貝類はうっそうとした広葉樹林の倒木の下、落葉の下または樹上に生息しているが、本亜種は水の流れる谷沿いのガレ場および石灰岩地の草本群落内に生息しており、シヤガの群落内でも見かけたことがある。湿度の高い環境に生息しており、老成個体には緑藻類が着生している。

## 【生息状況】

本県の生息地は分布の南限に当たる。他のキセルガイ科貝類と違って谷沿いで湿度が高いという限定された場所に生息している。谷沿いで飛沫が当たり、水の流れを避けることができるという環境は限定されている。

## 【保全・保護対策】

生息している環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# イジマギセル

*Stereophaedusa ijimae*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

口絵28

## 【選定理由】

生息地が狭い範囲の石灰岩地に限定されている。また、個体数、生息地数ともに減少している。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

香南市、香美市

## 【生物学的特性】

殻長25.8~29.9mm、殻径4.7~5.4mm、15~17層。細長い棍棒状。黄褐色で、若い個体には鈍い光沢がある。殻表には粗くて強い縦肋があり、その数は体層で15~16本。殻口は比較的小さい。殻口縁には上板および下板が現れるが、下軸板は現れない。殻の内面にある腔襞は右側面中央に位置し、上腔襞と下腔襞との間に、通常は1本ないし3本の中間襞があるが、中間襞がない個体もある。老成個体では、殻頂部が欠損することがある。強い縦肋があり、螺層数が15~17層と多いことで、県内に生息する他のキセルガイ科貝類から容易に識別することができる。

## 【生息環境】

石灰岩地に分布しており、石灰岩の表面や落葉の下に生息している。

## 【生息状況】

生息地が香美市の龍河洞周辺の狭い範囲に限定されており、2005年ごろと比べて個体数が少なくなっている。

## 【保全・保護対策】

龍河洞は国指定の史跡・天然記念物であるため、付近の環境が大きく改変されることはないと思われる。しかし、その他の生息地はスギの植林に隣接しているため、生息環境の悪化が懸念される。

## 【特記事項】

龍河洞周辺の固有種である。種小名は、本種を新種記載したドイツのEhrmannに標本を送付した東京帝国大学の飯島 魁教授に献名されている。

## 【執筆者】

山崎博継

真有肺目キセルガイ科

# オキノシマナミギセル

*Stereophaedusa japonica okinoshimana*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵28

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

樹木依存の種で、生息地が限定されており、希少である。タイプ産地である宿毛市沖の島では危機的である。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

宿毛市

## 【生物学的特性】

殻長34mm、殻径8.1mm、12層前後。キセルガイ科の中では大型である。紫がかった褐色または褐色。

## 【生息環境】

広葉樹の1本の古木の根元に生息し、そこで一生を送る特殊な生態をしている。雨上がりには樹上に登り、冬は根元で越冬するという樹木依存の生態は、狭義のナミギセルとは異なる。

## 【生息状況】

沖の島では古木の狭く限られた部分に生息しているので、個体数も限られている。長年の調査にもかかわらず、確認された総個体数は10個体ときわめて少ない。最近の調査では、2015年に1個体が確認されたにすぎない。

## 【保全・保護対策】

タイプ産地の沖の島には樹木依存種であるトクサギセルも分布しており、両者は生態が共通する。両者が樹上で休眠しているのが観察されたこともあり、地元の方の理解のもと、貴重な種を保護すべきである。

## 【特記事項】

本亜種は、殻の内面の腔壁や殻口の歯状突起の特徴が国内に広く分布するナミギセルと共通しているため、亜種ではなくナミギセルの異名とされており、2002年の高知県レッドデータブックでもそのように扱った。しかし、大型で、樹木に依存しており、狭義のナミギセルとは形態および生態を異にしていることから、ここでは亜種として扱う。今後、分子系統解析を中心とした研究により、ナミギセルとの類縁関係が明らかにされると考えられる。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

# カモハラギセル

*Stereophaedusa kamoharai*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵28

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息域が限定されていて、各産地とも個体数が減少している。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

宿毛市、大月町

## 【生物学的特性】

殻長15～18mm、殻径3.3～3.9mm、11層。キセルガイ科の中では小型である。紫がかった褐色。腹太で、殻口は殻の大きさの割に小さい。殻口内にある歯状突起のうち上板は発達しているが、下板はほとんど認められない。殻を側面から見ると殻口が突き出ている。口縁は肥厚し、外に反り返る。殻口背面には輪状にクレストが2本ある。また、突き出た首の部分が溝状になる。

## 【生息環境】

2016年の調査で、タイプ産地以外で3か所目となる新産地を発見することができた。そこでは、広葉樹の自然林の木の根元で見られ、樹上に這い登っている個体もあった。

## 【生息状況】

既知の生息樹での個体数は少なく、生息域も限定されているため、総数は限られている。近年、個体数は減少傾向にある。宿毛市の姫島にも記録があるが、最近の調査では確認されなかった。

## 【保全・保護対策】

生息している樹木が限られており、地元の理解のもと、生息樹およびその周辺の自然林を改変しないよう保全する必要がある。

## 【特記事項】

本種はトサギセルの亜種として記載され、そのまま亜種とされたり独立種とされたりしてきたが、分子系統解析によって独立種であることが改めて確認された。宿毛市鶴来島をタイプ産地とする本県固有種であり、これまでに4か所で見ついているのみである。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目シタラ科

# アワクリイロベッコウ

*Japanochlamys awaensis*

## 【選定理由】

県内の生息地は少なく、個体数も少ない。ブナの原生林に生息していて分布域が限定されているうえ、森林の荒廃により近年減少傾向にある。

## 【国内分布の概要】

香川県、徳島県、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

北川村からいの町までの3市4町2村

## 【生物学的特性】

殻長4.7mm、殻径8.3mm。シタラ科の中では中型である。螺層は約7巻きで、殻の大きさの割に巻き数が多く、渦巻きを思わせる。栗色で、強い光沢がある。臍孔が小さく開く個体が多いが、まれに閉じる個体もいる。殻口縁が肥厚しないので、成貝と未成貝との区別が困難である。小さな殻から大きな黒っぽい軟体部を出して敏捷に移動する。

## 【生息環境】

山岳部の高標高のブナの原生林に生息している。昼間は適度の湿り気のある倒木の下およびガレ場の石の下に隠れており、夜間活動する。

## 高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【生息状況】

分布の中心は徳島県にあり、タイプ産地は阿南市太龍寺山である。本県では中東部の山岳部で見つかるだけである。生きた個体が観察できる機会はきわめて少なく、観察できたとしても、ほとんどの場合1個体のみである。

## 【保全・保護対策】

生息地となっているブナ林を保全することが重要である。

## 【特記事項】

シコクベッコウとは殻の色も巻き数も異なり、別属とされている。光沢が強く美しい貝である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ベッコウマイマイ科

# シコクベッコウ

*Bekkochlamys shikokuensis*

## 【選定理由】

近年減少しており、生きた個体の確認例が少なくなっている。

## 【国内分布の概要】

徳島県、愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

香美市から梶原町までの2市7町1村

## 【生物学的特性】

殻長11mm、殻径17.5mm。ベッコウマイマイ科の中では大型である。低い円錐形で、大きさの割には螺層が約5巻きと少ない。殻質は脆弱。黄褐色で、強い光沢がある。体層は広くて大きく、殻口も大きい。殻口縁が肥厚しないので、成貝と未成貝との区別は困難。大きな殻口から黒っぽい大きな軟体部を出して敏捷に移動する。軟体部は大きいですが、殻口に蓋がなく、乾燥に弱い。

## 【生息環境】

高標高地のブナ林および石灰岩地で、常に適度の湿り気がある倒木または石の下に隠れている。

## 高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

## 【生息状況】

乾燥に弱く、太陽光線の当たる地表を這っていることはない。倒木の下およびガレ場の石の下に少数生息している。生息地では近年、乾燥が長期間にわたることが多く、本種にとっては次第に棲みにくい環境になっている。

## 【保全・保護対策】

生息地のブナ林の縮小、荒廃および石灰岩地の改変は、本種の生息にとって厳しい状況をもたらしている。特にブナ林の倒木の下を好むので、ブナ林の保全が重要である。

## 【特記事項】

ベッコウとは、櫛などの材料となるベッコウ（タイマイの甲羅由来）であり、殻の色や光沢がそれに似ているところからベッコウマイマイと名付けられた。本種は陸産貝類の中では光沢がきわめて強く、美しい種である。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# オオツヤマイマイ

*Satsuma textilis*

## 【選定理由】

県内の分布域は比較的広いが、各生息地の個体数は少なく、生息地によっては絶滅の危険性が高い。

## 【国内分布の概要】

愛媛県、高知県

## 【県内での分布】

高知市から宿毛市までの6市7町2村

## 【生物学的特性】

殻長9.7～16.7mm、殻径14.9～20mm、4～5層。産地により大きさに変異がある。殻は卵球形。黄褐色ないし褐色で、鈍い光沢がある。和名のオオツヤ（大艶）から強い光沢を連想してしまうが、変異が大きく、艶のない個体もいる。県内には、殻の形態がよく似たコニホンマイマイおよびシメクチマイマイが生息している。それらとの識別はきわめて難しく、解剖して鞭状器の形態を観察する必要がある。

## 【生息環境】

石灰岩地に多いが、石灰岩地以外にも広く分布する。岩の表面や隙間、森林内の倒木の下および積み重ねられた枝や草の下に生息している。

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【生息状況】

個体数は各生息地とも1個体ないし数個体と少ない。湿度の高い場所に隠れている。

## 【保全・保護対策】

生息地およびその付近の環境保全が必要である。

## 【特記事項】

四国中西部の固有種で、タイプ産地は高知市春野町荒倉である。個体変異、地理的変異とも大きい種で、近年本県を含む四国全域の近縁種を総合的に解析した分子系統樹が作成された。近縁種の生息地が隣接している所では、交雑種と見られる個体も確認されている。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# ヒラコウベマイマイ

*Aegista kobensis discus*

## 【選定理由】

生息地は、狭い範囲の石灰岩地に限定されているうえ、長期にわたる石灰岩の採掘により狭められてきた。生息環境も悪化している。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

高知市、土佐市

## 【生物学的特性】

殻長5～6mm、殻径13.4～16.4mm、5層前後。低く平らで、平巻きに近い。殻の上面は平坦で、殻頂部がわずかに突き出る。黄褐色で、鈍い光沢がある。殻口はほぼ円形で、前傾はするが、正面から見て下向きになることはない。殻口縁は反り、やや肥厚して白い。臍孔は広い。殻の形態には産地による変異があり、高知市春野町に生息する個体は薄質で、殻口縁がほとんど肥厚しない。一方、同市鏡に生息する個体は外唇が二重になる。同種内の別亜種とされているコウベマイマイおよびトサマイマイでは、螺塔はわずかに高まり、殻口は卵円形で、正面から見るとやや下向きである。

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

口絵29

## 【生息環境】

石灰岩地の雑木林において、広葉樹の根元周辺で生活している。

## 【生息状況】

タイプ産地である土佐市天崎をはじめとする生息地は、石灰岩の採掘によって狭められてきた。各産地とも生息する個体数は少ない。さらに、天崎では竹林の面積が増えたことにより、個体数が減少している。

## 【保全・保護対策】

残された生息地の環境を確実に保全することが必要である。

## 【特記事項】

高知県中央部の石灰岩地の固有亜種である。複数の別亜種が西日本に分布している。

## 【執筆者】

山崎博継



真有肺目ナンバンマイマイ科

# タシママイマイ

*Aegista cavitectum*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵29

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

分布範囲が狭く、生息地が点在するうえ、各地とも個体数が少ない。

## 【国内分布の概要】

徳島県、高知県

## 【県内での分布】

東洋町から高知市までの5市1町1村

## 【生物学的特性】

殻長5.3～7.2mm、殻径8.8～13mm、6層前後。殻は厚質。螺旋塔は円錐形で、殻頂部は尖る。底面はやや膨らむ。殻皮は黄褐色で、表面に微細な鱗片状突起が密に分布する。体層の周縁は鋭く角張り、殻口は五角形に近い。殻口縁は肥厚し、反転する。底唇の中央部に小さい歯状突起がある。臍孔はやや狭く、深い。産地により殻形および大きさに変異がある。

## 【生息環境】

里山の雑木林の落葉および倒木の下に潜み、雨上がりには這い出してくる。

## 【生息状況】

2013年に高知市内で新たな生息地が確認されたが、いずれもきわめて狭い範囲であり、個体数もわずかである。その中には、開発のため数メートル先で山が削られ、生息地の消失が懸念される場所もある。また、過去に確認された場所でも、再確認が困難になっている。

## 【保全・保護対策】

生息地となっている里山は開発を行わず、保全する必要がある。

## 【特記事項】

本種は、「高知尋常中学校の」と記された田島千景氏が五台山（旧村名または山の名）で採集した標本に基づき、同氏に因んで1893年に和名だけが付けられた。その後、「Kochi, Tosa」で別人が採集した標本に基づき、1903年に新種記載がなされた。Kochiは当時の高知市と推定されるが、旧五台山村の同市への編入は1942年であるため、タイプ標本の産地は別の場所と推定される。

## 【執筆者】

山崎博継

真有肺目ナンバンマイマイ科

# ハダカケマイマイ

*Aegista aemula hadaka*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵29

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

山岳部の石灰岩地に生息するが、近年、生息域が針葉樹の植林および石灰岩の採掘で狭められている。タイプ産地である津野町不入山では絶滅寸前である。

## 【国内分布の概要】

徳島県、高知県

## 【県内での分布】

津野町、四万十町

## 【生物学的特性】

殻長6.4～8.5mm、殻径12.1～15.4mm、6層。低円錐形で、周縁は鋭く角張る。殻口縁はやや肥厚する。淡褐色。須崎市に生息する同属のコケマイマイに似ているが、それよりも小型で、殻表に殻皮毛がないところからハダカという名称が与えられた。殻皮毛は個体によっては存在するので、殻皮毛の有無に基づいて分類することができるのかどうかは今後の課題である。また、コケマイマイとハダカケマイマイは姉妹種とされているが、分類学的研究のためにもタイプ産地の保全は重要である。

## 【生息環境】

石灰岩地の広葉樹林が本来の生息環境であったと考えられる。不入山では生息域がスギの植林となり、生きた個体の確認が困難になっている。

## 【生息状況】

環境の激変で、タイプ産地では絶滅が心配されており、近くの石灰岩地でかろうじて種が維持されている状況である。不入山は過去には陸産貝類の宝庫とも言われ、多くの種が生息する所として知られていた。現状は残念ながらスギの植林ですっかり環境が変わってしまい、貝類不毛の地になりつつある。

## 【保全・保護対策】

現在の不入山の環境は保全しなければならない。

## 【特記事項】

昭和の初め、昭和天皇は本県の陸産貝類を所望された。それを受けて県の有志が登った山が不入山である。当時はブナおよびケヤキの巨木がうっそうと繁っており、そこで多くの種を採集して陛下の元へ届けられた。林道が原生林内に延長してからは、付近はスギの植林へと変貌した。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# カドバリオトメマイマイ

*Aegista carinata*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵29

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息域が狭く、生息個体数も少ない。樹上に登るため人の目に付きやすく、採集圧も考えられる。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

高知市、佐川町、須崎市、中土佐町、四万十町

## 【生物学的特性】

殻長6～8mm、殻径9.9～11.9mm、5層。オトメマイマイ種群の中では中型である。紫がかった褐色で、周縁部および縫合部に白い帯または筋がある。周縁が角張ったソロバン玉のような殻形から、カドバリオトメマイマイと名付けられた。

## 【生息環境】

石灰岩地の低木および草本に付着している。雨上がりには石灰岩の表面を這っている。活動は主として夜間と思われる。石灰岩地に多いが、石灰岩地以外にも生息し、須崎市の離島でも確認されている。

## 【生息状況】

石灰岩地では個体数は少なくないが、石灰岩地以外ではきわめて少ない。石灰岩地の低木の樹上および草本の葉裏にいる個体は観察しやすい。

## 【保全・保護対策】

オトメマイマイ種群は分類学的研究が遅れており、今後の研究のためにも本県に生息する本種および近縁種は保護していかねばならない。地元の方の理解のもとで、生息環境を保全する必要がある。

## 【特記事項】

本県中部の固有種で、タイプ産地はスミスオトメマイマイと同じ高知市春野町荒倉である。本種は1900年に、また、スミスオトメマイマイは1901年に新種として記載された。オトメマイマイ種群の分類は未解決な面があり、本県でも徳島県でも中間型が見つかるなど、分類に混乱がみられる。今回の改訂では、須崎市桑田山を中心に分布し、周縁角が竜骨状の個体群に限定して扱った。

## 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# スミスオトメマイマイ

*Aegista smithiana*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵29

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：-

## 【選定理由】

近年減少傾向にあり、個体数はきわめて少ない。

## 【国内分布の概要】

高知県

## 【県内での分布】

香南市、南国市、土佐町、高知市

## 【生物学的特性】

殻長8.5mm、殻径13.8mm、5層。オトメマイマイ種群の中では中型である。殻は薄質、半透明で光沢がある。通常白色であるが、淡黄色の殻皮をもつ個体もいる。殻口縁はやや肥厚し、外側に反り返る。大きな特徴は、オトメマイマイを上下に圧縮したような低平な殻形であり、螺塔は少し盛り上がる程度にすぎない。

## 【生息環境】

石灰岩地の低木林および草本群落内に生息する。石灰岩地以外では確認されていない。

## 【生息状況】

本来多産する種ではないが、植物の葉に付着しているのを時折見かけたことがある。近年の調査では、高知市土佐山で見かけたのみで、少なくなっている。

## 【保全・保護対策】

生息域の石灰岩地の低木林および草本群落を保全する必要がある。

## 【特記事項】

本県中部石灰岩地の固有種で、高知市春野町荒倉がタイプ産地である。本種の分類は少々混乱している。徳島県南部の海岸部にも記録があるが、本県中部とは地理的に大きく離れている上、両者の中間部では確認されていない。そのため、スミスオトメマイマイとされた徳島県産の標本については、今後検討の余地がある。種小名は、アメリカの貝類学者ピルスブリーが本種を記載した際、多くの文献を提供したオトメマイマイの命名者であるスミスに献名されたものである。

## 【執筆者】

多田 昭

# ギュリキマイマイ

*Euhadra eoa gulicki*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

県内では東洋町で確認されているだけで、個体数も少なく、絶滅する可能性が高い。

## 【国内分布の概要】

近畿，徳島県，高知県

## 【県内での分布】

東洋町

## 【生物学的特性】

本県産は大きい個体で殻長21mm，殻径33.5mm，5層。マイマイ類の中では小型である。ただし，近畿産の個体は中型である。本県産の個体は淡褐色で，体層に黒褐色の色帯がある。県内で普通に産するアワマイマイ（コウチマイマイ）に殻色および外部形態はよく似ているが，恋矢を包む矢囊はアワマイマイでは細くて長いのに対し，本種では太短くて先端部が丸いことから，解剖すれば識別できる。殻の形態がタイプ標本に近い近畿産の個体群とは生殖器にも若干の相違がある。

## 【生息環境】

繁った広葉樹林の落葉および倒木の下に生息する。時には山に近いゴミ捨て場の板の裏に付いていることがある。

## 【生息状況】

分布の中心は近畿地方にあるが，四国では徳島県南東部から東洋町にかけての限定された範囲に生息している。本県の個体は近畿の個体より小さく，分布上重要である。2016年の調査で幼貝を含めて数個体が確認された。近畿に分布する中型の個体に比べるとやや個体数が多いようである。

## 【保全・保護対策】

減少傾向にある亜種ではあるが，適応力はあると考えられるので，生息地付近の環境を大きく変えないことが重要である。

## 【特記事項】

学名は日本生まれのアメリカ人ギュリックに献名されている。彼が神戸市有馬産の標本をアメリカの学者であるビルスプリーに提供したことから献名されたものである。タイプ産地の有馬では，最近の確認が難しくなっている。

## 【執筆者】

多田 昭

Cycloneritimorpha目アマオブネ科

# ヒメカノコ

*Clithon oualaniense*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵30

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地がわずかしかなく、それぞれの生息範囲が狭いうえ、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

房総半島以南の本州、四国、九州、南西諸島

## 【県内での分布】

浦戸湾、宿毛湾

## 【生物学的特性】

殻長1cm。ほぼ卵形。殻表は平滑で、光沢が強い。同所的に生息することの多いカノコガイに似ているが、殻表の光沢がはるかに強い。

## 【生息環境】

内湾に流入する河川の河口域において、コアマモ群落内およびその付近に生息する。

## 【生息状況】

浦戸湾および宿毛湾とも、コアマモ群落内およびその付近に生息しているものの、個体数は多くない。いずれも2000年前後の確認地点が存在する水域である。2014年以降の調査では、浦戸湾ではコアマモ群落内に群生するカノコガイに混じって少数個体が得られ、宿毛湾では潮下帯からコゲツノブエとともに少数個体が得られた。上記2か所のほか、浦ノ内湾では死殻が見られたものの、生きた個体は確認されなかった。高知市の沖積層（かつての浦戸湾の堆積物）からは、本種の化石が産出している。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような汽水域の河口干潟は、本県ではもともときわめて狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形、底質および植生を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

三本健二

高腹足目カワザンショウガイ科

# カハタレカワザンショウ

*Nanivitre ? sp.*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が限定され、各地点での個体数が少ない。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

東京湾以南の本州、四国、九州

## 【県内での分布】

浦戸湾、浦ノ内湾

## 【生物学的特性】

殻長1.2mm。殻は薄質で、無色半透明である。螺塔が低く、殻長よりも殻径が大きい。体層は大きく、周縁は円い。殻表は平滑である。

## 【生息環境】

内湾の潮間帯中部から上部にかけての砂礫地に生息する。

## 【生息状況】

浦戸湾および浦ノ内湾とも砂礫地の礫の底面に付着している個体が確認された。いずれも確認地点は少なく、個体数も少ない。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

和名だけが与えられた未記載種であり、属名も確定していない。カワザンショウガイ科の中では形態が特異であり、和名のカハタレは、文語体で「彼は誰」である。

## 【執筆者】

三本健二



高腹足目クビキレガイ科

# ヤマトクビキレ

*Truncatella pfeifferi*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵30

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息地がわずかしかなく、それぞれの生息範囲がきわめて狭い。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

北海道南部、本州、四国、九州

## 【県内での分布】

東洋町、浦ノ内湾、大月町

## 【生物学的特性】

殻長5～8mm、殻径2～3mm。十分成長した個体では初期の螺層が欠落して、体層を含む3～4層だけが残る。淡い赤褐色。殻表は胎殻では平滑であるが、その後の螺層には明瞭な縦肋がある。ただし、縦肋が不明瞭な個体および縦肋がない個体もある。殻口外唇は反転し、その外側に縦張肋状の肥厚があって、外唇が二重になっているように見える。蓋の表面に石灰は沈着しない。これらの胎殻、殻口外唇および蓋の特徴が共通する種として、未記載種のカイゲンボウクビキレが沖縄島および南大東島にいるが、その種では縫合下が角張って階段状になる点で異なっている。また、主に南西諸島に生息するクビキレガイは本種に似ているが、胎殻に明瞭な縦肋があり、殻口外唇の外側に縦張肋状の肥厚はなく、蓋の表面に石灰が沈着する。

## 【生息環境】

潮間帯上部の漂着物が集まっている場所に生息する。生息地は、浦ノ内湾では湾奥部であるが、大月町では外海の海岸である。

## 【生息状況】

2014年以降の調査では、浦ノ内湾および大月町において、それぞれ1か所で生息が確認された。いずれも個体数は多いものの、生息範囲がきわめて狭い。1965年の土佐産貝類総目録には、キュウシュウクビキレガイの名前で掲載され、代表的な産地は宇佐とされている。2017年の文献では、検討した標本の中に宿毛市沖の島で1950年に採集された標本がある。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【執筆者】

三本健二

高腹足目ミズゴマツボ科

# ミズゴマツボ

*Stenothyra japonica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵30

高知県2002ランク：絶滅危惧IB類 (EN)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が限定されるものの、2014年以降の調査では、高知市内においてこれまで知られていたよりも広範囲で確認されたため、ランクを変更した。

## 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

## 【県内での分布】

高知市、須崎市

## 【生物学的特性】

殻長4～6mm、殻径2～3mm。殻径は、左右方向が背腹方向よりやや大きい。殻口は体層の大きさに比べて小さく、円い。殻表には微細な刻点の螺状列があり、その数は次体層では10本前後、体層では20本前後である。幼貝は殻形が円錐体状で、明らかな周縁角がある。汽水域に生息するウミゴマツボは本種に似ているが、殻長2.5mmと小さく、体層背面に褐色斑がある。

## 【生息環境】

河川の汽水域に近い場所にある水路およびその付近の淡水に生息している。県内の生息地の多くはコンクリート三面張り水路であり、底に泥が堆積している場所もあるし、泥の堆積がなく礫が散在している場所もある。同所的に外来種のスクミリングガイおよびタイワンシジミが多く生息している。

## 【生息状況】

1962年に新種として記載された際、産地として高知市五台山付近の小川も記されている。また、1965年の土佐産貝類総目録での代表的な産地は五台山および須崎市吾桑である。2014年以降の調査では、高知市五台山地区からその北約3kmの範囲で生息が確認された。

## 【保全・保護対策】

生息が確認されたのは、コンクリート三面張り水路のような人工的に改変された場所である。そのため、保全に当たっては、現在の生息環境を調査することが必要と思われる。

## 【執筆者】

三本健二

イシガイ目イシガイ科

# ニセマツカサガイ

*Inversiunio yanagawensis*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵31

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

生息地が限定されている。2014年以降の調査では、従来多くの個体が確認されていた場所でも生息が確認されなかったり、少数個体しか確認されなかったりした。

## 【国内分布の概要】

近畿，中国，四国，九州

## 【県内での分布】

香南市，南国市，高知市，佐川町，四万十町，四万十市

## 【生物学的特性】

殻長5cm，殻高3.5cm，殻幅2cm。殻は厚質。卵円形で、前縁は円く、後縁はわずかに湾入する。殻皮は黒褐色。殻頂付近，中部および後部には、不規則な肋状の皺がある。内面には真珠光沢がある。擬主歯は強く、左殻に2本，右殻に1本ある。後側歯は細長く、左殻に2本，右殻に1本ある。幼生は、オイカワ，カマツカおよびヨシノボリ類の鰓に寄生する。マツカサガイは、本種とは属を異にするものの、殻の形態が酷似し、後縁が湾入しないことが本種とのわずかな識別点とされている。一方、グロキディウム幼生の形態は明瞭に相違し、マツカサガイでは楕円形であるのに対し、ニセマツカサガイでは三角形に近い。

## 【生息環境】

河川および水路の砂礫底および砂泥底内に生息する。

## 【生息状況】

2014年以降の調査では、佐川町および四万十市で生息が再確認されたが、その他の場所では再確認されなかった。また、佐川町では、2000年前後には群生していたが、2014年以降に確認された個体数はわずかであった。

## 【保全・保護対策】

生息地の水質の保全が必要と思われる。

## 【特記事項】

1982年に新種として記載されたため、それより前の文献記録はない。しかし、マツカサガイとの殻の形態の差異がわずかであり、1965年の土佐産貝類総目録でマツカサガイとされた種は本種の可能性がある。

## 【執筆者】

三本健二

ウロコガイ上科ウロコガイ科

# マゴコロガイ

*Peregrinamor ohshimai*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

□絵31

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地が限定されている。また、砂泥底に深く掘った巣穴に生息するアナジャコ類に付着するという特殊な生態の種である。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

神奈川県以南の本州，四国，九州

## 【県内での分布】

浦ノ内湾，須崎湾

## 【生物学的特性】

ホロタイプは殻長13.2mm，殻高5.4mm，殻幅10.0mm。大きい個体では殻長17mmになる。殻は側面から見ればイガイ型，左右両殻が合わさった状態で背面または腹面から見れば心臓形をしている。殻は薄質で、内臓も透けて見える。鉸歯はない。アナジャコ類の頭胸部の腹面に付着する。通常、1個体の雌が足糸で付着し、その足糸付近に数個体の矮雄が付着する。

## 【生息環境】

内湾の潮間帯から水深10mまでの砂泥底に生息するアナジャコ類に付着する。

## 【生息状況】

浦ノ内湾および須崎湾において、ヨコヤアナジャコ *Upogebia yokoyai* に付着する。ヨコヤアナジャコは県内の内湾および河口汽水域に普通に生息しているが、本種が付着しているのはこれら2つの湾に限られる。1965年の土佐産貝類総目録には、本種は掲載されていない。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

和名のマゴコロ（真心）は、心臓形をした殻形およびアナジャコ類への付着部位に因んでいる。

## 【執筆者】

三本健二

バカガイ上科バカガイ科

# ユキガイ

*Meropesta nicobarica*

高知県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

口絵31

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地が限定されているうえ個体数も少ない。今回のレッドリスト改訂で、汽水産種以外の内湾の干潟の生息種を対象に加えたため、本種が追加となった。

## 【国内分布の概要】

房総半島以南の本州、四国、九州、南西諸島

## 【県内での分布】

浦ノ内湾、野見湾、須崎湾

## 【生物学的特性】

殻長5cm。殻はほぼ卵形で、薄質、白色。後部では、左右両殻が開く。殻表には、前後の背縁に近い部分を除き、多数の放射肋がある。放射肋は細いが明瞭で、間隔が大きい。

## 【生息環境】

潮間帯から水深20mまでの砂泥底に深く潜って生活する。

## 【生息状況】

2014年以降の調査で浦ノ内湾および須崎湾でわずかな個体を確認された。野見湾では、2003年に狭い範囲ながら群生が確認されている。1965年の土佐産貝類総目録では、代表的な産地が宇佐とされている。

## 【保全・保護対策】

本種が生息するような内湾の干潟は、本県ではもともと狭いうえ、古くから埋立ておよび護岸によって改変されてきた。微地形および底質を含めた生息環境の保全が必要である。

## 【特記事項】

タイプ産地は、種小名*nicobarica*が示すようにベンガル湾のニコバル諸島である。

## 【執筆者】

三本健二

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

真有肺目ハワイマイマイ科

## ノミガイ

*Tornatellides boeningi*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内における確実な生息地は1か所しかなく、また、生息範囲が限定されている。

### 【国内分布の概要】

伊豆諸島、和歌山県、高知県、九州南部、南西諸島

### 【県内での分布】

中土佐町

### 【生物学的特性】

殻長3.3mm、殻径1.6mm、5層前後。微小種。殻は円錐形。褐色で、光沢がある。殻口内唇に1個の歯状突起がある。卵胎生で、稚貝を多産する。

### 【生息環境】

海岸の低木林の落葉の下に生息する。

### 【生息状況】

生息範囲はきわめて狭いが、2014年の調査でも生息が確認された。須崎市の浦ノ内湾沿岸および黒潮町の海岸(死殻)でも採集されているが、定住していたとは考え難い。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されにくい場所にあるが、今後監視していくことも必要である。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キバサナギガイ科

## スナガイ

*Gastrocopta armigerella armigerella*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内で生息が確認されている地点数、個体数はともに少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

高知市、四万十町

### 【生物学的特性】

殻長2.5mm、殻径1mm、4層前後。円筒形の微小種。白色で、鈍い光沢がある。殻口内面に7本の歯状突起がある。

### 【生息環境】

主に海岸の低木林の落葉の下および海浜植物の群落内に生息する。

### 【生息状況】

微小種で、生息が確認された地点は少ない。最近では、2015年に高知市の海浜植物群落内の石の下で確認された。今後、県内各地の海岸を綿密に調査すれば、新産地が見いだされる可能性がある。

### 【保全・保護対策】

現在確認されている生息地の環境を保全することが必要である。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ミジンマイマイ科

## ミジンマイマイ

*Vallonia costata*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

県内で生息が確認されている地点数、個体数はともに少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

室戸市、南国市、高知市

### 【生物学的特性】

殻長1mm、殻径2mm、3.5層。微小種。螺塔が低く、平巻きに近い。殻表には粗い糸かけ状の成長肋がある。殻口は円形に近く、口縁は外へ反転する。

### 【生息環境】

海岸に近い神社および低木林でまれに見つかる。

### 【生息状況】

微小で、入念に探さないと見逃してしまう。県内で生息が確認された地点は少ない。最近では、2015年に高知市の海浜植物群落内に落ちているコンクリートブロックの下で確認された。今後、各地の海岸を綿密に調査すれば、新産地が見いだされる可能性がある。

### 【保全・保護対策】

海岸付近の自然林の保全が必要である。

### 【執筆者】

多田 昭



真有肺目キセルガイ科

## ホソヒメギセル

*Megalophaedusa gracilispira*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内で生息が確認されている地点数、個体数はともに少ない。

### 【国内分布の概要】

愛知県、近畿、中国、四国、九州中北部

### 【県内での分布】

大豊町から四万十市までの2市5町1村

### 【生物学的特性】

殻長9.7～12.7mm、殻径2.2～2.6mm、8～12層。キセルガイ科の中では小型である。白色または淡褐色。殻口内の上板のつけ根に深い溝ができることで他種と識別可能。

### 【生息環境】

神社の境内にあるカエデのような落葉広葉樹の樹幹、樹皮下および樹洞で観察されることが多い。

### 【生息状況】

県内では生息地がきわめて少なく、個体数も少ない。本県を除く四国3県では普通種であり、県版レッドリストに掲載されているのは本県だけである。

### 【保全・保護対策】

樹木に依存するため、生息が確認された樹木およびその周辺の環境を保全すべきである。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キセルガイ科

## ニセコスジギセル (新称)

*Megalophaedusa ventriluna*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：—

環境省2017ランク：—

### 【選定理由】

広葉樹の巨木付近だけに生息する。生息地、個体数はともに少なく、減少傾向にある。

### 【国内分布の概要】

徳島県、高知県

### 【県内での分布】

安芸郡の2町2村、室戸市、日高村、四万十町

### 【生物学的特性】

殻長12.5～18.5mm、殻径3.2～3.9mm、10層前後。キセルガイ科の中では小型。黄褐色。

### 【生息環境】

主にうっそうと繁る社寺林の広葉樹の巨木付近に生息する。

### 【生息状況】

広葉樹以外に登っていることはない。根元または樹皮下で観察されることが多い。

### 【保全・保護対策】

近年減少傾向にあり、生息地の保全が必要である。

### 【特記事項】

本種はシタヅキギセルと混同されてきたが、形態学的にも遺伝学的にも異なる別種であることが判明している。和名がなかったため、コスジギセルに似てはいるものの分類学的には異なるという意味で新称ニセコスジギセルを提唱する。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目オカモノアラガイ科

## ナガオカモノアラガイ

*Oxyloma hirasei*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

生息地が湿地に限定され、県内で生息が確認されている場所はきわめて少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

四万十町、四万十市

### 【生物学的特性】

殻長13mm、殻径6mm、2.5層。オカモノアラガイ科の中では小型である。殻は薄質。黄褐色で、光沢がある。細長く、殻口も細長い。

### 【生息環境】

湿地を好み、年間を通じて湿度の高い場所에만生息する。

### 【生息状況】

本県の個体群は自然分布と考えられるが、県内で生息が確認されている場所がきわめて少ない。

### 【保全・保護対策】

生息環境が湿地であり、埋め立てで改変されやすい。湿地を含め多様な環境の保全を図る必要がある。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

## ミヤマオオベソマイマイ

*Aegista proba goniosomoides*

### 【選定理由】

本県では山岳部に分布しているが、個体数は少ない。津野町では生息地の環境変化により絶滅した可能性がある。

### 【国内分布の概要】

徳島県、愛媛県、高知県

### 【県内での分布】

香美市、大川村、高知市、津野町

### 【生物学的特性】

殻長7.3~9.8mm、殻径11.9~14.7mm、6層前後。オオベソマイマイ属の中では中型である。淡褐色で、鈍い光沢がある。体層周縁は鈍く角張る。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【生息環境】

主に石灰岩地のガレ場および草本群落内に生息するが、石灰岩地以外でも見つかる。

### 【生息状況】

県内で生息が確認されている場所は少なく、しかも各生息地とも個体数は少ない。かつて比較的多産していた天狗高原では、近年は再三の調査でも確認されていない。

### 【保全・保護対策】

各生息地での正確な生息状況を把握して、付近の環境保全を図る必要がある。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

## コケマイマイ

*Aegista aemula subdivesta*

### 【選定理由】

生息域が限定されているうえ、近年減少傾向にある。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

須崎市

### 【生物学的特性】

殻長6.4~8.5mm、殻径15~17mm、5層前後。低円錐状。体層周縁は鋭く角張る。殻口外唇は弱く肥厚する。体層周縁では毛状殻皮が放射状に突き出る。

### 【生息環境】

石灰岩地の岩場およびガレ場に生息する。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

### 【生息状況】

雨上がりには地表に出て活動しているが、普段は石の隙間に潜んでいる。

### 【保全・保護対策】

生息域の環境保全が必要である。

### 【特記事項】

本県中部の石灰岩地の固有亜種で、タイプ産地は須崎市桑田山である。和名は、本州および四国東部に普通に見られるオオケマイマイより小型であることから名づけられた。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

## ヒラケマイマイ

*Aegista pressa*

### 【選定理由】

生息地が少ないうえ、各産地とも個体数が少ない。

### 【国内分布の概要】

高知県

### 【県内での分布】

宿毛市、大月町

### 【生物学的特性】

殻長5.3~6.1mm、殻径10.2~12mm、5層前後。ケマイマイ種群の中では小型。低円錐形。淡褐色。体層周縁は鋭く角張る。殻口外唇は弱く肥厚し、反り返る。体層では短い殻皮毛が周縁に向かって放射状に伸び、周縁で短く突き出る。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息環境】

広葉樹の低木林の落葉の下に生息している。大月町の生息地は急斜面に位置している。

### 【生息状況】

本県固有種で、タイプ産地は沖の島である。生息が確認されている3か所とも、近年個体数が減少している。

### 【保全・保護対策】

生息地の環境保全が必要である。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目ナンバンマイマイ科

# ヤマガマイマイ

*Euhadra dixoni montivaga*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

生息条件が悪化し、個体数も減少している。

## 【国内分布の概要】

愛媛県，高知県

## 【県内での分布】

津野町，梶原町，四万十町，四万十市，宿毛市

## 【生物学的特性】

殻長2.5cm，殻径3cm，6～6.5層。淡黄褐色の地に赤褐色の色帯がある。色帯の配置には変異が認められ、臍孔の周囲に広い色帯があり体層中央部に狭い色帯がある個体や、それらの色帯がつながっている個体もいる。

## 【生息環境】

主として広葉樹の自然林に生息する。

## 【生息状況】

樹上性であり、カエデおよびサクラをはじめとする広葉樹に登る。生息地周辺では、住宅の壁および塀を這っていることもある。

## 【保全・保護対策】

生息地は植林または開発により分断されていることが多く、保全が必要である

## 【特記事項】

タイプ産地は津野町の不入山である。中国地方に分布するサンインマイマイとは別亜種とされている。

## 【執筆者】

山崎博継

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

Cycloneritimorpha目コハクカノコ科

## ツバサコハクカノコ

*Neritilia mimotoi*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地は限定されているが、2014年以降の調査では複数地点で確認され、群生も確認されたため、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

三重県以南の本州、四国、九州、上甕島（タイプ産地）

### 【県内での分布】

安芸市、高知市、須崎市、中土佐町、黒潮町

### 【生物学的特性】

殻長2mm、殻径3mm。殻は薄質で半透明。殻口の内唇滑層後端が翼状に突出する個体と突出しない個体がある。

### 【生息環境】

県内では、外海に注ぐ河川の河口域の礫地に生息している。水中では礫底面に付着し、干潮時に干出した川原では埋もれて水に浸っている礫に付着している。

### 【生息状況】

県中部の一河川では、干出した川原で多くの個体が確認され、水底では少なくとも上下400mの範囲で確認された。その他の河川で確認された個体数は少ない。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、保全が必要である。

### 【特記事項】

2002年の高知県レッドデータブックではコハクカノコ属の1種としていた。県内では同書作成のための調査で発見されたが、ほぼ同時期に鹿児島県でも発見され、同県上甕島をタイプ産地として2001年に新種記載された。

### 【執筆者】

三本健二

オニツノガイ上科オニツノガイ科

## コゲツノブエ

*Cerithium coralium*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地は限定されているが、各生息地では群生している。

### 【国内分布の概要】

房総半島以南の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

浦ノ内湾、須崎湾、黒潮町、宿毛湾

### 【生物学的特性】

殻長3cm。全体が黒褐色をしている。殻表には3本の螺肋があり、縦肋との交点に先端の尖った顆粒を生じている。各螺肋間に数本の螺条がある。殻口は、前端に短いながら明瞭な水管溝があり、後端に後溝がある。蓋は卵形で、核は下寄りにある。殻口および蓋の形状は、本種と同所的に

生息することのあるフトヘナタリ科およびウミナナ科の貝類とは異なっている。

### 【生息環境】

内湾奥部の潮間帯下部および潮下帯の泥底に生息する。県内では、潮間帯よりもその直下の部分に多い。

### 【生息状況】

内湾奥部および河口域に生息し、県内の各生息地では群生している。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

オニツノガイ上科フトヘナタリ科

## カワアイ

*Pirenella pupiformis*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地が限定されている。2000年前後には黒潮町の1か所で確認されただけであったが、2014年以降の調査では3つの水域で群生が確認されたため、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

宮城県以南の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

黒潮町、四万十市、宿毛湾

### 【生物学的特性】

殻長5cm。螺層の側面は平坦であるが、縫合および3本の螺肋間は明瞭な溝状となる。螺肋と縦肋との交点には結節が生じる。蓋は円形で、核は中央にある。本種と同所的に生息することのあるヘナタリでは、外唇が前方へ翼状に著

しく突出し、その先端が尖る。

### 【生息環境】

河口汽水域および内湾奥部の潮間帯中部から下部にかけての砂泥底に生息する。

### 【生息状況】

県内で確認された3つの水域では群生し、特に宿毛湾では各地に群生している。かつて生息していた記録がある浦ノ内湾では、最近の確認情報がない。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二



オニノツノガイ上科フトヘナタリ科

## ヘナタリ

*Pirenella nipponica*

### 【選定理由】

生息地が限定されている。2000年前後には生息が確認されなかったが、2014年以降の調査では2つの水域で群生が確認されたため、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

房総半島以南の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

浦ノ内湾、宿毛湾

### 【生物学的特性】

殻長3cm。螺層の側面は平坦であるが、縫合は明瞭な溝状となる。殻表には縦肋および3本ないし4本の螺肋があり、両者の交点には結節が生じる。外唇は前方へ翼状に著しく突出し、その先端が尖る。蓋は円形で、核は中央にある。

## 高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息環境】

河口汽水域および内湾奥部の潮間帯中部から下部にかけての砂泥底に生息する。

### 【生息状況】

2000年前後の調査では、生息がまったく確認されなかった。2014年以降の調査では、上記の2つの湾で各地に群生していることが確認された。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

オニノツノガイ上科フトヘナタリ科

## フトヘナタリ

*Cerithidea moerchii*

### 【選定理由】

生息地は限定されているが、各地で群生が確認されたため、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

東北以南の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

浦ノ内湾、須崎湾、四万十町、黒潮町、四万十市、宿毛湾

### 【生物学的特性】

殻長4cm。成長した個体では、殻頂部が欠損する。殻表には縦肋と螺肋があり、それらの交点に結節を生じる。蓋は円形で、核は中央にある。

### 【生息環境】

河口汽水域の潮間帯上部のアシ原およびその周辺に生息する。

## 高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：絶滅危惧II類 (VU)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息状況】

県内各地とも生息範囲は狭いが、群生している。浦ノ内湾および宿毛湾では生息地が多い。干潮時には、底質上に横たわっている個体のほか、草本の茎に登っている個体も観察される。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、植生を含めた保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

高腹足目ミズゴマツボ科

## ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ)

*Stenothyra edogawensis*

### 【選定理由】

生息地が限定されており、多くの地点では確認された個体数が少ない。

### 【国内分布の概要】

宮城県以南の本州、四国、九州、沖縄島

### 【県内での分布】

浦戸湾、黒潮町、四万十市、宿毛湾

### 【生物学的特性】

殻長2.5mm、殻径1.5mm、5層。殻口は体層の大きさに比べて小さく、円い。殻表は平滑であるが、螺旋状に並んだ微細な刻点がある。体層の背面には褐色斑がある。淡水域に生息するミズゴマツボは本種に類似しているが、殻長4～6mmと大きく、体層背面に褐色斑がない。

## 高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：—

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息環境】

内湾河口域の潮間帯に生息する。

### 【生息状況】

浦戸湾では個体数が多く、泥底上に生息するが、コアマモに付着していることもある。1965年の土佐産貝類総目録には掲載されていないが、1944年の文献には現在は本種の異名とされているタナベミズゴマツボを浦戸湾の湾奥で確認したことが記されている。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

高腹足目カワザンショウガイ科

## ヒナタムシヤドリカワザンショウ

*Assiminea* aff. *parasitologica*

### 【選定理由】

生息地が限定されており、個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

四万十市

### 【生物学的特性】

殻長3.5mm。臍孔はない。螺層の膨らみは弱く、縫合でのくびれも弱い。殻表は光沢が強い。殻は全体的に褐色であるが、縫合直下および殻底中央部は淡黄色である。

### 【生息環境】

河口汽水域のアシ原およびその周辺に生息する。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息状況】

四万十市の数か所に生息する。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、植生を含めた保全が必要である。

### 【特記事項】

2002年の高知県レッドデータブックではムシヤドリカワザンショウとしていた。しかし、当時その種とされていた貝のうち、本州太平洋側から九州にかけて生息する種が現在では本種とされている。未記載種であり、和名のみが与えられている。

### 【執筆者】

三本健二

高腹足目カワザンショウガイ科

## ヨシダカワザンショウ

*Assiminea* ? *yoshidayukioi*

### 【選定理由】

生息地が限定されており、各地とも個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

北海道南部、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

高知市、四万十市、宿毛市、土佐清水市

### 【生物学的特性】

ホロタイプは殻長3.2mm、殻径2.2mm、螺層は5.5層。殻は半透明。臍孔は狭いが、明らかに開く。螺層の膨らみはやや強い。殻表は光沢が強い。殻は全体的に褐色であるが、臍孔の周囲は殻内面が肥厚しているため白っぽく見える。類似種からは、殻表の光沢が強いこと、臍孔が開くという特徴によって識別することができる。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息環境】

河口汽水域のアシ原湿地内の最も陸側の部分から陸上植生内にかけて生息する。

### 【生息状況】

県内の各生息地とも個体数は少ない。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、植生を含めた保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

高腹足目カワザンショウガイ科

## クイロカワザンショウ

*Angustassiminea castanea*

### 【選定理由】

生息地が限定され、多くの場所で個体数は少ない。

### 【国内分布の概要】

東北以南の本州、四国、九州、種子島

### 【県内での分布】

高知市、須崎市、四万十町、黒潮町、土佐清水市

### 【生物学的特性】

殻長4.5mm。臍孔はない。螺層の膨らみは弱く、縫合でのくびれも弱い。殻表は平滑であるが、縫合の下に1本の細かい螺溝がある。殻は全体的に茶褐色で、軟体の足は黒褐色である。本種に酷似するサツマクイロカワザンショウは足がクリーム色であり、本種と違って海水域にも生息している。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息環境】

河口汽水域のアシ原およびその周辺に生息する。フトヘナタリと同所的に生息することが多い。

### 【生息状況】

黒潮町では群生しているが、その他の場所では個体数が少ない。

### 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、植生を含めた保全が必要である。

### 【執筆者】

三本健二

水棲目ヒラマキガイ科

## ヒラマキガイモドキ

*Polypylis hemisphaerula*

### 【選定理由】

県内の広い範囲で確認されたが、生息地は限定されている。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

安田町、高知市、佐川町、土佐市、宿毛市

### 【生物学的特性】

殻長2mm、殻径5mm。殻は平巻きに近く、円盤状で、左巻きである。上面は平坦であり、中央部が臍孔のようにくぼむ。そのくぼみは狭くて深い。底面は弱くふくらむ。肩部は丸い。上面の殻内面には、中心から周縁へ放射状に伸びる襞が数本あり、それが殻外から透けて見える。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

### 【生息環境】

水田およびその周辺に生息する。

### 【生息状況】

県の東部から西部まで生息が確認されているが、一度確認された場所でも、年によって確認できないことがある。

### 【執筆者】

三本健二

水棲目ヒラマキガイ科

## クルマヒラマキガイ

*Helicorbis cf. cantori*

### 【選定理由】

生息地が限定されている。県中部の数地点で確認されたため、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

東海以西の本州、四国、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

南国市、高知市、土佐市、佐川町

### 【生物学的特性】

殻長2mm、殻径10mm。殻は平巻きに近く、円盤状で、左巻きである。上面は平坦で、中央部が臍孔のようにくぼむ。そのくぼみは広くて深い。底面はわずかにふくらむ。肩部に強い稜角がある。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【生息環境】

水田およびその周囲の水路に生息する。

### 【生息状況】

2002年の高知県レッドデータブック作成のための調査では、市街地でのわずかな情報しかなかった。2014年以降の調査では、土佐市の山間部の水田跡で群生が確認されたほか、数地点で生息が確認された。多くの場所では、個体数が少なく、一度生息が確認された場所でも、年によって生息が確認されなかった。

### 【執筆者】

三本健二

イシガイ目イシガイ科

## タガイ

*Sinanodonta japonica*

### 【選定理由】

生息地は県内全体に点在しているが、2014年以降の調査では2000年前後と比べて個体数が減少していた。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

東洋町から宿毛市までの7市1町

### 【生物学的特性】

殻長は通常は10cmを超えない。殻は薄い。殻皮は黒褐色。擬主歯も側歯もない。殻形は、同属のヌマガイに比べて前後に長く、殻幅は小さい。幼生は、オイカワ、カマツカおよびヨシノボリ類の鱗および鰓に寄生する。ほぼ一年中、妊卵して幼生を放出する。

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：—

### 【生息環境】

水路の泥底ないし砂礫底内に生息する。

### 【生息状況】

2000年前後には県の中中部および西南部で群生が確認されている。しかし、それらの場所での2014年以降の調査では、少数個体しか確認されなかったか、または1個体も確認されなかった。

### 【特記事項】

タガイおよびヌマガイは同種とされ、ドブガイと呼ばれていたこともある。

### 【執筆者】

三本健二

イシガイ目イシガイ科

# ヌマガイ

*Sinanodonta lauta*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：－

## 【選定理由】

2000年前後に多数の個体が確認された場所で生息が確認されなかった。同属のタガイと同様の生息状況であるため、準絶滅危惧種とした。

## 【国内分布の概要】

北海道，本州，四国，九州

## 【県内での分布】

香南市，南国市，高知市，土佐市

## 【生物学的特性】

殻長20cm以上になる。殻は薄い。殻皮は緑褐色。擬主歯も側歯もない。タガイに比べて殻高が大きく丸く、殻幅が大きい。幼生はオイカワ、カマツカおよびヨシノボリ類の鰭および鰓に寄生する。春から夏にかけて妊卵し、幼生を放出する。

## 【生息環境】

ため池および水路の砂底ないし泥底内に生息する。

## 【生息状況】

同属のタガイと同所的に生息することがある。2000年前後には、南国市および土佐市でタガイとともに群生していることが確認されている。しかし、2014年以降の調査では確認されなかった。

## 【特記事項】

タガイおよびヌマガイは同種とされ、ドブガイと呼ばれていたこともある。

## 【執筆者】

三本健二

ザルガイ目シオサザナミ科

# ハザクラ

*Gari minor*

高知県：準絶滅危惧 (NT)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地が河口汽水域および内湾奥部に限定される。1か所では群生しているが、他の場所では個体数が少ない。

## 【国内分布の概要】

房総半島以南の本州，四国，九州，南西諸島

## 【県内での分布】

東洋町，香南市，浦戸湾から須崎湾，四万十町，宿毛湾

## 【生物学的特性】

殻長3cm，殻高2cm，殻幅1cm。左右両殻は後端で狭く開く。殻頂から放射状に伸びる紫色の色帯がある。殻皮は緑がかかった褐色で、殻の色帯が透けて見える。

## 【生息環境】

河口汽水域および内湾奥部の砂底ないし砂礫底内に生息する。

## 【生息状況】

四万十町では高密度での群生が確認された。その他の場所では、確認された個体数が少ないか、または確認されなかった。

## 【保全・保護対策】

生息地は改変されやすい場所であり、保全が必要である。

## 【執筆者】

三本健二



高腹足目カワザンショウガイ科

## ホラアナゴマオカチグサ

*Cavernacmella kuzuensis*

### 【選定理由】

石灰洞内という特殊な環境に生息する微小種であり、県内での近年の生息情報が不足している。

### 【国内分布の概要】

本州、徳島県、愛媛県、高知県、九州、南西諸島

### 【県内での分布】

香美市、高知市、日高村

### 【生物学的特性】

殻長2mm、殻径1.3mm。淡黄褐色。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

### 【生息環境】

石灰洞内の真っ暗な場所の湿った壁面で生活している。

### 【生息状況】

各洞内では狭い範囲に群生している。

### 【特記事項】

タイプ標本は栃木県佐野市の石灰洞堆積物（葛生層）から発見された更新世化石である。

### 【執筆者】

多田 昭

真有肺目キバサナギガイ科

## ナタネキバサナギガイ

*Vertigo eogea eogea*

### 【選定理由】

最近、過去に確認された2か所のうち、1か所だけで再確認された。微小種で、生息情報が不足している。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国

### 【県内での分布】

高知市、宿毛市

### 【生物学的特性】

殻長3mm、殻径1.7mm。円筒形。褐色で、光沢がある。殻口内に6本の歯状突起がある。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：準絶滅危惧 (NT)

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【生息環境】

通常は湿地内の枯れ草および落葉に付着している。

### 【生息状況】

各生息地での個体数は少ない。

### 【保全・保護対策】

湿地は特有の種が生息する場所であり、保全が必要である。

### 【執筆者】

多田 昭

原始紐舌類エゾマメタニシ科

## ヒメマルマメタニシ

*Gabbia kiusuensis*

### 【選定理由】

佐川町内の3か所で少数の個体が確認された。過去の記録がなく、国内移入の可能性もある。

### 【国内分布の概要】

本州、四国、九州

### 【県内での分布】

佐川町

### 【生物学的特性】

殻長6mm。微小ながら殻形はタニシ類に似ている。軟体にある赤褐色の斑点が殻の外から透けて見える。

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【生息環境】

水田内および水田に隣接する水路に生息する。

### 【生息状況】

2014年以降の調査により、県内で初めて確認された。確認された3か所は、互いに離れていて、一次支川または二次支川を異にする場所に位置している。

### 【執筆者】

三本健二

高腹足目ミズツボ科

## コウチミジンツボ

*Akiyoshia morimotoi*

### 【選定理由】

地下水に生息するため調査が困難であり、長年県内での確認記録がないものの、絶滅と判断することはできない。

### 【国内分布の概要】

四国各県

### 【県内での分布】

高知市

### 【生物学的特性】

殻長1.6mm、殻径0.9mm。微小ながら殻形はタニシ類に似ている。類似種が八王子市、金沢市、京都市などの井戸から

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：情報不足 (DD)

環境省2017ランク：情報不足 (DD)

発見されている。

### 【生息環境】

地下水に生息する。

### 【生息状況】

高知市秦泉寺の森本 桂氏宅の掘抜井戸から発見された標本に基づき、1958年に新種記載された。これ以外に県内での確認情報はない。

### 【執筆者】

三本健二

イシガイ目イシガイ科

## イシガイ

*Unio douglasiae*

### 【選定理由】

1965年の文献記録および1986年の採集記録があるが、後者は国内移入の可能性があり、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

南国市

### 【生物学的特性】

殻長6cm。殻は厚質。殻皮は黒い。擬主歯および後側歯は、左殻に2つずつ、右殻に1つずつある。幼生はオイカワ、

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：－

カワムツおよびヨシノボリ類の鰓に寄生する。

### 【生息環境】

小川および用水路の砂礫底ないし砂泥底に生息する。

### 【生息状況】

2002年の高知県レッドデータブックの記録(南国市の水路)および1965年の土佐産貝類総目録の記録(高知市春野町)のほかに確認情報は得られていない。

### 【執筆者】

三本健二

イシガイ目イシガイ科

## マツカサガイ

*Pronodularia japonensis*

### 【選定理由】

1965年の文献記録は別種の可能性、1998年前後の採集個体は国内移入の可能性があり、ランクを変更した。

### 【国内分布の概要】

北海道南部、本州、四国、九州

### 【県内での分布】

香南市

### 【生物学的特性】

殻長5cm。殻は厚質。殻皮は黒い。擬主歯および後側歯が左右に1つずつある。幼生はオイカワ、カワムツ、ドジョ

## 高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：絶滅危惧IA類 (CR)

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

ウおよびヨシノボリ類の鰓および鰭に寄生する。

### 【生息環境】

小川および用水路の砂礫底ないし砂泥底に生息する。

### 【生息状況】

2014年以降の調査では生息が確認されなかった。1998年前後に香南市で確認されており、1965年の土佐産貝類総目録には3か所の産地が挙げられている。

### 【執筆者】

三本健二

ウロコガイ上科ウロコガイ科

# スジホシムシモドキヤドリガイ

*Nipponomysella subtruncata*

高知県：情報不足 (DD)

高知県2002ランク：－

環境省2017ランク：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息環境が特殊で、生息地が限定されており、個体数も少ない。

## 【国内分布の概要】

本州（浜名湖以西）、四国、九州

## 【県内での分布】

浦ノ内湾

## 【生物学的特性】

殻長4～5mm。殻は長卵形で、膨らみは弱い。薄質で、半透明。スジホシムシモドキの体表に付着する。ただし、和名提唱時には宿主がスジホシムシとされたため、和名はスジホシムシヤドリガイとされていた。

## 【生息環境】

内湾の潮間帯以下の砂泥底に生息する。

## 【生息状況】

文献によれば、浦ノ内湾で2014年から2016年までの間に採集されたスジホシムシモドキ8個体のうち1個体だけに付着していた。浦ノ内湾では2000年にも採集されている。

## 【執筆者】

三本健二

陸産貝類  
汽水・淡水産貝類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

地域個体群

〈文献一覧〉

- 阿部近一. 1981. 徳島県陸産ならびに淡水産貝類誌. 教育出版センター, 徳島, 88 pp., 29 pls.
- 東 正雄. 1960. 高知県沖島・柏島・足摺崎沖産貝類目録. 土佐湾貝類文献刊行会, 西宮, 102+17 pp., 5 pls.
- . 1968. 足摺崎産キセルガイ新種. *Venus*, 26: 74-77.
- . 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 (改訂増補版). 保育社, 大阪, 16+343 pp., 80 pls.
- 福田 宏・亀田勇一・平野尚浩・久保弘文・早瀬善正・齊藤 匠. 2017. 日本産クビキレガイ科 (新生腹足類: クビキレガイ上科) の再検討に向けて. *Molluscan Diversity*, 5: 33-77.
- 波部忠重. 1940. 日本産キセルガイ科の分類 (1). *Venus*, 10: 79-86.
- . 1944. 日本産ウノアシ科Lottiidae (= Acmaeidae) に就いて. *Venus*, 13: 171-187.
- Habe, T. 1965. The arcid subfamily Anadarinae in Japan and its adjacent areas (Mollusca). *Bull Natn Sci Mus Tokyo*, 8: 71-85, pls. 1-3.
- 波部忠重. 1975. 学研中高生図鑑貝Ⅱ. 学習研究社, 東京, 294 pp.
- Habe, T. 1976. New land and freshwater snails (Mollusca) from Japan. *Bull Natn Sci Mus, ser A*, 24: 225-228.
- 早瀬善正. 2013. 愛知県におけるスナガイの新産地. *かきつばた*, (38): 53-55.
- 堀 成夫・福田敏一・保阪健市・増野和幸・幸田郁代. 1997. 危急種レンズヒラマキガイ (鰓肺目: ヒラマキガイ科) の山口県内における棲息状況. *ユリヤガイ*, 5: 61-68.
- 保阪健市・福田 宏. 1996. 絶滅危惧種ミズゴマツボ (腹足綱: 新紐舌目: ミズゴマツボ科) の山口県小野田市産個体群と周辺の貝類相の特徴, およびその保護の必要性. *ユリヤガイ*, 4: 65-96.
- 飯島 魁. 1893. 日本ノ蝸牛 (三). *動物学雑誌*, 5: 25-28.
- 石川 裕. 2014. 貝類. 愛媛県貴重野生動物検討委員会 (編), pp. 253-279. 愛媛県レッドデータブック2014 RED DATA BOOK EHIME —愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—. 愛媛県, 松山.
- 伊谷 行・邊見由美・町田吉彦. 2016. 高知県浦ノ内湾の干潟で採集された稀種ムラサキガイ. *四国自然史科学研究*, (9): 28-30.
- 伊谷 行・村上瑠菜・塩崎祐斗・桐原聡太・邊見由美. 2018. 高知県浦ノ内湾におけるスジホシムシモドキヤドリガイの報告. *四国自然史科学研究*, (11): 51-54.
- 亀田勇一・福田 宏. 2015. シメクチマイマイ (ナンバンマイマイ科) の再定義, ならびに瀬戸内海中部沿岸・島嶼に固有な新隠蔽種アキラマイマイの記載. *Venus*, 73: 15-40.
- 上村了美・土屋 誠. 2008. 沖縄本島におけるイボウミニナ個体群および餌資源の季節変動. *Venus*, 66: 191-204.
- 神田正人. 2012. 大分県から採取されたオナジマイマイ科の2種について. *九州の貝*, (79): 27-28.
- 狩野泰則・佐々木猛智・石川 裕. 2001. 四国, 九州から得られた新種ツバサコハクカノコ (アマオブネ上目: コハクカノコ科). *Venus*, 60: 129-140.
- 川瀬基弘・波多野 順・田上正隆. 2014. 岐阜県初記録のカタマメマイマイ. *かきつばた*, (39): 45.
- 川瀬基弘・早瀬善正・安藤佑介・西岡佑一郎. 2012. 高知県猿田洞より産出したアツブタムシオイガイ属化石種サルダアツブタムシオイガイ (新称) を含む化石陸産貝類相. *Molluscan Diversity*, 3: 83-91.
- 川瀬基弘・西尾和久・松原美恵子・森山昭彦・市原 俊. 2016. キセルガイモドキ属の特徴とCOI遺伝子からみた分子系統解析. *瀬木学園紀要*, (10): 24-32.
- 川瀬基弘・大内陽子. 2010. 豊田市平戸橋町で発見されたカタマメマイマイ. *かきつばた*, (35): 41.
- 木村昭一. 2000. 愛知県より初めて採集されたカタマメマイマイ. *かきつばた*, (26): 11-12.
- 木村昭一・木村妙子. 1999. 三河湾および伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. *日本ベントス学会誌*, 54: 44-56.
- 近藤高貴. 1982. マツカサガイ属の分類学的検討. *Venus*, 41: 181-198.
- . 1998. オトコタテボシガイ属の再検討. *Venus*, 57: 85-93.
- . 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物, (3), 69 pp.
- 近藤高貴・田部雅昭・福原修一. 2011. ヌマガイとタガイの殻形態による判別. *ちりぼたん*, 41: 84-88.
- 黒田徳米. 1936. 新貝速報 (2). *Venus*, 6: 239-248.
- . 1945. キセルモドキ属に就いて. *Venus*, 14: 43-62.
- . 1959. カワザンショウガイ新種今一種. *Venus*, 20: 335-338.
- . 1962. 日本並に隣接地域産ミズゴマツボ類に就いて. *Venus*, 22: 59-69.
- 黒田徳米・波部忠重. 1958. 日本の洞窟並に地下水産巻貝類. *Venus*, 19: 183-196.
- 前田和俊・太田 秀・大里明博・鹿野康裕・上島 励. 1983. 横須賀市自然博物館所蔵平瀬標本目録 (I) オナジマイマイ科 (有肺亜綱). *横須賀市博物館資料集*, (8): 1-34, pls. 1-24.
- 増田 修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. *ピーシーズ*, 東京, 240 pp.
- 三本健二. 1984. 浦戸湾の貝 (第1報). *まいご*, (1): 7-10.
- 湊 宏. 1972. 南紀産ノミガイの生殖腺と地理的分布. *南紀生物*, 14: 38-41.
- . 1981. 高知県の石灰岩地から採集されたクビナガムシオイ (新種). *Venus*, 40: 135-137.
- . 1982. 襲速紀要素型分布をするキセルガイ科貝類. *南紀生物*, 24: 8-11.
- . 1983a. 日本産陸棲貝類の生殖器の研究—XX I. キセルガイ科 (7): マルクチコギセル属. *Venus*, 42: 331-343.
- . 1983b. 日本産陸棲貝類の生殖器の研究—XX II. キセルガイ科 (8): イーストレーキコギセル属とヒロクチコギセル属.



Venus, 43: 172-181.

- . 1984. 高知県土佐石灰岩地のナカムラギセル. ちりぼたん, 15: 13-16.
- . 1985. 西日本産クチマガリマイマイ亜属の4種. ちりぼたん, 16: 56-61.
- . 1986. “ナカムラギセル”の中村定八氏について. ちりぼたん, 17: 11-15.
- . 1988. 日本陸産貝類総目録. 日本陸産貝類総目録刊行会, 和歌山, 294 pp.
- . 1989. 四国に分布するシコクピロウドマイマイ (新種). Venus, 48: 79-84.
- . 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. 貝類学雑誌, [別巻2], 212 pp.
- . 1999. 日本のキセルガイモドキ科貝類の概説. ちりぼたん, 30: 49-58.
- 湊 宏・多田 昭. 1977. 南西日本産ミカドギセル属の2新種. Venus, 36: 63-71.
- ・——. 1987. 四国産コンボウギセルガイ属の2新種. Venus, 46: 79-85.
- ・——. 2000. 四国のシメクチマイマイ種群の生殖器の形態とその分布. ちりぼたん, 31: 3-9.
- 湊 宏・矢野重文. 1987. 四国のホソキセルガイモドキ種群. ちりぼたん, 30: 3-9.
- 宮地伝三郎・波部忠重・今泉 正・天野 宏・山根謹爾. 1944. 浦戸湾の内湾標式に就て. 日本海洋学会誌, 4: 15-21.
- Mori, S. 1938. Classification of the Japanese Planorbidae. Mem Coll Sci, Kyoto Imper Univ, ser B, 14 (2), art 11: 279-300, pls. 12-18.
- Motochin, R., M. Wang and R. Ueshima. 2017. Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). Zool Jour Linnean Soc, 20: 1-51.
- 中尾賢一. 2000. 高知市一宮から産出した完新世貝化石群. 徳島県立博物館研究報告, (10): 49-60.
- 中尾賢一・三本健二. 2003. 高知市布師田とはりまや町における完新世貝類相の変遷とAMS<sup>14</sup>C年代. 徳島県立博物館研究報告, (13): 29-40.
- 中山駿馬. 1965. 土佐産貝類総目録. 中山駿馬, 高知, 136+12 pp.
- 日本ベントス学会 (編). 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 — 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野, 285 pp.
- 西 浩孝・曾田貞滋. 2005. ミトコンドリアDNA分析に基づく中国地方のマイマイ属の系統地理学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 8: 185-196.
- 奥谷喬司 (編著). 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 東京, 1173 pp.
- (編著). 2017. 日本近海産貝類図鑑【第二版】. 東海大学出版部, 平塚, 1375 pp.
- 大谷洋子・大原健司・高田良二 (編). 2005. 西宮市貝類館所蔵黒田徳米博士標本目録 (2) 二枚貝綱, 田中 勉氏寄贈二枚貝標本目録. 西宮市貝類館収蔵標本目録, (1). 5+100+21 pp., 5 pls.
- 小澤智生. 2017. 最近行われたフトヘナタリ科 (新生腹足亜綱: オニノツノガイ上科) の分類学的改定—特に日本近海産の構成種の改定に関連して—. ちりぼたん, 47: 43-53.
- Pilsbry, H. A. and Y. Hirase. 1903. Descriptions of new Japanese land shells. Nautilus, 17: 31-32.
- Reid, D. G. and T. Ozawa. 2016. The genus *Pirenella* Gray, 1847 (= *Cerithideopsilla* Thiele, 1929) (Gastropoda: Potamididae) in the Indo-West Pacific region and Mediterranean Sea. Zootaxa, 4076 (1): 1-91.
- 齊藤 匠. 2015. 東日本大震災後の宮城県で発見された絶滅危惧種ミズコハクガイ (腹足綱: ヒラマキガイ科) の新産地. Molluscan Diversity, 4: 50-53.
- 佐藤あゆみ・伊谷 行. 2012. 高知県浦ノ内湾で得られた死殻による絶滅危惧種ヒメアカガイの形態計測. 南紀生物, 54: 125-127.
- ・——. 2013. 高知県浦ノ内湾におけるマゴコロガイの多重寄生. 南紀生物, 55: 46-48.
- 佐藤勝義. 1980. 滅びゆく有明海のナラビオカミミガイ. ちりぼたん, 11: 72-73.
- 品川和久. 1980. オオツヤママイマイとその近縁種. かいなかま, 16: 1-6.
- 庄司幸八. 1938. 珍しき共棲二枚貝マゴコロ貝. Venus, 8: 119-128.
- 鈴木好一. 1937. 栃木県葛生町築地産陸産貝類化石. 地質学雑誌, 44: 438-443.
- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典. 2013. 干潟生物調査ガイドブック~全国版(南西諸島を除く)~. 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合, 東京, 269 pp.
- 多田 昭. 1974. タシママイマイの分布と変異について. ちりぼたん, 8: 85-87.
- . 1976. 下半山のアラトラ (タビト) ギセル. かいなかま, 10: 20.
- . 1978. タキギセルについて. ちりぼたん, 10: 60-66.
- . 1982a. 四国を中心としたキセルガイの分布. 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌, (18): 2-8.
- . 1982b. オキノシマナミギセルについて. かいなかま, 16: 1-3.
- . 1986. 四国の陸貝 (1), まいご, (2): 17-20.
- . 1989. 四国の陸貝 (2). まいご, (3): 1-6.
- . 1990a. 四国の陸貝 (3). まいご, (4): 15-19.
- . 1990b. 四国の好石灰岩性陸産貝類. 香川県高等学校教育研究会理化生地部会会誌, (26): 61-68.
- . 2000. パツラマイマイ南国高知に産す. まいご, (8): 12-13.
- . 2002. 四国産ピロウドマイマイ属貝類. まいご, (10): 4-9.
- . 2004. 戸島と神島の陸産貝類. まいご, (12): 4-7.
- . 2010. 石立山および高ノ瀬峡の陸産貝類. 徳島県立博物館研究報告, (20): 17-31.

- . 2017a. ムロトキセルガイモドキがホソキセルガイモドキと決まったわけではない. まいご, (24):3-10.
- . 2017b. カワリダネピロウドマイマイ四国に産す. まいご, (24):11-13.
- . 2017c. シロハダギセル高知県に産す. まいご, (24):13-14.
- 多田 昭・朝日良隆. 1987. ハナコギセル四国に産す. かいなかま, 20: 15.
- 多田 昭・早瀬善正. 2011. トサビロウドマイマイの岡山県での分布記録および類似種に関する考察. ちりぼたん, 41: 120-126.
- 多田 昭・石川 裕・矢野重文. 2016. 四国のゴマガイ科 (1) マルクチゴマガイ. まいご, (23):16-21.
- 多田 昭・湊 宏. 1981. "*Clausilia ignobilis* SYKES, 1895" (キセルガイ科貝類) の模式産地 "Kinnayama". 南紀生物, 23: 55-60.
- 多田 昭・大原健司. 2010. 四国におけるピロウドマイマイ属の分類—特にトサビロウドマイマイとシコクピロウドマイマイについて—. 徳島県立博物館研究報告, (20): 37-42.
- 多田 昭・大原健司・大谷洋子. 2013. 四国のキセルガイ科 (腹足綱・柄眼目). 西宮市貝類館研究報告, (8): 104+4pp.
- 田中義信. 1989. 土佐の陸貝Ⅱ—鏡川流域の石灰岩地帯—. まいご, (3):7-9.
- 矢野重文. 1987. コウチミジンツボ香川県に出現. ちりぼたん, 18: 14-15.
- . 2017. サルダアツブタムシオイガイ—新種記載後の反響と保護対策について—, まいご, (24):20-21.
- 矢野重文・松田春菜・西 邦雄・川瀬基弘・早瀬善正. 2016. 高知県猿田洞周辺および熊本県で発見されたアツブタムシオイ属 (新生腹足上目ムシオイガイ亜科) の2新種. Venus, 74: 51-59.
- Yokoyama, M. 1927. Mollusca from the upper Musashino of western Shimosa and southern Musashi. Jour Fac Sci, Imper Univ Tokyo, ser 2, 1: 439-457, pls. 51-52.

# 和名索引

## ア

アイヌコブスジコガネ……………161  
アイヌハンミョウ……………148  
アイノミドリシジミ……………155  
アオイトトンボ……………142, 186  
アオウミガメ……………口絵8, 79, 82  
アオカミキリ……………152  
アオゴミムシ……………166  
アオサナエ……………165  
アオジ……………29  
アオシギ……………29, 73  
アオタマムシ……………口絵21, 143, 194  
アオバズク……………口絵7, 27, 51  
アオヘリアオゴミムシ……………140  
アオヘリホソゴミムシ……………150  
アオマダラタマムシ……………151  
アオミズギワゴミムシ……………157  
アオヤンマ……………146  
アカアシコハナコメツキ……………151  
アカアシシギ……………28, 62  
アカアシツチスガリ……………164  
アカイロニセハムシハナカミキリ……………152  
アカウミガメ……………79, 80  
アカエゾゼミ……………156  
アカオビケラトリバチ……………145, 206  
アカギカメムシ……………165  
アカザ……………口絵11, 92, 108  
アカザ属の一種……………口絵11, 92, 108  
アカジマトラカミキリ……………口絵17, 142, 180  
アカシャチホコ……………164  
アカショウビン……………口絵7, 28, 64  
アカテガニ……………口絵14, 118, 132  
アカネシャチホコ……………164  
アカネトラカミキリ……………152  
アカマダラハナムグリ……………166  
アカメ……………93  
アカモズ……………29  
アサカミキリ……………140  
アジアイトトンボ……………165  
アジサシ……………28, 63  
アシシロハゼ……………口絵11, 92, 106  
アシジロヒラフシアリ……………164  
アシズリフタエササキリモドキ……………141, 172  
アシナガメクラチビゴミムシ……………口絵20, 143, 191  
アズママルクチコギセル……………口絵27, 223, 233  
アズマモグラ……………口絵1, 13, 17  
アツバタムシオイ……………223, 242  
アトコブゴミムシダマシ……………161  
アナジャコ……………口絵13, 117, 125  
アナドリメクラチビゴミムシ……………149, 209  
アマクサツェンナーガニ……………口絵12, 117, 122  
アマゴ(在来亜種)……………口絵9, 91, 97  
アマミサソリモドキ……………165  
アヤムネスジタマムシ……………151  
アヤモンチビカミキリ……………153  
アリアケモドキ……………口絵14, 117, 128  
アリノキメクラチビゴミムシ……………148  
アワクリイロベッコウ……………224, 248  
アワヒメハナカミキリ……………161

## イ

イイジマギセル……………口絵28, 224, 246

イガクロツヤマグソコガネ……………166  
イガブチヒゲハナカミキリ……………152  
イカル……………29  
イカルチドリ……………27, 59  
イグチケブカゴミムシ……………口絵24, 150, 210  
イシガイ……………227, 267  
イシカワメクラチビゴミムシ……………149  
イシツチオサムシ……………148  
イシツチササキリモドキ……………146  
イシツチサンショウウオ……………口絵8, 79, 84  
イシツチナガゴミムシ……………158  
イシツチヌレチゴミムシ……………157  
イシハラカメムシ……………157  
イシハラカンショコガネ……………151  
イシハラシリアゲ……………167  
イシハラヌレチゴミムシ……………157  
イシハラヒメナガゴミムシ……………158  
イッシキガガンボモドキ……………154, 213  
イッシキキモンカミキリ……………144, 199  
イツホシマメゴモクムシ……………159  
イッボンセスジスズメ……………口絵18, 142, 184  
イトアメンボ……………147, 208  
イトウナガゴミムシ……………口絵16, 141, 176  
イトウハバチ……………167  
イトウメクラチビゴミムシ……………口絵20, 143, 190  
イドミミズハゼ……………口絵10, 91, 99  
イナゴモドキ……………147  
イボウミニナ……………口絵30, 225, 239  
イヨギセル……………口絵26, 223, 230  
イラガ……………167  
イラガ(イツツバ)セイボウ……………168  
イラズメクラチビゴミムシ……………149  
イワトビケラの1種……………167

## ウ

ウオズミメクラチビゴミムシ……………149  
ウグリチビマメコメツキ……………161  
ウスイロキシタバ……………167  
ウスイロシマゲンゴロウ……………150  
ウスバカマキリ……………156  
ウスバツバメガ……………163  
ウスムラサキイラガ……………163  
ウズラ……………口絵2, 25, 30  
ウスリークサツミトビケラ……………口絵24, 154, 214  
ウチノミカニダマシ……………口絵12, 117, 121  
ウチワヤンマ……………165  
ウツセミカジカ(回遊型)……………91  
ウミアイサ……………29, 73  
ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ)……………226, 262  
ウミホソチビゴミムシ……………166  
ウミミズギワゴミムシ……………149  
ウモレベンケイガニ……………118, 133  
ウラキンシジミ……………154  
ウラギンスジヒョウモン……………口絵18, 142, 183  
ウラクロシジミ……………154  
ウラゴマダラシジミ……………167  
ウラナミジャノメ……………口絵18, 142, 183  
ウルシゴキブリ……………146  
ウワササキリモドキ……………147

## エ

エゴヒゲナガゾウムシ……………口絵24, 153, 212  
エサキアメンボ……………口絵16, 141, 173

エサキクロヒラタゴミムシ	158
エゾクシヒゲシャチホコ	164
エゾゼミ	147
エゾツユムシ	147
エゾトラカミキリ	162
エゾトンボ	146, 207
エゾナガヒゲカミキリ	162
エゾハルゼミ	147
エゾミドリシジミ	145, 203
エゾムシクイ	28, 67
エチゴトツクリゴミムシ	口絵16, 141, 175
エンナムシモドキ	160

## オ

オオアオカミキリ	144, 200
オオイシアブ	154
オオイトトンボ	口絵15, 140, 170
オオウスバカゲロウ	163
オオウナギ	口絵10, 91, 100
オオウラギンスジヒョウモン	155
オオウラギンヒョウモン	140
オオカマキリモドキ	145, 201
オオカミ	13
オオギセル	224, 243
オオキトンボ	156
オオキノコムシ	152
オオキベリアオゴミムシ	159
オオギンモンカギバ	163
オオクボカミキリ	152
オオクロツヤゴモクムシ	159
オオクワガタ	166
オオコノハズク	29, 74
オオサンショウウオ	口絵8, 79, 85
オオジシギ	25, 33
オオシマドジョウ	口絵9, 91, 96
オオシモフリスズメ	167
オオジュリン	27, 55
オオシロオビゾウムシ	167
オオセイボウ	165
オオセンチコガネ	166
オオタカ	口絵3, 25, 37
オオチャイロハナムグリ	口絵17, 141, 178
オオチャバネセセリ	154
オオツヤマイマイ	224, 249
オオテントウ	166
オオドウムクラチビゴミムシ	148
オオトツクリゴミムシ	口絵16, 141, 175
オオトラカミキリ	162
オオナガレトビケラ	154
オオヒラタアトキリゴミムシ	160
オオホソコバネカミキリ	144, 198
オオマルケシゲンゴロウ	150
オオミズスマシ	口絵17, 141, 178
オオミズナギドリ	口絵5, 26, 43
オオミドリシジミ	167
オオミノガ	167
オオムラサキ	155
オオメクラゲンゴロウ	141, 177
オオヨシキリ	口絵7, 27, 53
オオヨツアナアトキリゴミムシ	160
オオヨツボシゴミムシ	口絵23, 150, 210
オオルリ	口絵7, 28, 70
オガサワラチャイロカミキリ	161
オガタヒロバカゲロウ	153
オカメハゼ	口絵11, 92, 105
オカモトツヤアナハネムシ	144, 195
オキチビマメコメツキ	161

オキナワスカシバ	163
オキノシマナミギセル	口絵28, 224, 247
オキノシマヒメオサムシ	口絵25, 165, 216
オクヨウジ	92, 105
オグラヒラタゴミムシ	158
オサガニ	口絵13, 117, 124
オシドリ	29
オジロサナエ	165
オダヒゲナガコバネカミキリ	162
オツネントンボ	口絵15, 140, 170
オトヒメテッポウエビ	118, 133
オナガガモ	29
オナガシジミ	口絵22, 145, 202
オニクワガタ	166
オニササキリモドキ	146
オニベニシタバ	155
オヌキゲンバイウンカ	147
オヒキコウモリ	13, 20
オビシメクチマイマイ	225

## カ

カエデヒゲナガコバネカミキリ	167
カガミムカシゲンゴロウ	141, 176
カジガモリオオズナガゴミムシ(仮称)	158
カジモトメクラチビゴミムシ	149
カシラダカ	27, 55
カスミサンショウウオ	79, 81
カスリウスバカゲロウ	142, 182
カタキハナカミキリ	161
カタツムリトビケラ	154
カタボシホナシゴミムシ	159
カタマメマイマイ	口絵28, 223, 236
カッコウ	27, 58
カッコウメダカカミキリ	144, 200
カドタメクラチビゴミムシ	口絵16, 141, 175
カドツブゴミムシ	160
カドバリオトメマイマイ	口絵29, 224, 251
カトリヤンマ	146
ガニゴエメクラチビゴミムシ	148
カノコサビカミキリ	153
カハタレカワザンショウ	226, 253
カマキリ(アユカケ)	口絵10, 91, 101
カマドコロロギ	146
カミゼキメクラチビゴミムシ	148
カモハラギセル	口絵28, 224, 247
カヤキリ	146
カヤクグリ	29, 70
カラカネゴモクムシ	159
カラスバト	25, 30
ガロアムシ属全種	156
カワアイ	226, 261
カワアナゴ	93
カワスナガニ	118
カワセミ	29
カワツブアトキリゴミムシ	160
カワネズミ	13
カワノナガゴミムシ	158
カワヨウジ	93
カワヨシノボリ	93
カワラゴミムシ	165
カワラスズ	146
カワラニンフジョウカイ	166
カワラバッタ	147
カワラハンショウ	140
カワリダネヒロウドマイマイ	口絵28, 223, 236
カンムリウミスズメ	口絵6, 26, 49



# キ

キアシマルガタゴミムシ	159
キイカズクビナガムシ	口絵17, 141, 179
キイロアトキリゴミムシ	160
キイロサシガメ	口絵23, 147, 207
キイロサナエ	146
キイロトゲエダシヤク	155
ギギ	92, 108
キクビスカシバ	163
キゴジジガバチ	142, 185
キシタケンモン	164
キスジツチスガリ	164
キタエグリバ	164
キタスカシバ	163
キトンボ	143, 188
キノヅメクラチビゴミムシ	148
キバシリ	28, 67
キバネアナバチ	164
キバラハキリバチ	156
キビタキ	29
キベリフトカミキリモドキ	口絵24, 152, 211
キボシチビカミキリ	153
キボシツブゲンゴロウ	150
ギマ	93
キマエコノハ	167
キマダラモドキ	口絵22, 145, 204
キモンクチバ	164
キュウシュウエゾゼミ	141, 173
キュウシュウチビトラカミキリ	152
キュウシュウツヤゴモクムシ	159
キュウシュウトゲバカミキリ	162
キュウシュウフクロウ	28, 64
ギョリキマイマイ	224, 252
キョウトアオハナムグリ	151
キリアイ	口絵6, 26, 48
キリシマミドリシジミ	145, 203
ギンイチモンジセセリ	142, 182
キンスジコガネ	151
キントキクサカゲロウ	154
キンナガゴミムシ	158
ギンボシツツトビケラ	口絵24, 154, 214
ギンヤンマ	165

# ク

クイナ	口絵2, 25, 32
クシテガニ	口絵12, 117, 123
クシヒゲカゲロウ	153
クズハキリバチ	145, 206
クチキウマ属全種	156
クチキクシヒゲムシ	161
クチナガコオロギ	146
クツワムシ	147
クビアカツヤゴモクムシ	159
クビアカモモフトホソカミキリ	162
クビナガムシオイ	口絵26, 223, 228
クボハゼ	93
クボミテツポウエビ	117, 130
クマタカ	口絵3, 25, 38
クモガタヒョウモン	155
クワイロカワザンショウ	226, 263
クリサビカミキリ	162
クルマバメクラチビゴミムシ	148
クルマヒラマキガイ	227, 264
クロウスタビガ	155
クロオビシロナミシャク	167
クロオビトゲムネカミキリ	153

クロオビヒゲトオサムシ	口絵19, 143, 189
クロカナブン	151
クロケブカゴミムシ	口絵23, 150, 210
クロゲンゴロウ	口絵20, 143, 192
クロコハゼ	口絵11, 92, 109
クロサホソヒラタゴミムシ	159
クロサワヒメコバネカミキリ	162
クロサワヘリグロハナカミキリ	161
クロジ	29, 72
クロシジミ	140
クロズカタキバゴミムシ	159
クロスキバホウジャク	164
クロスジギンヤンマ	165
クロズホナシゴミムシ	160
クロソンホソハナカミキリ	144, 197
クロソンマグソコガネダマシ	161
クロソンメクラチビゴミムシ	157
クロソンモリヒラタゴミムシ	150
クロツグミ	28, 68
クロツツトビケラ	163
クロツバメシジミ	口絵25, 155, 215
クロツブゴミムシ	160
クロヒカゲモドキ	口絵22, 145, 205
クロヒゲアオゴミムシ	150
クロヒメガガンボモドキ	154
クロヒラアシキバチ	164
クロヘリアトキリゴミムシ	160
クロホオヒゲコウモリ	13, 20
クロホシマンジュウダイ	93
クロマダラタマムシ	口絵21, 143, 193
クロモンシタバ	167
クロモンチビゴキブリ	146
クロヨシノボリ	92, 111
クワカミキリ	167
ゲンバイトンボ	145

# ケ

ケカゲロウ	153
ケナガカミキリ	152
ケバネメクラチビゴミムシ	口絵20, 143, 190
ケブカクモバエ	167
ケブカトゲアシヒゲボソゾウムシ	口絵25, 165, 216
ケブカトラカミキリ	口絵18, 142, 180
ケブカヒラタカミキリ	161
ケブカマガソコガネ	166
ケリ	口絵2, 25, 33
ゲンゴロウ	口絵17, 141, 177
ケンザンミヤママルガタゴミムシ	150
ケンザンメクラチビゴミムシ	148

# コ

コアオアトキリゴミムシ	160
コアジサシ	口絵3, 25, 35
コアトワアオゴミムシ	159
コイカル	29
コウチミジンツボ	227, 267
コウベツブゲンゴロウ	150
コウライニゴイ	93
コエゾゼミ	147
コオイムシ	147
コーカサスイシアブ	163
コカスリウスバカゲロウ	145, 202
コガタガムシ	143, 193
コガタカントン	口絵15, 140, 171
コガタノゲンゴロウ	151
コガタブチサンショウウオ	口絵8, 79, 82
コカブトムシ	166

コガムシ…………… 口絵21, 143, 193  
 コキベリアオゴミムシ…………… 159  
 コクマルガラス…………… 29  
 コケカスミカメ…………… 157  
 コケシマグソコガネ…………… 166  
 コゲチャヒラタカミキリ…………… 口絵17, 142, 179  
 コゲツノブエ…………… 226, 261  
 コケマイマイ…………… 225, 259  
 コゴマヨトウ…………… 155  
 コサメビタキ…………… 28, 69  
 コシアカツバメ…………… 口絵7, 27, 52  
 コシボソギセル…………… 224, 244  
 コシボソヤンマ…………… 165  
 コシヤクシギ…………… 口絵2, 25, 34  
 コジュリン…………… 29  
 コシロオビドクガ…………… 155  
 コチドリ…………… 27, 60  
 コノハズク…………… 口絵3, 25, 38  
 コバネコロギス…………… 156  
 コハンミョウ…………… 148  
 コフキヒメイトトンボ…………… 145  
 コブシアナジャコ…………… 口絵13, 117, 126  
 コホソトビミズギワゴミムシ…………… 149  
 コホソナガゴミムシ…………… 158  
 コボラ…………… 93  
 ゴホンダイコクコガネ…………… 166  
 コマドリ…………… 口絵7, 27, 53  
 ゴマハゼ…………… 93  
 ゴミアシナガサシガメ…………… 口絵16, 141, 174  
 コミミズク…………… 口絵4, 25, 39  
 ゴモクムシダマシ…………… 161  
 コルリ…………… 27, 54  
 コルリクワガタ…………… 166  
 コンジテンナガエビ…………… 118

## サ

ササゴイ…………… 口絵5, 26, 44  
 ササメクラチビゴミムシ…………… 149  
 サシバ…………… 口絵6, 26, 50  
 サツキマス…………… 93  
 サツマツチゴキブリ…………… 156  
 サトウナガゴミムシ…………… 158  
 サトセナガアナバチ…………… 167  
 サドモリヒラタゴミムシ…………… 158  
 サヌキキリガ…………… 164  
 サルダアツバタムシオイ…………… 口絵26, 223, 228  
 サルハマシギ…………… 口絵6, 26, 47  
 サワダマメゲンゴロウ…………… 166  
 サンカノゴイ…………… 口絵2, 25, 31  
 サンコウチョウ…………… 28, 66  
 サンショウクイ…………… 口絵4, 26, 40

## シ

シータテハ…………… 口絵22, 145, 204  
 シオマネキ…………… 口絵14, 117, 129  
 シコクアオマルガタミズギワゴミムシ…………… 157  
 シコクアリツカウナカ…………… 156  
 シコククチプトカメムシ…………… 157  
 シコクタケノコギセル…………… 口絵27, 223, 232  
 シコクチビシデムシ…………… 160  
 シコクハコネサンショウウオ…………… 口絵8, 79, 83  
 シコクヒメコブハナカミキリ…………… 152  
 シコクヒラタナガゴミムシ…………… 150  
 シコクピロウドマイマイ…………… 225  
 シコクフトゴモクムシ…………… 159  
 シコクベッコウ…………… 224, 248  
 シコクヤマドリ…………… 27, 56

シタゴコロガニ…………… 口絵12, 117, 123  
 シタツキギセル…………… 口絵28, 224, 244  
 シナカミキリ…………… 153  
 シマントササキリモドキ…………… 140, 172  
 ジムグリ…………… 79  
 ジャノアナメクラチビゴミムシ…………… 148  
 ジュウイチ…………… 27, 57  
 ジュウクホシテントウ…………… 口絵21, 144, 195  
 ジュウジアトキリゴミムシ…………… 160  
 ジュウジドロバチ…………… 164  
 ショウリョウバツタモドキ…………… 165  
 シラタエビ…………… 口絵13, 117, 125  
 シラホシハナムグリ…………… 151  
 シルビアシジミ…………… 140  
 シロウオ…………… 口絵10, 91, 98  
 シロシタバ…………… 155  
 シロシモフリエダシヤク…………… 口絵23, 145, 205  
 シロスジヒゲナガハナバチ…………… 165  
 シロスジフトハナバチ…………… 165  
 シロチドリ…………… 口絵7, 27, 60  
 シロテンコウモリ…………… 163  
 シロハダギセル…………… 口絵26, 223, 231  
 シロヘリツチカメムシ…………… 157  
 シロヘリハンミョウ…………… 口絵19, 143, 189  
 シロマダラ…………… 79  
 シロモンオオヒゲナガゾウムシ…………… 167  
 シンチュウギセル…………… 口絵26, 223, 231  
 シントウトガリネズミ…………… 口絵1, 13, 16

## ス

スキバホウジャク…………… 164  
 スクモメクラチビゴミムシ…………… 157  
 スジゲンゴロウ…………… 166  
 スジホシムシモドキヤドリガイ…………… 227, 268  
 スナガイ…………… 225, 257  
 スナヤツメ(南方種)…………… 91, 94  
 スネケブカヒロコバネカミキリ…………… 口絵18, 142, 181  
 スミウキゴリ…………… 93  
 スミスオトメマイマイ…………… 口絵29, 224, 251  
 スモモエダシヤク…………… 163

## セ

セアカオサムシ…………… 口絵19, 143, 190  
 セイタカシギ…………… 27, 61  
 セスジイトトンボ…………… 146  
 セダココブヤハズカミキリ…………… 153  
 セダカダイミョウサギ…………… 92, 109  
 セビロオウギガニ…………… 118, 133

## タ

タイコウチ…………… 口絵23, 147, 208  
 ダイシヤクシギ…………… 口絵2, 25, 34  
 タイショウメクラチビゴミムシ…………… 149  
 ダイゼン…………… 口絵5, 26, 46  
 ダイミョウサギ…………… 92, 109  
 ダイミョウツブゴミムシ…………… 160  
 タイリクアカネ…………… 口絵15, 140, 171  
 タイリククロスジヘビトンボ…………… 167  
 タイワンクダマキモドキ…………… 156  
 タイワンツバメシジミ…………… 口絵18, 142, 183  
 タイワントビナナフシ…………… 156  
 タガイ…………… 227, 264  
 タカオメダカカミキリ…………… 161  
 タカチホヘビ…………… 79  
 タカネトンボ…………… 165  
 タカハシトゲゾウムシ…………… 162  
 タカブシギ…………… 28, 62

タガメ…………… 口絵15, 140, 169  
 タキギセル…………… 224, 245  
 タキグチモモトホソカミキリ…………… 152  
 タケウチエダシャク…………… 口絵23, 145, 205  
 タケウチホソハナカミキリ…………… 144, 197  
 タゲリ…………… 27, 59  
 タシギ…………… 口絵5, 26, 47  
 タシママイマイ…………… 口絵29, 224, 250  
 タテジマカミキリ…………… 153  
 タナカツヤハネゴミムシ…………… 159  
 タネハゼ…………… 口絵11, 92, 106  
 タビトギセル…………… 口絵26, 223, 230  
 タビラクチ…………… 91, 102  
 タベサナエ…………… 146  
 タマカメムシ…………… 147  
 タマシギ…………… 口絵6, 26, 48  
 タモロコ…………… 93  
 タワヤモリ…………… 口絵8, 79, 85

## チ

チゴハヤブサ…………… 28, 66  
 チチブ…………… 口絵11, 92, 107  
 チチブコウモリ…………… 口絵1, 13, 19  
 チチブモドキ…………… 口絵10, 92, 105  
 チツチゼミ…………… 143, 188  
 チドリムネミゾマグソコガネ…………… 161  
 チビクワガタ…………… 166  
 チビマメコメツキ…………… 151  
 チビミズアトキリゴミムシ…………… 160  
 チャイロチビゲンゴロウ…………… 151, 211  
 チャイロヒラタセスジムシ…………… 157  
 チャイロマメゲンゴロウ…………… 口絵20, 143, 192  
 チャバネクビナガゴミムシ…………… 150  
 チャマダラセセリ…………… 口絵15, 140, 169  
 チュウサギ…………… 27, 56  
 チュウシャクシギ…………… 28, 61  
 チュウジョウナガゴミムシ…………… 158  
 チュウジョウヒメハナカミキリ…………… 166  
 チュウヒ…………… 口絵3, 25, 37  
 チラカゲロウ…………… 165  
 チワラスボB種…………… 92, 109  
 チワラスボC種…………… 口絵10, 91, 103

## ツ

ツキノワグマ…………… 口絵1, 13, 14  
 ツチイロフトヒゲカミキリ…………… 153  
 ツノクロツヤムシ…………… 151  
 ツバサコハクカノコ…………… 226, 261  
 ツバメチドリ…………… 28, 63  
 ツボミ…………… 口絵30, 225, 238  
 ツマアカクモバチ…………… 156  
 ツマグロカマキリモドキ…………… 162  
 ツマグロスジハゼ…………… 92, 107  
 ツマグロトビケラ…………… 口絵24, 154, 213  
 ツマグロヒメガガンボモドキ…………… 154  
 ツマジロウラジャンメ…………… 155  
 ツミ…………… 29, 74  
 ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ…………… 162  
 ツヤメクラチビゴミムシ…………… 口絵20, 143, 191  
 ツリスガラ…………… 29  
 ツルギマルゲンバイ…………… 157  
 ツルギヤマツヤゴモクムシ…………… 159  
 ツルギヤマツヤムネハネカクシ…………… 161  
 ツルギヤマナガゴミムシ…………… 158  
 ツルクイナ…………… 29  
 ツルシギ…………… 28, 62

## テ

テナガエビ…………… 口絵14, 118, 131  
 テナガツノヤドカリ…………… 118, 131  
 テングコウモリ…………… 13  
 テングササキリモドキ…………… 147  
 テングナガゴミムシ…………… 150  
 テングメクラチビゴミムシ…………… 157

## ト

トウクツミミズハゼ…………… 92, 110  
 トウヨウヤワラガニ…………… 118  
 トカラウロコアリ…………… 164  
 トカラコギセル…………… 口絵27, 223, 234  
 トガリバホソコバネカミキリ…………… 144, 198  
 トクサギセル…………… 口絵27, 223, 232  
 トゲアシヒライソガニモドキ…………… 口絵13, 117, 127  
 トゲアトキリゴミムシ…………… 160  
 トゲウスバカミキリ…………… 152  
 トゲツノカメムシ…………… 157  
 トサシマドジョウ…………… 口絵9, 91, 96  
 トサシミズサンショウウオ…………… 79, 81  
 トサナガゴミムシ…………… 口絵20, 143, 192  
 トサヌレチゴミムシ…………… 150  
 トサヒメサビキコリ…………… 151  
 トサヒメハナカミキリ…………… 166  
 トサヒラスゲンセイ…………… 152  
 トサヒロウドマイマイ…………… 口絵27, 223, 235  
 トサムカシゲンゴロウ…………… 141, 176  
 トサメクラゲンゴロウ…………… 141, 178  
 トサヤマツヤムネハネカクシ…………… 161  
 ドジョウ…………… 口絵9, 91, 97  
 トックリゴミムシ…………… 150  
 トックリナガゴミムシ…………… 158  
 トノサマガエル…………… 79  
 トビハゼ…………… 口絵10, 91, 102  
 トホシカメムシ…………… 165  
 トモエガモ…………… 口絵4, 26, 43  
 トラツグミ…………… 28, 68  
 トラフカミキリ…………… 144, 201  
 トラフトンボ…………… 146  
 トラフホソバネカミキリ…………… 166  
 トリウミアカイソモドキ…………… 118, 132  
 トリノスメクラチビゴミムシ…………… 149  
 ドロクイ…………… 91, 100  
 トワダオオカ…………… 154  
 トワダムモンメダカカミキリ…………… 152  
 ドンコ…………… 91, 101

## ナ

ナガオカモノアラガイ…………… 225, 258  
 ナカオビキリガ…………… 167  
 ナガサワメクラチビゴミムシ…………… 148  
 ナカネアメイロカミキリ…………… 152  
 ナカネヒラアシキバチ…………… 164  
 ナカバヤシモモトカミキリ…………… 153  
 ナガミズムシ…………… 157  
 ナカムラギセル…………… 口絵28, 224, 245  
 ナタネガイモドキ…………… 224, 243  
 ナタネキバサナギガイ…………… 225, 266  
 ナベヅル…………… 口絵5, 26, 45  
 ナベブタムシ…………… 147, 208  
 ナマリキシタバ…………… 156  
 ナミエオオアカゲラ…………… 28, 65  
 ナミジャンメ…………… 155  
 ナラビオカミミガイ…………… 口絵30, 225, 239  
 ナンヨウボラ…………… 93

## 二

ニシキキンカメムシ	147
ニセコスジギセル	225, 258
ニセコルリクワガタ	166
ニセタバコガ	164
ニセマツカサガイ	口絵31, 226, 255
ニセミスジシリアゲ	154
ニセムナビロモリヒラタゴミムシ	159
ニッポンハナダカバチ	156
ニッポンモモトコバネカミキリ	152
ニホンアカガエル	口絵8, 79, 80
ニホンウサギコウモリ	13, 20
ニホンウナギ	口絵10, 91, 104
ニホンカモシカ	口絵1, 13, 15
ニホンカワウソ(高知・愛媛県個体群)	口絵1, 13, 14
ニホンスッポン	口絵8, 79, 85
ニホンセセリモドキ	口絵18, 142, 184
ニホンムネスジダランダラコメツキ	151
ニホンモモンガ	口絵1, 13, 18
ニホンリス	13

## ヌ

ヌマガイ	227, 265
ヌマチチブ	92, 107

## ネ

ネアカヨシヤンマ	口絵19, 142, 186
ネグロカワウンカ	147
ネジロハキリバチ	145, 206
ネジロフトクチバ	167
ネプトクワガタ	151

## ノ

ノコバアオシャク	163
ノジコ	29, 71
ノスリ	口絵6, 27, 51
ノネメクラチビゴミムシ	148
ノミガイ	224, 257
ノレンコウモリ	口絵1, 13, 17

## ハ

ハイイロチュウヒ	口絵6, 26, 49
ハイイロツツクピカミキリ	162
ハイタカ	口絵6, 26, 50
ハクセンシオマネキ	口絵14, 117, 129
ハザクラ	227, 265
ハシビロガモ	口絵4, 26, 42
ハシリイワガニモドキ	119
ハジロクロハラアジサシ	29
ハズマメクラチビゴミムシ	149
ハダカケマイマイ	口絵29, 224, 250
ハチクマ	口絵3, 25, 36
ハチマガイスカシバ	163
ハッカハムシ	153
ハッチョウトンボ	口絵19, 143, 187
パツラマイマイ	口絵27, 223, 234
ハナコギセル	口絵27, 223, 233
ハネグロツヤゴモクムシ	159
ハネナシコオロギ	156
ハネビロエゾトンボ	143, 187
ハネブサシャチホコ	155
ハマガニ	口絵13, 117, 126
ハマシギ	28, 63
ハマスズ	140, 171
ハヤシメクラチビゴミムシ	149
ハヤブサ	口絵4, 25, 39

ハリサシガメ	口絵16, 141, 174
ハルゼミ	147

## ヒ

ヒクイナ	27, 57
ヒゲコガネ	151
ヒゲジロホソコバネカミキリ	144, 199
ヒゲトハナカミキリ	144, 196
ヒコサンナガゴミムシ四国亜種	158
ヒゴトゲハムシ	162
ヒサゴチビゴミムシ	149
ヒサマツナガゴミムシ	158
ヒサマツミドリシジミ	口絵22, 145, 202
ヒトオビチピカミキリ	162
ヒトスジトゲシリアゲ	142, 182
ヒトツメアオゴミムシ	150
ヒナイシドジョウ	口絵9, 91, 95
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	226, 263
ヒバカリ	79
ヒマラヤハガタヨトウ	164
ヒメアカイソモドキ	118, 134
ヒメアカガイ	口絵30, 226, 240
ヒメアシハラガニ	口絵13, 117, 127
ヒメイトアメンボ	148, 209
ヒメイワガニモドキ	119
ヒメウ	口絵2, 25, 31
ヒメウスバカゲロウ	163
ヒメオオクワガタ	口絵19, 142, 186
ヒメオオヤマカワゲラ	146
ヒメオカモノアラガイ	225
ヒメカノコ	口絵30, 226, 253
ヒメクロサナエ	165
ヒメケブカカスミカメ	157
ヒメサナエ	165
ヒメセボシヒラタゴミムシ	150
ヒメチャバネゴキブリ	146
ヒメツヤメクラチビゴミムシ	口絵20, 143, 191
ヒメヒミズ	13, 16
ヒメベンケイガニ	118
ヒメホソナガゴミムシ	158
ヒメマルマメタニシ	227, 267
ヒメミズカマキリ	141, 173
ヒメメナガオサガニ	118, 134
ヒメヨツスジハナカミキリ	口絵24, 152, 211
ヒモハゼ	口絵11, 92, 106
ヒョウタンゴミムシ	148
ヒラケマイマイ	225, 259
ヒラコウベマイマイ	口絵29, 224, 249
ヒラコベソマイマイ	口絵27, 223, 235
ヒラタアトキリゴミムシ	160
ヒラタクワガタ	166
ヒラタメクラチビゴミムシ	149
ヒラテテナガエビ	口絵14, 118, 130
ヒラマキガイモドキ	226, 264
ヒラヤマコブハナカミキリ	口絵21, 144, 195
ピリンゴ	93
ヒロクチカノコ	口絵30, 225, 238
ピンズイ	29, 71

## フ

フジキオビ	155
フジジガバチ	164
フジテガニ	口絵12, 117, 122
フジミドリシジミ	155
フタオビマダラカモドキサシガメ	147
フタコブリハナカミキリ	152
フタスジカタビロハナカミキリ	口絵21, 144, 196



フタスジゴマフカミキリ……………162  
 フタスジサナエ……………口絵19, 142, 187  
 フタツメゴミムシ……………160  
 フタボシチビゴミムシ……………149  
 フタモンクピナガゴミムシ……………166  
 フタモンクモバチ……………156  
 フタモンマルクビゴミムシ……………158  
 フチグロトゲエダシャク……………155  
 フチトリアツバコガネ……………151  
 ブッポウソウ……………口絵7, 27, 52  
 フトオビカンボウトラカミキリ……………167  
 フトキノカワゴミムシ……………口絵23, 148, 209  
 フトヘナタリ……………226, 262  
 フナ(在来個体群)……………92, 104  
 ブイエスナモグリ……………118, 133  
 プライアシリアゲ……………167  
 プライヤーヒロバカゲロウ……………153  
 フルミヤメクラチビゴミムシ……………148  
 プロイニングヒメハナカミキリ……………152

## へ

へイケボタル……………153, 212  
 ベーツヒラタカミキリ……………口絵17, 142, 180  
 ベーツヒラタゴミムシ……………159  
 ベーツヤサカミキリ……………152  
 ベッコウトンボ……………140  
 ヘナタリ……………226, 262  
 ベニイトトンボ……………口絵19, 142, 186  
 ベニツケサツキハゼ……………93  
 ベニツチカメムシ……………165  
 ベニバハナカミキリ……………144, 198  
 ベニモンカラスシジミ……………口絵22, 145, 203  
 ベフミヤマトビケラ……………163  
 ヘリグロチャバネセセリ……………154, 214  
 ベンケイガニ……………口絵14, 118, 132

## ホ

ホウジャク……………142, 184  
 ボウズハゼ……………93  
 ホウロクシギ……………口絵3, 25, 35  
 ホオアカ……………27, 54  
 ホシガラス……………口絵4, 26, 41  
 ホソアシオズナガゴミムシ……………158  
 ホソキセルガイモドキ……………口絵26, 223, 229  
 ホソクロマメゲンゴロウ……………160  
 ホソセスジゲンゴロウ……………166  
 ホソツツリンゴカミキリ……………153  
 ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ……………144, 199  
 ホソバトビケラ……………154  
 ホソバミツモンケンモン……………155  
 ホソハンミョウ……………157  
 ホソヒメギセル……………225, 258  
 ホソマキバサシガメ……………157  
 ホタルトビケラ……………口絵24, 154, 213  
 ホッケミズムシ……………157  
 ホラアナゴマオカチグサ……………225, 266  
 ホラアナヒラタゴミムシ……………159  
 ホングウチビクロコメツキ……………141, 179  
 ホンコンスナガニ……………119  
 ホンドニセハイロハナカミキリ……………口絵21, 144, 196

## マ

マイコアカネ……………143, 188  
 マイコトラガ……………口絵25, 156, 215  
 マゴコロガイ……………口絵31, 226, 255  
 マサゴハゼ……………93  
 マスオガイ……………226, 241

マダラクワガタ……………166  
 マダラゴマフカミキリ……………145, 201  
 マダラチズモンアオシャク……………163  
 マツカサガイ……………227, 267  
 マツシタトラカミキリ……………162  
 マナツル……………口絵5, 26, 45  
 マホロバヒメハナカミキリ……………152  
 マメクワガタ……………151  
 マメコブシガニ……………118, 131  
 マルガタゲンゴロウ……………口絵17, 141, 177  
 マルクチゴマガイ……………224, 242  
 マルクビゴミムシ……………148  
 マルタンヤンマ……………146  
 マルチビゲンゴロウ……………160  
 マングローブテッポウエビ……………口絵12, 117, 120

## ミ

ミコアイサ……………29, 73  
 ミサゴ……………口絵3, 25, 36  
 ミジンマイマイ……………225, 257  
 ミズイデメクラチビゴミムシ……………149  
 ミズイロオナガシジミ……………167  
 ミズコハクガイ……………226, 240  
 ミズゴマツボ……………口絵30, 226, 254  
 ミゾゴイ……………口絵5, 26, 44  
 ミゾムネチビサビキコリ……………144, 194  
 ミツクリヒゲナガハナバチ……………165  
 ミツバヤツメ……………93  
 ミドリシジミ……………154  
 ミナミツヤハダクワガタ……………161  
 ミナミテナガエビ……………口絵14, 118, 130  
 ミナミメダカ……………口絵9, 91, 98  
 ミナミヤンマ……………146  
 ミノウスバ……………163  
 ミミモンクチバ……………164  
 ミヤマオオベツマイマイ……………225, 259  
 ミヤマカラスシジミ……………145, 204  
 ミヤマサナエ……………156  
 ミヤマジュウジアトキリゴミムシ……………160  
 ミヤマダイコクコガネ……………166  
 ミヤマハンミョウ……………口絵19, 143, 189  
 ミヤマモモフトカミキリ……………153

## ム

ムカシトンボ……………146  
 ムギマキ……………29  
 ムスジイトトンボ……………145  
 ムツハリアケガニ……………口絵13, 117, 128  
 ムツボシツヤコツブゲンゴロウ……………150  
 ムナグロホソツヤシデムシ……………161  
 ムネカクトビケラ……………163  
 ムネマダラトラカミキリ……………口絵22, 144, 200  
 ムモンクサカゲロウ……………154  
 ムラサキオオゴミムシ……………158  
 ムラサキオカヤドカリ……………118, 135  
 ムラサキガイ……………226, 241  
 ムラサキシタバ……………155  
 ムラサキスカシバ……………163  
 ムラサキスジアシゴミムシ……………157  
 ムラサキツヤハナムグリ……………151  
 ムラサキトビケラ……………167  
 ムロトキセルガイモドキ……………口絵26, 223, 229  
 ムロトマイマイ……………口絵28, 223, 237  
 ムロトメクラチビゴミムシ……………148

## メ

メイドウモンメクラチビゴミムシ……………149

メスアカミドリシジミ……………155  
メスグロヒョウモン……………167  
メダカアトキリゴミムシ……………160  
メナダ……………93  
メボソムシクイ……………28, 67

## モ

モートンイトトンボ……………口絵15, 140, 170  
モツゴ……………口絵9, 91, 94  
モノサシトンボ……………145  
モモグロハナカミキリ……………口絵22, 144, 197  
モモブトナガゴミムシ……………158  
モリアブラコウモリ……………13, 19  
モリヤギセル……………224, 246  
モンカワゲラ……………口絵23, 146, 207  
モンスズメバチ……………156

## ヤ

ヤイロチョウ……………口絵4, 26, 40  
ヤシャブシキホリマルハキバガ……………163  
ヤドリカニダマシ……………口絵12, 117, 120  
ヤドリムツアシガニ……………口絵12, 117, 121  
ヤナギカワウンカモドキ……………147  
ヤマガマイマイ……………225, 260  
ヤマクダマキモドキ……………156  
ヤマコウモリ……………13, 19  
ヤマシギ……………口絵5, 26, 46  
ヤマセミ……………28, 65  
ヤマトオサガニ……………118, 134  
ヤマトオサムシダマシ……………口絵15, 140, 169  
ヤマトクチブトメバエ……………163  
ヤマトクビキレ……………口絵30, 226, 254  
ヤマトクロスジヘビトンボ……………167  
ヤマトシロオビトラカミキリ……………162  
ヤマトスジグロシロチョウ……………167  
ヤマトセスジムシ……………157  
ヤマトタマムシ……………166  
ヤマトチビコバネカミキリ……………162  
ヤマトマダラバツタ……………140, 172  
ヤマトモンシデムシ……………161  
ヤマネ……………13  
ヤマモトメクラチビゴミムシ……………149  
ヤリタナゴ……………口絵9, 91, 95

## ユ

ユキガイ……………口絵31, 226, 256

## ヨ

ヨウジウオ……………92, 104  
ヨコクラメクラチビゴミムシ……………148  
ヨコミゾドロムシ……………153, 212  
ヨコヤマトラカミキリ……………162  
ヨコヤマヒゲナガカミキリ……………153  
ヨシガモ……………口絵4, 26, 42  
ヨシゴイ……………口絵2, 25, 32  
ヨシダカワザンショウ……………226, 263  
ヨタカ……………27, 58  
ヨツバコガネ……………151  
ヨツボシカミキリ……………口絵18, 142, 181  
ヨツボシゴミムシ……………159  
ヨツボシシロオビゴマフカミキリ……………162  
ヨツボシツヤナガゴミムシ……………150  
ヨツボシヒラタゴミムシ……………158  
ヨツメトビケラ……………154  
ヨドシロヘリハンミョウ……………口絵16, 141, 174

## ラ

ラカンツヤムネハネカクシ……………161

## リ

リュウガドウムクラチビゴミムシ……………148  
リュウキュウオオスカシバ……………155  
リュウキュウルリボシカミキリ……………142, 181  
リュウジンメクラチビゴミムシ……………149  
リュウゾウムクラチビゴミムシ……………149  
リュウブモモブトヒメコバネカミキリ……………162

## ル

ルイスツノヒョウタンクワガタ……………161  
ルイスツブゲンゴロウ……………150  
ルイスハンミョウ……………140  
ルイスヒメゴモクムシ……………159  
ルーミスシジミ……………140  
ルリカミキリ……………153  
ルリクワガタ……………166  
ルリビタキ……………28, 69  
ルリヒラタムシ……………口絵21, 144, 194  
ルリボシヤンマ……………156

## ワ

ワカミヤメクラチビゴミムシ……………149  
ワシオヒメオサムシ……………口絵25, 165, 216

# 表紙写真



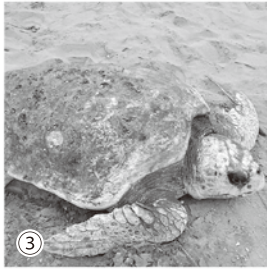
①



②



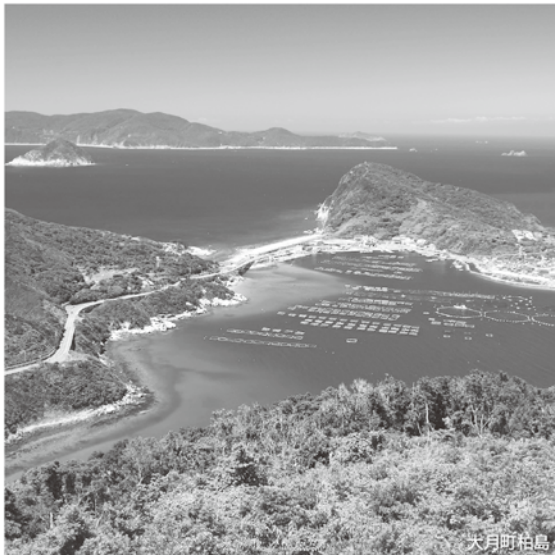
四万十市西土佐岩間



③



④



大月町柏島



⑤



⑥



⑦



⑧

①ツキノワグマ(絶滅危惧Ⅰ類) 四国森林管理局 香美市 2003年8月29日撮影

②ヤイロチョウ(絶滅危惧Ⅰ類) 中西和夫 四万十町 2017年6月10日撮影

③アカウミガメ(絶滅危惧Ⅰ類) 斉藤知己 土佐市 2017年6月6日撮影

④トサミズサンショウウオ(絶滅危惧Ⅰ類) 渡部 孝 土佐清水市 2018年2月16日撮影

⑤トビハゼ(絶滅危惧Ⅱ類) 町田吉彦 高知市 2014年8月14日撮影

⑥スネケブカヒロコバネカミキリ(絶滅危惧Ⅰ類) 高井幹夫 香美市 2009年7月16日撮影

⑦ハマガニ(絶滅危惧Ⅱ類) 美濃厚志 高知市 2017年9月7日撮影

⑧トサビロウドマイマイ(絶滅危惧Ⅰ類) 山崎博継 黒潮町 2016年10月24日撮影

## 高知県レッドデータブック2018 動物編

平成30年(2018年)10月 発行

発行 高知県林業振興・環境部 環境共生課  
〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号  
TEL(088)821-4842

編集 高知県レッドデータブック(動物編)改訂事業 改訂委員会

デザイン 株式会社HITOTO Corporation  
〒780-8035 高知県高知市河ノ瀬町45-1  
TEL(088)879-5092

印刷 弘文印刷株式会社  
〒780-0863 高知県高知市与力町5-16  
TEL(088)822-0240